

# 成田新高速鉄道・北千葉道路 埋蔵文化財発掘調査報告書 1

—成田市松崎山ノ台遺跡—

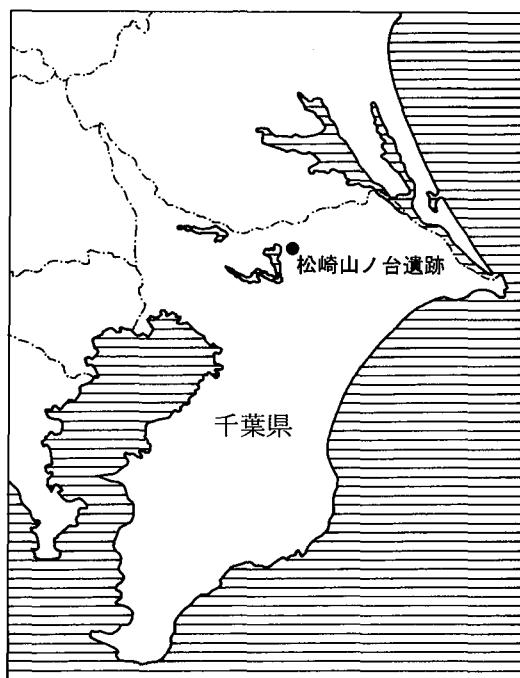
平成21年2月

成田高速鉄道アクセス株式会社

財団法人 千葉県教育振興財団

# 成田新高速鉄道・北千葉道路 埋蔵文化財発掘調査報告書 1

なりた しまんざきやま の だい  
—成田市松崎山ノ台遺跡—

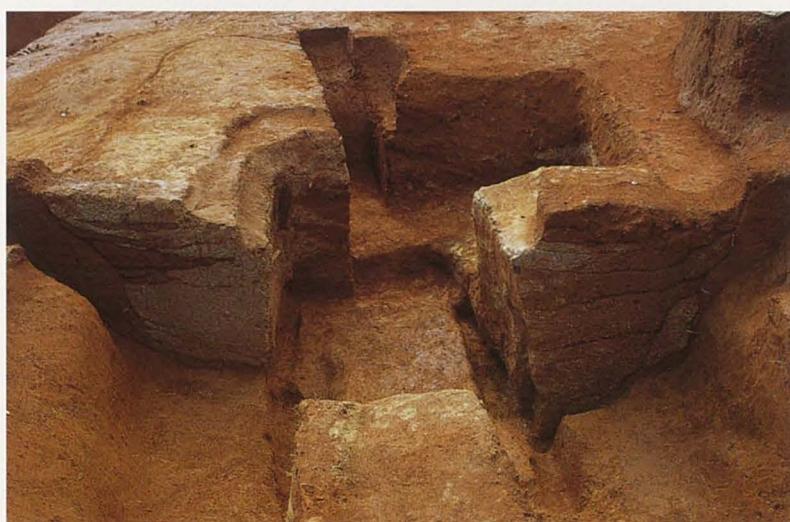




航空写真(西から)



SM-001 第1主体部(東から)



SM-001 第1主体部掘方断面(東から)

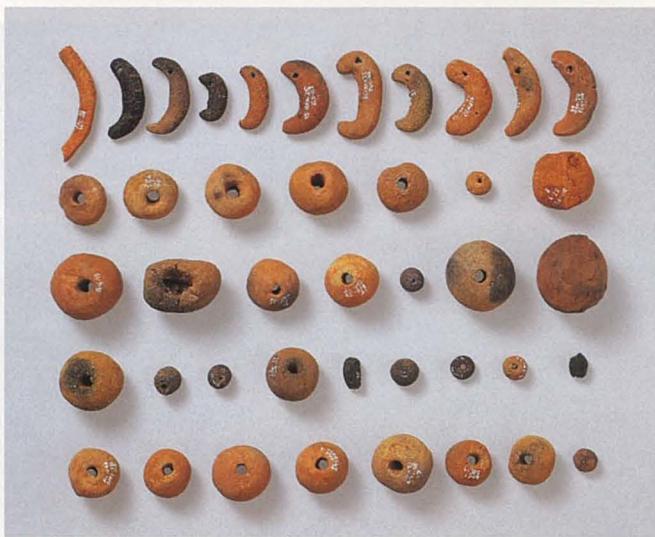
卷頭図版 2



SI-004 出土土器



SM-001 出土土器



土製玉類

## 序 文

財団法人千葉県教育振興財団(文化財センター)は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第618集として、成田新高速鉄道・北千葉道路建設工事に伴って実施した成田市松崎山ノ台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代後期～終末期の集落跡と方墳などが検出され、この地域の歴史を知るうえで多くの貴重な成果が得られています。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際しご指導、ご協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また発掘から整理までご苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年2月

財団法人千葉県教育振興財団  
理事長 福島義弘

## 凡　　例

- 1 本書は、成田新高速鉄道・北千葉道路建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡と所在地は以下の通りである。  
松崎山ノ台遺跡（遺跡コード211-072）成田市松崎字山ノ台1374ほか
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、成田高速鉄道アクセス株式会社の委託を受けて財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査および整理作業の担当者および実施期間は第1章に記載した。
- 5 本書の執筆は研究員 黒沢 崇が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育振興部文化財課、成田市教育委員会、茂木雅博氏、永塚俊司氏にご指導、ご協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は下記の通りである。  
国土地理院発行 1:25,000 地形図「成田」(N 1-54-19-10-3)  
成田市役所作成 1:2,500 「成田市地形図」24・25・31・32 平成12年修正
- 8 周辺地形航空写真は京葉測量株式会社による平成14年1月撮影(S=1/10,000)のものを使用した。
- 9 本書で使用した座標値は第1図の周辺地形図を除き、世界測地系にもとづく平面直角座標で、図面の方  
位はすべて座標北である。
- 10 図などの表現の凡例は以下の通りである。



焼土・火焼部



炭化物



粘土・山砂



赤彩



黒色処理

# 本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 事業の経緯と経過	1
2 調査の方法と成果	3
第2節 遺跡の位置と周辺遺跡	6
第2章 旧石器時代～弥生時代	8
第1節 旧石器時代	8
第2節 繩文時代	12
1 遺構外出土土器	12
2 遺構外出土土製品	17
3 遺構外出土石器	18
第3節 弥生時代	21
1 堅穴住居跡	21
2 遺構外出土遺物	26
第3章 古墳時代以降	27
第1節 堅穴住居跡	27
第2節 古 墳	55
1 墳丘と周溝	57
2 主体部	57
3 出土遺物	61
第3節 その他	64
1 遺 構	64
2 遺構外出土遺物	65
第4章 まとめ	103
第1節 出土遺物の様相と集落の変遷	103
1 出土遺物の様相	103
2 集落の変遷	105
第2節 古墳の検討	108
報告書抄録	卷末

## 挿図目次

第1図	周辺地形図と調査区	2	第35図	SI-013(1)	42
第2図	上層調査区全体図	4	第36図	SI-013(2)	43
第3図	下層調査区全体図	4	第37図	SI-014	43
第4図	上層遺構分布図	5	第38図	SI-015	45
第5図	周辺の主な遺跡	7	第39図	SI-016	46
第6図	立川ロームの土層柱状図	8	第40図	SI-017	47
第7図	拡張地点3・4	9	第41図	SI-018	49
第8図	旧石器(1)	10	第42図	SI-021	50
第9図	旧石器(2)	11	第43図	SI-022	51
第10図	縄文土器(1)	13	第44図	SI-023	52
第11図	縄文土器(2)	14	第45図	SI-024	53
第12図	縄文土器(3)	15	第46図	SI-025	54
第13図	縄文土器(4)	16	第47図	SM-001地形測量図	55
第14図	土製品	18	第48図	SM-001墳丘・周溝断面図(1)	56
第15図	縄文時代石器(1)	19	第49図	SM-001墳丘・周溝断面図(2)	57
第16図	縄文時代石器(2)	20	第50図	SM-001第1主体部(1)	58
第17図	SI-019	21	第51図	SM-001第1主体部(2)	59
第18図	SI-020	22	第52図	SM-001第1主体部 石棺材出土状況	60
第19図	弥生土器(1)〈SI-019・SI-020〉	23	第53図	SM-001第2主体部	61
第20図	土製品・石製品(弥生時代)	23	第54図	SM-001遺物出土状況(1)	62
第21図	弥生土器(2)(遺構外)	25	第55図	SM-001遺物出土状況(2)	63
第22図	SI-001	27	第56図	SK-001～003・SH-001	64
第23図	SI-002	28	第57図	SS-001	65
第24図	SI-003	30	第58図	土器類(1)〈SI-001・SI-002(1)〉	66
第25図	SI-004(1)	31	第59図	土器類(2)〈SI-002(2)・SI-003(1)〉	67
第26図	SI-004(2)	32	第60図	土器類(3)〈SI-003(2)・SI-004(1)〉	68
第27図	SI-005	33	第61図	土器類(4)〈SI-004(2)〉	69
第28図	SI-006	34	第62図	土器類(5)〈SI-004(3)〉	70
第29図	SI-007	35	第63図	土器類(6)〈SI-005・SI-006(1)〉	71
第30図	SI-008	37	第64図	土器類(7)〈SI-006(2)・SI-007〉	72
第31図	SI-009	38	第65図	土器類(8)〈SI-008・SI-009〉	73
第32図	SI-010	39	第66図	土器類(9)〈SI-010・SI-011・SI-012(1)〉	74
第33図	SI-011	40	第67図	土器類(10)〈SI-012(2)〉	75
第34図	SI-012	41	第68図	土器類(11)〈SI-012(3)・SI-013(1)〉	76

第69図 土器類(12)〈SI-013(2)・SI-014(1)〉	77	第76図 土製品(2)	84
第70図 土器類(13)〈SI-014(2)・SI-015・SI-016(1)〉	78	第77図 石製品	85
		第78図 金属製品	85
第71図 土器類(14)〈SI-016(2)・SI-017〉	79	第79図 土器の変遷	104
第72図 土器類(15)〈SI-018・SI-021(1)〉	80	第80図 壁穴住居の変遷	106
第73図 土器類(16)〈SI-021(2)・SI-022・SI-023(1)〉	81	第81図 時期別 壁穴住居床面積分布	106
		第82図 時期別 壁穴住居主軸方位	106
第74図 土器類(17)〈SI-023(2)・SI-024・SI-025・SM-001・ 遺構外〉	82	第83図 SM-001の類別	109
第75図 土製品(1)	83		

## 図版目次

卷頭図版 1 遺跡全景・SM-001	SI-007(南から)
卷頭図版 2 出土遺物	図版 7 SI-008(北西から) SI-009(南西から)
図版 1 航空写真(S=1/10,000)	SI-009カマド(南から)
図版 2 調査前(西から)	SI-009遺物出土(北東から)
3 D-61グリッド断面(西から)	図版 8 SI-010(南東から) SI-011(南東から)
2 D-61拡張区石器出土(北から)	SI-011カマド(南東から)
2 E-09拡張区石器出土(北東から)	SI-011遺物出土(南から)
2 E-25拡張区石器出土(南から)	図版 9 SI-012(北東から)
図版 3 SI-001(南西から) SI-001断面(南東から)	SI-012カマド(南東から)
SI-001遺物出土(西から)	SI-013貯蔵穴遺物出土(南から)
SI-002(南東から)	SI-013(南から)
図版 4 SI-002カマド(南東から)	図版10 SI-014(西から)
SI-003カマド遺物出土(南東から)	SI-014遺物出土(南西から)
SI-003(南東から) SI-004(北から)	SI-015カマド(南から)
図版 5 SI-004遺物出土(北から)	SI-015(南から)
SI-004貯蔵穴遺物出土(東から)	図版11 SI-016(北から)
SI-005(北東から)	SI-016遺物出土(北から)
SI-005カマド遺物出土(南東から)	SI-016遺物出土(北西から)
SI-005カマド(南東から)	SI-017(東から)
図版 6 SI-006(南東から)	図版12 SI-017カマド(東から)
SI-006カマド(南東から)	SI-017貯蔵穴遺物出土(南から)
SI-007カマド遺物出土(南西から)	SI-018(南から)

SI-018カマド(南から)	SM-001第1主体部石棺材出土(西から)
SI-018遺物出土(南から)	SM-001第1主体部(西から)
図版13 SI-019(東から)	図版20 SM-001南周溝石棺材出土(東から)
SI-019遺物出土(西から)	SM-001南周溝断面(東から)
SI-020遺物出土(南東から)	SM-001東周溝遺物出土(南から)
SI-020(南東から)	SM-001南西隅周溝遺物出土(北から)
図版14 SI-021(南から) SI-021遺物出土	SM-001第2主体部断面(南から)
SI-022カマド(南東から)	SM-001第2主体部(南から)
SI-022(南東から)	図版21 旧石器
図版15 SI-023(南東から)	図版22 縄文土器(1)
SI-023貯蔵穴遺物出土(北西から)	図版23 縄文土器(2)
SI-024断面(南から)	図版24 縄文時代土製品・石器
SI-024(西から)	図版25 弥生土器(1)
図版16 SI-025(北西から)	図版26 弥生土器(2)・土製品(1)
SI-025貯蔵穴(南西から)	図版27 土製品(2)
SK-002(南から) SS-001(北から)	図版28 石製品・金属製品ほか
図版17 SM-001調査前(東から)	図版29 古墳時代土器(1)
SM-001現表土除去後(南東から)	図版30 古墳時代土器(2)
SM-001南北墳丘断面(南側)(南西から)	図版31 古墳時代土器(3)
SM-001南北墳丘断面(北側)(北東から)	図版32 古墳時代土器(4)
図版18 SM-001主体部確認段階(手前が南)	図版33 古墳時代土器(5)
SM-001第1主体部(東から)	図版34 古墳時代土器(6)
図版19 SM-001主体部完掘段階(手前が南)	図版35 古墳時代土器(7)
SM-001第1主体部断面(北東から)	図版36 古墳時代土器(8)
SM-001第1主体部掘方断面(東から)	

## 表 目 次

第1表 遺構一覧表	3	第8表 古墳時代以降 土器類観測表	87
第2表 旧石器 計測表	12	第9表 古墳時代 金属製品 計測表	99
第3表 縄文時代 土製品 計測表	17	第10表 古墳時代 土製品 計測表	100
第4表 縄文時代 石器 計測表	20	第11表 古墳時代 石製品 計測表	102
第5表 弥生時代 壺穴住居 計測表	24	第12表 壺穴住居 時期別一覧表	106
第6表 弥生時代 土製品・石製品 計測表	24	第13表 壺穴住居 時期別内容一覧表	107
第7表 古墳時代 壺穴住居 計測表	86		

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 事業の経緯と経過

一般国道464号北千葉道路は、松戸市から千葉ニュータウンを経て、成田市を結ぶ全長約47kmの幹線道路である。この度、首都圏や県西地域と成田国際空港間とのアクセス強化などを目的に、印旛村若萩から国道295号に接続する成田市大山までの北千葉道路(印旛～成田)建設と印旛日本医大駅まで開通している北総鉄道北総線を東に延伸し、成田国際空港に直結させる成田新高速鉄道建設を一体的に整備することが計画された。これらの一体的な整備は空港アクセスの大幅な改善にとどまらず、地域の活性化、交通処理能力の向上、物流効率化、成田市街地の交通円滑化、広域道路ネットワーク・救急医療・防災機能の強化などにも大きく寄与することが期待されている。

この成田新高速鉄道・北千葉道路整備の実施にあたり、平成16年9月15日付道計第145号で千葉県国土木整備部道路計画課長より「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査結果を踏まえ、平成16年11月29日付教文第16号63で事業計画地内には松崎山ノ台遺跡をはじめ、6か所に遺跡が所在する旨の回答を行った。そしてこの回答を受け、その取り扱いについて関係機関による協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、千葉県教育振興財團文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

今回報告する松崎山ノ台遺跡の調査組織及び発掘調査と整理作業の担当者は以下のとおりである。

平成18年度 北部調査事務所長 古内 茂

(発掘) 調査期間 平成19年1月18日～平成19年3月27日

調査内容 上層確認調査・上層本調査(竪穴住居跡SI-001～007・古墳SM-001地形測量)

調査担当者 上席研究員 鳴田浩司

平成19年度 北部調査事務所長 豊田佳伸

(発掘) 調査期間 平成19年4月6日～平成19年6月29日

調査内容 上層本調査・下層確認調査

調査担当者 上席研究員 石倉亮治(4月：SM-001)

上席研究員 鈴木弘幸(5月・6月：SI-019～024, SH-001, 旧石器)

研究員 黒沢 崇(4月～6月：SI-008～018・025, SM-001, SK-001～003, SS-001)

(整理) 整理期間 平成19年7月2日～12月28日

整理内容 記録整理から実測の一部まで

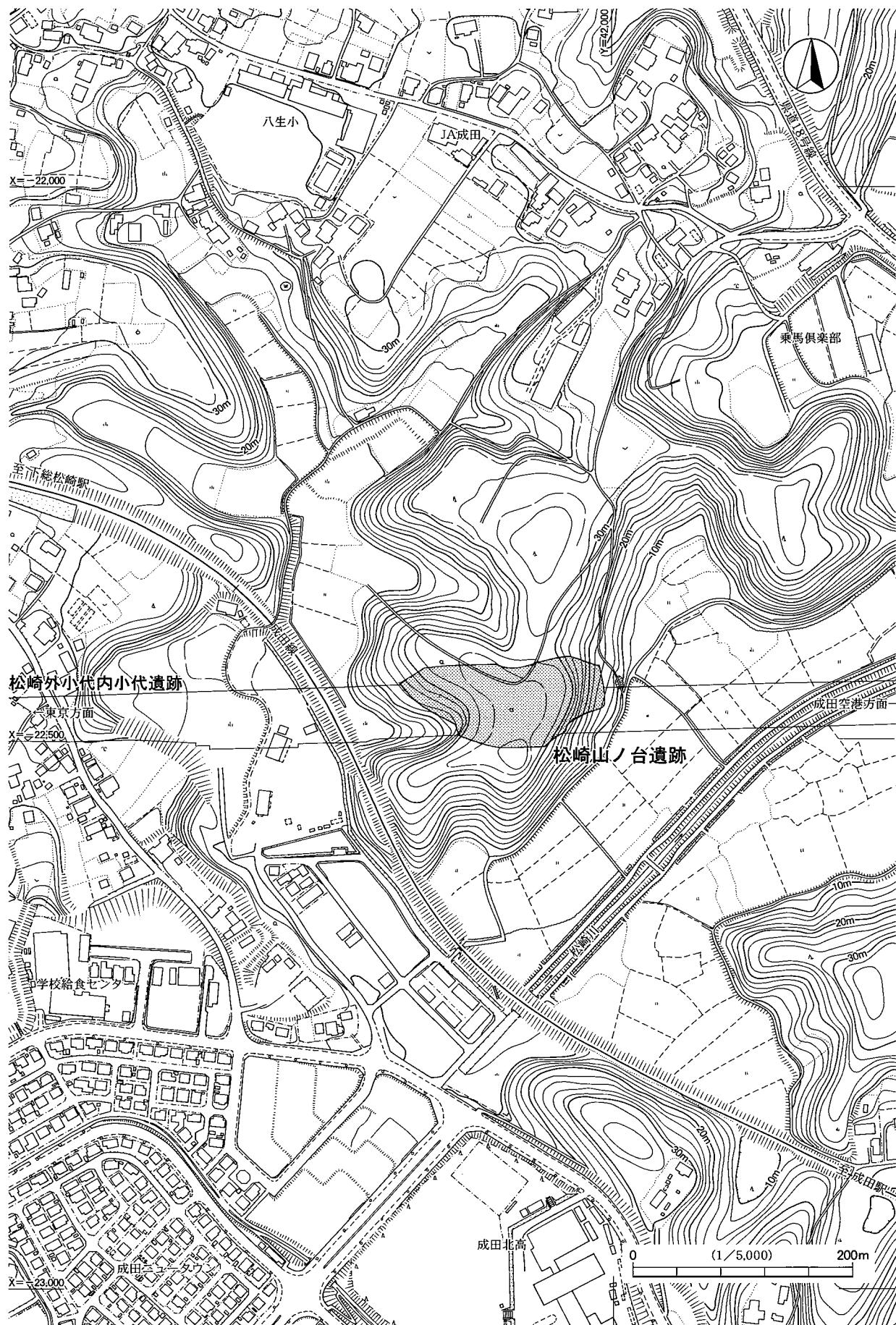
整理担当者 研究員 黒沢 崇

平成20年度 北部調査事務所長 豊田佳伸

(整理) 整理期間 平成20年4月1日～10月31日

整理内容 実測の一部から報告書刊行まで

整理担当者 研究員 黒沢 崇



第1図 周辺地形図と調査区

## 2 調査の方法と成果（第1～4図、第1表）

**発掘調査** 調査にあたり、調査区全体を覆うように世界測地系（座標系IX）のX=−22,040, Y=41,480を起点に40m×40mの方眼網を設定し、大グリッドとした。名称は起点から南方向に1,2…東方向にA, B…とした。大グリッドを4m四方に100分割し、北西隅を00, 南東隅を99として小グリッドとした。グリッドの呼称は数字とアルファベットと組み合わせ3D-36というように表記し、現地調査の記録類から遺物の注記にあたっても踏襲した。調査はまず上層の確認調査を調査対象面積の10%を目安に、微地形等を考慮に入れ任意にトレーニングを設定した。遺構の性格・時期・深度等を把握するために、遺構の埋土を一部掘り上げた。確認調査の結果、調査地全域に竪穴住居が分布しており、斜面部以外が本調査範囲となった。当初から現地表面において窪地が数か所確認されていたが、それは古墳時代後期の竪穴住居跡が埋まりきっていない痕跡であることも判明した。本調査のための表土除去は重機を使用し、表土除去後精査を行い本調査へと移行した。遺構の種類によって竪穴住居跡はSI, 土坑はSK, 古墳はSMと記号を付し、種別ごとに通し番号を付けて遺構番号とした。遺物は各遺構ごとに通し番号を付け、旧石器や所属遺構が不明確な遺物についてはグリッド単位で取り上げた。なお、調査中の平成19年5月19日には発掘調査の成果を一般県民に周知する目的で現地説明会を行い、約100名の見学者の方が参加された。

第1表 遺構一覧表

### 弥生時代

遺構No.	種類	位置(主グリッド)	時期
SI-019	竪穴住居跡	2C-60	弥生時代後期

遺構No.	種類	位置(主グリッド)	時期
SI-020	竪穴住居跡	2C-42	弥生時代後期

### 古墳時代

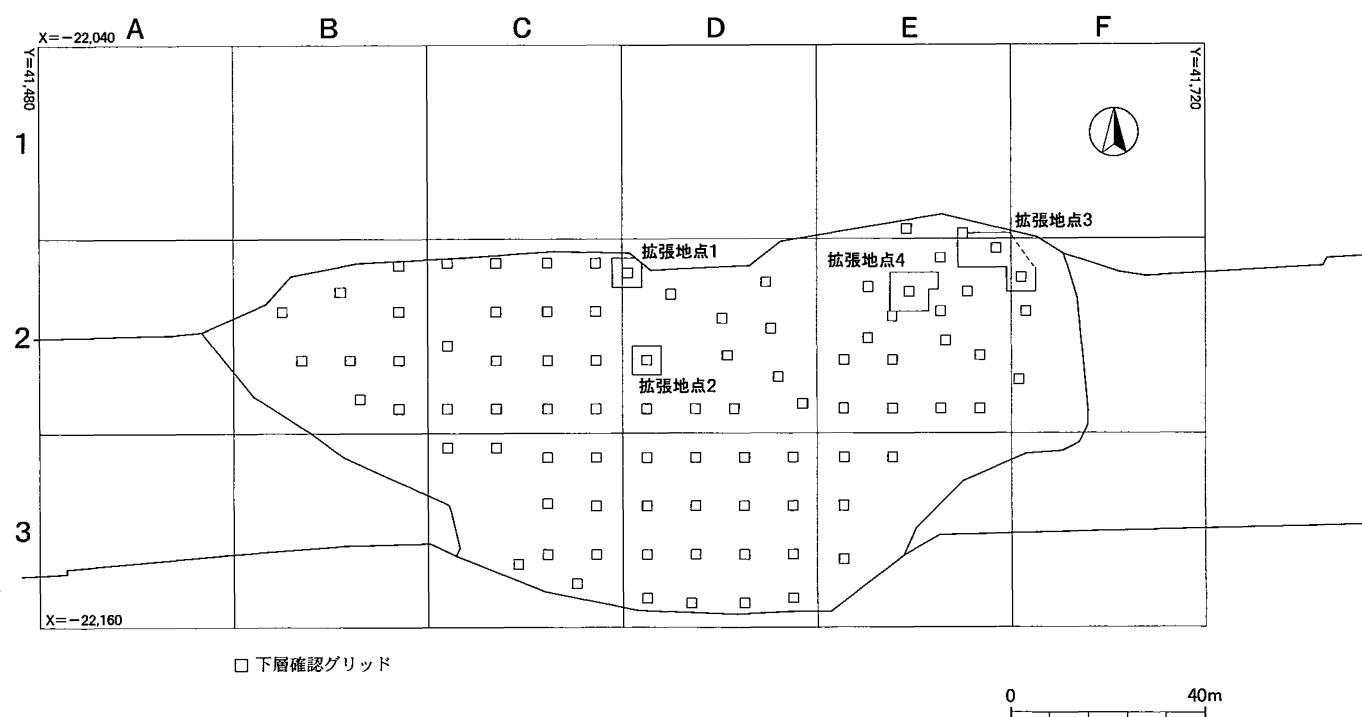
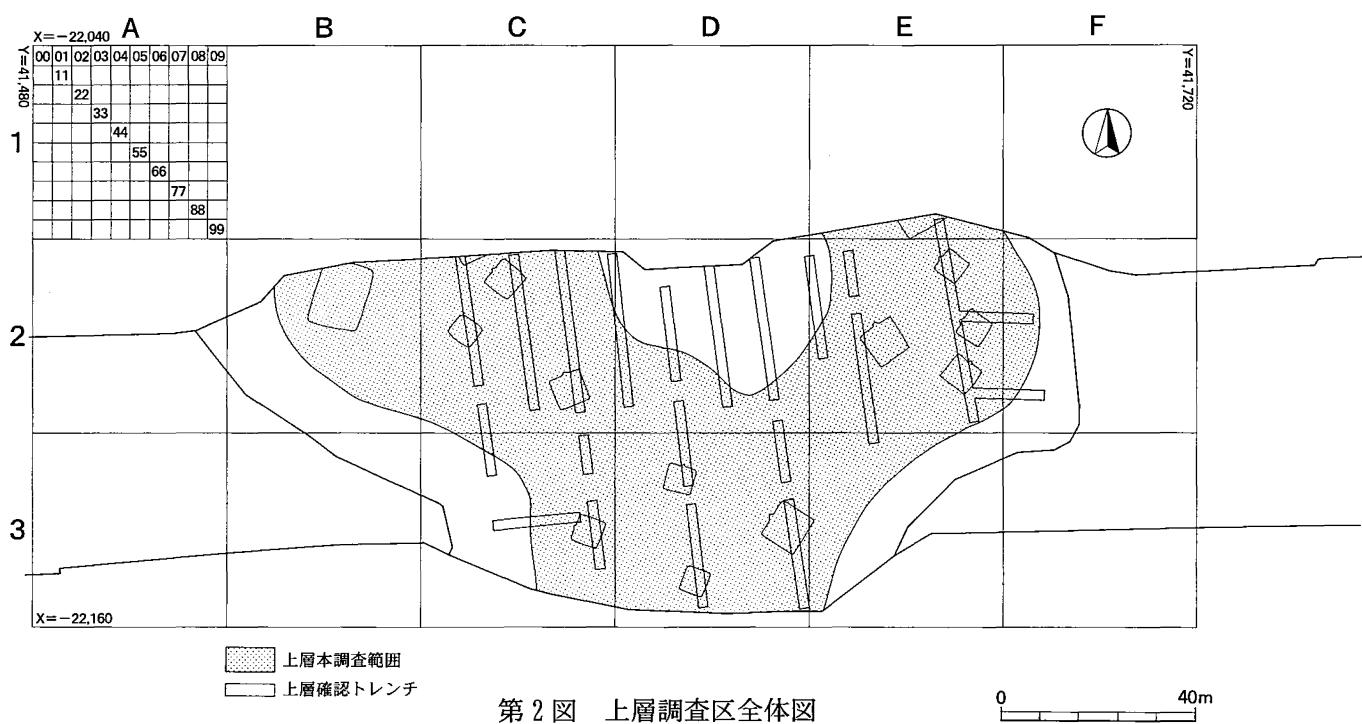
遺構No.	種類	位置(主グリッド)	時期
SI-001	竪穴住居跡	1E-95	古墳時代後期
SI-002	竪穴住居跡	2E-17	古墳時代後期
SI-003	竪穴住居跡	2E-48	古墳時代後期
SI-004	竪穴住居跡	2E-67	古墳時代後期
SI-005	竪穴住居跡	2E-65	古墳時代後期
SI-006	竪穴住居跡	3D-48	古墳時代後期
SI-007	竪穴住居跡	3D-66	古墳時代後期
SI-008	竪穴住居跡	2E-84	古墳時代後期
SI-009	竪穴住居跡	3E-11	古墳時代後期
SI-010	竪穴住居跡	2E-53	古墳時代後期
SI-011	竪穴住居跡	3C-25	古墳時代後期
SI-012A・B・C	竪穴住居跡	3D-61	古墳時代後期
SI-013	竪穴住居跡	3D-25	古墳時代後期
SI-014	竪穴住居跡	3D-87	古墳時代後期
SI-015	竪穴住居跡	3D-23	古墳時代後期

遺構No.	種類	位置(主グリッド)	時期
SI-016	竪穴住居跡	3D-74	古墳時代後期
SI-017	竪穴住居跡	3C-58	古墳時代後期
SI-018	竪穴住居跡	2C-77	古墳時代後期
SI-021	竪穴住居跡	2C-30	古墳時代後期
SI-022A・B	竪穴住居跡	2C-24	古墳時代後期
SI-023	竪穴住居跡	2C-05	古墳時代後期
SI-024	竪穴住居跡	2C-12	古墳時代後期
SI-025	竪穴住居跡	2B-17	古墳時代後期
SM-001	方墳	2B-35	古墳時代後期
SK-001	土坑	3D-73	古墳時代後期?
SK-002	土坑	2C-87	古墳時代後期?
SK-003	土坑	2B-57	古墳時代後期?
SS-001	方形区画墓	3D-82	奈良時代以降?
SH-001	ピット	2C-54	古墳時代後期?

本遺跡は主に古墳時代後期～終末期の竪穴住居で構成される集落遺跡であることが明らかとなり、特に当概期の土師器や土玉類が多量に出土した。台地の西側縁辺部では箱式石棺を主体部とする長方墳が造営されていた。また、縄文時代の遺構は検出されなかったが、早期～後期にかけての土器片が比較的多く出土した。弥生時代では出土遺物は多くないが、後期の竪穴住居が2軒検出された。

上層の調査後に下層の確認調査を行った。台地東側を中心に主にⅢ層・Ⅸ層から旧石器が出土したが、石器の出土分布に広がりはみられなかったため、確認グリッドの拡張範囲での調査にて終了した。

なお、調査対象面積は10,360m<sup>2</sup>、確認調査面積は上層938m<sup>2</sup>・下層568m<sup>2</sup>、本調査面積は上層7,120m<sup>2</sup>・下層0m<sup>2</sup>であった。



第4図 上層遺構分布図



**整理作業** 報告書作成にあたり、発掘調査において付けた遺構番号をそのまま使用している。整理の進捗に伴い、遺構番号が付されていなかった2C-54グリッドのピットについてのみSH-001の遺構番号を新規に付した。なお、注記後の変更のため出土遺物の注記は発掘段階のグリッド番号のままである。整理作業は水洗注記を行った後、遺構ごとに遺物を種別分類してから、接合作業等を実施した。時間・遺物量の問題から遺構間接合は須恵器に関してのみ行ったが、接合しなかった。土器類の接合の結果は、遺物出土図・遺物台帳に記載された位置と高さをもとに、接合状況図を平面と断面で作成した。なお、遺物実測は完形に近い個体が想定以上多数復元されたため、デジタルカメラを使用した写真実測を積極的に取り入れた。

## 第2節 遺跡の位置と周辺遺跡<sup>1)</sup>（第5図）

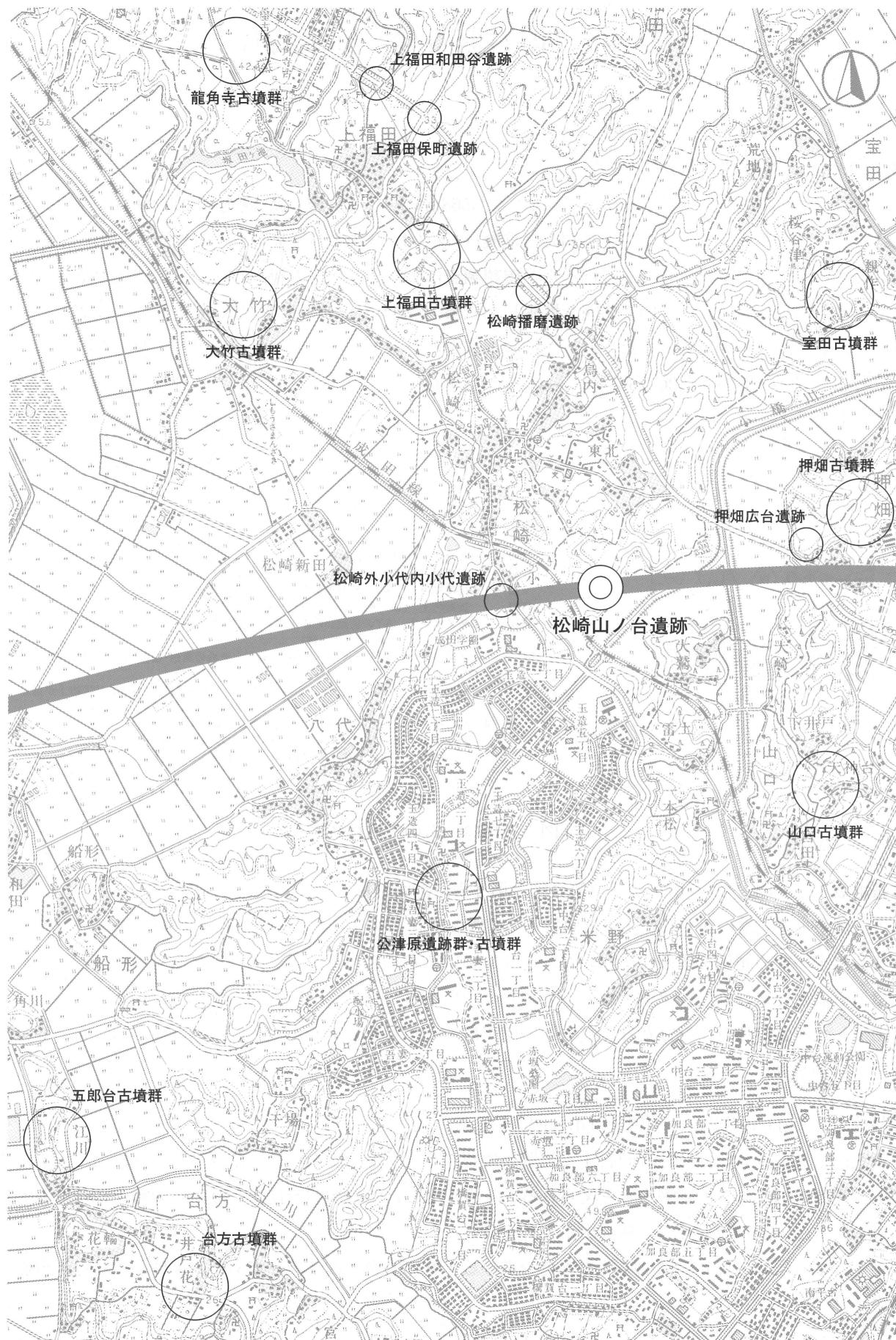
松崎山ノ台遺跡の所在する成田市は、千葉県北部の広大な下総台地の一角を占める洪積台地と印旛沼・根木名川流域の沖積低地で構成される。台地は主に根木名川・印旛沼からのびる樹枝状の谷によって複雑に開析される。本遺跡は西を印旛沼、東を根木名川の支流の松崎川・小橋川に面した標高約34mの台地上に立地する。複雑に張り出した台地全体の先端の台地平坦部を中心に遺跡が広がっていると考えられており、今回の事業地はその中心にあたる。台地の突端は成田線により削平され、その南西には成田ニュータウンが広がる。調査地の地目は山林で、台地下の水田面までの比高差は約25mである。

周辺での大規模な弥生時代遺跡の発掘例は少なく、押畠広台遺跡で弥生時代後期の竪穴住居跡が2軒検出されている。古墳時代になると印旛沼東岸は龍角寺古墳群・公津原古墳群をはじめ、多くの古墳群が造営される。大規模古墳群は南から台方古墳群・五郎台古墳群・公津原古墳群・山口古墳群・押畠古墳群・宝田古墳群・上福田古墳群・大竹古墳群・龍角寺古墳群・南羽鳥古墳群などが挙げられる。公津原古墳群は瓢塚古墳群、天王・船塚古墳群、八代台古墳群の3群で構成され、古墳は合計129基、その内方墳は34基である。上福田古墳群は合計22基が確認され、その内方墳は13基である。上福田13号墳は一部発掘調査が行われ、墳丘一辺約20mの2重周溝を有する方墳で、主体部は貝化石を多量に含む石材による横穴式石室が採用され、7世紀後半代の須恵器甕・壺が出土した。龍角寺古墳群は合計114基が確認され、その内方墳が6基で構成される。印旛郡域最大の前方後円墳である浅間山古墳、三段築成の一辺79mの岩屋古墳など後期以降の古墳が主体である。南羽鳥古墳群は合計38基が確認され、その内方墳は3基である。中でも南羽鳥正福寺遺跡3号墳は本遺跡SM-001と同規模の長方形墳である。古墳時代の集落遺跡としては公津原遺跡群内で大規模な発掘調査が行われ、多くの成果があげられている。また、印旛沼東岸の台地を縦断する成田安食線の道路改良工事により、北から向台遺跡、大畠I遺跡、上福田和田谷津遺跡、上福田保町遺跡、松崎播磨遺跡、押畠広台遺跡で部分的ではあるが、古墳時代後期の集落調査が行われている。

また、本遺跡の西の台地上に位置する松崎外小代内小代遺跡は、同事業で発掘調査が行われ、奈良～中世の集落跡の様相が明らかにされている。

注1 歴史的環境については下記文献を参考にした。

- 1985『主要地方道成田安食線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)千葉県文化財センター
- 1993『主要地方道成田安食線地方道道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』(財)千葉県文化財センター
- 1997『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)－東葛飾・印旛地区(改訂版)』千葉県教育委員会
- 2003『千葉県の歴史 資料編 考古2(弥生・古墳時代)』県史シリーズ10 千葉県
- 2007『主要地方道成田安食線地方道道路改良事業埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』(財)千葉県教育振興財団



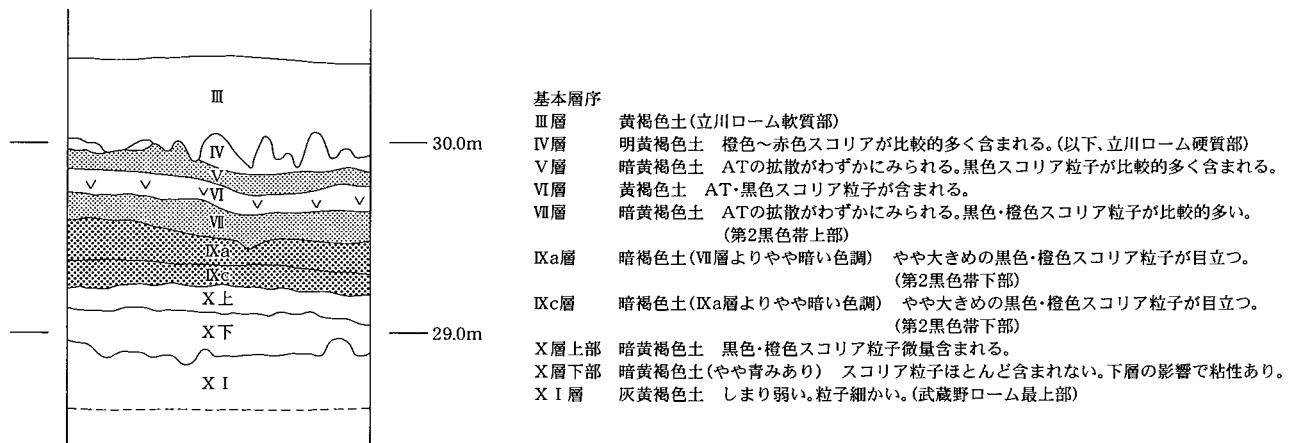
第5図 周辺の主な遺跡

## 第2章 旧石器時代～弥生時代

### 第1節 旧石器時代（第3図、図版2）

旧石器時代の確認調査は対象面積10,360m<sup>2</sup>のうち568m<sup>2</sup>について実施した。調査対象地域内に2m×2mの確認グリッドを87か所設定した。確認調査は重機（バックホー）によって立川ローム層を少しづつ掘削し、地上で遺物の有無を確認する方法で行った。確認調査によって、ローム層中から旧石器時代の遺物が出土した4地点（第3図参照）について周囲を拡張した結果、石器出土分布に大きな広がりはなく、確認グリッドの拡張の範囲内で調査を終了した。以下、拡張地点を西から1～4と地点番号を付して説明を行う。

下層確認グリッドのうち3C-16グリッド東壁の土層断面図を第6図に示した。立川ロームの層厚はおよそ1.6mである。



第6図 立川ロームの土層柱状図

### 拡張地点1<2D-10グリッド周辺>（第8図、第2表、図版21）

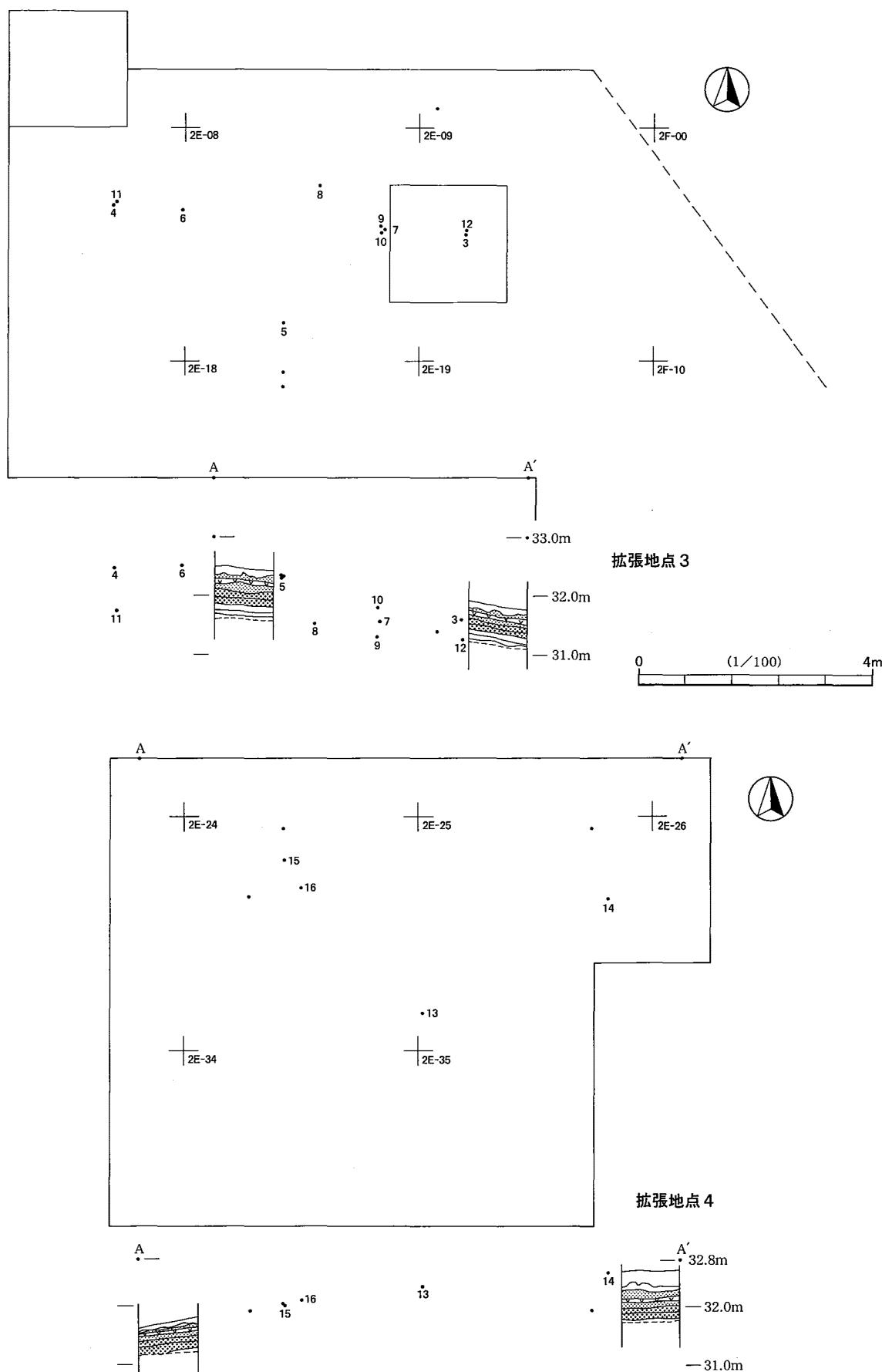
調査区中央部北端の緩やかに北東に傾斜する位置の確認グリッドから出土した。斜面部であり確認グリッドでの出土のため層位は明確ではないが、IV～V層中と考えられる。1点出土したため周囲を拡張したが、他に旧石器と捉えられる出土遺物はなく単独の出土である。

出土した石器は白みを帯びた珪質頁岩製の使用痕のある剥片である。左下側縁は表面から、右下側縁は裏面から調整される。

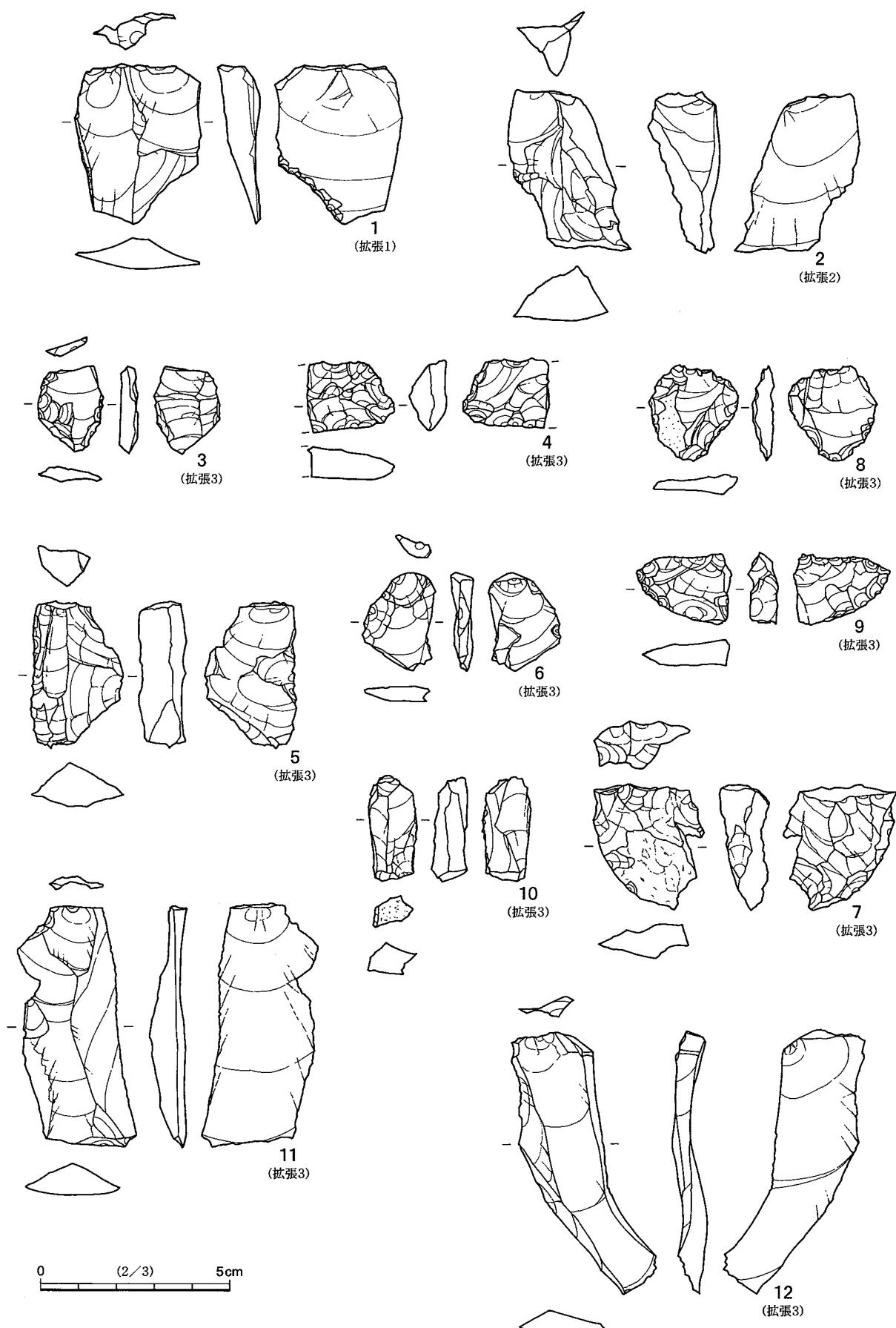
### 拡張地点2<2D-61グリッド周辺>（第8図、第2表、図版21）

調査区中央部の緩やかに北に傾斜する位置の確認グリッドから出土した。確認グリッドでの出土のため層位は明確ではないが、VII層中と考えられる。1点出土したため周囲を拡張したが、同層中には旧石器と捉えられる出土遺物はなく、単独の出土である。

出土した石器は霜降り状に部分的に灰色を帯びるチャート製の縦長剥片である。節理が入り各剥離面は平らではない。



第7図 拡張地点3・4



第8図 旧石器(1)

### 拡張地点3<2E-08グリッド周辺>（第7・8図、第2表、図版2・21）

調査区北東端の2E-08・09・18・グリッド周辺の東側に緩やかに傾斜する台地縁辺部に位置する。南北5m×東西6.5mの小範囲にまばらに散在する出土分布状況である。出土層位はⅢ層とⅨ層を主体とする2小ブロックがほぼ平面・規模ともに重複する。

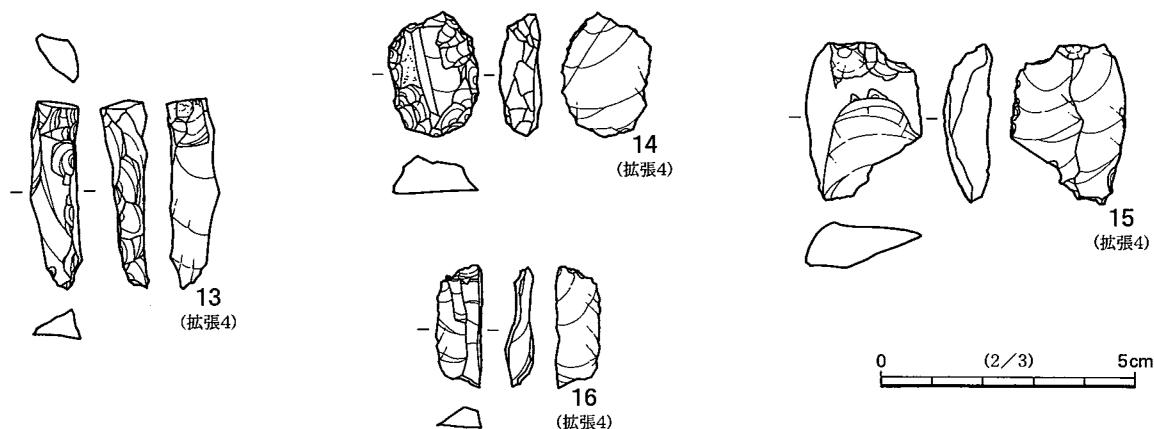
Ⅲ層を中心とするブロックでは尖頭器1点・楔形石器1点・調整痕のある剥片2点・剥片2点の合計6点が出土した。石材はメノウ4点・チャート2点で構成される。3は比較的透明度の高いメノウ製の尖頭器で、基部に急角度調整が施される。4はやや茶色味を部分的に帯びたメノウ製の楔形石器である。厚みのある横長の剥片を素材とし、右側を欠損する。5・6はメノウ製の調整痕のある剥片である。6は欠損しているため断定できないが、楔形石器の可能性も考えられる。

Ⅸ層を中心とするブロックでは削器1点・楔形石器2点・使用痕のある剥片1点・剥片3点の合計7点が出土した。石材は珪質頁岩3点・メノウ2点・チャート1点・赤玉石1点で構成される。7は珪質頁岩製の削器である。比較的厚手の剥片を素材にして、弧を描くように緩やかな刃部を作り出している。8は薄灰緑色を呈した珪質頁岩製の楔形石器で、扁平な剥片を素材とする。9は白みの強いメノウ製の楔形石器と考えられるが、欠損しているため断定できない。10はチャート製の柱状剥片で、右側縁には微細剥離痕が観察される。11は薄緑色を呈する珪質頁岩製の縦長剥片である。12は赤玉石製の縦長剥片である。色調はクリーム色と赤色でマーブル状を呈する。剥離面は極めてシャープである。

### 拡張地点4<2E-25グリッド周辺>（第7～9図、第2表、図版2・21）

調査区東側の2E-24・25グリッドを中心に、南北4m×東西6mの範囲にまばらに散在する分布状況である。出土層位はⅢ層を主体とする。

器種は削片1点・搔器1点・楔形石器1点・剥片3点で合計6点が出土した。石材は玉髓3点・チャート2点・珪質頁岩1点で構成されるが、同一母岩はない。13は玉髓製の縦長剥片を素材とする削片と考えられる。表面右側縁には微細剥離痕が観察される。14は小型剥片の両側縁と端部に急角度調整が施された玉髓製の搔器である。15は表面に自然面を残した小型礫を素材としたチャート製の楔形石器である。16は玉髓製の小型剥片である。



第9図 旧石器(2)

第2表 旧石器 計測表

地点	挿図No.	グリッド	遺物No.	層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚み(mm)	重量(g)	備考
拡張1	1	2D-10	2	IV～V	使用痕のある剥片	珪質頁岩	42.7	33.9	11.5	10.94	
拡張2	2	2D-61	1	VII	剥片	チャート	42.4	33.0	29.7	15.67	
拡張3	3	2E-09	1	III	尖頭器	メノウ	22.9	17.5	5.4	2.30	
拡張3	4	2E-07	2	III	楔形石器	メノウ	18.9	23.6	10.2	4.45	
拡張3	5	2E-08	4	III	調整痕のある剥片	メノウ	38.4	24.9	13.2	12.10	
拡張3	6	2E-07	1	III	調整痕のある剥片	メノウ	25.9	19.5	6.6	2.52	楔形石器?
拡張3	-	2E-18	1	III	剥片	チャート	14.2	17.1	10.3	2.99	表のみ
拡張3	-	2E-18	2	III	剥片	チャート	39.0	32.4	16.6	26.00	表のみ
拡張3	7	2E-08	3	IX	削器	珪質頁岩	32.8	29.7	13.3	10.77	
拡張3	8	2E-08	1	IX	楔形石器	珪質頁岩	25.2	23.9	5.9	2.62	
拡張3	9	2E-08	6	IX	楔形石器?	メノウ	19.0	26.1	8.4	4.01	
拡張3	10	2E-08	5	IX	使用痕のある剥片	チャート	27.9	13.4	9.6	3.94	
拡張3	11	2E-07	3	IX	剥片	珪質頁岩	63.6	31.1	9.8	12.79	
拡張3	12	2E-09	2	IX	剥片	赤玉石	69.4	38.0	9.3	12.01	
拡張3	-	1E-99	1	IX	剥片	メノウ	15.0	15.0	9.8	1.78	表のみ
拡張4	13	2E-25	2	III	削片?	玉髓	36.5	10.1	9.2	3.26	
拡張4	14	2E-25	3	III	搔器	玉髓	24.3	18.2	8.7	3.78	
拡張4	15	2E-24	4	III	楔形石器	チャート	31.0	22.9	9.5	6.63	
拡張4	16	2E-24	3	III	剥片	玉髓	24.4	9.2	5.7	1.10	
拡張4	-	2E-24	2	III	剥片	チャート	16.0	13.4	10.3	1.34	表のみ
拡張4	-	2E-24	5	III	剥片	珪質頁岩	12.2	16.8	4.2	1.11	表のみ
拡張4	-	2E-25	4	IX	調整痕のある剥片?	チャート	29.9	16.4	9.3	4.81	表・写真のみ
地点外	-	2F-20	1	IV～V?	楔形石器?	チャート	18.7	22.7	7.1	2.74	表・写真のみ

## 第2節 縄文時代

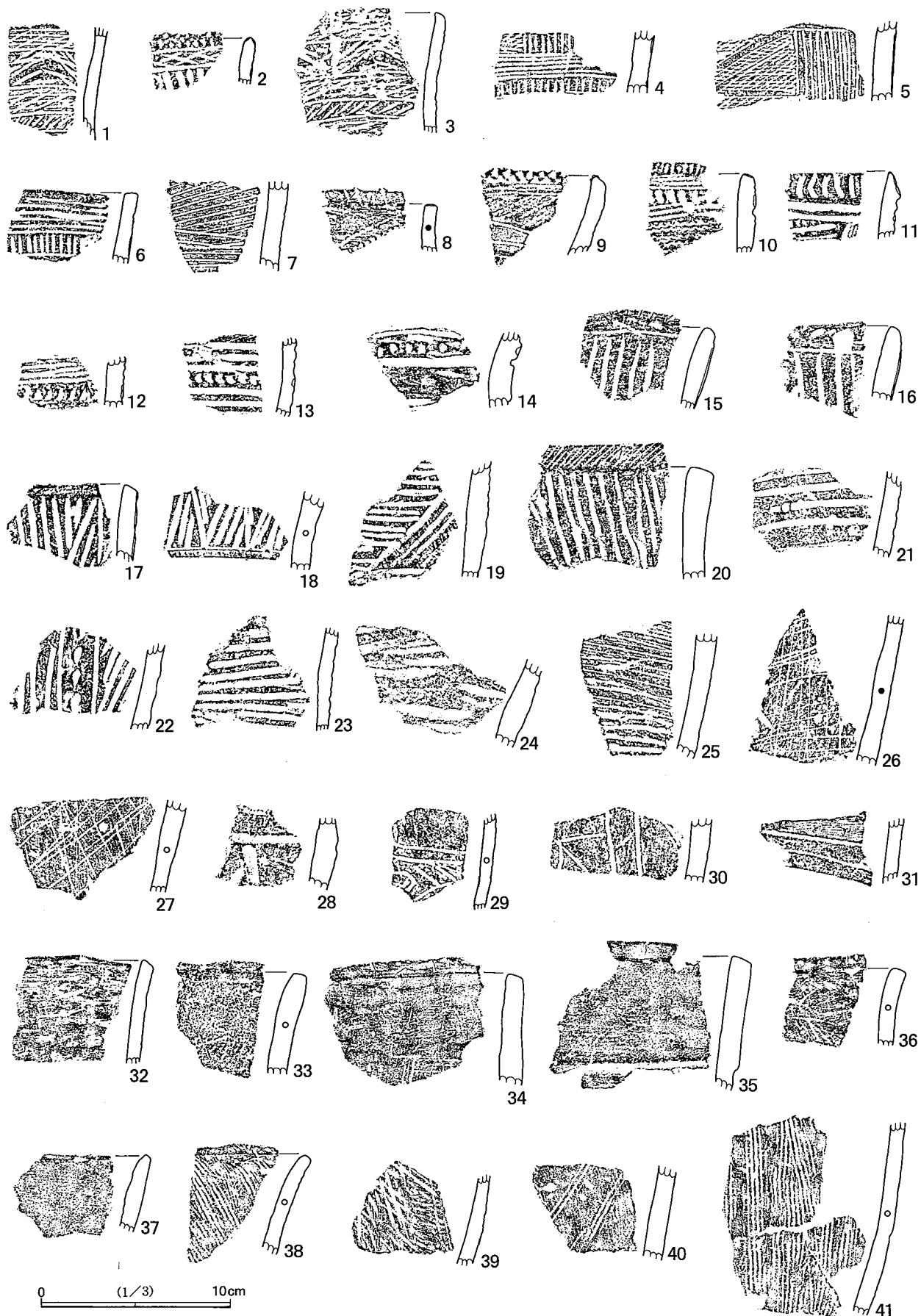
縄文土器は弥生土器より多く出土したが、縄文時代と捉えられる確実な遺構は検出されなかった。なお、SK-002は、古墳時代後期住居(SI-018)より古いが、縄文時代と断定できる状況ではない。

### 1 遺構外出土土器 (第10～13図、図版22・23)

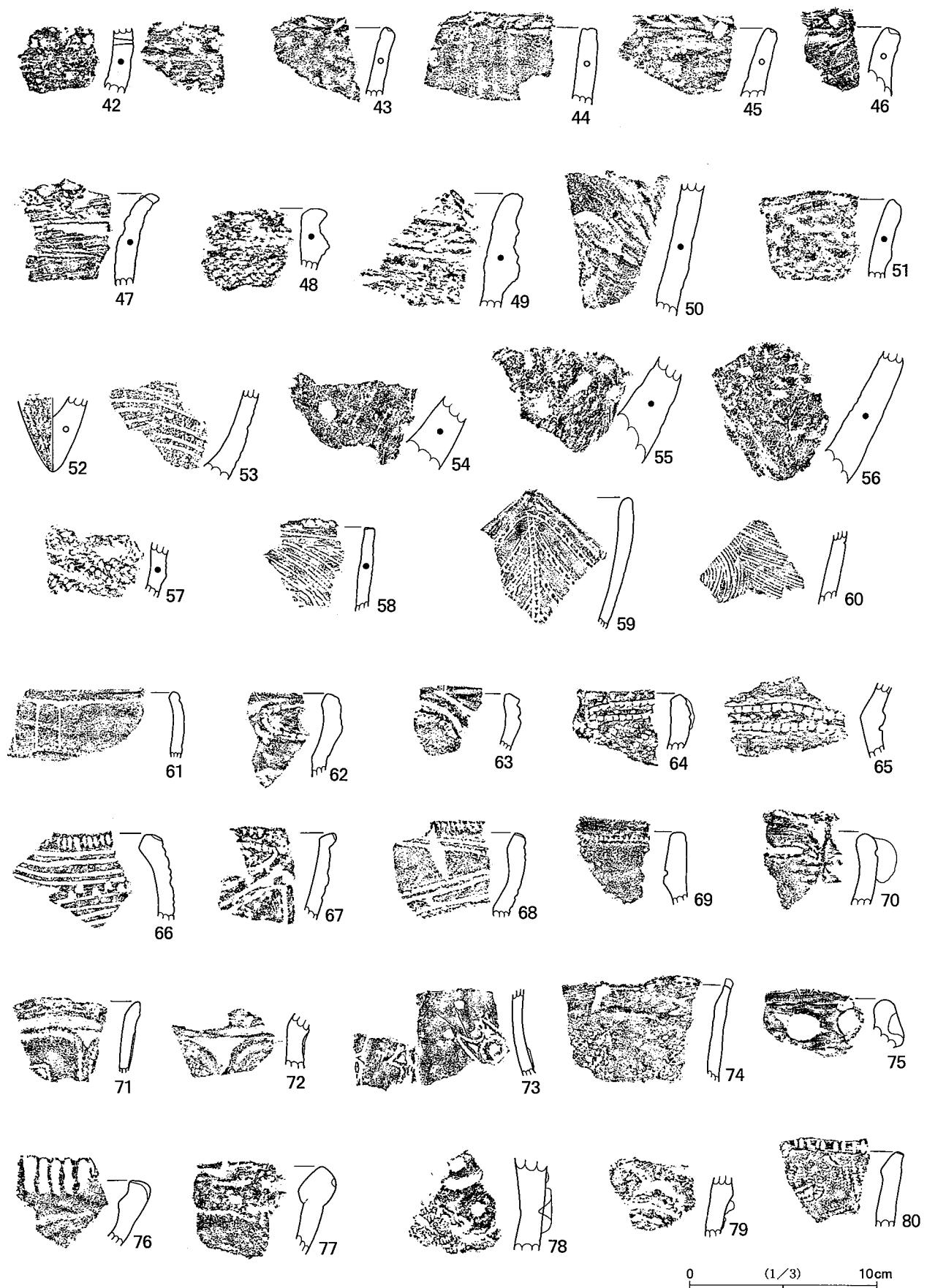
縄文時代早期の沈線文系から後期安行式土器までの土器が出土した。特に後期の土器に大型の破片が多くみられた。なお、土器断面の●は胎土中に纖維が多く含まれるもの、○は纖維が微量含まれていることを示す。1～56は早期、57～60は前期、61～87は中期、88～117は後期に属すると考えられる。

1～41は沈線文系土器群である。1～7は細沈線による文様が主体で、多段帶状の文様帯を角度の異なる沈線で充填する。8～10は腹縁文、11～14は刺突文が沈線文とともに施文される。15～24は太沈線文が主体で、口縁部は斜位や縦位の平行沈線、胴部以下は横方向の沈線が施される。25～27は平行しない細沈線、28～31は比較的浅くて幅広の沈線文が施される32～37は主に擦痕・削痕がみられ、胎土中の砂粒の移動が顕著に観察される。32は胎土に多量の砂礫が含まれる。37は内面に条線がみられ、器面は被熱により赤みを帯びる。38～41は条痕文が主体的に施文される。42～51は条痕文系の土器群である。42は口縁直下に刺突、43～46は口唇部に圧痕が施され、子母口式の特徴と捉えられる。47～49は特に胎土に纖維が多く含まれる。49には纖維の他に砂礫が多く含まれ、特異である。50・51は雑なナデ、条痕が施される個体である。52～56は尖底部分破片である。

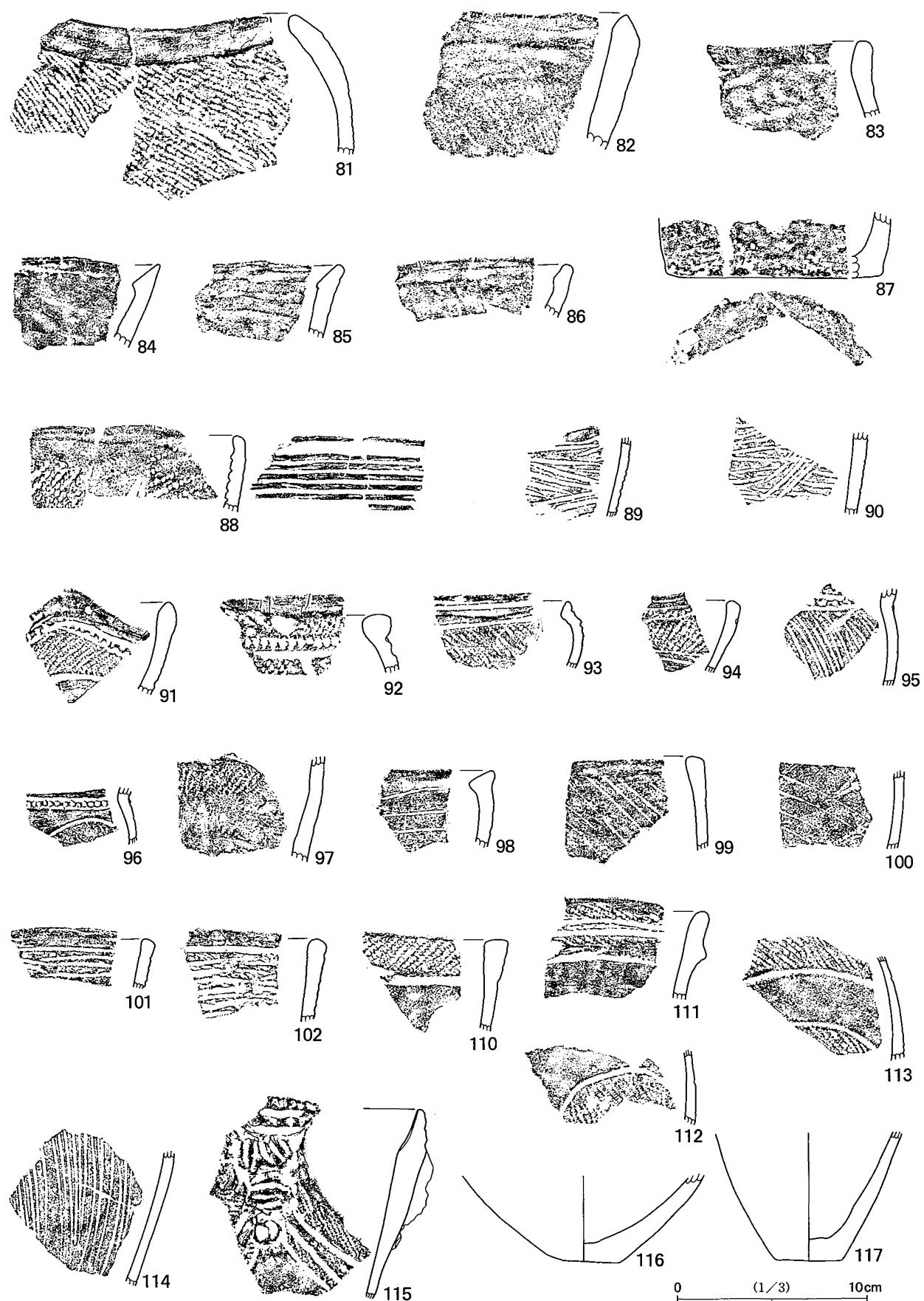
57・58は黒浜式で、胎土に多量の纖維が含まれ、内面は丁寧に磨かれる。59は諸磯・浮島式期で波状口



第10図 繩文土器(1)



第11図 繩文土器(2)



第12図 繩文土器(3)



第13図 繩文土器(4)

縁に半截竹管による押引文が施される。60は十三菩提式と考えられ、ハケ目が渦巻状に施文される。

中期は前半の阿玉台式期が主体で加曽利E式(80～82)が一部含まれる。61～69は口縁部の文様帶が角押文・押引文により区画されるものと考えられる。いずれも口縁部内面に明瞭な稜を有している。70～72は隆帯が交わり、三角形の区画を作り出す。特に、70は胎土に白色砂粒が多量に含まれる。73・74は薄手の個体である。73は径が小さく、蕨手状の小さな隆帯と三角の刺突に沿って角押文が施される。74は地文にまばらな縄文が施される。口縁は薄い2重口縁で、口縁端部に緩やかな突起を有する。75は口縁に沿って大きな刺突が巡り、内外面共に丁寧なミガキが施される。76は波状口縁の頂部で、強い刻みが口唇部に施される。77～79は隆帯を丸く巡り、特に79は胎土に白色砂粒・雲母粒が多く含まれる。80～82は胴部に縄文が施される。80は口唇部に浅い刻み、81・82の口縁部は丁寧にミガキ・ナデが施され無文帯となる。83～86は無文土器である。外面は横方向の雑なナデ、口縁内部には明瞭な稜が巡る。87は平底破片である。胎土から中期に属するものと考えられる。

後期の土器は後半の土器群が主体である。88～90は堀之内2式であろうか。89・90は同一個体で明瞭な沈線が斜位に組み合わされて施文される。91～102は加曽利B式～曾谷式土器である。91～97は加曽利B3式の精製土器破片で、横位の連続刺突文を特徴とする。98～102は沈線文が主体である。103～109は大型の紐線文系の深鉢であり、縮尺を1/4で掲載した。地文に縄文を施され、口縁部に紐線が添付される。紐線は胴部の屈曲する部分にも巡らされ、103では複雑なモチーフが描かれる。110～114は安行1式と考えられ、口縁部の横位の縄文帯と磨消縄文が特徴的である。114は粗製土器の胴部下部である。115は安行2式特有の突起のある波状口縁で、ブタ鼻状の貼瘤文がみられる。116・117は胎土・器形から後期の深鉢土器の底部と考えられる。器面は丁寧に磨かれ、底面はヘラケズリされる。

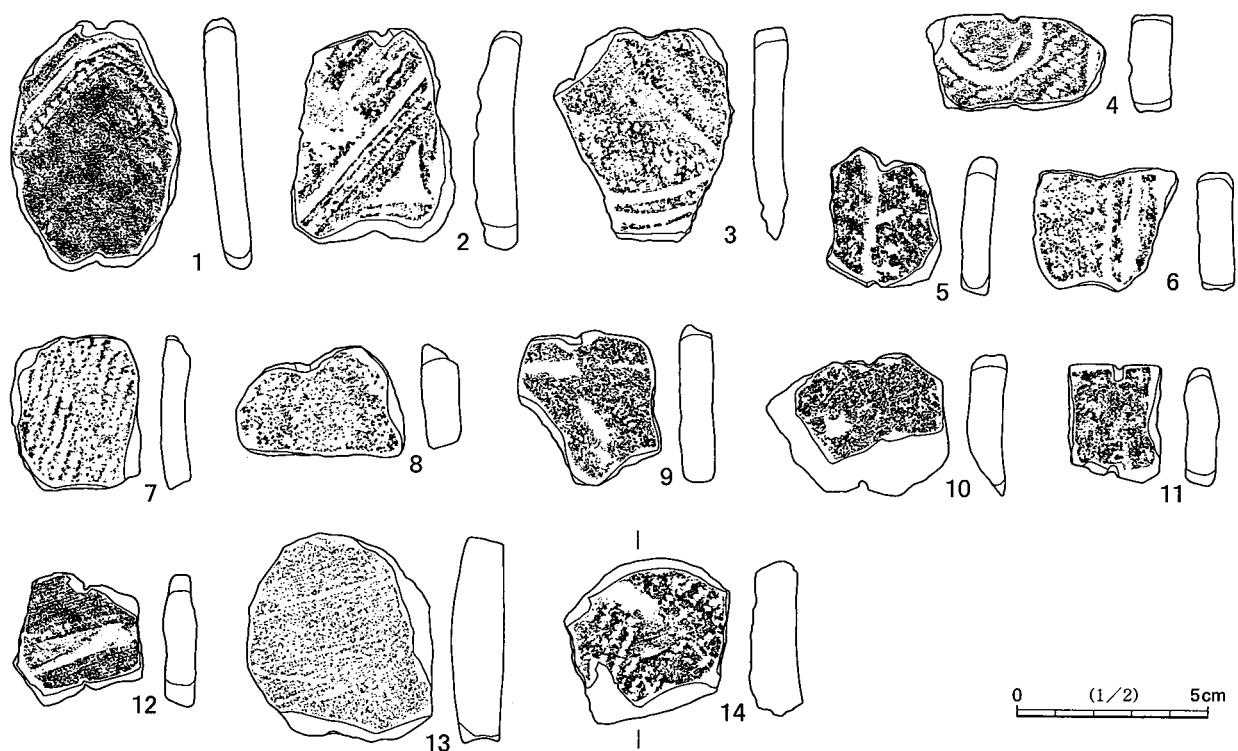
## 2 遺構外出土土製品（第14図、第3表、図版24）

縄文時代の土製品は確認できたものすべて、破片であってもほとんど実測、掲載している。土製品の大部分は土器片錐である。13・14は切り込みが遺存部では確認できず、側面をより丁寧に擦って整形しているため、土製円盤と捉えた。時期は無文土器が含まれるが、胎土などの特徴からほとんどが中期に属するものと考えられる。1～10の胎土には白色砂粒が多く含まれ、特に1～4・8には雲母粒が目立つ。

なお、色調・法量などは一覧表(第3表)のとおりである。

第3表 縄文時代 土製品 計測表

挿図No.	遺構番号	遺物No.	種類	色調(Hue)	横幅(mm)	縦幅(mm)	厚み(mm)	重量(g)
1	(SM-001)	4区-8	土器片錐	7.5YR にぶい橙6/4	44.30	65.90	9.00	31.65
2	(SM-001)	2区-23	土器片錐	10YR にぶい黄橙6/3	42.90	57.20	11.60	29.44
3	(SI-011)	1	土器片錐	10YR にぶい黄橙6/4	47.30	56.40	9.10	25.40
4	(SM-001)	4区-8	土器片錐	7.5YR にぶい橙6/4	25.60	46.90	11.30	16.70
5	(SM-001)	1区-1	土器片錐	10YR にぶい黄橙6/4	30.80	36.30	8.60	10.45
6	表採	1	土器片錐	10YR にぶい黄橙7/4	32.70	32.50	9.80	13.74
7	(SI-013)	4	土器片錐	7.5YR 橙6/6	33.60	40.50	7.20	12.91
8	(SI-017)	1	土器片錐	5YR 明赤褐5/6	43.90	29.00	9.60	15.16
9	(SM-001)	3区-1	土器片錐	5YR 赤褐4/6	37.10	40.40	8.90	14.99
10	(SM-001)	3区-2	土器片錐	5YR にぶい赤褐4/4	48.50	37.00	10.10	17.55
11	(SM-001)	2区-2	土器片錐	10YR にぶい黄褐5/3	24.80	30.60	9.40	8.43
12	(SM-001)	4区-8	土器片錐	10YR にぶい黄褐5/3	33.30	34.80	8.60	10.87
13	(SI-002)	1	土製円盤	7.5YR 橙6/6	48.80	55.10	13.60	40.71
14	(SI-014)	1	土製円盤	7.5YR にぶい橙6/4	43.40	43.30	14.50	26.98



第14図 土製品

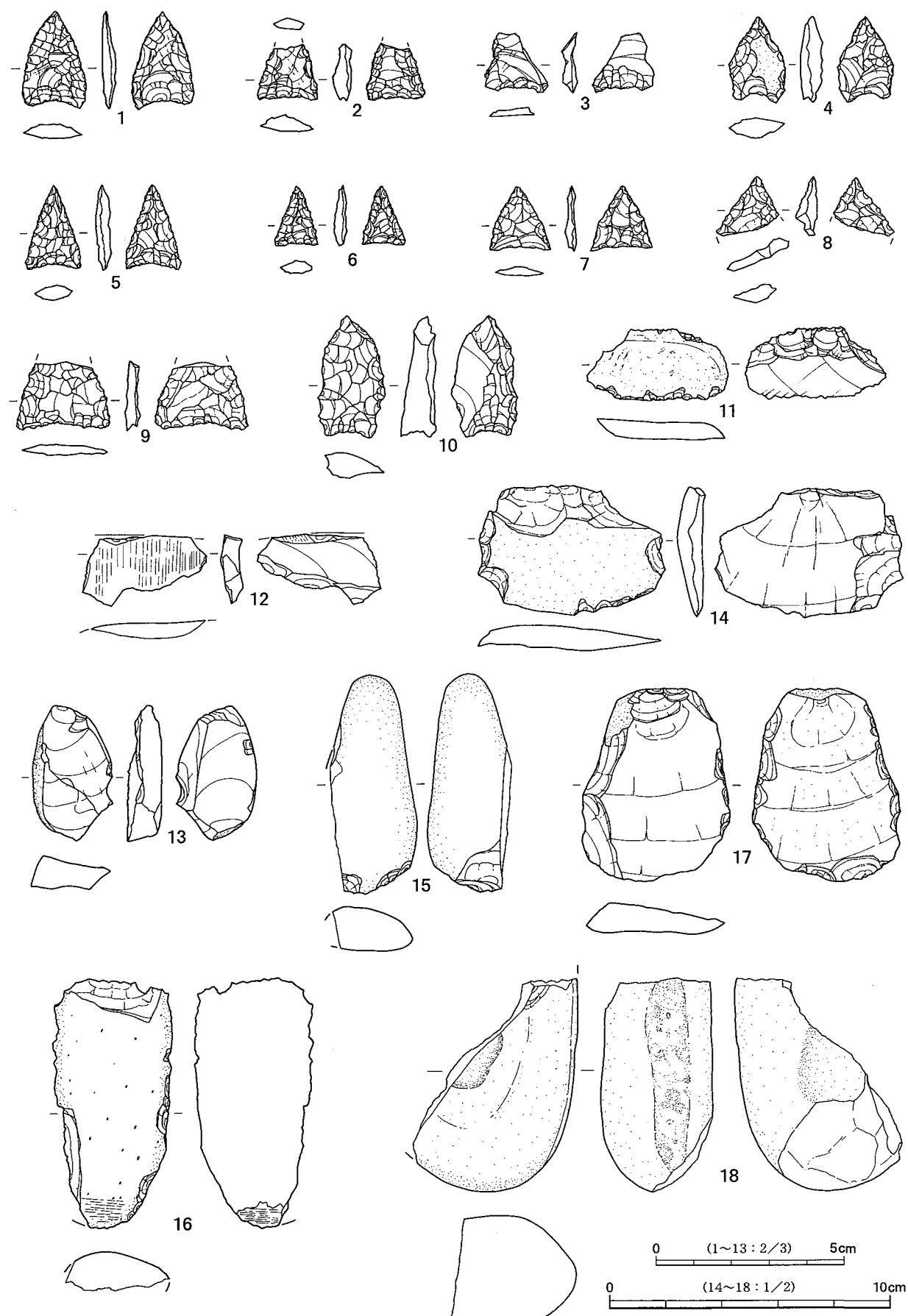
### 3 遺構外出土石器 (第15・16図, 第4表, 図版24)

縄文時代の石器は確認できたものは破片であってもほとんど実測, 掲載している。

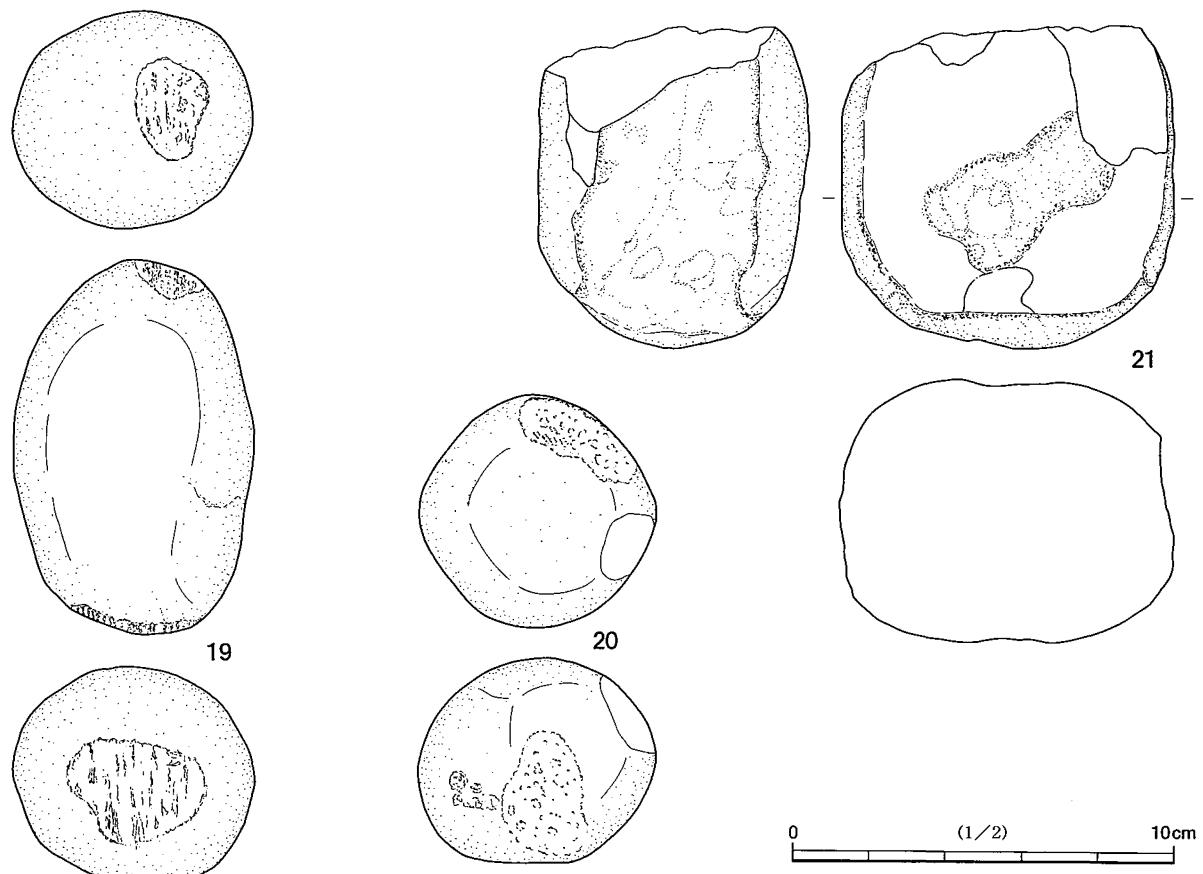
縄文時代石器の内ほぼ半数は石鏃であった。1~10は凹基の石鏃である。なお, 3は一部のため石鏃とは断定できない。石材はチャート製が4点, 黒曜石製が3点と主体的である。10はメノウ製の未製品である。11は片面に自然面を多く残したチャート製の調整痕のある横長剥片である。12は剥離面以外は丁寧に研磨された剥片で, 石材は凝灰岩であろうか。磨製石斧の破損したもの可能性がある。13は一部に自然面を残す橍円礫を用いた安山岩製の楔形石器である。

14はホルンフェルス製の石斧調整剥片である。15もホルンフェルス製で, 先端刃部のみを簡易に加工した礫斧と考えられ, 一部欠損している。16は流紋岩製の石斧で, 刃部は脣部より細身で, 研磨されている。裏面は大きく欠損している。17はホルンフェルス製の石斧で, 一部自然面を残すが, 分割面の稜は風化などで, 摩滅している。18~21は敲石である。周縁部を中心に敲打痕がみられるが, 19・21は平坦面中央部にも使用痕が確認できる。

なお, 石材・法量などは一覧表(第4表)の通りである。



第15図 縄文時代石器(1)



第16図 縄文時代石器(2)

第4表 縄文時代 石器 計測表

挿図No.	遺構No.	遺物No.	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚み(mm)	重量(g)
1	(SI-009)	48	石鏃	黒曜石	26.3	17.1	4.3	1.61
2	(SI-003)	1	石鏃	黒曜石	15.6	16.4	5.4	1.21
3	2B-26・36	1	石鏃片?	黒曜石	16.5	16.8	4.3	0.77
4	(SM-001)	トレ2-1	石鏃	チャート	23.3	15.2	6.4	2.22
5	(SM-001)	1	石鏃	チャート	22.9	14.8	4.5	1.18
6	(SI-007)	1	石鏃	チャート	16.3	11.8	3.9	0.46
7	(SI-024)	6	石鏃	チャート	17.6	16.4	3.3	0.6
8	(SM-001)	3周-2	石鏃片	凝灰岩	16.3	16.6	6.2	0.78
9	2E-34	1	石鏃	安山岩	18.4	24.7	4.2	1.74
10	(SI-001)	1	石鏃未製品	メノウ	32.9	18.3	9.8	4.86
11	(SI-001)	1	調整痕のある剥片?	チャート	19.5	38.0	7.9	5.48
12	(SI-012C)	1	研磨痕のある剥片	凝灰岩?	19.2	33.0	6.2	3.44
13	(SI-005)	1	楔形石器	安山岩	36.5	21.9	9.6	8.55
14	(SI-003)	82	石斧調整剥片	ホルンフェルス	46.7	67.3	9.8	29.44
15	(SM-001)	1区-101	礫斧	ホルンフェルス	78.1	30.6	17.6	56.58
16	(SI-019)	3	石斧(刃部研磨)	流紋岩	90.2	42.7	15.8	68.04
17	2E-15	1	石斧	ホルンフェルス	69.7	53.1	4.8	59.55
18	(SI-017)	1	敲石	砂岩	76.3	59.1	40.6	209.3
19	(SI-014)	14	敲石	チャート	98.8	64.1	57.8	516.31
20	(SI-007)	14	敲石	砂岩	61.5	62.4	54.6	285.38
21	(SI-015)	7	敲石	安山岩	85.8	87.9	71.8	860.99

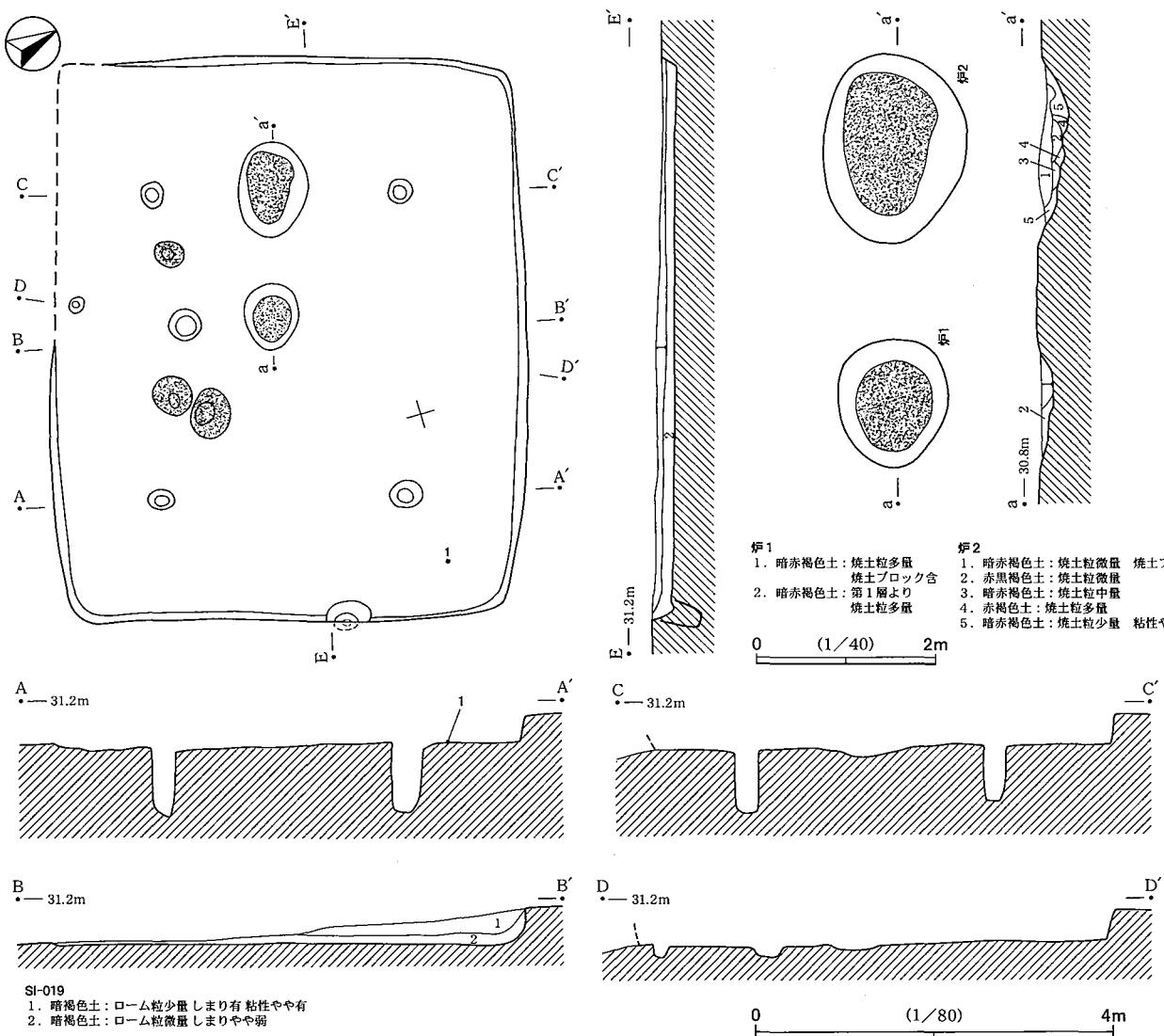
### 第3節 弥生時代

弥生時代後期に属する遺構として竪穴住居跡2軒を検出した。住居跡は調査区西側で、比較的隣接して分布する。遺構外からも土器破片は出土したが、少量であり後期に限定される。

#### 1 竪穴住居跡

SI-019 (第17・19・20図, 第5・6表, 図版13・25・26・28)

2C-60グリッド周辺の台地西側の緩斜面部に位置する。南西側は壁が搅乱され検出されなかった。平面形は縦長隅丸方形で、規模は主軸長6.16m, 幅5.12mである。主軸はN-71°-Wである。掘り込みは確認面から41cmである。炉は主軸上に2基検出されたが、新旧は不明である。ピットは主柱穴が4基とやや内傾した入口ピットが1基、小規模の深さ10cm程度の補助柱穴が南側で2基検出された。床面には明確な硬化面は検出されなかった。床が被熱し、赤化した部分が住居南側で3か所確認できた。壁周溝はめぐらない。

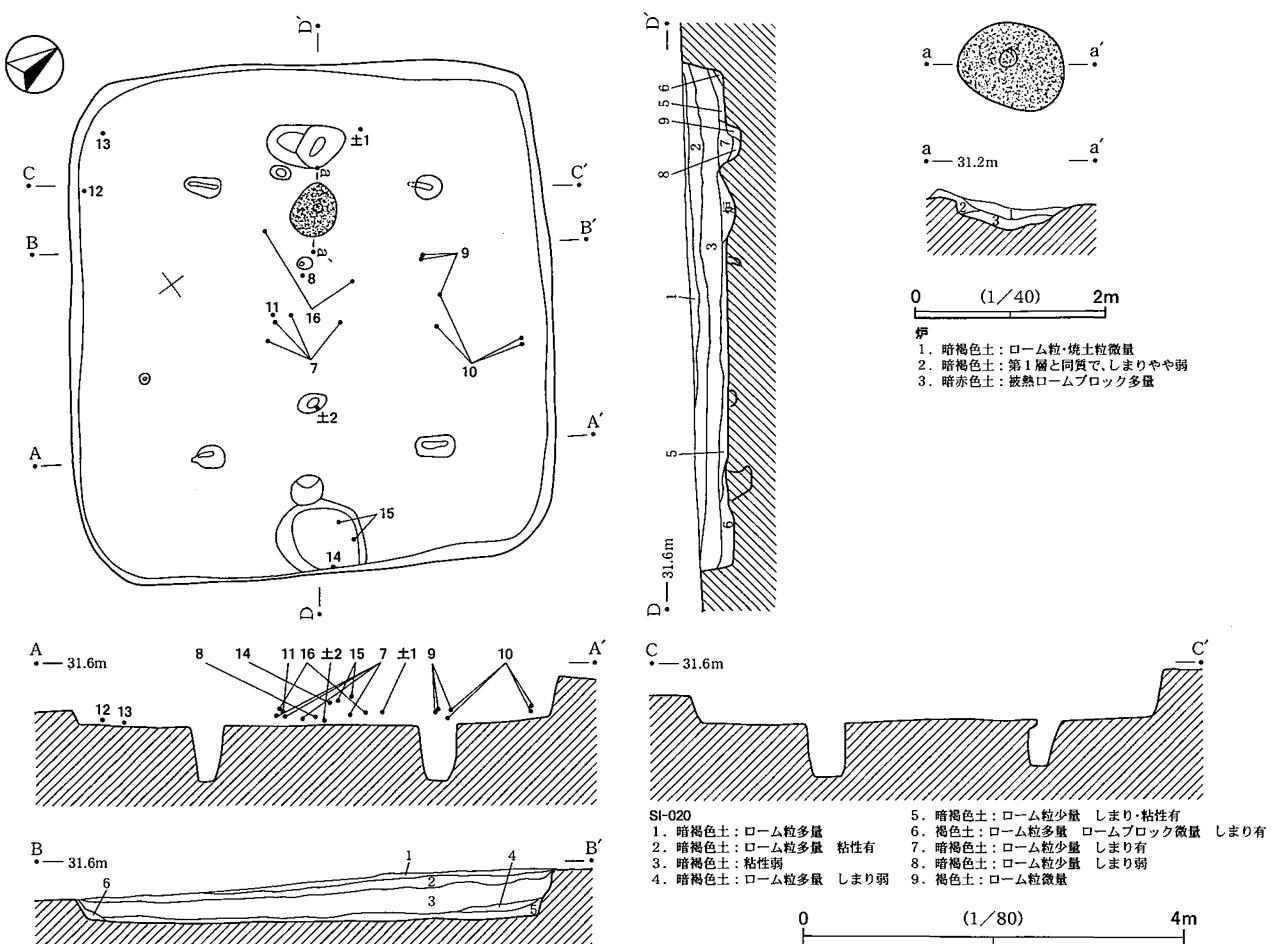


第17図 SI-019

出土遺物は、弥生土器破片55点・縄文土器破片23点であった。1は高壺の壺部で、正位状態で出土した。無文で稜はなく比較的直線的に口縁部が立ち上がり、内外面共に赤彩される。口径19.6cmで、壺部のみ完存する。焼成は良好で、胎土には特に白色砂粒が多く含まれる。内外面共に比較的丁寧なナデ・ミガキ調整である。2～6は甕破片である。2～5は胎土や焼成が近似し、同一個体の可能性が高い。胎土には微砂粒が含まれ、焼成は良好である。色調はにぶい黄褐色である。2は横位に筋状の弱い沈線、3にはS字の結節文、胴部の4・5は3本単位で施文がみられる附加条縄文が施される。6は胴部破片である。色調は明黄褐色で、焼成は良好である。附加条縄文が施される。他に砂岩製の砥石(石1)が出土した。

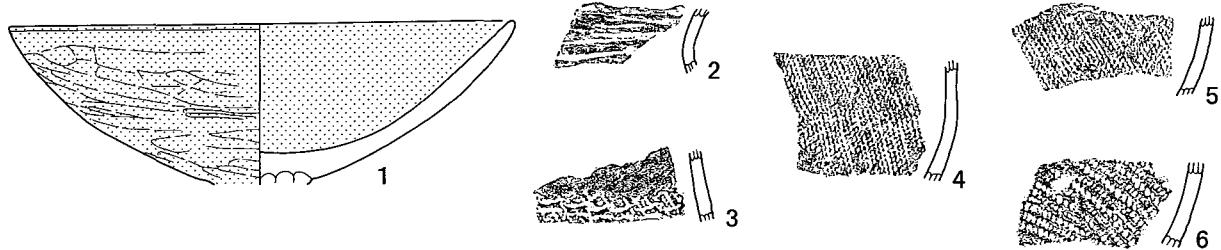
#### SI-020 (第18～20図、第5・6表、図版13・25・26)

2C-42グリッド周辺でSI-019の北東に位置する。平面形は縦長隅丸方形で、規模は主軸長5.26m、幅4.9mである。主軸はN-49°-Wである。掘り込みは確認面から52cmである。炉は主軸上のやや北西壁寄りに1基検出された。その北西にも下部に焼土層が確認できる不整形の掘り込みがあり、炉として機能していた可能性が高い。その炉内土の堆積は第5層を切っており、5・6層はしまりもあることから貼床層とも捉えられる。ピットは主柱穴が4基、主軸上にやや不整形で小規模な補助柱穴が2基検出された。床面には、明確な硬化面は検出されなかった。壁周溝はめぐらない。

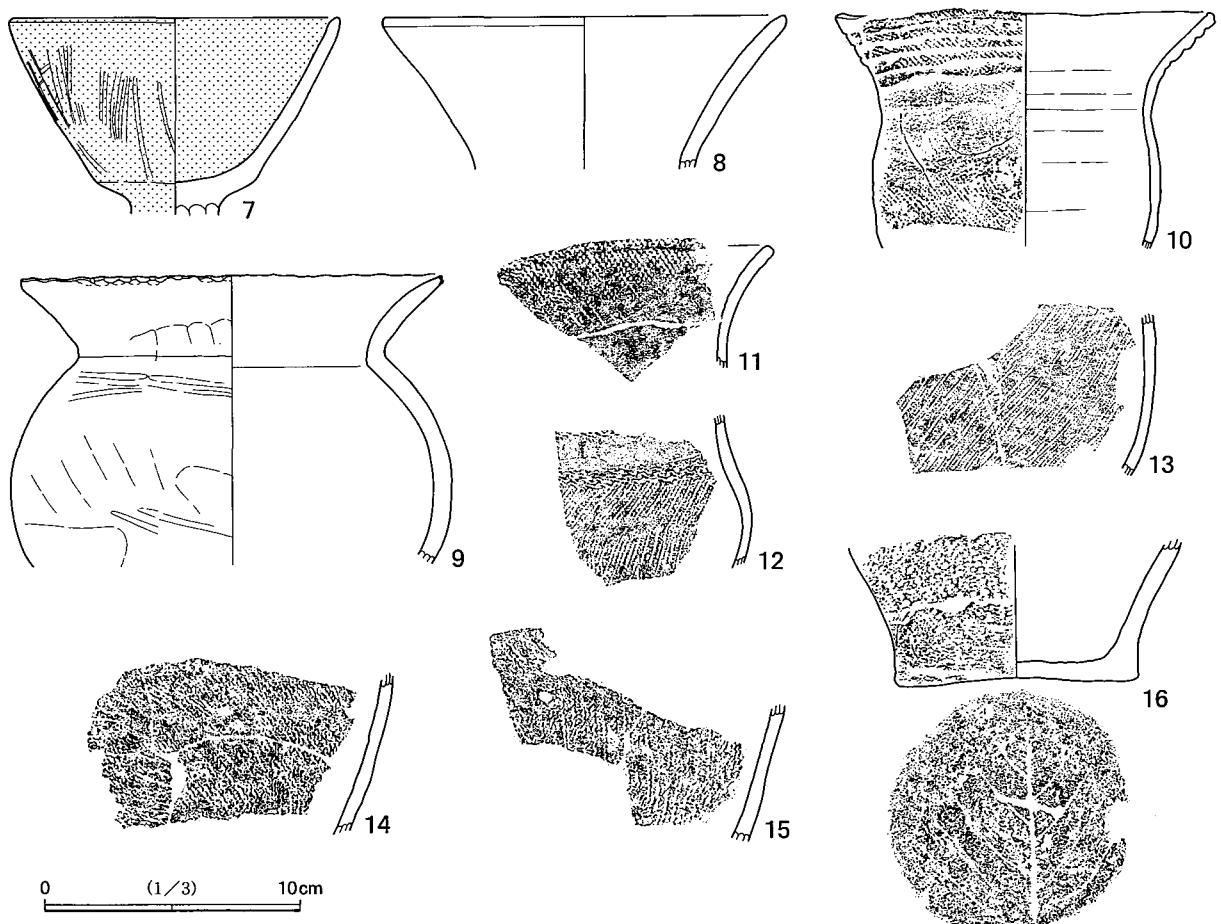


第18図 SI-020

SI-019

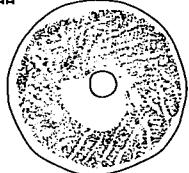


SI-020

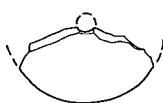


第19図 弥生時代(1) <SI-019・SI-020>

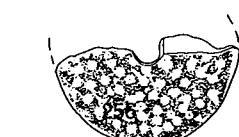
土製品



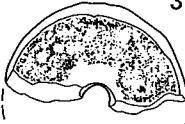
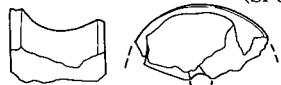
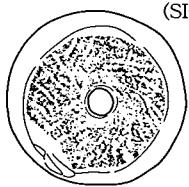
1  
(SI-020)



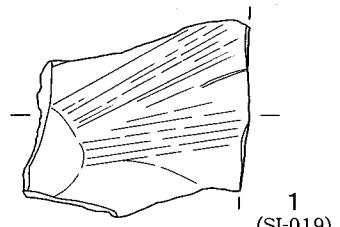
2  
(SI-020)



3



石製品



1  
(SI-019)

0 (1/2) 5cm

第20図 土製品・石製品<弥生時代>

出土遺物には、土師器は含まれていない。半数は弥生土器、残り半数は縄文前期の纖維が含まれる破片であった。7は高壺の壺部の35%の遺存である。内外面共に赤彩される。口径は推定で12.7cmである。胎土は白みを帯び、砂粒が少量含まれる。焼成はやや不良である。口縁下部に稜をもち急角度で立ち上がる。内外面共に丁寧に直線的なミガキ調整が施される。8は小型壺の口縁部の可能性もあるが、SI-019-1の形状の高壺に対応する脚部破片と考えられる。胎土は近似し、焼成は良好である。底径は推定で15.7cmである。色調は橙色で、内外面ともナデ調整である。9は甕口縁部～胴部上半の20%の遺存である。口径は推定で16.4cmである。口縁端部は交互押捺が施される。無文で、頸部にも輪積痕はみられない。色調はにぶい褐色で、胎土には白色砂粒が含まれる。焼成はやや不良である。10～16はいわゆる北関東系の縄文が施される甕である。10～15は薄手の甕で色調が暗く、附加条縄文を主文様とする同系統の破片である。10は口縁部に輪積痕を残し、口唇部・口縁部・胴部に附加条縄文が施される。頸部は無文で、ナデ調整である。11は素口縁で、口縁部に附加条縄文が施され、頸部は無文である。12は胴部上端にZ字の結節文がみられる。12と13、14と15は同一個体の可能性が高い。16は底部破片で、他のものに比べ色調も橙色で、器厚もある。胎土には比較的大きめの砂粒が多量に含まれる。底面には明瞭に木葉痕が残る。外面は節の大きい附加条縄文が雑に施される。

土製品では土製紡錘車が2点出土した。土1はほぼ完形で、全面に細かい附加条縄文が施される。縄文の節のなかに赤みを残す部分があり、赤彩されていた可能性がある。焼成は良好である。重量は75.05gである。土2は、全体の30%の遺存である。外面は丁寧に磨かれ、無文である。重量は12.78gである。他に支脚のような被熱してボロボロになった破片が30点出土したが実測はできなかった。

第5表 弥生時代 竪穴住居 計測表

遺構No.	位置 (主グリッド)	平面形	炉の 有無・位置	主軸方向	規模 (m)	床面積 (m <sup>2</sup> )	床面 標高(m)	主柱穴	補助柱穴 (入口等)	貯蔵穴 有無・位置	壁周溝
SI-019	2C-60	隅丸方形	2 主軸西壁寄	N-71° -W	6.16×5.12	31.06	30.712	4	入口1 他2	なし	なし
SI-020	2C-42	隅丸方形	2 主軸北西壁寄	N-49° -W	5.26×4.9	24.44	30.7	4	他2	なし	なし

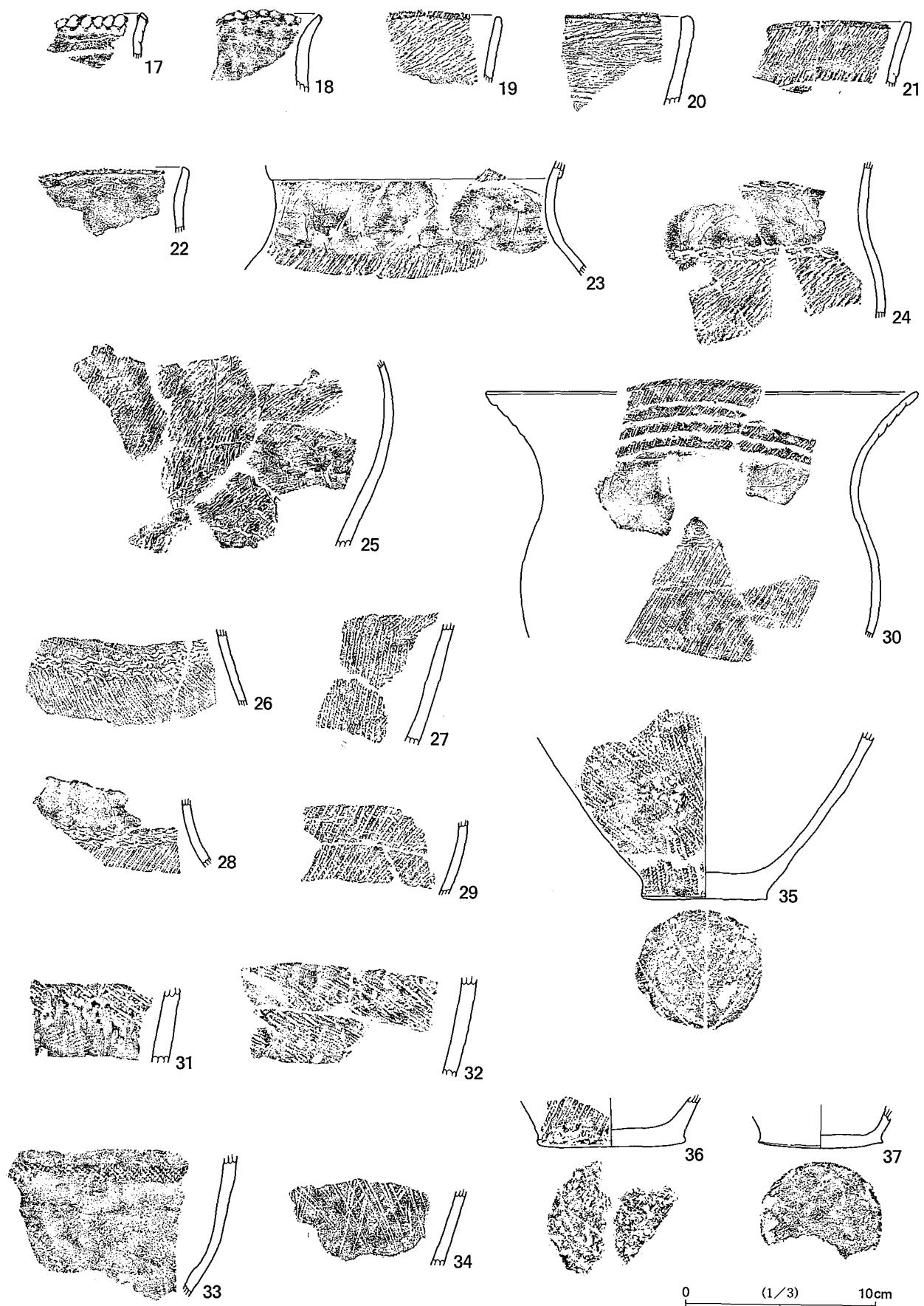
第6表 弥生時代 土製品・石製品 計測表

土製品

挿図No.	遺構No.	遺物No.	種類	色調(Hue)	横幅(mm)	縦幅(mm)	厚み(mm)	重量(g)	< >現存長
1	SI-020	7	紡錘車	7.5YR にぶい橙6/4	直径47.0		28.0	75.05	
2	SI-020	33	紡錘車	10YR 暗灰4/1	<35.0>	<20.0>	25.0	12.78	
3	(SM-001)	4区-7	紡錘車	10YR にぶい黄褐5/4	<29.1>	<47.8>	20.3	29.69	

石製品

挿図No.	遺構No.	遺物No.	種類	石材	横幅(mm)	縦幅(mm)	厚み(mm)	重量(g)
1	SI-019	1	砥石	砂岩	52.4	59.8	15.5	61.75



第21図 弥生土器(2)〈遺構外〉

## 2 遺構外出土遺物（第20・21図、第6表、図版25・26）

17～37はすべて甕の土器破片であり、31・32を除き薄手の作りである。17～22は口縁破片である。17は口唇部に深い工具による押捺刻み、口縁部は輪積痕を明瞭に残す。18は口唇部に弱い押捺が施され、口縁部は無文である。19～21は節がはっきりしないため無節の附加条縄文と考えられる。縄文を細かく口縁部全面、19・21には口唇部にも施文される。同様の文様は胴部の23～25にもみられる。22は口縁の上位にZ字の結節文のみを残し、施文の際付いた文様はナデ消される。23は胴部上端の文様は他とは異なり、結節せずに施文される。24・25は同一個体で胴部は無節の附加条縄文で、胴部文様帶の上下をZ字結節文が施される。26～30・35・36は単節の細かい附加条縄文と多条のZ字結節文の組み合わせである。30は口縁部の4条の輪積痕部分と口唇部にも附加条縄文が施される。なお、27と36、28と30は同一個体である。31・32は色調は橙色を呈し、他とは異質で器厚も厚い。外面は摩滅氣味で、節の比較的大きい附加条縄文が施される。内面は明瞭なミガキ調整が確認できる。破片は直線的で、大型の甕と考えられる。33は横位のRL縄文が1条施される。破片は被熱し、器面が荒れている。胎土には微砂粒が多量に含まれる。34は底部に近い胴部破片で、外面は斜位に浅く細い沈線が施される。内面はヘラナデ調整である。他の個体に比べ焼成は非常に良好である。胎土は弥生時代土器に近いため、弥生土器と判断したが、縄文土器の可能性もある。35～37は底部破片で、底径は小さく、端部は自重で粘土がはみ出すように膨らむ形状である。35・36の底面には明瞭に木葉痕が残り、37はケズリとナデで消されている。

土3はSM-001(古墳)下の旧表土層を精査中に出土した土製紡錘車である。薄い焼土・炭化物と共に出土しており、周辺を丁寧に確認したが、住居跡などの掘り込みなどはみられなかった。遺物上面は全面刺突痕が施され、側面は3列で5段～6段の刺突が施され、同間隔と考えると6単位あったと考えられる。また下面に2か所刺突文が施される。重量は29.69gである。

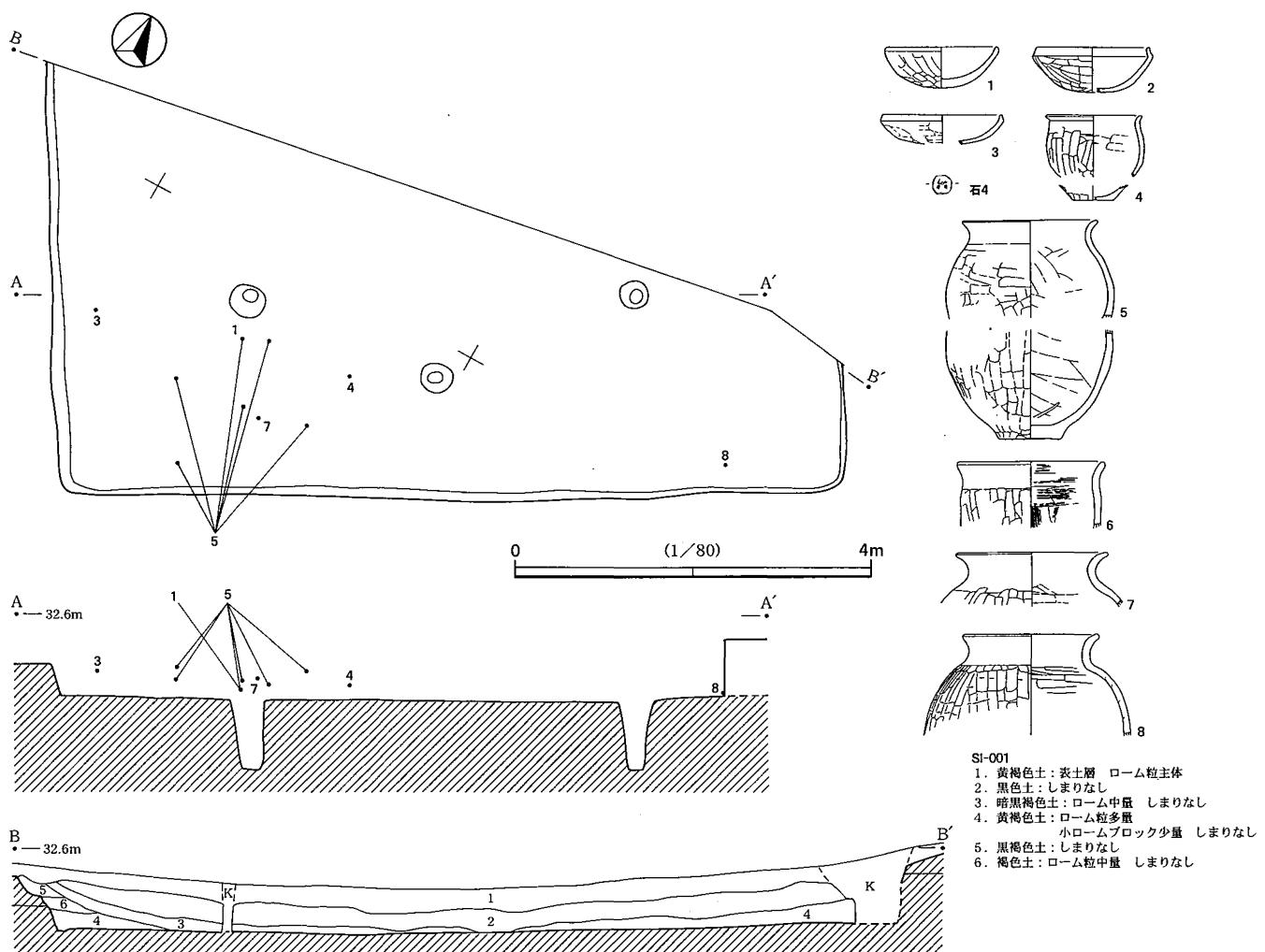
## 第3章 古墳時代以降

古墳時代後期になると俄に堅穴住居を主体として集落が形成され、古墳時代終末期まで継続する。堅穴住居は調査区内の台地平坦面を中心に合計23軒分布し、切り合いはほとんどない。また、台地西側縁辺部には古墳時代終末期の長方形墳が造営されている。

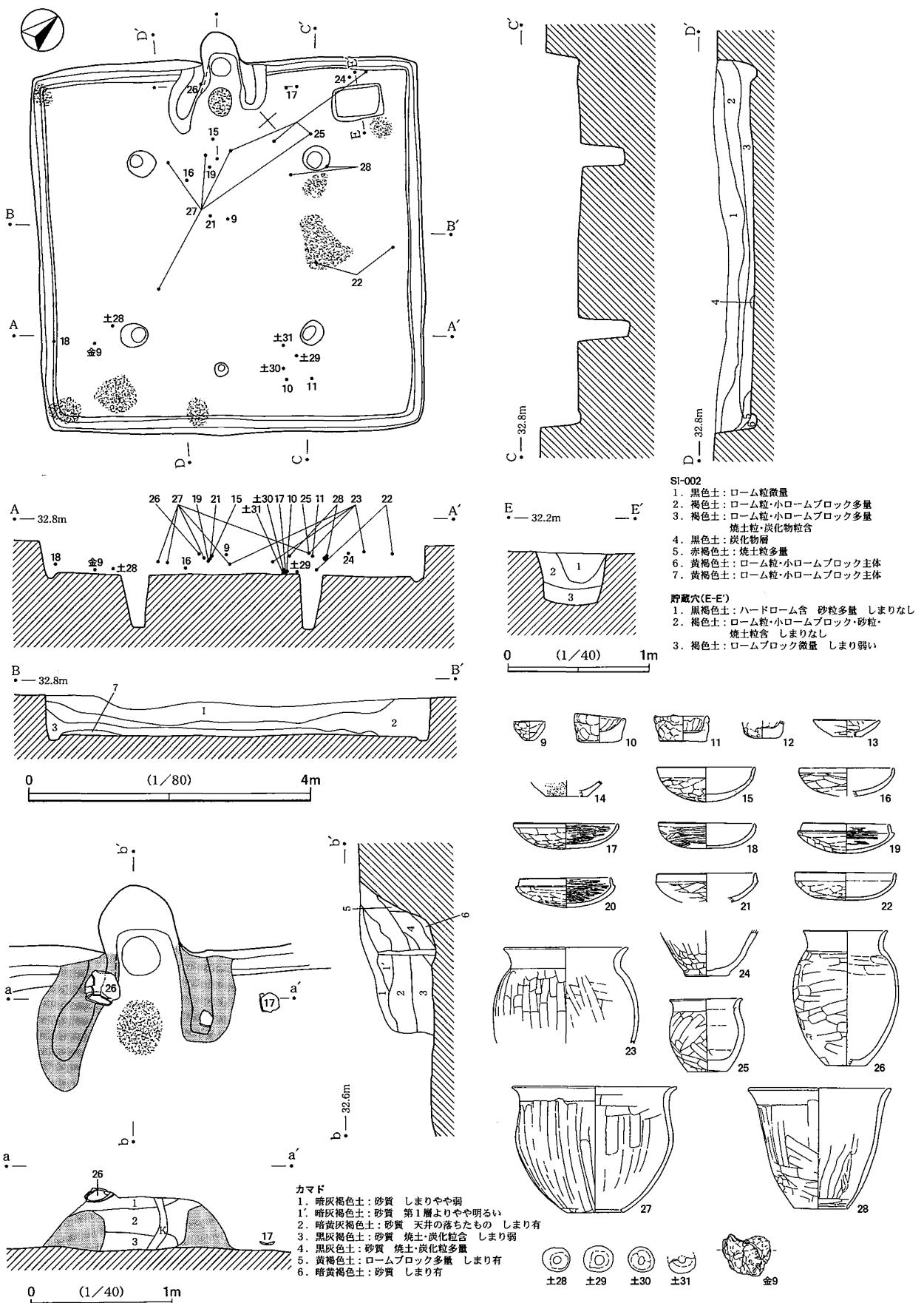
### 第1節 堅穴住居跡

SI-001 (第22・58・77図, 第7・8・11表, 図版3・28・29)

1E-95グリッド周辺に位置する。北側半分は調査範囲外にあたる。調査区境部の断面で現表土が住居中央ほど低くなっている状況や、壁外側に周提帶の残存部状の高まりを確認することができた。平面形は方形で、規模は主軸長不明、幅は8.7mで大型である。主軸はN-30°-Wである。掘り込みは確認面から60cmである。カマドは調査区外の北西壁に付設されていると考えられる。ピットは主柱穴が2基と入口ピット(深33cm)が検出された。床面には明確な硬化面・壁周溝は確認できなかった。



第22図 SI-001



第23図 SI-002

半分以下の調査区のため、遺物量はあまり多くない。土師器壊類は黒色処理の遺存が不良である。須恵器模倣壊であるが、比較的口縁部の短いものが主体である。甕は口縁部の屈曲が強く、胴部に丸みを帯びるもののが目立つ。8の甕は胴部上半～口縁部のみの完存で、横位の状態で床面直上から出土した。石4は石製模造品で、表面は摩滅している。側面の面取りが雑で、全体的に粗雑な印象を受ける。

実測個体以外では、壊類は黒色処理破片が主体であり、甕類は実測個体の残破片がほとんどである。他に甕破片、砂礫を多量に含む甕破片、支脚破片が出土した。

#### SI-002 (第23・58・59・75・78図, 第7～10表, 図版3・4・26・28・29)

2E-17グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-51°-W, 規模は主軸長5.08m, 幅5.35mである。掘り込みは確認面から58cmである。カマドは北西壁中央に付設される。ピットは主柱穴が4基と入口ピット(深28cm), 貯蔵穴が検出された。床面に明確な硬化面はないが、ほぼ全面に焼土粒・焼土ブロック・炭化材が出土した。大きな焼土ブロックはトーンで図示した。覆土第2層以下はロームブロックが多く、人為的な埋戻土と考えられる。遺物はほとんどその層から出土した。壁周溝は深さ4.6cmで、全周する。

ミニチュア土器が一定量出土した。壊類は黒色処理された個体が半数を占め、須恵器模倣壊と口縁部の屈曲に丸みを帯びた個体がみられる。甕は小型品・中型・甕2種類と遺存が良好である。カマド袖の上でつぶれるように甕(26)が出土した。他に、土玉4点と鍛冶滓が1点出土した。

実測個体以外では、大型壊破片や壊破片(ほとんど黒色処理個体), 支脚破片が確認できた。

#### SI-003 (第24・59・60・75・76図, 第7・8・10表, 図版4・26・27・29・30)

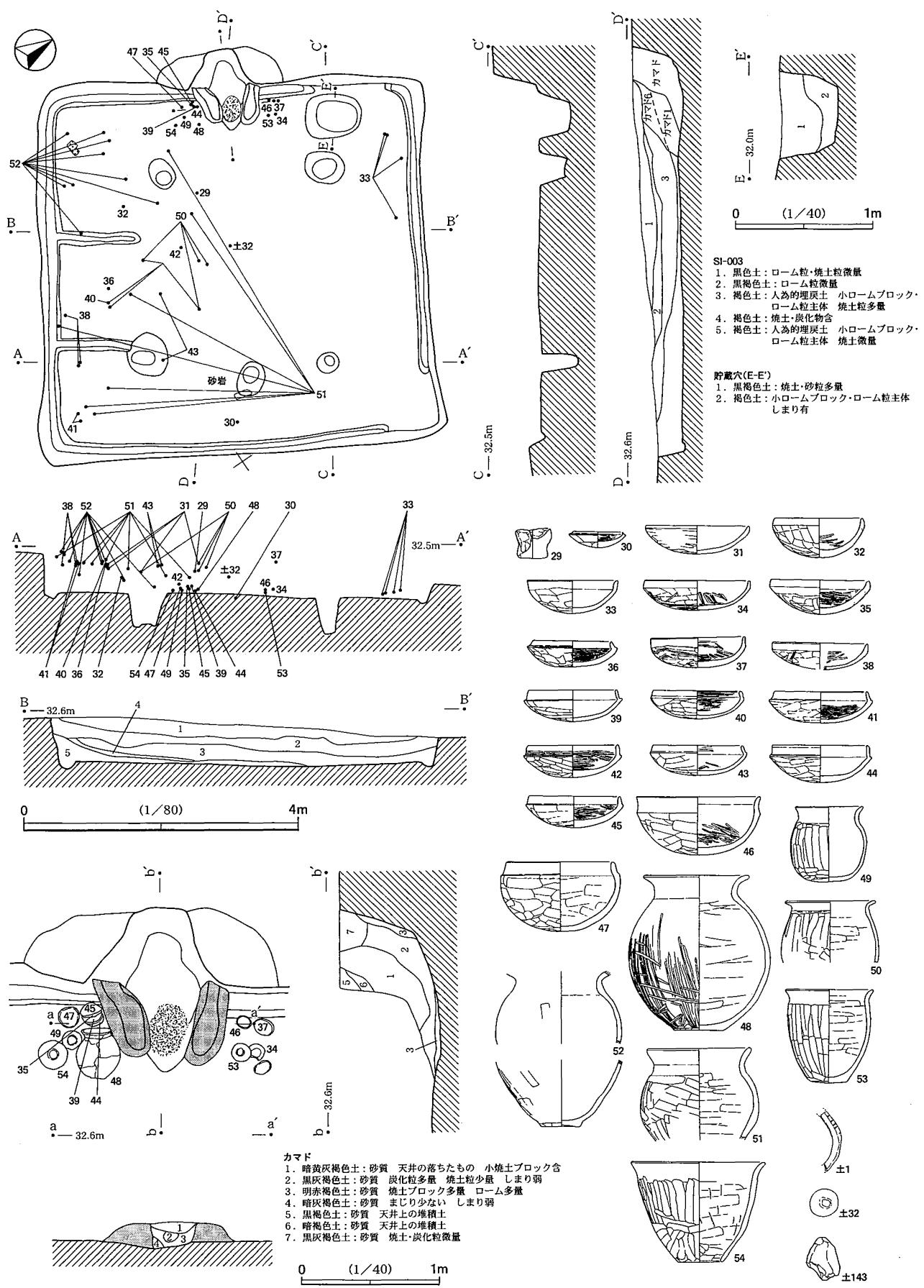
2E-48グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-60°-W, 規模は主軸長5.26m, 幅5.45mである。掘り込みは確認面から70cmである。カマドは北西壁中央に付設され、火焼部の焼土堆積は少ないが、底面は硬化していた。ピットは主柱穴が4基と入口ピット(深26cm), 貯蔵穴が検出された。第5層は人為的に埋め戻した土と考えられる。床面はあまり硬化せず、南側で間仕切り溝が検出された。周溝は所々とぎれながらも全周し、深さは平均5.9cmである。

遺存の良好な土器類が、カマド周辺の床面直上に置かれたように多く出土した。左袖脇では甕・甕と壊が逆位で重なるように出土した。入口ピット付近では被熱してボロボロになった砂岩の塊が床面直上から出土した。壊は赤彩された個体も含まれるが、半数は黒色処理されていた。大型壊・小型甕、胴部下半にミガキが施される甕(常総甕)が出土した。他に棒状刻みのある土製品(土1)や土玉・不明土製品(土143:ナデ調整、一部めくりあがるように整形される)が出土した。

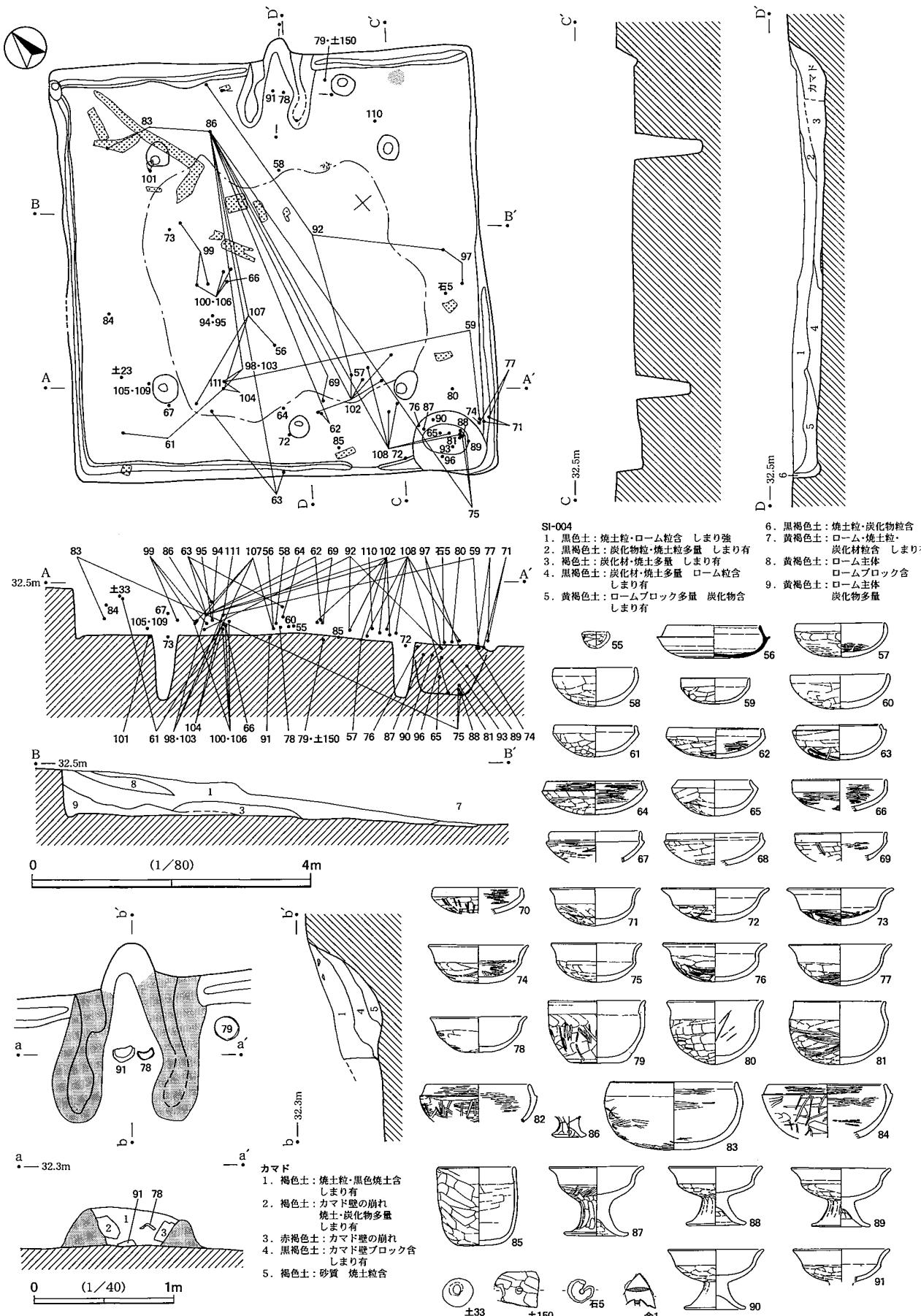
実測個体以外では、壊類の9割程度が黒色処理され、内面に暗文状のミガキが施された破片がみられた。甕類では赤彩された小型甕の破片や頸部屈曲の弱い甕破片、甕底部破片4～5個体分が確認できた。

#### SI-004 (第25・26・60～62・75～78図, 第7～11表, 図版4・5・26～28・30・31)

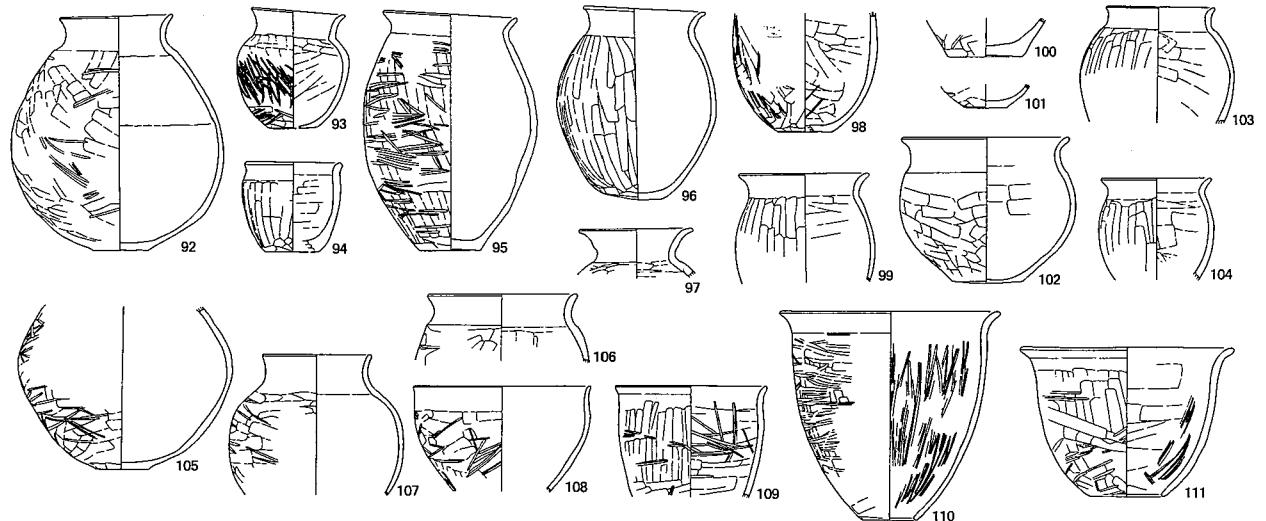
2E-67グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-38°-E, 規模は主軸長5.78m, 幅5.82mである。掘り込みは確認面から67cmである。カマドは北東壁中央に付設され、火焼部はほぼ平坦で、全体に赤褐色に被熱している状態であった。カマド構築材はスサ入りの粘土で、右袖はブロック状に崩れて検出された。また、カマドの内部は黒く炭化していた。ピットは主柱穴が4基と入口ピット(深13cm), カマド右脇に浅いピット(深7cm), 南コーナーに貯蔵穴(67cm)が検出された。床面直上には炭化材が多くみられることか



第24図 SI-003



第25図 SI-004(1)



第26図 SI-004(2)

ら、焼失住居と考えられる。床面は中央部で顕著な硬化面が確認できた。周溝は南東壁・斜面部で検出できなかった壁部分を除いて全周し、深さは平均4.2cmである。

全体的に遺存の良好な土器類が多く出土し、特に貯蔵穴に落ち込むような形で多くの完形土器が出土した(図版5参照)。床面からはやや浮くが、第5層上位からも多くの土器片が出土した。カマド周辺では遺存の良好な個体は壊類が多く、甕類は少ない。壊類は赤彩された個体が半数を占め、黒色処理された個体は壊類の約1/4であった。出土点数だけでなく、大型壊・高壊・小型甕など器種も豊富で、甕の形状も多種にわたる。他に壊や高壊のミニチュア土器(55・86)や土製品(土33：土玉・土150：焼成後穿孔破片)や被熱してボロボロの石製紡錘車(石5)，三角形式の抉りのみられる鉄鎌の鎌身部(金1)が出土した。

実測個体以外では、壊類ではあまり色処理される個体ではなく、大型鉢の破片が1点みられた。甕類では底部が4個体分程度と頸部屈曲の非常に弱い甕口縁破片が2個体分みられた。

#### SI-005 (第27・63・77図, 第7・8・11表, 図版5・28・31・32)

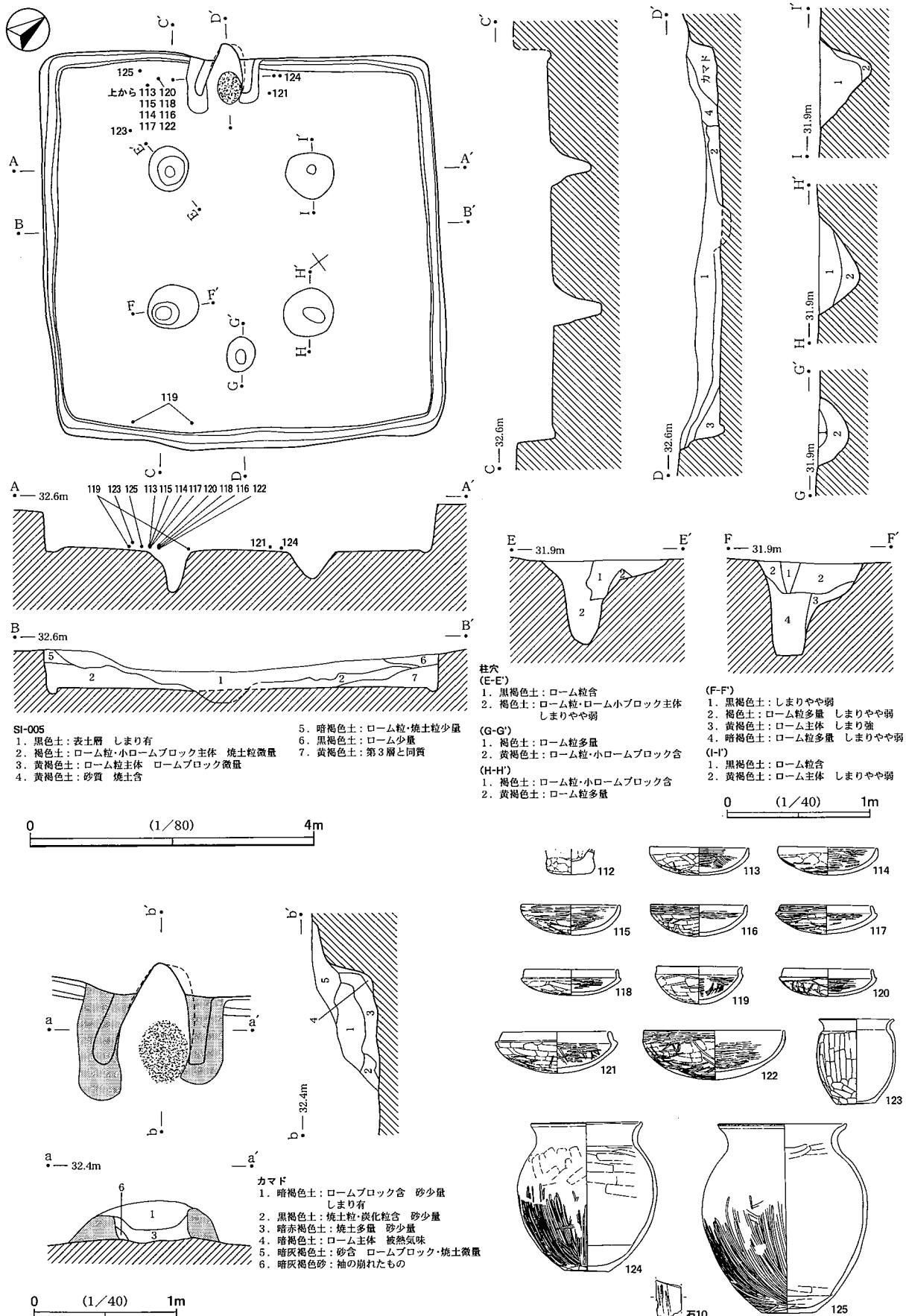
2E-65グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-54°-W, 規模は主軸長5.48m, 幅5.5mである。掘り込みは確認面から60cmである。中央部は近代以降の道により一部削平を受けていた。カマドは北西壁中央に付設され、火焼部と奥壁に顕著な被熱がみられた。ピットは主柱穴が4基と入口ピット1基が検出された。第1層は道として使用されていたため、非常にしまりが強い。床面には明瞭な硬化面は確認されなかつた。周溝はしっかりと全周し、深さは平均5.3cmである。

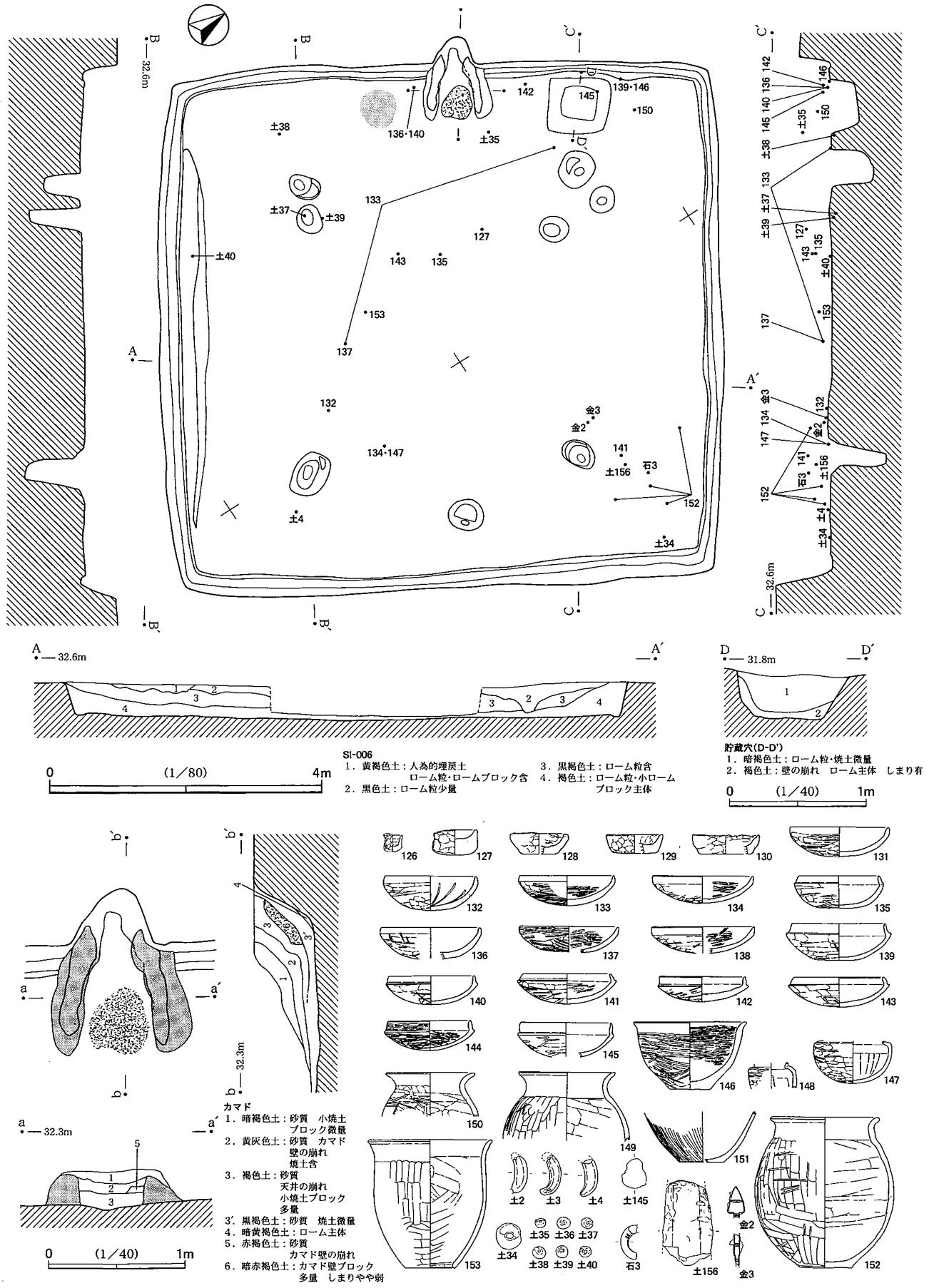
遺物はカマドの周辺から集中して出土した(図版5参照)。左袖脇では甕の隣に壊が重なって、4枚ずつ2か所で出土した。右袖からも置かれた状態で、ほぼ完形の甕と壊のセットが出土した。出土状況としてはSI-003と類似する。壊類はすべて黒色処理される。大型甕と中型甕は胴部下位が磨かれ、胎土には白色砂粒・砂礫が多く含まれるが、同胎土ではない。他にミニチュア土器と凝灰岩製砥石が出土した。

実測個体以外の遺物は多くない。頸部屈曲の弱い甕やカマド袖内芯に利用された支脚片が確認できた。

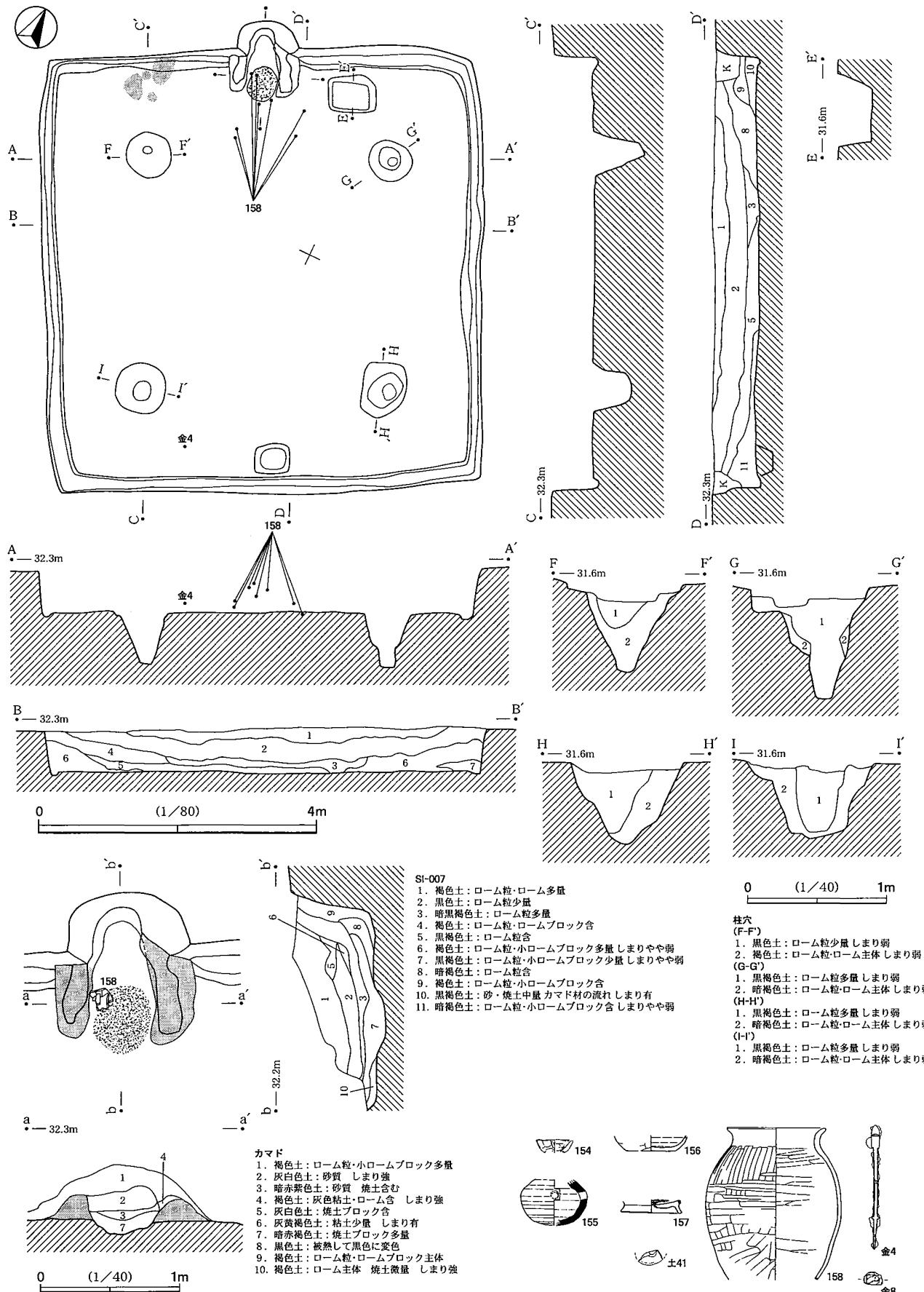
#### SI-006 (第28・63・64・75~78図, 第7~11表, 図版6・26~28・32)

3D-48グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-58°-W, 規模は主軸長7.64m, 幅8.01mである。





第28図 SI-006



掘り込みは確認面から56cmである。カマドは北西壁中央に付設され、火焼部と奥壁・側壁に顕著な被熱がみられた。カマド左袖脇からは粘土の塊が出土した。ピットは主柱穴が4基と入口ピット1基(深20cm),貯蔵穴が検出された。西側の主柱穴に対しては補助柱穴が3基みられた。南壁沿いには地山掘り残しによる周りの床面より一段高い部分が検出された。住居中央部は確認トレーナによって本調査前に掘削を行った。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は全周し、深さは平均1.8cmである。

遺物は各層位から出土したが、第3～4層にかけてが最も多い。土製品などはピット周辺から出土する傾向がみられる。壊類の9割近くが黒色処理された個体である。須恵器模倣壊が多いが、屈曲が弱く、口縁の立ち上がりが短い個体も含まれる。甕はやや長胴化した個体がみられ、部分的ではあるが胴部下位にミガキの施された常総型甕も出土した。他にミニチュア土器5点と土玉などの土製品や石製品・金属製品など各種の遺物が出土した。鉄鏃(金2・3)は接合しないが、出土位置も近いことから同一個体の可能性が強い。長三角形式の長頸鏃である。

実測個体以外では、壊類の破片数が多く、ほとんどが黒色処理破片である。甕も口縁部、底部破片があり、約6個体分が確認できた。また、ミニチュア土器の破片も5個体分あり、実測分も含め多量である。

#### SI-007 (第29・64・75・78図、第7～10表、図版6・28・32)

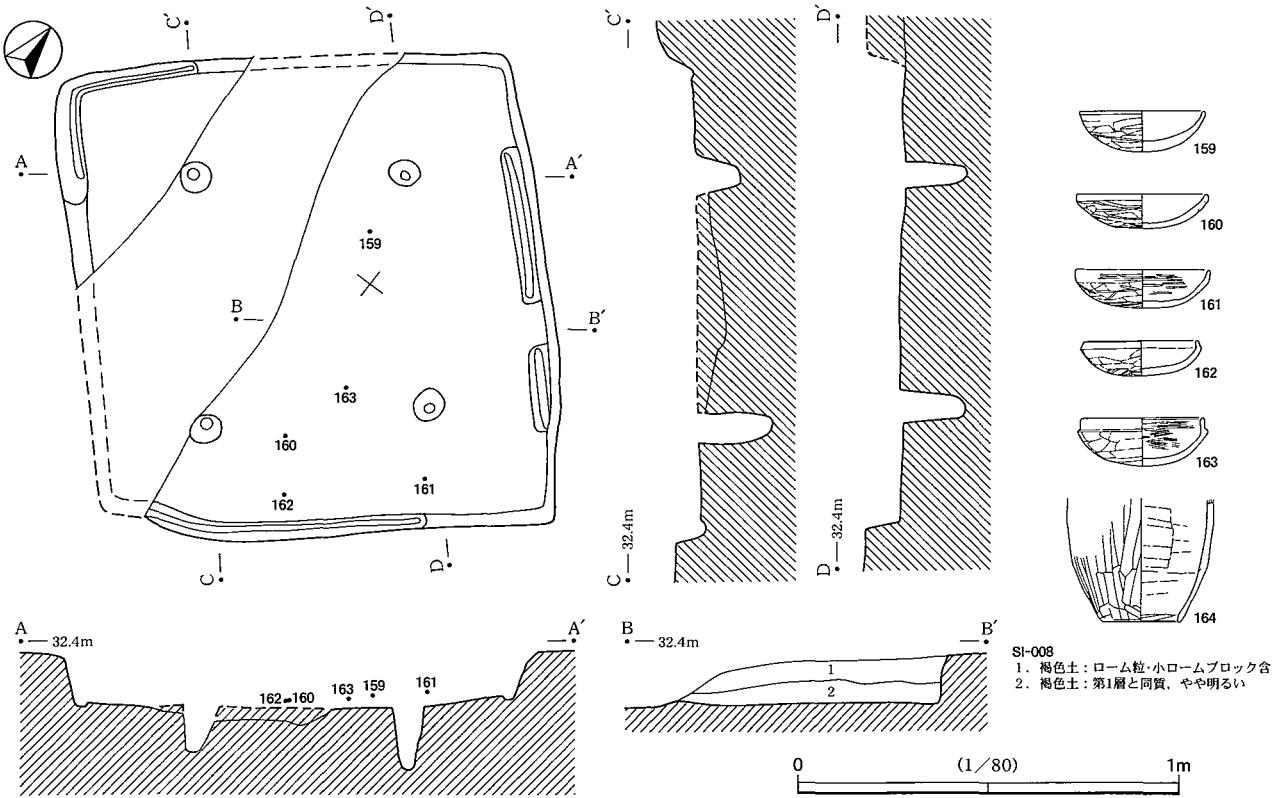
3D-66グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-27°-W、規模は主軸長6.28m、幅6.18mである。掘り込みは確認面から75cmである。カマドは北西壁中央に付設され、火焼部床面と奥壁・側壁に顕著な被熱がみられた。SI-006と同様にカマド左袖脇からは粘土の塊が出土した。ピットは主柱穴が4基と入口ピット1基、貯蔵穴が検出された。貯蔵穴は調査最終段階に床面を削った際に検出され、覆土はしまりの強いロームブロックが大量に含まれる土で人為的に埋められていた。住居全体の覆土は自然堆積であり、貯蔵穴だけは先に埋められていたことになる。入口ピットは他の住居に比べ平面が方形で、しっかりととした掘り込みを有している。覆土は第1～5層まで自然堆積の様相を呈し、焼土はほとんど含まれない。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はやや幅広で全周し、深さは平均6.6cmである。

住居に伴う遺物は少なく、主に覆土中層～上層からの出土である。確実に住居に伴うものはカマド出土の158の甕であろう。その他の遺物は床面よりやや浮いた状態の出土であった。特にクロクロ整形の156・157は時期的にも離れており、混入の可能性が高い。土器類の他に点数は少ないが、ミニチュア土器、土製品や石製品・金属製品などが出土した。金4の鉄鏃はほぼ完形で、棘籠被を有する鑿箭式長頸鏃である。金8は鉄滓の小破片で、恐らく鍛冶滓と思われる。

実測個体以外では、壊類の小破片が多く、赤彩と黒色処理破片数は半々であった。一部に須恵器模倣壊の口縁破片がみられた。他に甕の底部破片と支脚破片が少量確認できた。

#### SI-008 (第30・65図、第7・8表、図版7・32)

2E-84グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-42°-W、規模は主軸長4.94m、幅4.58mである。掘り込みは確認面から50cmである。北西壁から南西壁にかけて近代以降の道により削平され、カマドは砂・焼土を含め全く痕跡がない。ピットは主柱穴が4基のみ検出され、西コーナーのピットのみやや浅い。道路に接する床面や柱穴覆土は非常に堅くしまっていた。床面は雑木の根が入り込み、床面は平らに検出することはできなかった。住居中央の床面は硬化しているが、その範囲は不明瞭である。周溝も不明瞭で、部分的にしか検出されなかった。深さは平均3.4cmである。



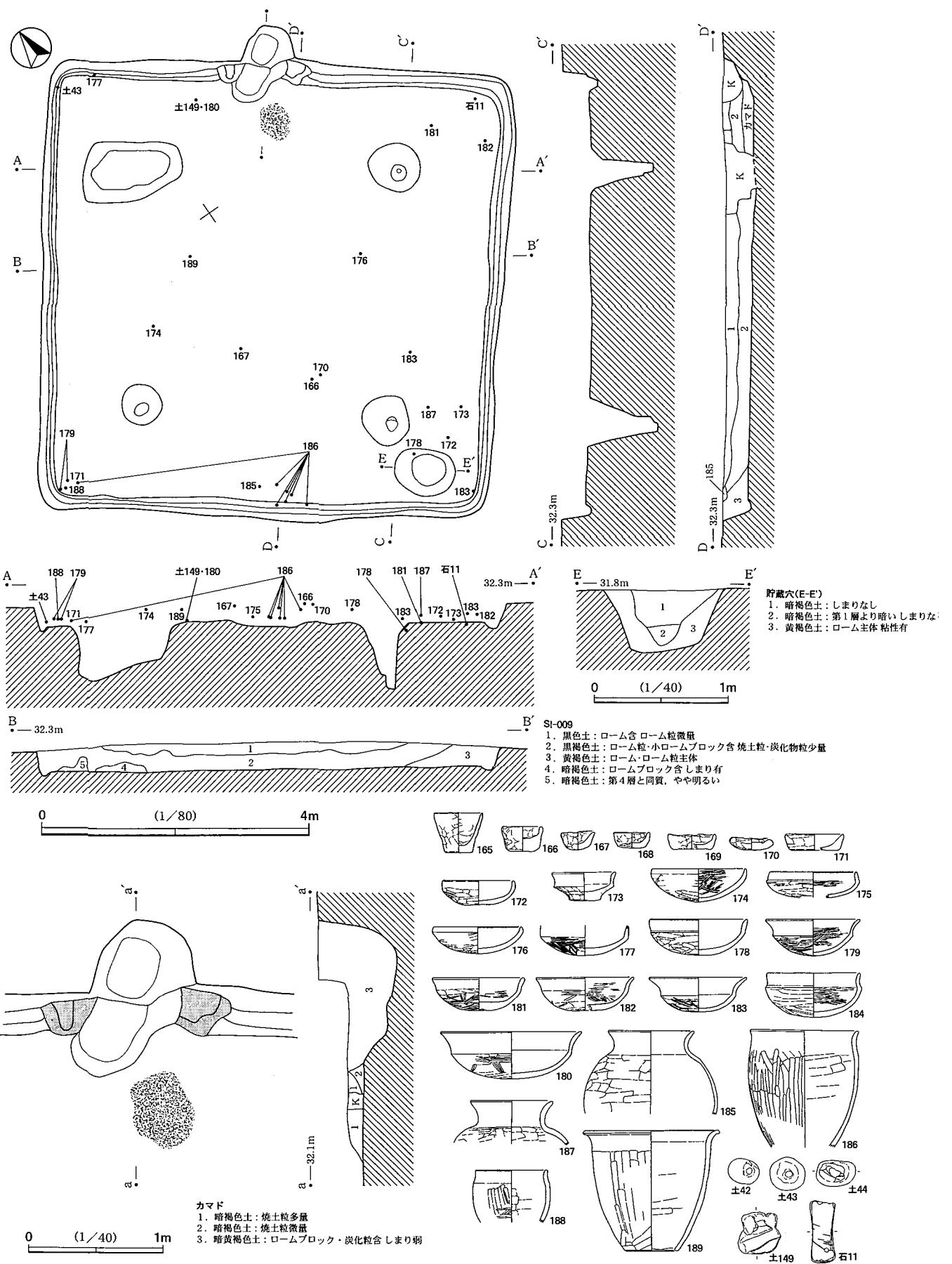
第30図 SI-008

遺物は覆土の遺存が悪く、多く出土しなかった。ほとんどが土師器壊類で、すべて黒色処理される。160・161の底部調整は平底を意識している。甌は胴部下半の遺存で、胴部に膨らみを有しない形状である。実測個体以外では、壊類はほとんどなく、甌類も被熱した厚い破片が1個体分程度といずれも少ない。

#### SI-009 (第31・65・75~77図, 第7・8・10・11表, 図版7・26・27・32)

3E-11グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-37°-E、規模は主軸長6.63m、幅6.7mである。掘り込みは確認面から44cmである。カマドは北東壁中央に付設されるが、壊され遺存は不良である。根などによる搅乱ではなく、人為的に縦に深く掘ることにより破壊しているようである。袖部分の遺存も悪く、火焼部が離れて存在しているように見える。火焼部床面は比較的よく焼けており、焼土厚は11cmであった。カマド袖を除去した結果、周溝はカマド袖下部分も巡ることが確認された。ピットは主柱穴4基と貯蔵穴が検出された。北コーナーのピットは他のピットに比べ大きく不整形であり、覆土はしまりがなく、ロームブロックがまばらに含まれる。貯蔵穴の覆土上層はしまりのない土であるが、自然に埋まったものと考えられる。土師器壊(178)が側壁に沿って落ち込むよう出土した。住居全体の覆土は自然堆積の様相を呈する。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は全周し、深さは平均4.9cmである。

遺物は、特にミニチュア土器の出土が目立つ。それぞれ特徴的な形状を呈し、共通性は少ない。壊類個体数は赤彩、黒色処理と同比率である。172は底部無調整で、平底気味である。173は高壊の脚部分をとり、壊部底面を磨いて平らにしたと思われ、異質である。甌は口縁部径が小さく、胴部が大きく張る形状のものがみられる。甌は口縁部は屈曲が強いが、胴部から底部は直線的である。土器類の他に土玉3点、不明土製品、凝灰岩製の砥石が出土した。



第31図 SI-009

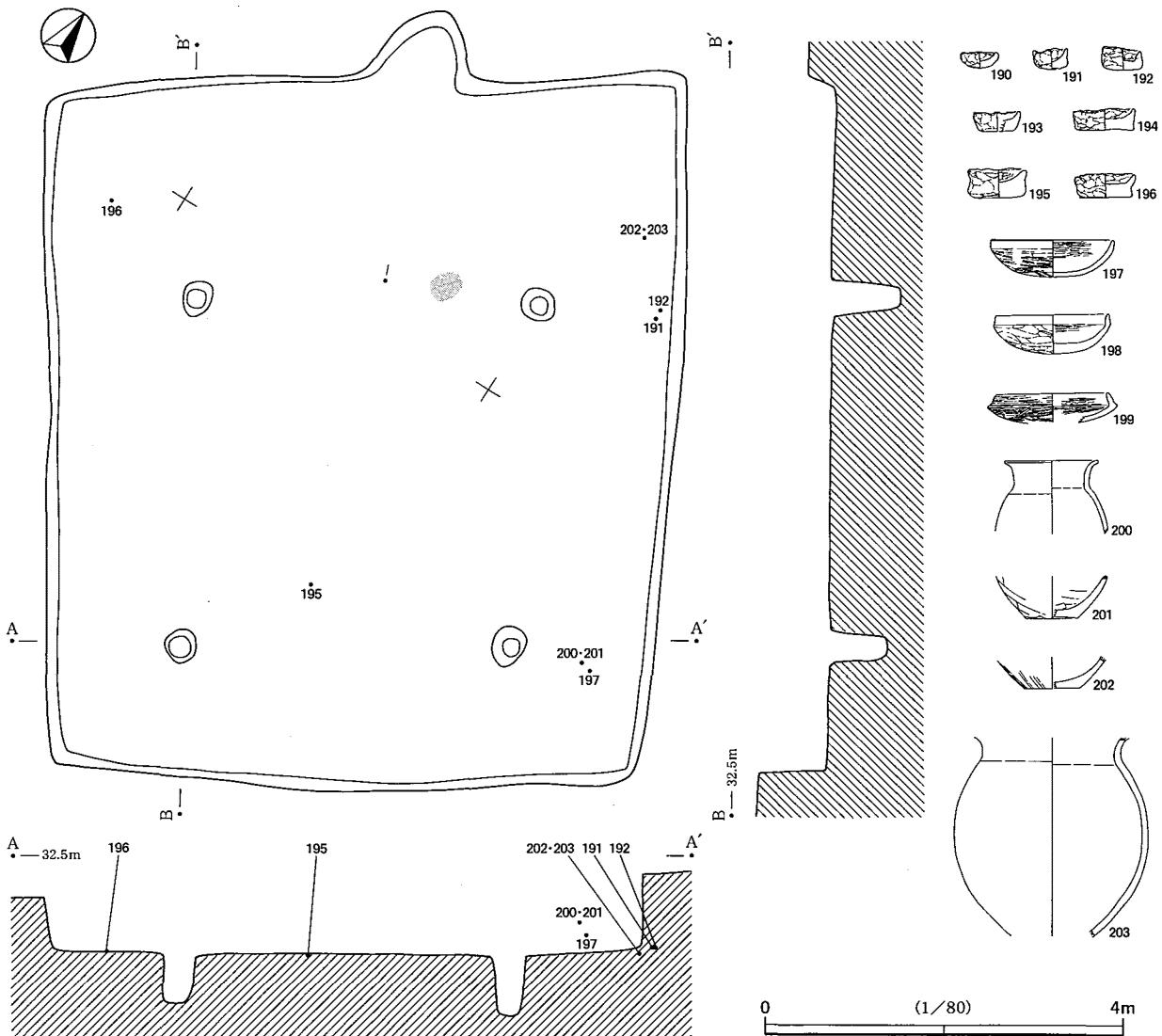
実測個体以外では、壺類の破片は8割が赤彩破片で、甕類は約4個体分の破片がみられた。

#### SI-010 (第32・66図, 第7・8表, 図版8・32・33)

2E-53グリッド周辺に位置する。平面形はやや縦長方形であるが、特に北壁の検出は難しく、本来はここまで北にのびない可能性もある。主軸はN-33°-W、規模は、推定主軸長7.8m、幅6.96mである。掘り込みは確認面から32cmである。中央部に大きな木根、近代以降の道による搅乱があり、定型的な位置にセクションベルトの設定を行うことができなかった。カマドは北西壁に付設されたと考えられるが、ほとんど構築材は流れてしまっていて不明瞭であった。北壁部分の検出も不確定であり、地山全体が道による搅乱により乱れていた。ピットは主柱穴が4基のみ検出され、それぞれしっかりととした掘り込みである。床面の硬化面は不明瞭で、周溝は巡らない。

遺物は覆土の遺存も悪かったため、多く出土しなかった。東壁沿い床面からまとまってミニチュア土器が出土した。土師器壺類は、すべて黒色処理される。甕類に遺存の良好な個体は少ない。202・203は器面が剥落して調整は不明瞭であるが、胎土に白色砂礫が多量に含まれる。

実測個体以外では、壺類では赤彩の口縁が外反する個体がみられるが、半数以上は黒色処理がなされる。甕類は頸部の屈曲の緩やかな口縁破片が約3個体分確認できた。



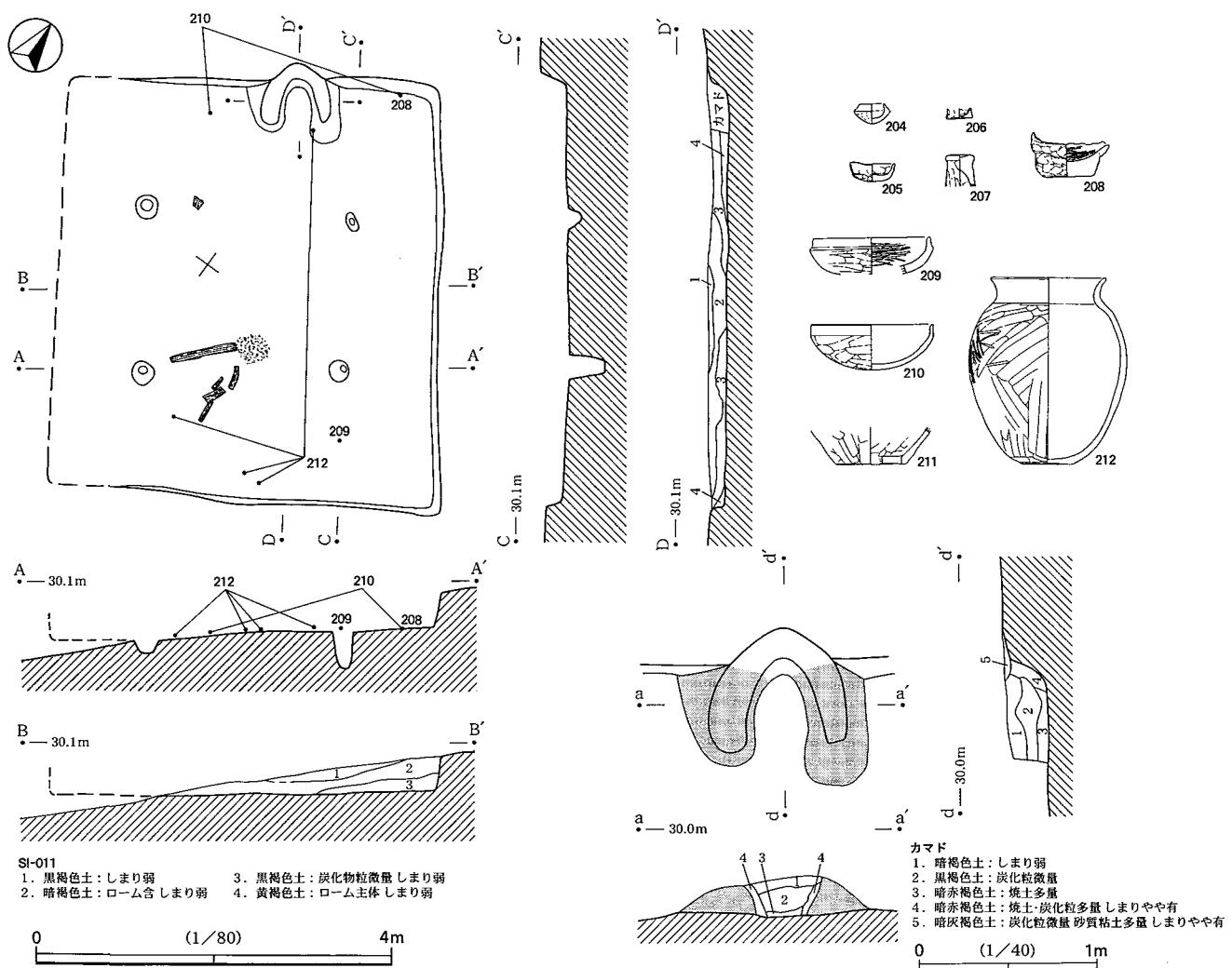
第32図 SI-010

SI-011 (第33・66図, 第7・8表, 図版8・33)

3C-25グリッド周辺に位置する。平面形は方形であるが、西は斜面により壁の検出ができなかった。主軸はN-34°-Wで、規模は主軸長4.64m, 推定幅4.32mである。掘り込みは確認面から40cmである。カマドは北西壁北寄りに付設される。ピットは主柱穴が4基検出されたが、南東コーナーのピット以外は浅い。ピットの位置はカマドとのバランスが悪く、豊穴部分以外も精査を念入りに行ったが、他に柱穴は検出されなかった。床面の硬化面は不明瞭で、周溝は巡らない。床面直上からは炭化物・焼土が出土した。

遺物は覆土の遺存も悪く、総量は少ない。カマド右袖で甕(212)がつぶれた状態で出土し、離れた位置の破片とも接合した。ミニチュア土器が各種出土し、207は器台形と捉えて実測したが、破片であり上下を断定することは困難である。211は甕だが、小破片で時期的にも他とはずれるため混入品の可能性が高い。

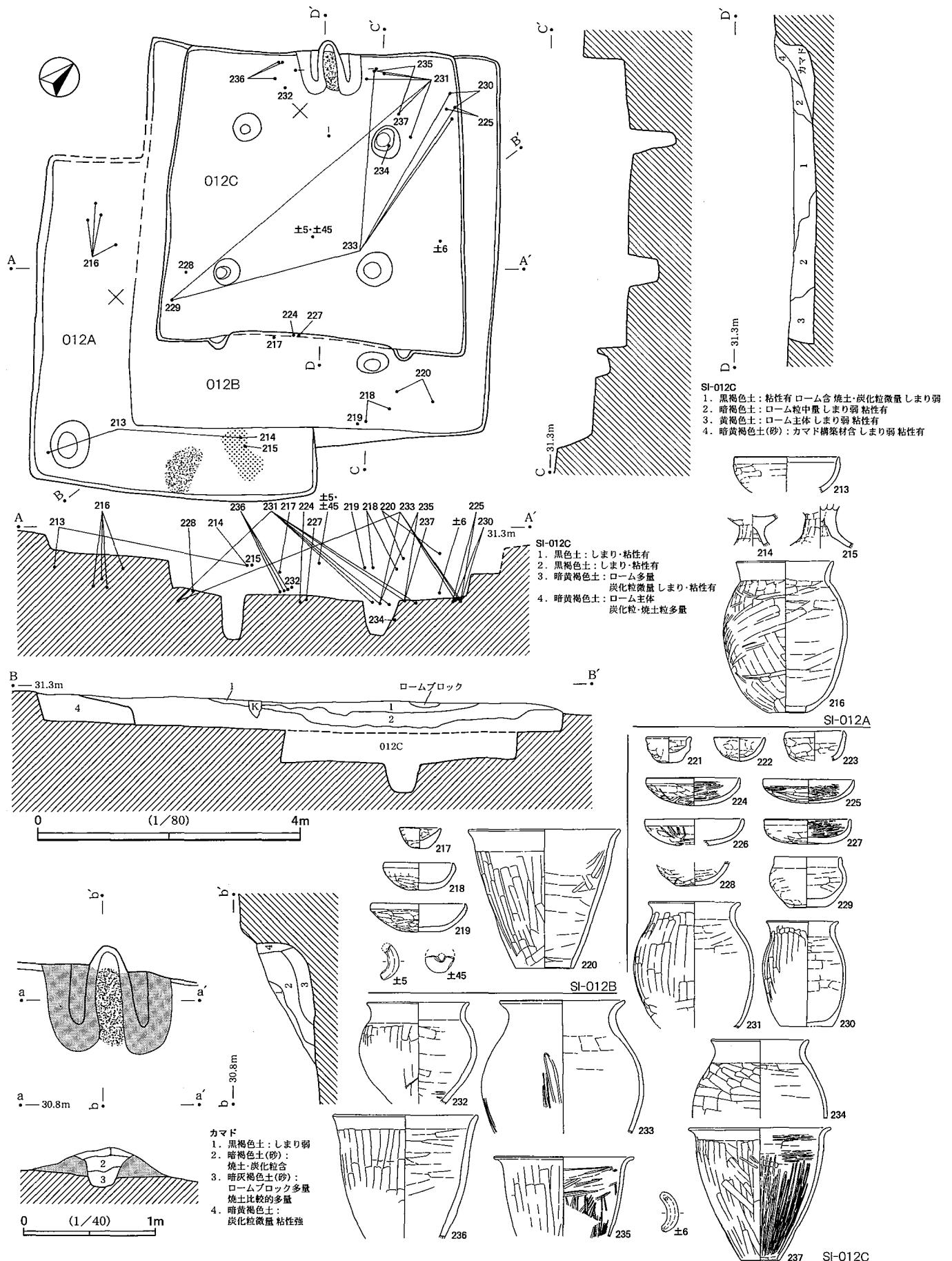
実測個体以外は小破片であり、特に特徴のある個体は確認できない。



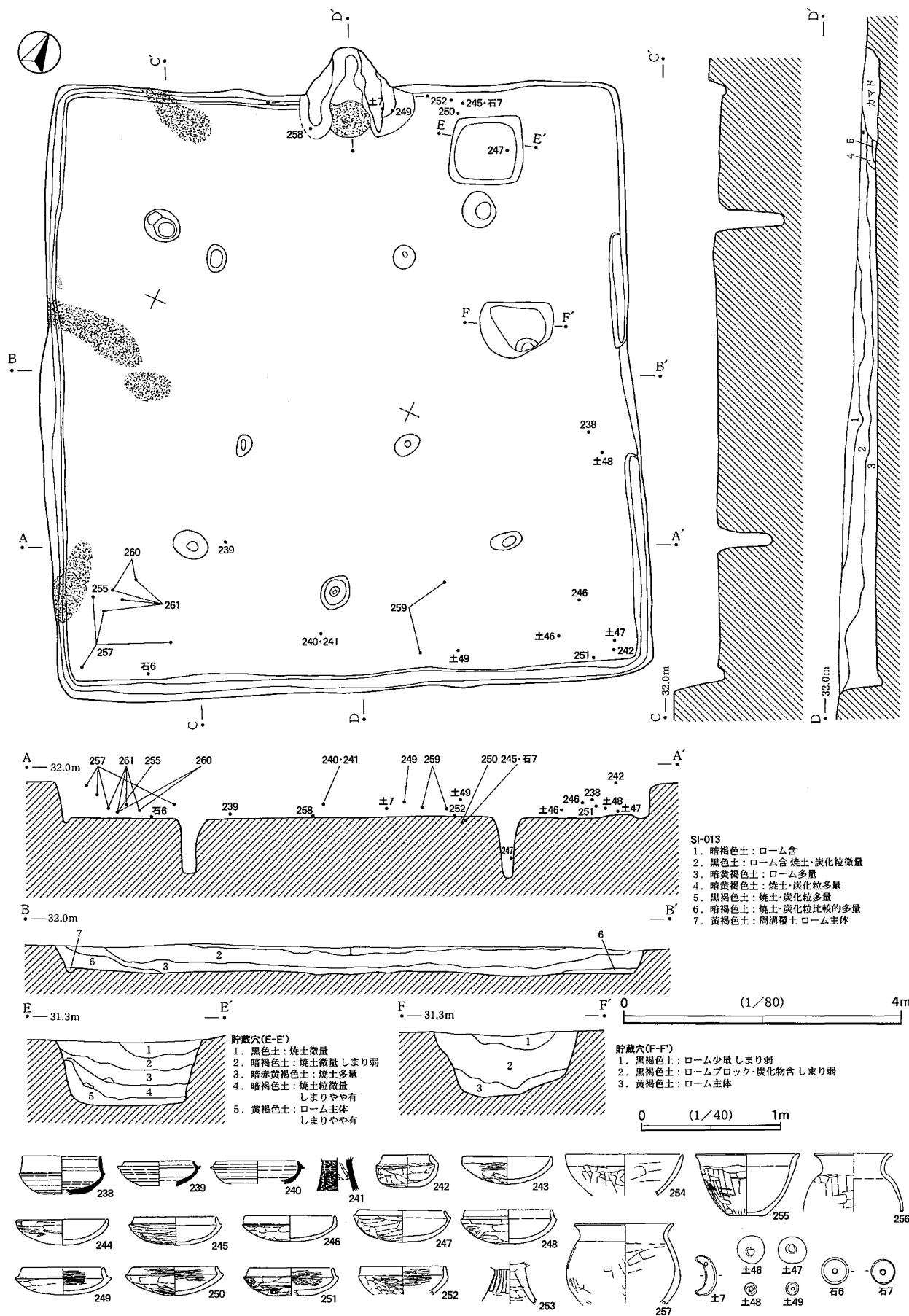
第33図 SI-011

SI-012A・B・C (第34・66~68・75図, 第7・8・10表, 図版9・26・33)

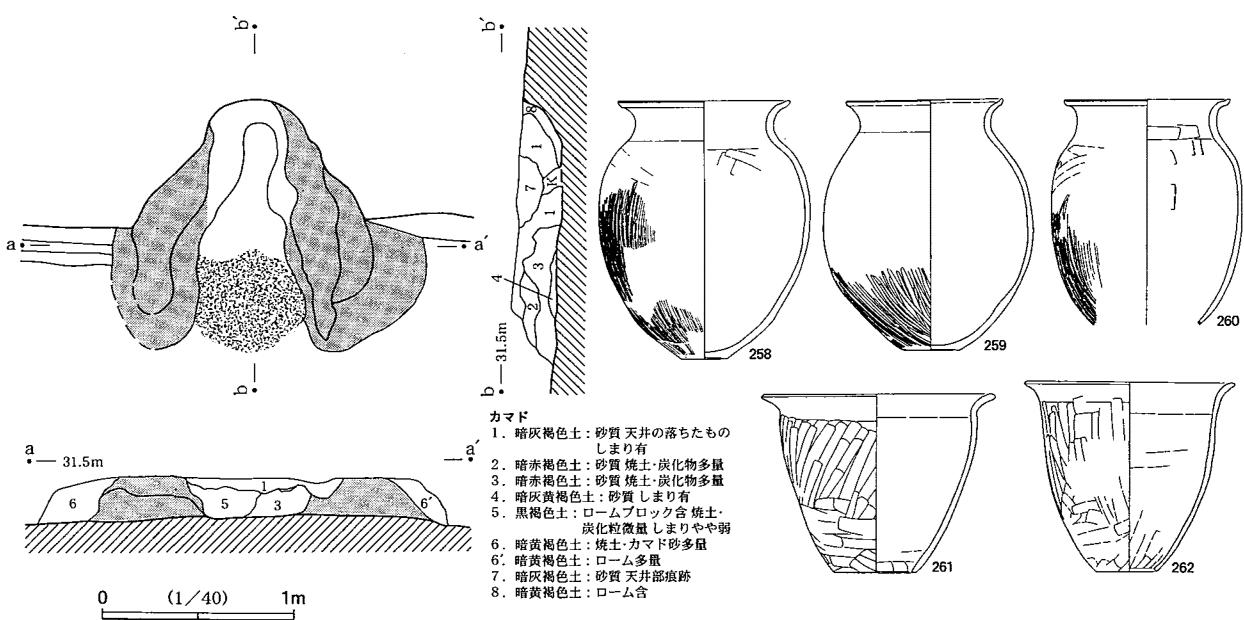
3D-61グリッド周辺に位置する。3軒の切り合いである。近代以降の道や木の根の搅乱により、セクションでは明瞭な切り合い関係を明らかにはできなかったが、A→B→Cの順番で構築されたと考えられる。主軸はほぼ同じでN-42°-Wである。



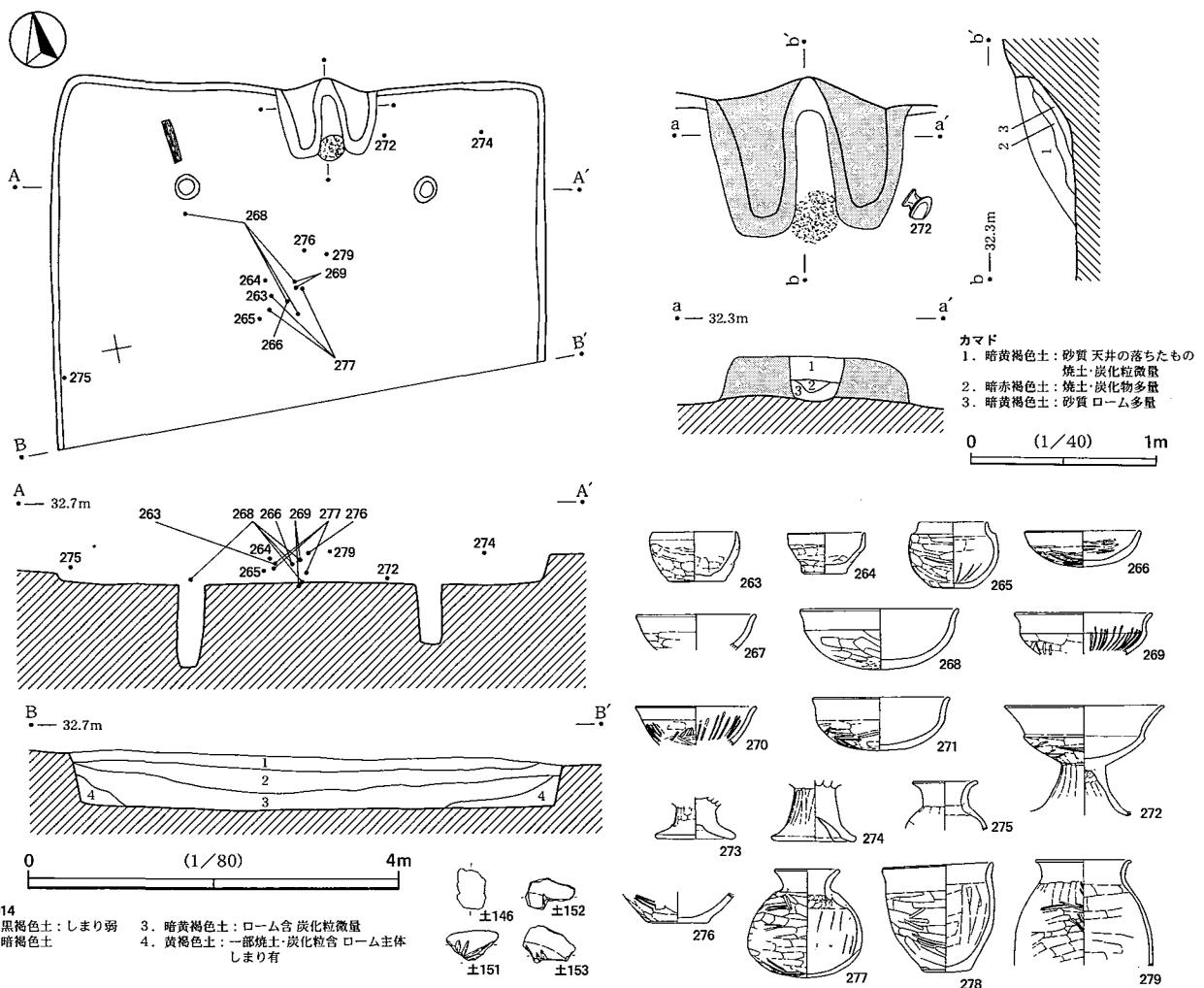
第34図 SI-012



第35図 SI-013(1)



第36図 SI-013(2)



第37図 SI-014

SI-012Aの平面形は縦長方形としたが、北西コーナーに近代以降の道が重複するため、推定した部分も多い。調査当初は道の部分的なピット状の掘り込みに土師器(216)が出土したことから貯蔵穴と誤認した。規模は推定主軸長5.04m、幅4.24mである。掘り込みは確認面から42cmである。カマドは不明、ピットは南コーナーに貯蔵穴が確認されたのみで、主柱穴は検出されなかった。SI-012Bと重複しない部分で床面直上で炭化物・焼土が出土した。床面の硬化面は不明瞭で、周溝は巡らない。

SI-012Bは平面形はやや縦長方形である。調査当初はSI-012Cとの重複部分で硬化面がSI-012C覆土中位にみられ、SI-012Bが新しいと考えたが、その硬化面は広範囲ではなく近代以降の道と重なることが判明した。そこでカマドの遺存状況を考え合わせ、SI-012Cが最新、またはB・Cが同時と考えた。規模は主軸長5.7m、幅5.22mである。掘り込みは確認面から55cmである。カマドはSI-012Cと同位置と考えられる。ピットはSI-012C南東壁に半分かかる位置で2基分検出されたが、深さはSI-012C床面までは達しないため、北西部分の2基分は検出されなかった。その他に1基補助柱穴が確認できた。壁周溝は巡らない。

SI-012Cは平面形は方形で、規模は主軸長4.44m、幅4.43mである。掘り込みは確認面から105cmである。しっかりとした掘り込みであるが、南東壁(SI-012Bと接する壁)は直立せず、下場が上場より抉り込むように掘り込まれる。カマドは北西壁中央に付設される。ピットは主柱穴が4基分検出され、しっかりとした掘り込みを有する。壁周溝は巡らない。

遺物は出土位置によりSI-012A～Cに分けた。壺類は半数以上が黒色処理されるが、一番古いSI-012A出土土器は赤彩される。甕類は胴部がほとんど張らない。233は胎土に白色砂礫・雲母が多く含まれる。ミニチュア土器・勾玉・土玉も出土した。

実測個体以外では、壺類は赤彩、黒色処理の破片数がほぼ同数、甕類は底部が約3個体分確認できた。

#### SI-013 (第35・36・68・69・75・77図、第7・8・10・11表、図版9・26・28・33・34)

3D-25グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-26°-W、規模は主軸長8.5m、幅8.16mの大型住居である。掘り込みは確認面から54cmである。カマドは北西壁中央に付設される。袖部分に接して土製勾玉(土7)が出土した。火焼部床面は顕著に被熱し赤化していた。ピットは主柱穴が4基とその内側に補助柱穴が4基、入口ピット(深38cm)、貯蔵穴が2基検出された。補助柱穴は北東部分のみ深さ22cmと浅く、その他は40～58cmと平面形は小さいが、しっかりとした掘り込みを有する。貯蔵穴は定位置のものは方形で定型であるが、その南側に位置する貯蔵穴は不整形である。確実にこの住居に伴うものがどうか判然としないが、貯蔵穴覆土は類似していた。住居覆土は自然堆積と考えられるが、全体に焼土粒・炭化粒が含まれ、特に住居西側で焼土の出土が多く、ブロックで検出された。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は北コーナー周辺以外を巡り、深さは平均5.3cmである。

遺物は多量に出土した。他の住居に比べ、須恵器の出土点数が多く、住居の規模と関係するのであろうか。土師器壺類は須恵器模倣壺が主体で、赤彩はみられない。甕は胴下半部にミガキのある個体が主体となる。他に土製勾玉・土玉・石製紡錘車が出土した。

実測個体以外では、壺類の破片はほとんどが黒色処理される。他に高壺破片1個体分・甕4個体分・甌1個体分が破片で確認できた。

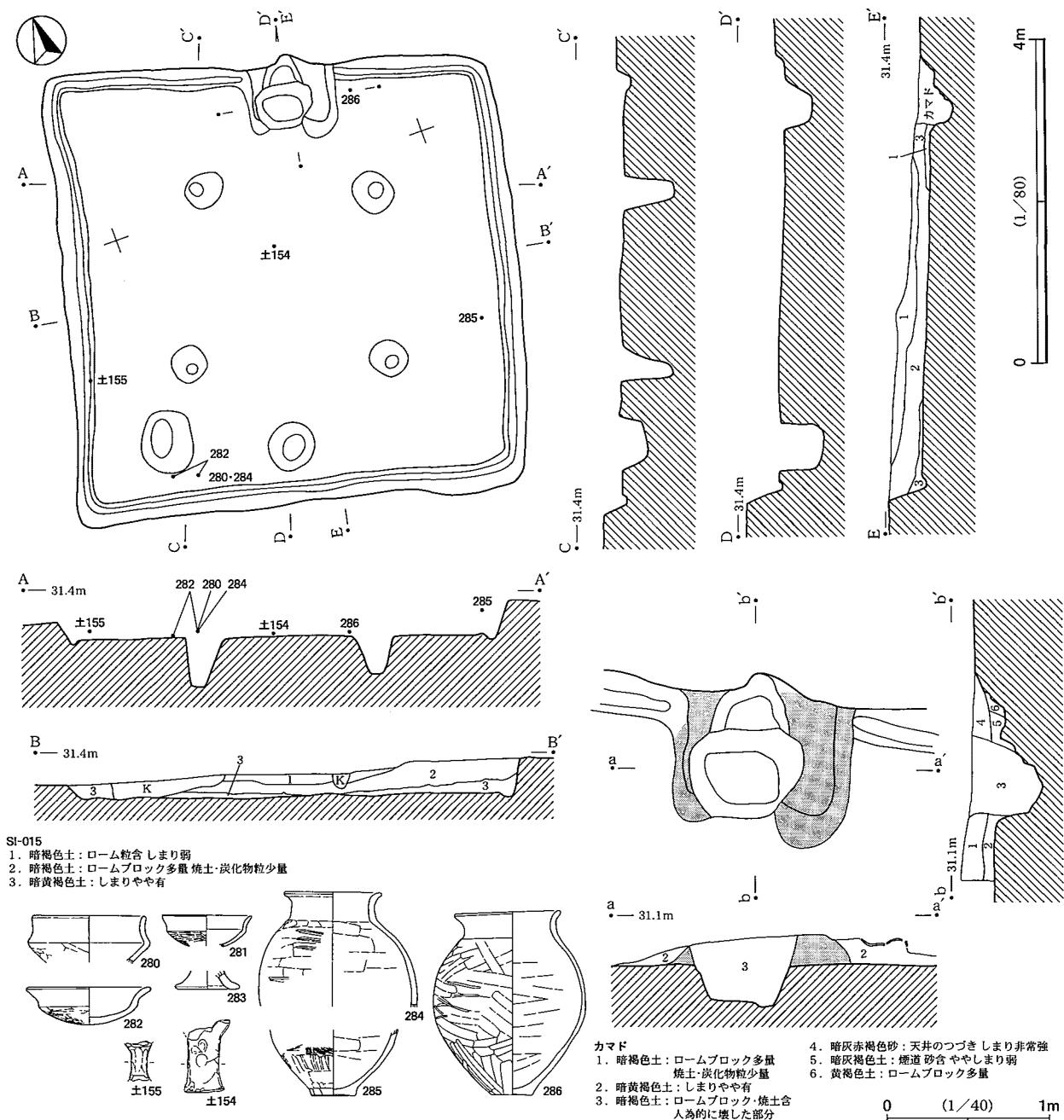
#### SI-014 (第37・69・70・76図、第7・8・10表、図版10・27・34)

3D-87グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、南1/3は調査区外にあたる。主軸はN-9°-E、規模は主軸

長不明、幅5.15mである。掘り込みは確認面から85cmである。カマドは北西壁中央に付設される。火焼部床面は顕著に被熱し赤化していた。奥壁の掘り込みは弱い。右袖脇からほぼ完形の高壺(272)が転がった状態で出土した。ピットは主柱穴が2基検出され、西側のピットが深い。覆土は自然堆積と考えられ、遺物は第2層中からの出土が多い。下層ほど炭化材・焼土はみられたが、それほど多量ではない。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は巡らない。

遺物は住居中央部で、やや浮いた状態で出土したものが多い。壺類は口縁端部が緩くS字に屈曲する形態のものが多い。高壺も含め、黒色処理された個体ではなく、半数近くが赤彩個体である。頸部が細い壺形の土器も出土した。他に焼成後、土師器胴部に刻みを施された破片が3点(土151~153)出土した。これらは本来黒色処理された土師器壺の体部である。

実測個体以外では、壺類に黒色処理破片はなく、他に甌破片1点、甌底部約3個体分が確認できた。



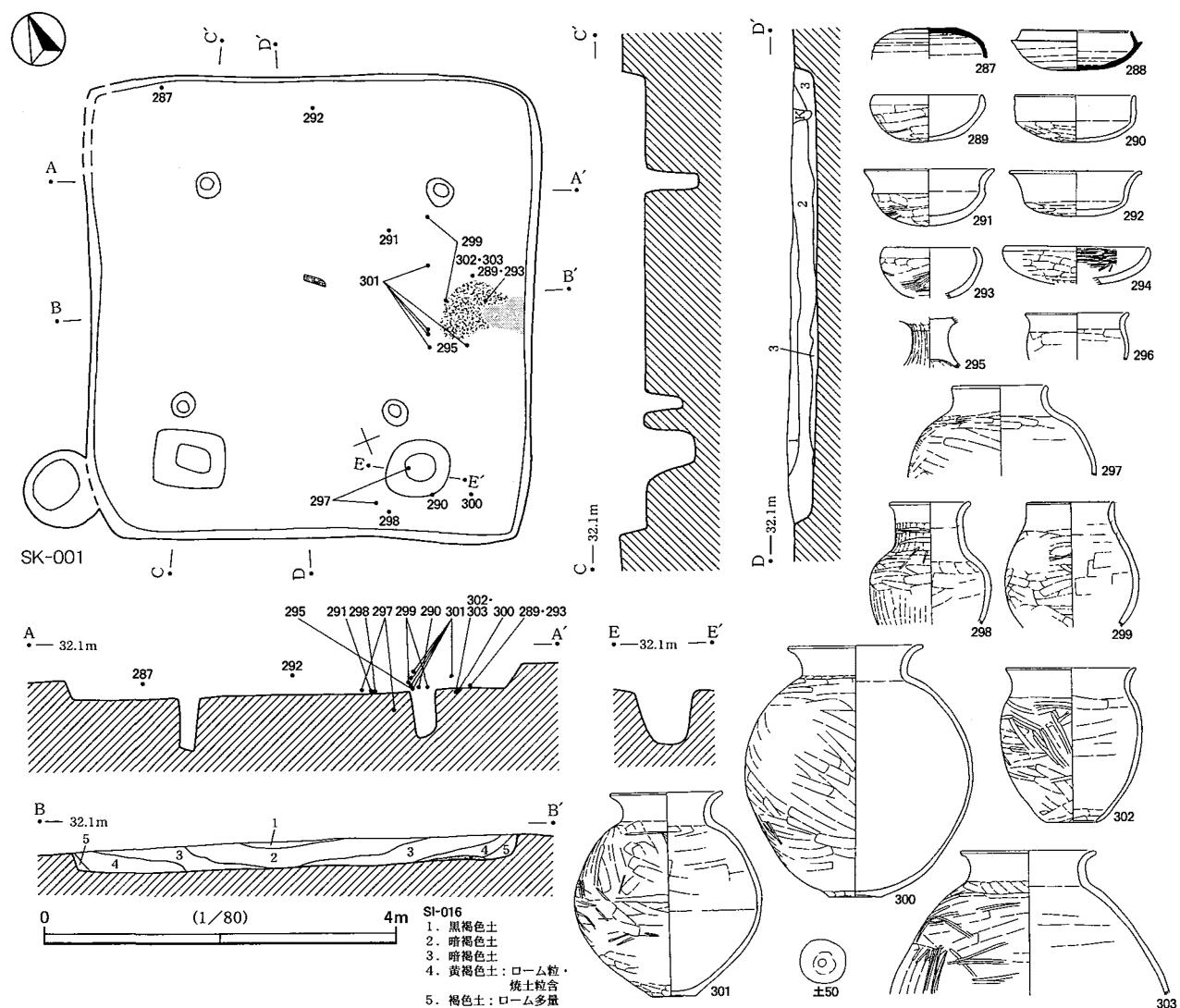
第38図 SI-015

SI-015 (第38・70・76図, 第7・8・10表, 図版10・27・34・35)

3D-23グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-15°-E, 規模は主軸長5.2m, 幅5.28mである。掘り込みは確認面から42cmである。住居西側は南北に延びる近代以降の道に削平され壁の遺存が悪いが、床面は部分的に掘り込まれる程度で搅乱部分は少ない。カマドは北壁中央に付設されるが、中央火焼部が壊され遺存は不良である。根などによる搅乱ではなく、人為的に縦に深く掘ることにより破壊しているようである。SI-009と同様な作為が想定できる。カマド右袖脇には甕(286)がつぶれた状態で出土した。ピットは主柱穴が4基と入口ピット1基、貯蔵穴1基が検出された。貯蔵穴の南側の壁寄りからは破片の状態であるが、多くの土器が出土した。住居覆土は自然堆積の様相を呈する。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は全周し、深さは平均4.3cmである。

遺物はあまり多く出土しなかった。壊類は赤彩されるものが多く、甕は底径が比較的小さく、胴部がやや張るタイプの形状である。支脚状の土製品が2点出土した。土154は被熱しており、カマド構築材も付着しているため、やや小型であるが支脚として良いであろう。土155は形状はそれに近いが小型である。

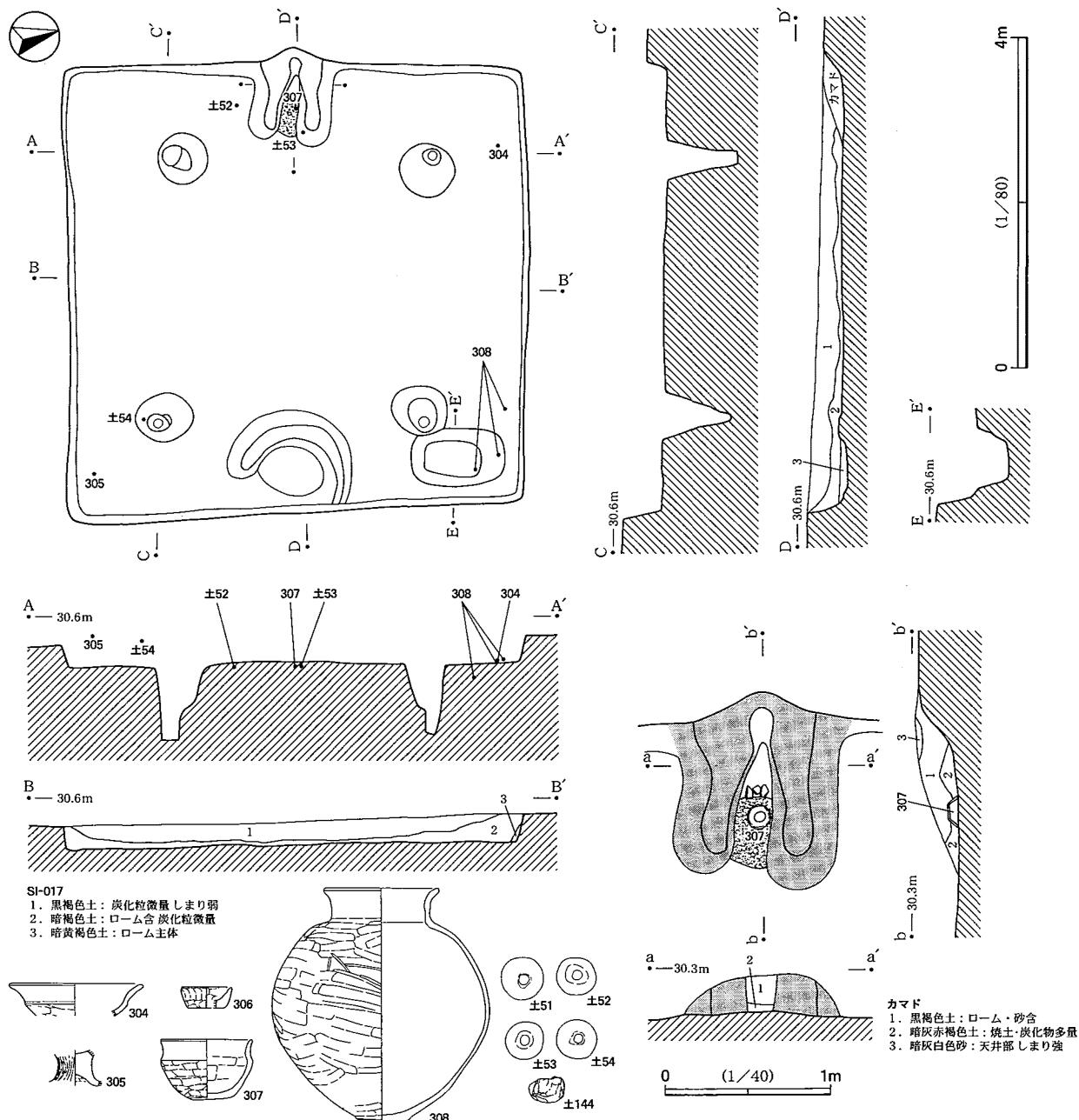
実測個体以外では、壊類破片に黒色処理はみられない。甕類は4個体分程度の破片があり、その半数は赤く被熱している。甕破片は3点確認できた。



第39図 SI-016

SI-016 (第39・70・71・75図, 第7・8・10表, 図版11・26・35)

3D-74グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-23°-E, 規模は主軸長5.09m, 幅4.84mである。掘り込みは確認面から35cmである。住居南西コーナーでSK-001と切り合うが, SI-016が古いのは平面からも明瞭であった。カマドは出土土器からみて付設されてもよい時期ではあるが、痕跡はみられなかった。東壁沿いに粘土と焼土が出土したが、カマド構築材等の崩れたものではない。ピットは主柱穴が4基と南側に貯蔵穴2基が検出された。貯蔵穴の形状は、西側は角のしっかりした方形であるが、東側は丸みを帯びる。いずれも住居に伴うものと考えられる。住居覆土は自然堆積の様相を呈する。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は巡らない。



第40図 SI-017

遺物は住居東側を中心に遺存の良好な個体が出土した。須恵器坏(287・288)は口径が近く、セットとして捉えられ、胎土に白色砂礫を含む。坏類は口縁部の幅の広い個体が多く、実測点数の内1/3は赤彩される。甕類は多くの種類が出土し、口縁部形態に特徴があり、胴部は丸く張る。他に土玉が出土した。

実測個体以外では、坏類破片はほとんどが赤彩であるが、総点数は少ない。甕類は約2個体分程度の破片があり、甌もみられる。他に高坏脚部破片、ミニチュア土器破片3点が確認できた。

#### SI-017 (第40・71・75・76図, 第7・8・10表, 図版11・12・26・27・35)

3C-58グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-76°-W, 規模は主軸長5.25m, 幅5.4mである。掘り込みは確認面から34cmである。カマドは西壁中央に付設される。カマド構築材の遺存は比較的良好で、煙道口の形状を平面的に確認することができた。火焼部中央に逆位でほぼ完形の椀(307)が置かれた状態で出土した。土玉が周辺から出土していることから、何かしらカマドに対する行為を想定できる。ピットは主柱穴が4基と貯蔵穴1基が検出された。入口部分はやや低く、その周りは地山掘り残しによる土手状の高まりが作られる。甕(308)が壁際から落ち込むように出土した。住居覆土は自然堆積である。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はめぐらない。

遺物はあまり多く出土しなかった。実測個体で遺存が良好なものはカマド出土の椀と貯蔵穴付近出土の甕のみである。椀(307)はやや器面が荒れており被熱しているように観察される。他に高坏、ミニチュア土器、土玉4点、不明土製品が出土した。不明土製品(土144)は何らかの形を目指したものではないようだ。

実測個体以外では、坏類破片は器高の高い、赤彩されたものがほとんどである。甕類に胴部が大きく張り、底部を削り出す破片が1個体分確認できた。

#### SI-018 (第41・72・77図, 第7・8・11表, 図版12・28・35)

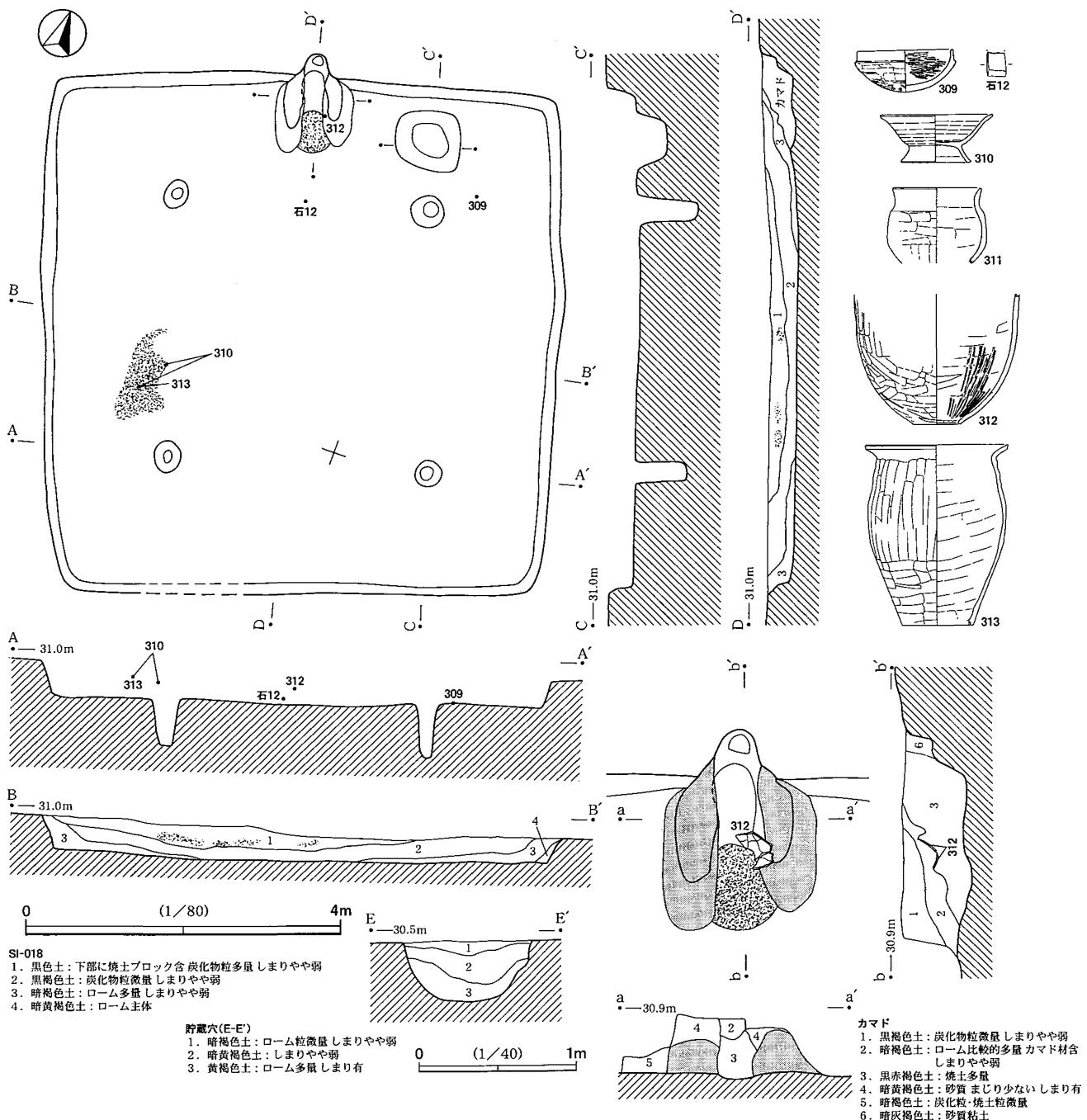
2C-77グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-19°-W, 規模は主軸長6.38m, 幅6.32mである。掘り込みは確認面から51cmである。カマドは北壁中央に付設される。カマド内に甌(312)が出土した。火焼部床面は緩やかに凹み、被熱して赤化が顕著である。奥壁は砂質粘土で補強された段を有して立ち上がる。ピットは主柱穴が4基と貯蔵穴1基が検出された。住居覆土の第1層下位に焼土がブロックで、広範囲で確認された。その焼土の上に平安時代の遺物が出土しており、住居が埋まりきらない時期にともに投棄されたと考えられる。住居の時期を示すのは309・312である。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はめぐらない。なお、床面精査時に住居より古い時期の土坑(SK-002)が確認された。

出土遺物は多くない。坏(309)は内外面とも炭素吸着の黒色処理で、内面にX字にヘラ書きが施される。

実測個体以外では、古墳時代土師器と平安時代の土師器類がみられるが、8割は古墳時代の土器類である。坏類には外反する口縁の赤彩破片や、黒色処理個体がみられる。ロクロ土師器坏破片は5点確認できた。甕類は小破片が多く、厚手の破片である。その内、確実に平安時代の甕とできる遺物は少量である。

#### SI-021 (第42・72・73図, 第7・8表, 図版14・36)

2C-30グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-22°-E, 規模は主軸長4.82m, 幅4.86mである。掘り込みは確認面から62cmである。カマドは確認されなかった。ピットは主柱穴が4基と入口ピット、その他の比較的浅い補助柱穴が3基(北から深さ14cm, 27cm, 24cm), 貯蔵穴1基が検出された。住居覆土中に多量の焼土ブロックが含まれていたが、床面直上のものはなく、炭化材は検出されなかった。周溝は全

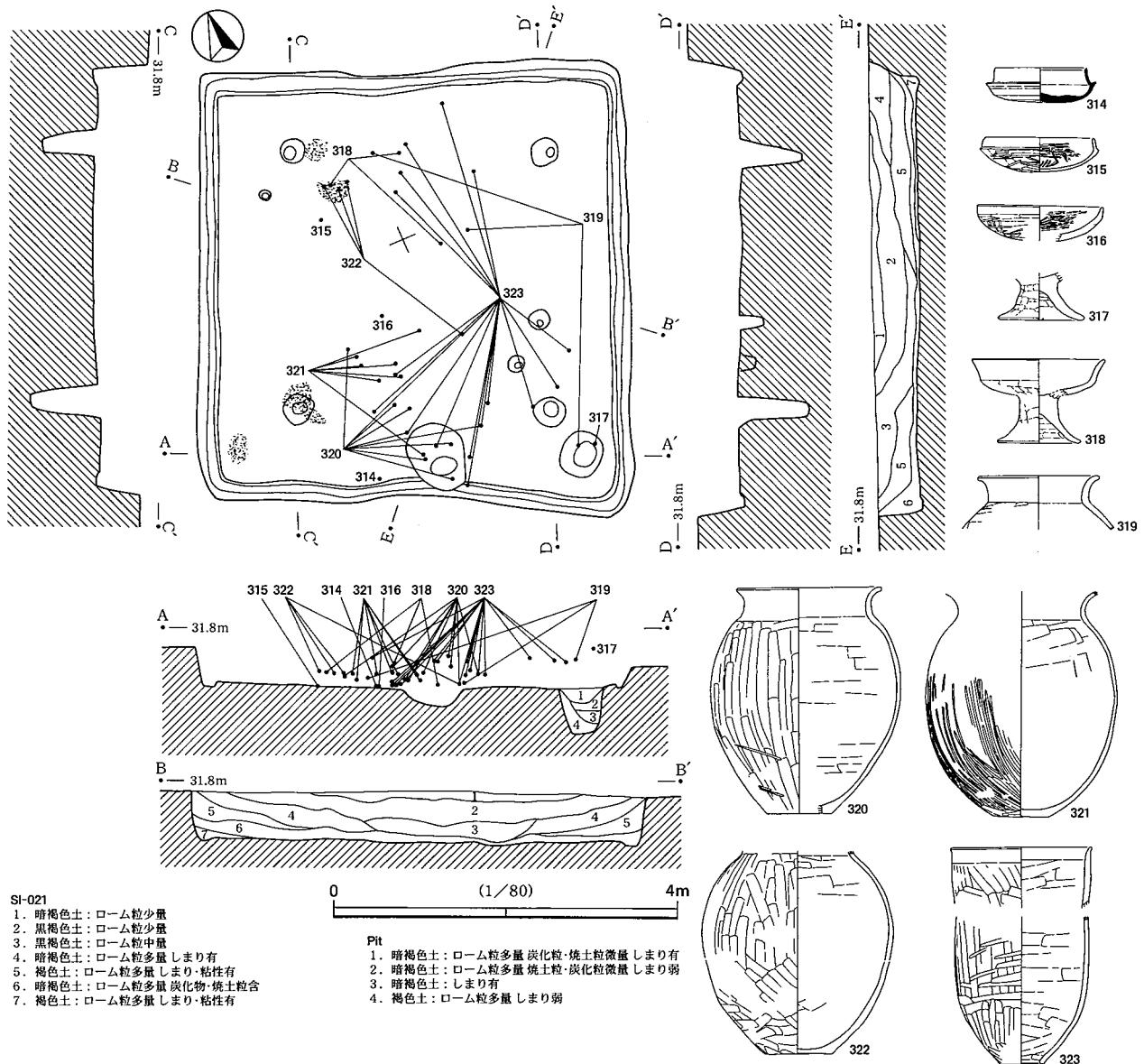


第41図 SI-018

周し、平均的な深さは4.5cmである。

遺物は比較的多く出土したが、壺以外は床面より浮いた状態で破片出土がほとんどである。完形の須恵器壺身(314)は正位で床面直上の出土である。高壺(318)は壺部と脚部は接合しないが、図面上合成して作成した。甕類は小破片の状態でまとまりがなく出土したものが接合した。320・322は胎土・形状ともに同様である。321は胴部下半が磨かれ、胎土に白色砂礫が多く含まれる。

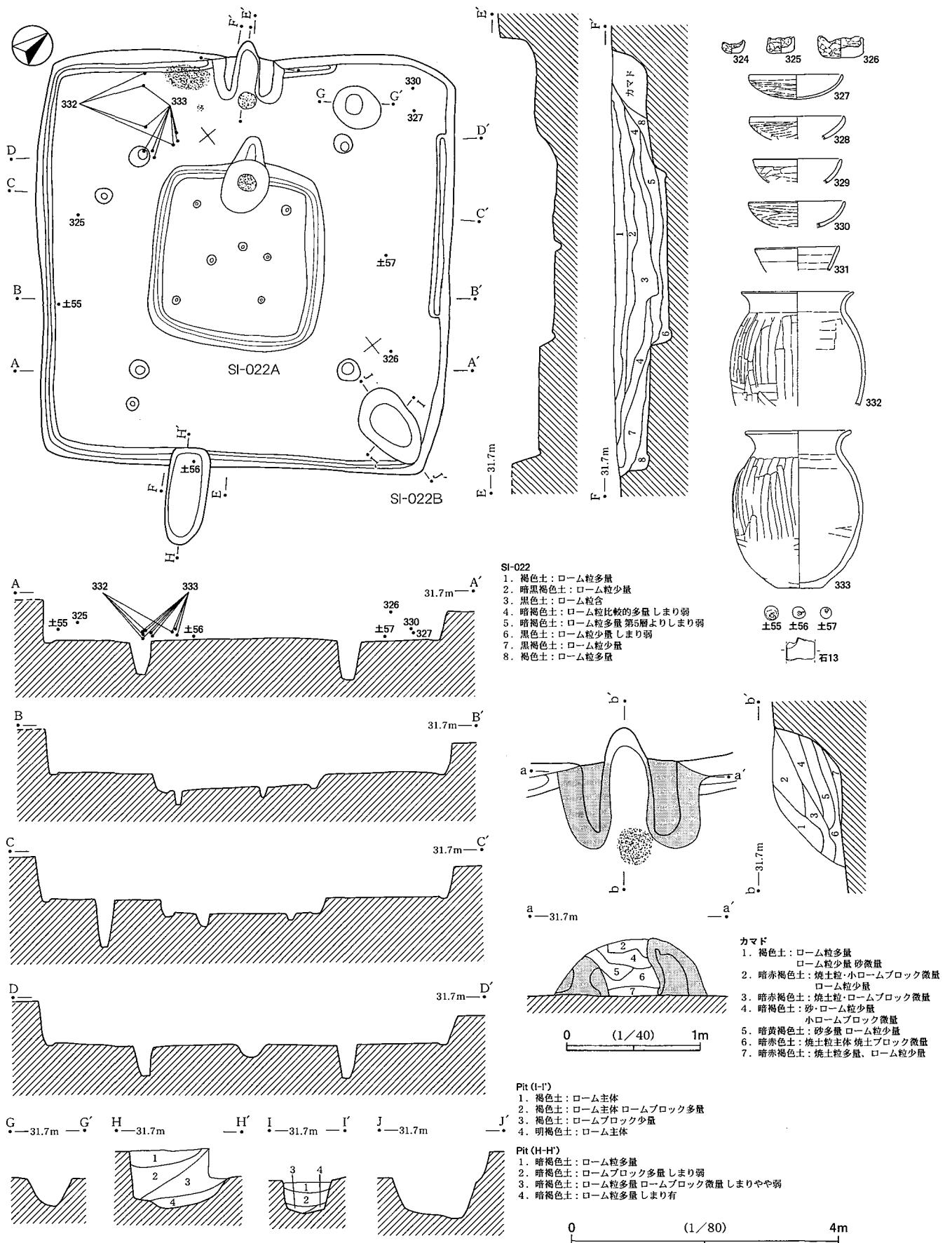
実測個体以外では、壺類はほとんどが須恵器模倣壺で、赤彩・黒色処理との点数比は半々であった。他にミニチュア土器の破片6点と支脚の破片が確認できた。



第42図 SI-021

SI-022A・B (第43・73・75・77図, 第7・8・10・11表, 図版14・26・27・36)

2C-24グリッド周辺に位置する。平面形はいずれも方形で、主軸はN-50°-Wである。規模はSI-022Aは2.63m×2.57mで、掘り込みは確認面から89cmである。SI-022Bは主軸長5.96m、幅5.98mで、掘り込みは確認面から63cmである。カマドはともに北西壁中央に付設される。SI-022Aのカマドは掘り込みのみで、カマド構築材の遺存はなく、火焼部床面中央に赤化した範囲が確認できた。SI-022Bのカマド袖は比較的遺存が良好で、奥壁は急に立ち上がる。火焼面はフラットで、顕著に赤化していた。また、左袖脇には焼土が検出された。カマドの残存状況から、先にSI-022Aがつくられ、その後SI-022Bが構築されたと考えられる。平面的にはSI-022Bの高い位置での床面中央部には顕著な硬化はみられず、断面図の覆土堆積では深い中央部分も含めて、自然堆積にみられることから、最終的には段差を有して住居は機能していた可能性が高い。SI-022Aのピットは住居規模と同様に小型で主柱穴が4基と中央部にやや浅い補助柱穴が3基(南西から13cm・7cm・18cm)が検出された。SI-022Bのピットは主柱穴が4基と南側にしっかりととした掘り込みの補助柱穴が2基(北西か



第43図 SI-022

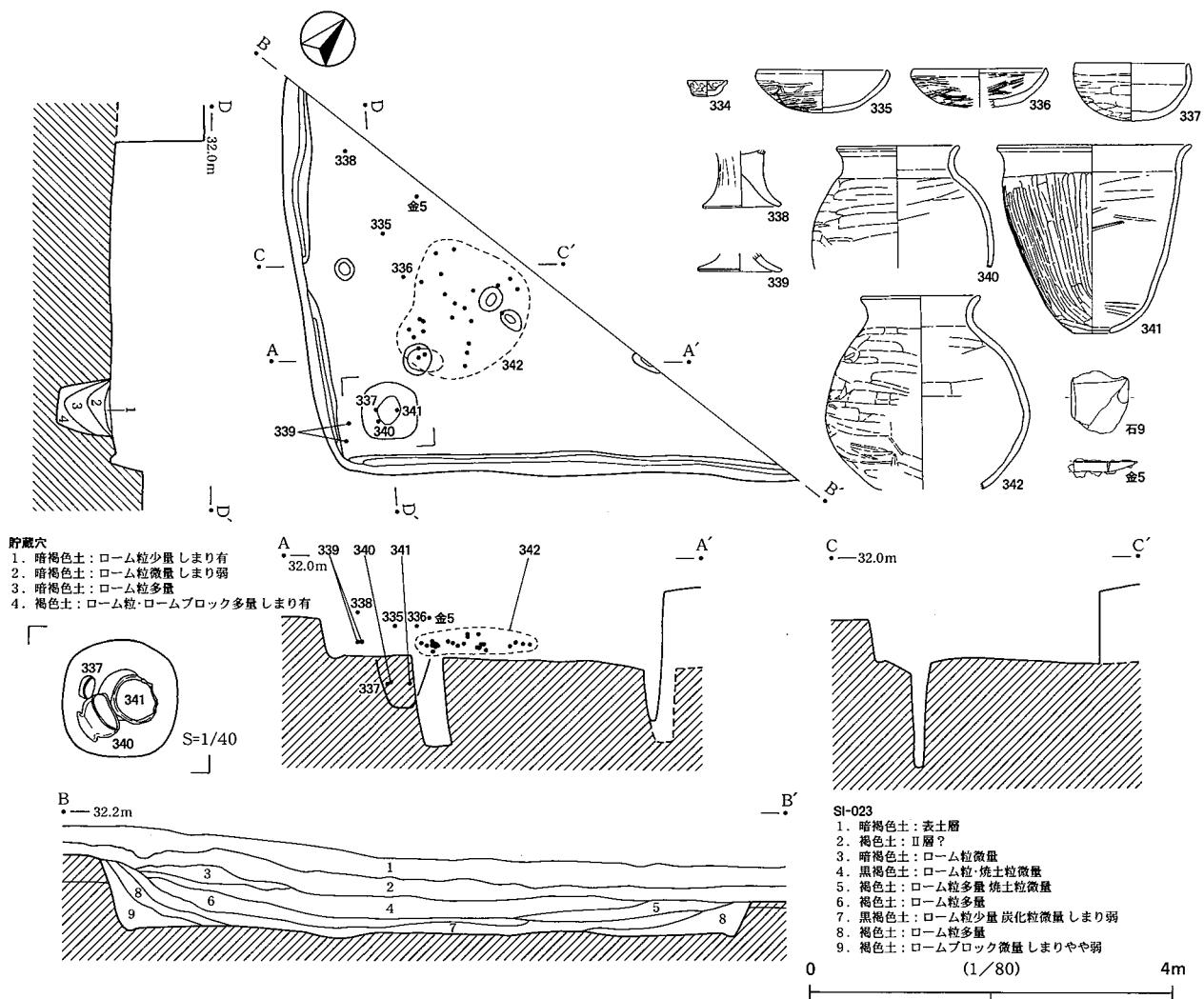
ら深さ71cm, 64cm), 貯蔵穴が北コーナーで1基が検出された。貯蔵穴はやや丸みを有し、ピット状である。他に、東壁に不整形なピットが2基検出されたが、住居に伴うものかは判然としない。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はSI-022Aは全周し、平均的な深さは5.8cmである。SI-022Bは北側壁で部分的に周溝がとぎれ、平均的な深さは2.6cmである。

遺物はSI-022A部分からは遺存の良好な個体がほとんど出土しなかった。壺は丸みをもった黒色処理された壺が主体である。ロクロ壺(331)は混入と考えられる。甕は形状・胎土ともに同質である。胴部の膨らみは弱く、やや長胴化している。他にミニチュア土器が出土したが、やや高い位置での出土である。土玉3点と凝灰岩製の砥石破片が出土した。

実測個体以外では、壺類は黒色処理された須恵器模倣壺が2~3個体分確認できた。甕類はほとんど小破片であった。

#### SI-023 (第44・73・74・77・78図, 第7~9・11表, 図版15・28・36)

2C-05グリッド周辺に位置する。北側半分以上は調査範囲外にあたる。平面形は方形で、主軸はN42°-E, 規模は不明である。掘り込みは確認面から55cmである。カマドは調査区外であるが、入口ピットの位置から北東壁に付設されると考えられる。ピットは主柱穴が2基と入口ピット1基、中央部に補助柱穴(深16~



第44図 SI-023

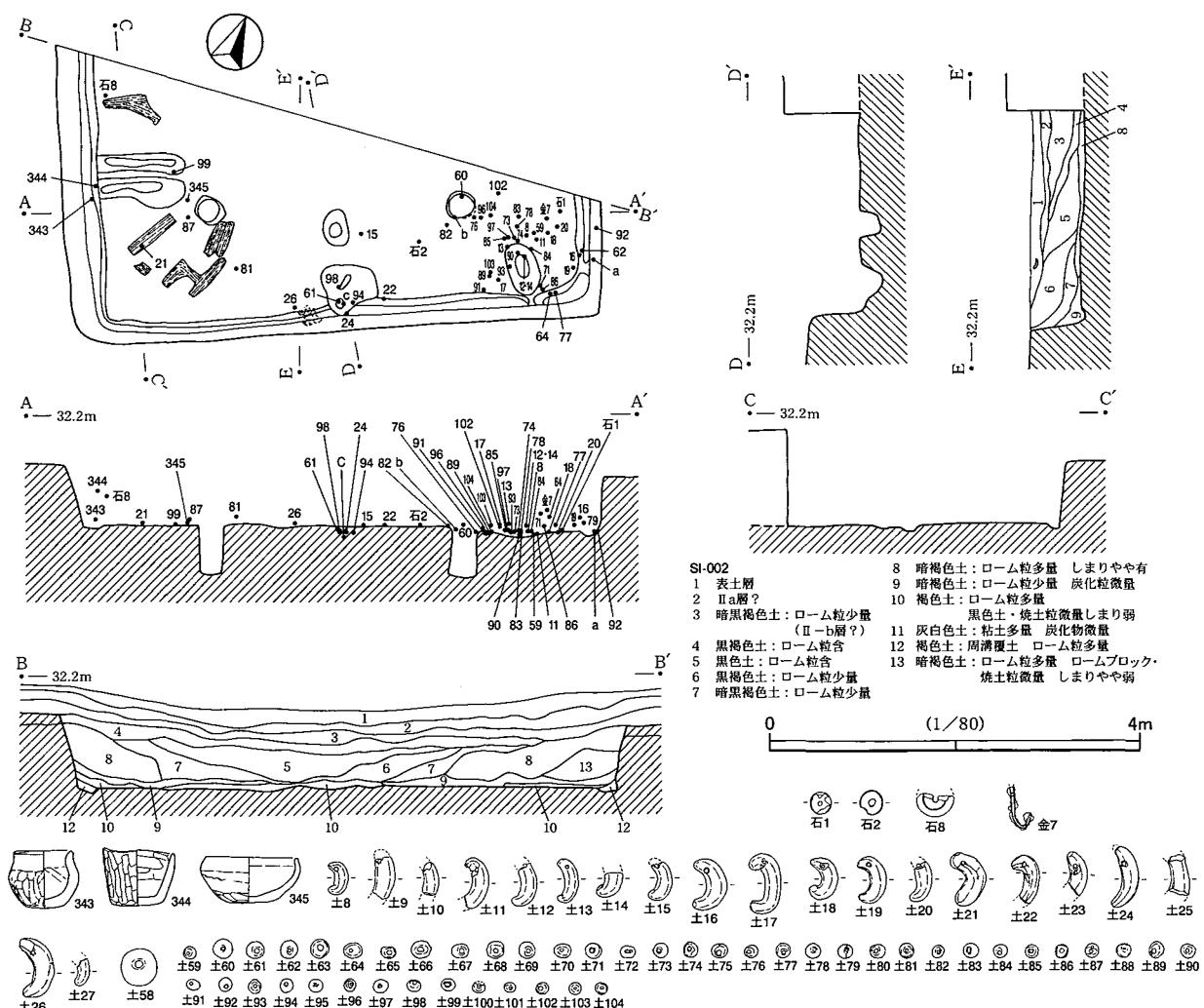
18cm), 貯蔵穴 1 基が検出された。貯蔵穴の覆土中位から337・340・341がまとまって出土した。337・340はやや傾いて、341は正位での出土である。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はほぼ全周し、深さは平均3.2cmである。

遺物はあまり多く出土しなかった。壺は口縁端部が短く上に立ち上がる個体が主体である。赤彩・黒色処理とともにみられる。高壺は短脚の破片が出土した。甕類は口縁部がやや短く、胴部が大きく膨らむ形状である。甕は外面もミガキが施され、底部付近がやや丸みを帯びる。石9は緑泥片岩製と考えられ、玉造の原石の可能性がある。金5は鉄製刀子の切先部分である。

実測個体以外の壺類は計6点で、須恵器模倣壺は1点のみで他の5点は実測個体と同形状である。甕類には底部破片ではなく、大多数は接合できない破片であった。

#### SI-024 (第45・74~78図, 第7~11表, 図版15・26・28・36)

2C-12グリッド周辺に位置する。北側半分は調査範囲外にあたる。平面形は方形で、主軸はN-28°-W, 規模は幅5.44mである。掘り込みは確認面から76cmである。カマドは調査区外の北壁に付設されていると考えられる。ピットは主柱穴が2基と入口部に2基、南東コーナーに浅い凹み(深4cm)が1か所検出された。住居全体の覆土中央部は現地表面より25cmほど凹んだ状態で、完全に埋まりきっていない様子が確認され



第45図 SI-024

た。覆土下層ほど炭化物・焼土が多く、焼失住居と考えられる。玉類は床面直上の層(第7～9層)からの出土が目立つ。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。南西コーナーに炭化材が出土した。

間仕切り溝状の掘り込みもその周辺で確認できた。周溝は全周し、平均的な深さは2.5cmである。

遺物は一般土器類の出土は少ない。ミニチュア土器や土製品・石製品などの特殊遺物が多く出土し、他の遺構に比べ異質である。玉類は南東コーナーを中心出土した。覆土下層についてはすべて土をフリイ掛けにより玉類の検出を行った。他に石製紡錘車の破片、釣り針状の鉄器(金7)が出土した。

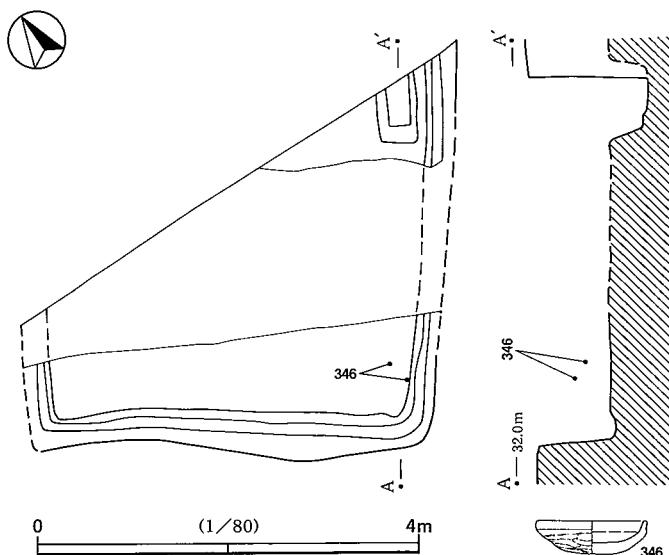
実測個体以外では、壺類はほとんどが黒色処理された破片であった。甕類は口縁部破片が1点、他は胴部破片である。その他は手捏土器の破片が2個体分確認できた。

#### SI-025 (第46・74図、第7・8表、図版16・36)

2B-17グリッド周辺に位置する。方墳(SM-001)築造前の住居跡で、北側半分は調査区外にあたる。わずかに残った覆土の状況は人為的な埋め戻し土とは考えられず、自然堆積後、古墳の周溝が住居中央部に掘り込まれたと考えられる。平面形は方形で、主軸はN-36°-W、規模は推定主軸長4.08mである。掘り込みは確認面(旧表土)から72cmである。カマドは調査区外であるが、恐らく北西壁に付設されていると考えられる。ピットは確認できず、貯蔵穴の一部が検出された。貯蔵穴は角のしっかりとした方形である。壁周溝は古墳周溝に削られていない部分では検出された。深さは平均4.8cmである。古墳の盛土中・旧表土中出土遺物には、この住居の遺物が混入している可能性が高い。

遺物は多く出土しなかった。壺(346)は内外面共に黒色処理され、外面には輪積痕がみられる。器形は体部の中位が屈曲し、須恵器の蓋を模倣したもの可能性がある。

実測個体以外はほとんどが小破片で、総点数は64点と少ない。甕類はほとんどない。壺類で形状の分かるものは数点で、黒色処理された須恵器模倣の土師器壺と椀状の赤彩壺破片が確認できた。

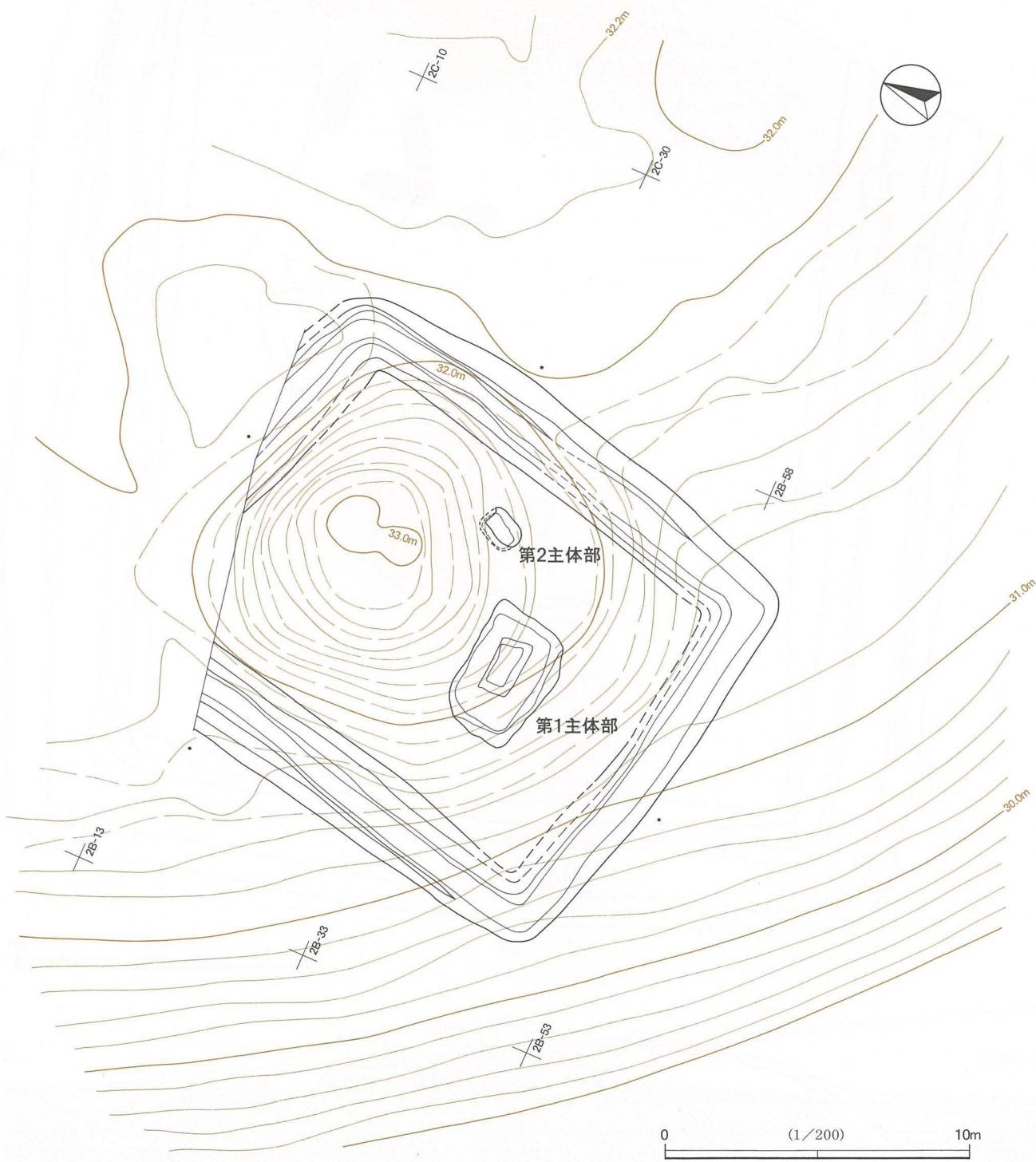


第46図 SI-025

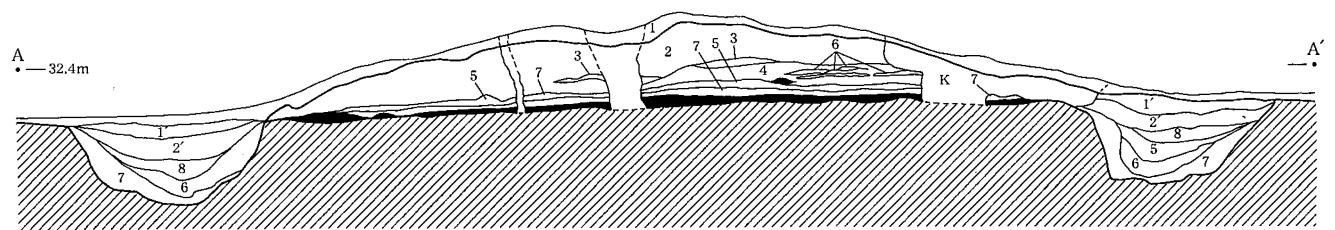
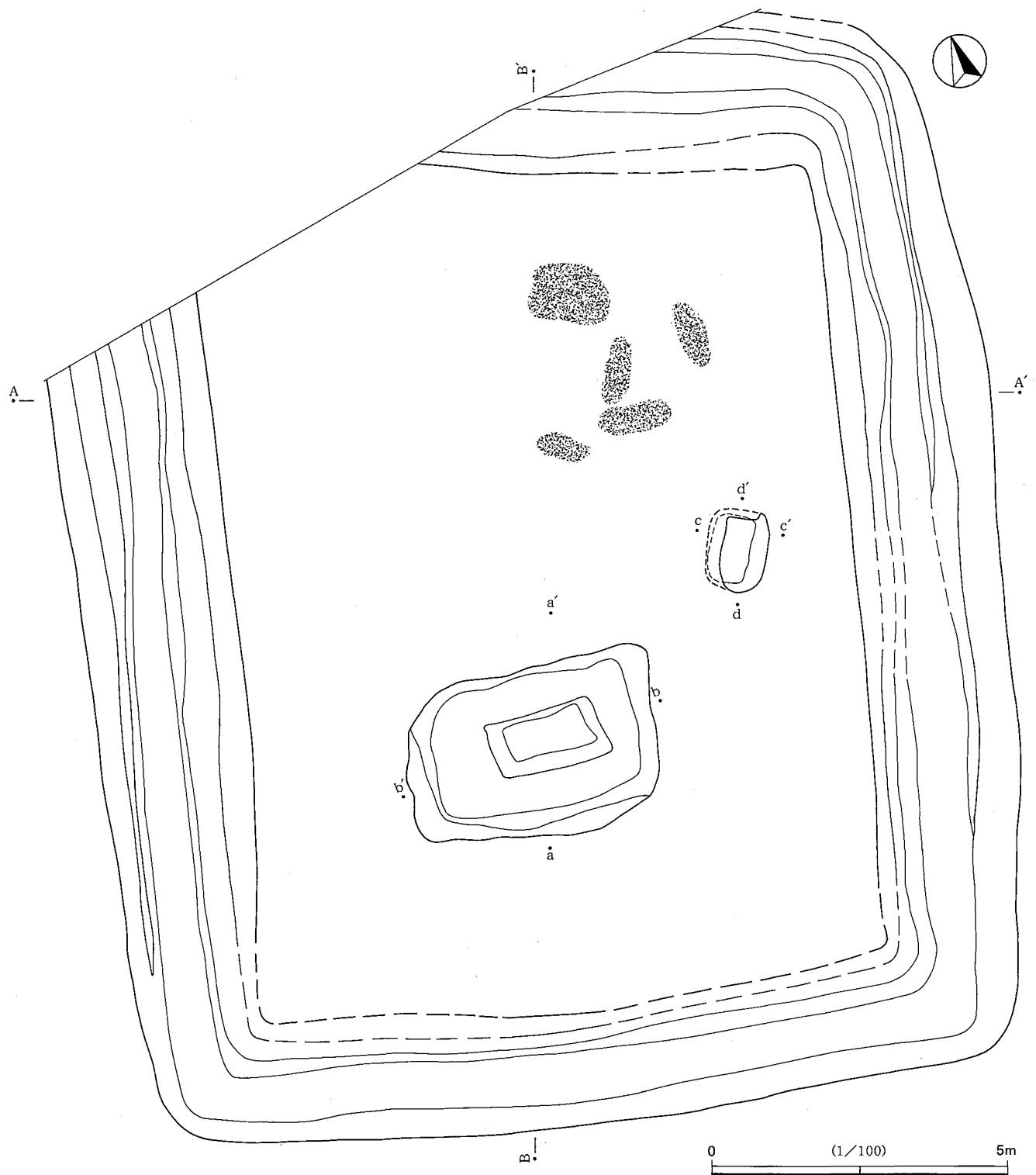
## 第2節 古墳

SM-001 (第47図, 図版17)

古墳は調査区西端の台地縁辺部に1基確認された。主体部は墳丘中央よりやや南に箱式石棺1基と東側に側壁抉り込みの土壙が1基検出された。調査区外には、古墳と思われる高まりは確認されず、本台地上には、古墳1基のみ造営された可能性が高い。



第47図 SM-001地形測量図



第48図 SM-001墳丘・周溝断面図(1)

## 1 墳丘と周溝（第48・49図、図版17）

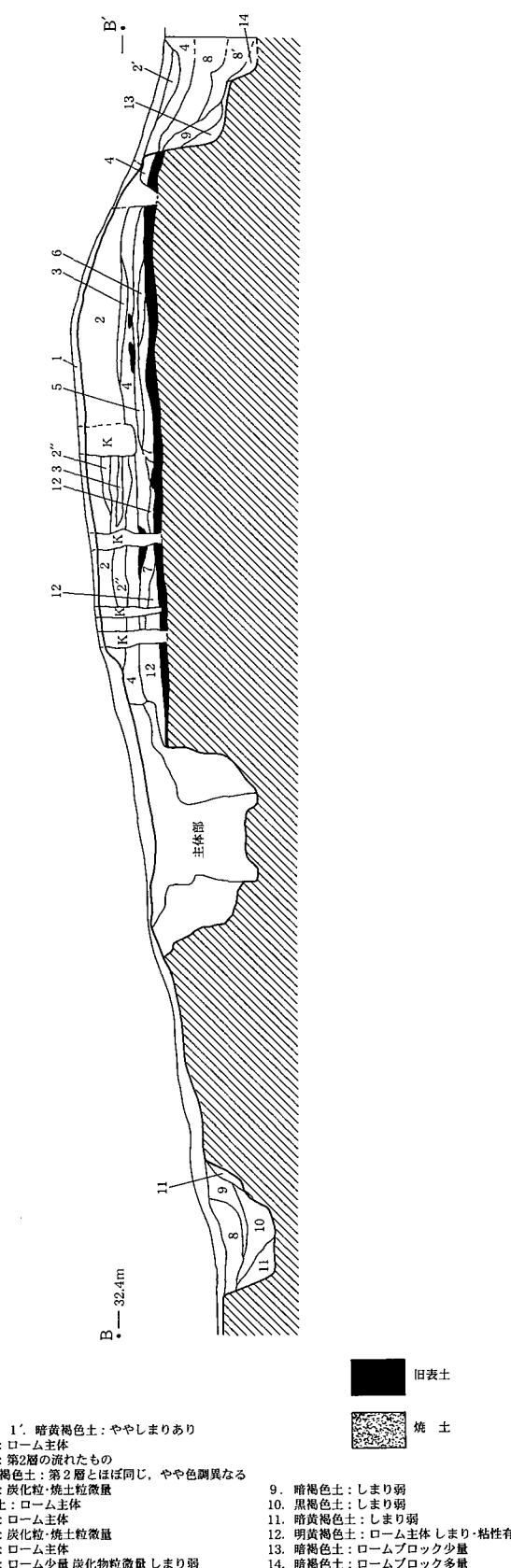
古墳は2B-35グリッド周辺に位置する。平面形は南北に長い長方形で、規模は長軸長18.8m、短軸長は15.6mである。盛土厚は最大で1.1m（現表土層含む）である。主軸はN-12°-Eで、明確に北を意識した築造である。盛土は墳丘中央部ではなく、やや北寄りをピークにして、なだらかに墳丘が築成されている。盛土は黄褐色土（ローム）を主体にして水平に積まれた様子が確認できたが、細かく分層出来るほど明確な単位での版築状ではない。部分的に旧表土由来の黒色土が混じるが、互層にするなどの規格的な様相はみられない。第1主体部の掘り込みは盛土を切って構築されており、主体部の造営は盛土を終えた後である。墳丘北東部の旧表土面を精査中に焼土と炭化物粒のまとまった範囲が5か所で検出された。焼土の厚みは薄く、硬化もみられないため、短期間の使用と考えている。弥生時代の遺物も含まれており、直接、墳丘築造に伴う行為の痕跡とは断定できないが、参考にトンで図示した（第48図）。

周溝は平均幅2.55m、深さ1.0mである。北側で、SI-025と切り合うが、こちらの方が新しい。形状は立ち上がりが急角度な逆台形を基本として、中央部が一段低く掘り込まれる。しかし、確実にその段差を確認できたのは北側のSI-025と切り合う部分だけであった。他の部分はちょうどレベル的に地山のハードロームとの境にもあたりボロボロと崩れ、明瞭に検出することができなかった。周溝覆土はレンズ状堆積で、人為的な様相はみられない。

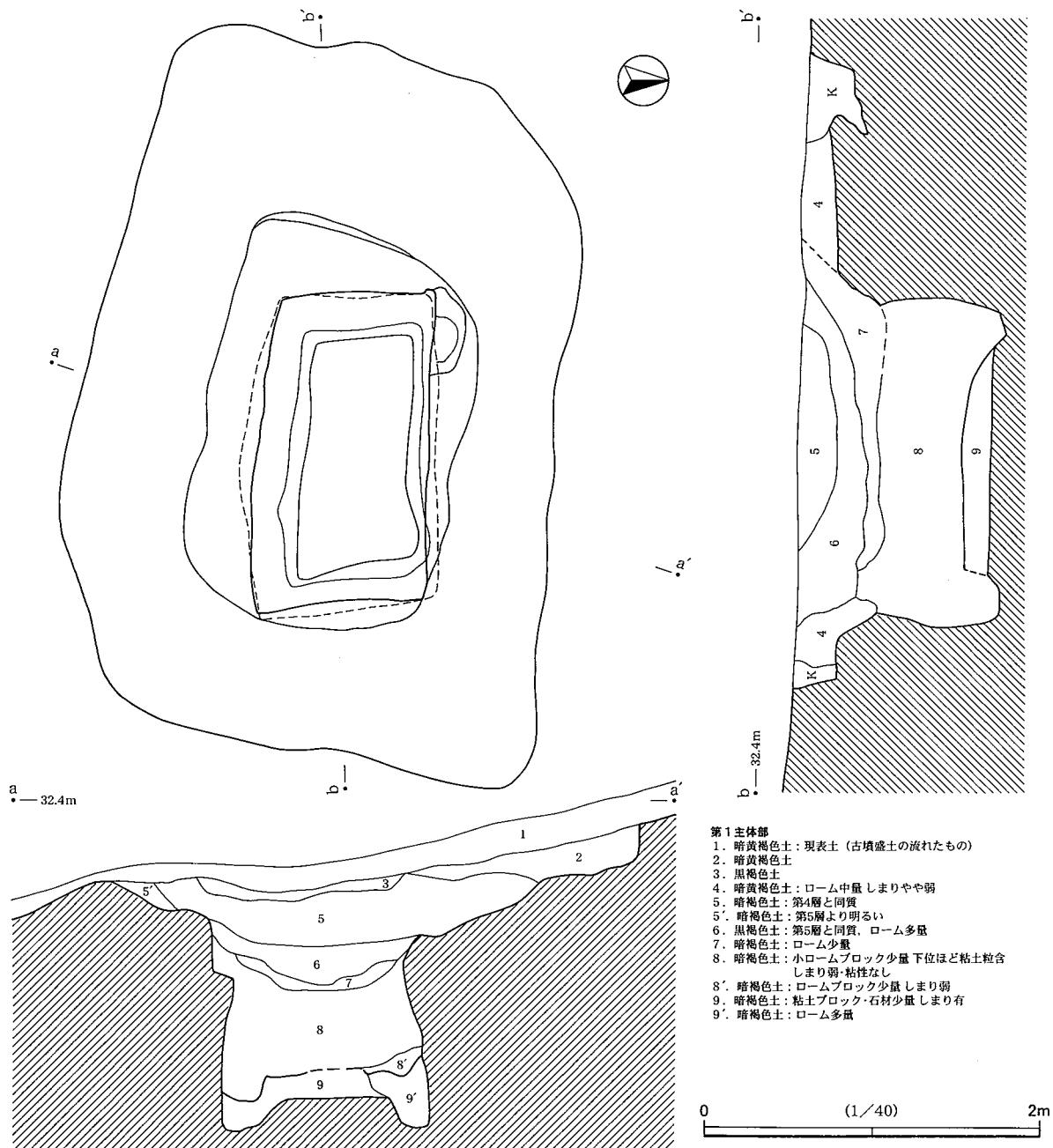
## 2 主体部

### 第1主体部（第50～52図、図版18・19）

第1主体部は絹雲母片岩製板石による箱式石棺である。石棺平面形は長軸がほぼ南北の周溝に並行する方形で、規模は推定で長軸1.85m、短軸1.13mである。掘り方はやや不整形な方形で長軸4.22m、短軸2.81m、深さは現表土から1.35mで、石棺規模



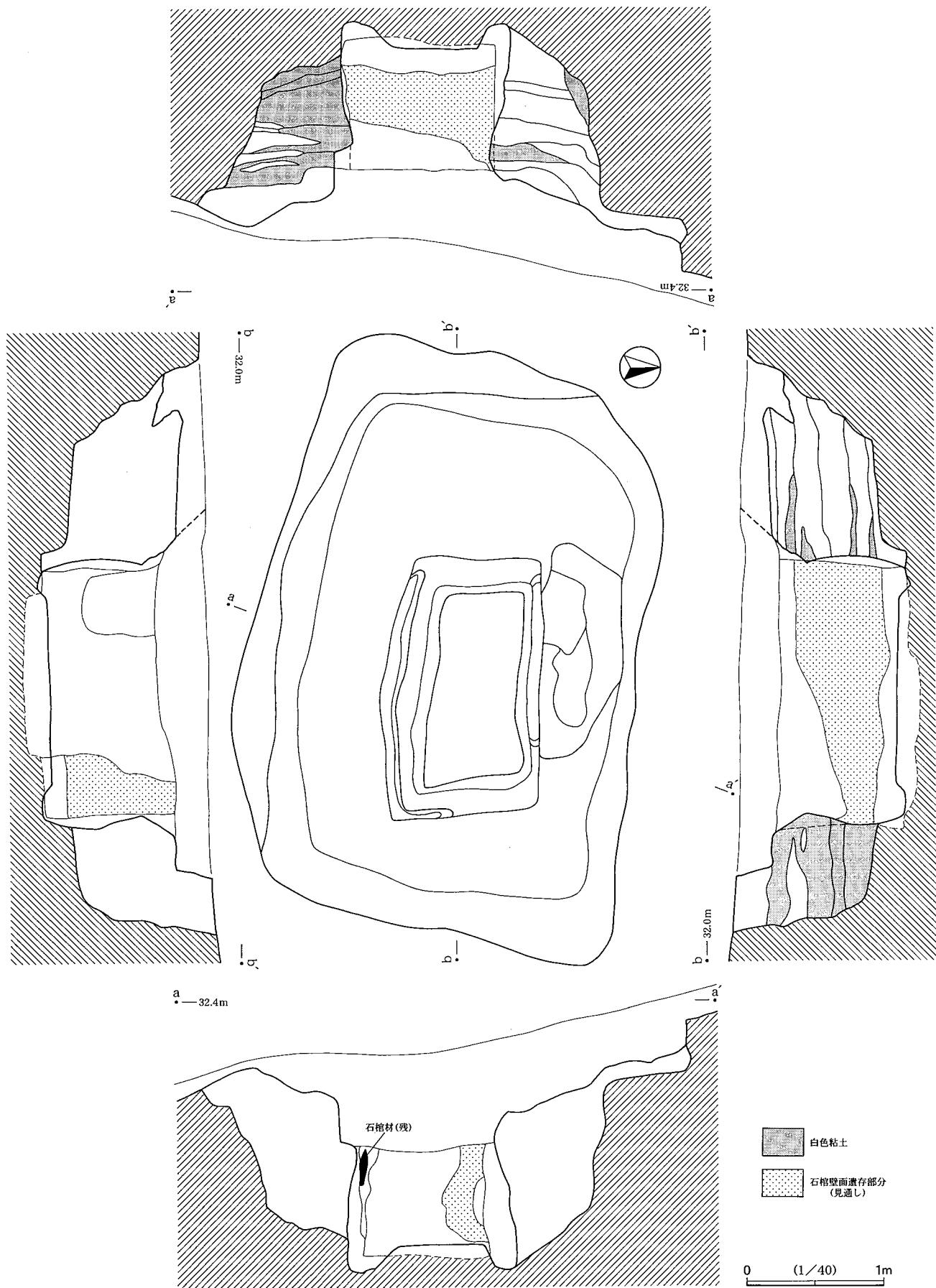
第49図 SM-001墳丘・周溝断面図(2)



第50図 SM-001第1主体部(1)

の割りに規模が大きい。

調査では現表土をベルトを残しながら平らに掘り下げるとすぐに、掘り出された蓋石の1枚が第1主体部の中心から2m北東側で出土した(第52図)。当初は、その出土位置周辺に主体部があると考えて、掘り進めたが、実際はその南東側を中心に黒色土が広がり、石棺材が抜き取られていたことが判明した。その後、黒色土の範囲を掘り下げると周辺から白色粘土の分布が検出され、掘り方の大きさを捉えることができた。ベルトの再設定を行い、石棺部分の掘り下げを行ったが、石棺材の小破片は出土するが、箱式石棺として設置された状態を留めていたものは、南西コーナーで、掘り方に突き刺さるように出土した長さ25cmの破片のみであった(第51図)。このことは、北西コーナーでの掘り込み(第50図)を考え合わせると石棺は長軸



第51図 SM-001第1主体部(2)

方向(小口側)に石材が飛び出すように組まれたことを示している。また、同じ北西コーナーには大きく抉れた部分があり、蓋石をまずこの位置からはずした痕跡と考えられる。第1主体部周辺の石棺材の出土状況(第52図)を見てみると、主体部確認面全体のレベルと石棺の最下層部分にまとまる。主体部確認面レベルの出土は石棺材抜き取りによって破片が散らばった状況を示し、最下層出土の石棺材破片は石棺埋設の際に床面を平らに補強するために意図的に入れられたものと考えられる。石棺内の覆土最下層の第9層は石棺床面の下に敷かれていた層と捉えられる。しかし、石棺材抜き取りの際に部分的に底面が荒らされて



第52図 SM-001第1主体部 石棺材出土状況

いたため、断面図には石棺床面ラインは引けたが、平面的には明瞭に捉えきれなかった。第8層は石棺材抜き取り後一気に埋まった層と考えられ、その後凹んだ部分に第7層以下が堆積したものと考えられる。

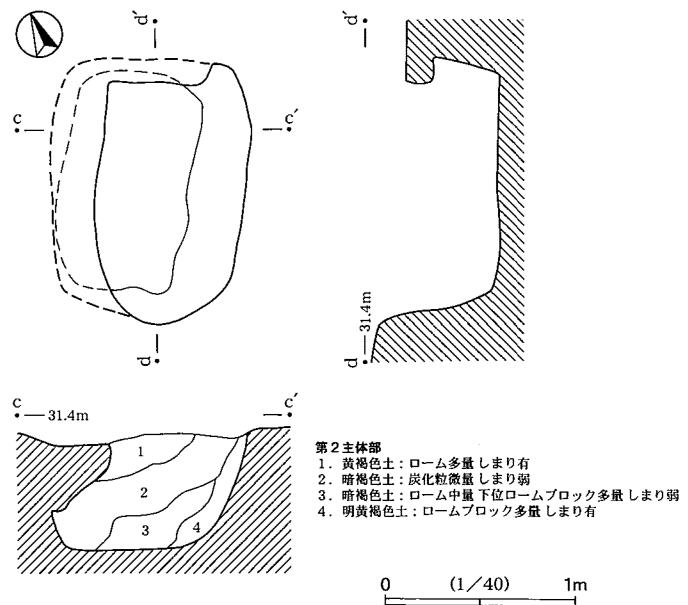
石棺の側面壁側は4面共に比較的良好に遺存していた。側壁の石棺材を丁寧に剥がして抜き取ったものと考えられる。側壁石材には白色粘土が側面壁との接地面に使用されたため、側面壁に遺存する白色粘土の痕跡(第51図網トーン部分)が側面板石の位置を明瞭に示している。その下端は第9層レベルまでは及んでいないことから、第9層上面が石棺床面のレベルと考えて良いであろう。

石棺規模からみて、最初に出土した板材(100×60×2.5cm)は側壁ではなく蓋石であり、石棺主軸に直交するように同規模の板材が3枚で蓋をしていたということが想定できる。今回の発掘調査で出土した石材の総重量は255.91kgであり、蓋石一枚は89.4kgである。よって蓋石2.86枚分の石材のみが古墳周辺に残されていたことになる。

掘り方部分は、断面観察により粘土を主体とする土とロームを混ぜた土とで段階的に裏込めとして固めていった様子が明瞭に確認できた(第51図)。部分的に白色粘土が多い部分と少ない部分があり、厳密に掘り方全体を水平に埋めていないことも明らかになった。石棺設置部分以外は石棺床面程度の深さまで掘り込みを行っている。石棺設置部分は一段深く掘り込み、側壁板材の埋め込み部分は周溝状に深く巡る。その溝状部分の北側は若干形が崩れているが、石棺材の抜き取りによって荒らされたのではなく、実際掘り方掘削時のゆがみである。

## 第2主体部(第53図、図版20)

盛土を平均的に掘り下げている時点で検出された。北東部分には木の根の搅乱があり、天井部の開口部分の形も不整形であったため、プランの確認が遅れ、掘り込み開始面を明らかにすることが出来なかつた。規模は最大値で長軸が1.4m、短軸が1.0mである。下場の規模は長軸1.13m、短軸0.66mである。掘り込みの深さは確認面から0.6mである。明瞭ではないが、主体部底面には掘り込んだ際の工具痕(幅10~15cm)の凹んだ跡が短軸方向に並行して3列確認することができた。覆土の第1層はしまりのある混じりの少ない土(ローム)であり、天井部の痕跡と考えられる。土は東から流れ込んだように堆積していた。

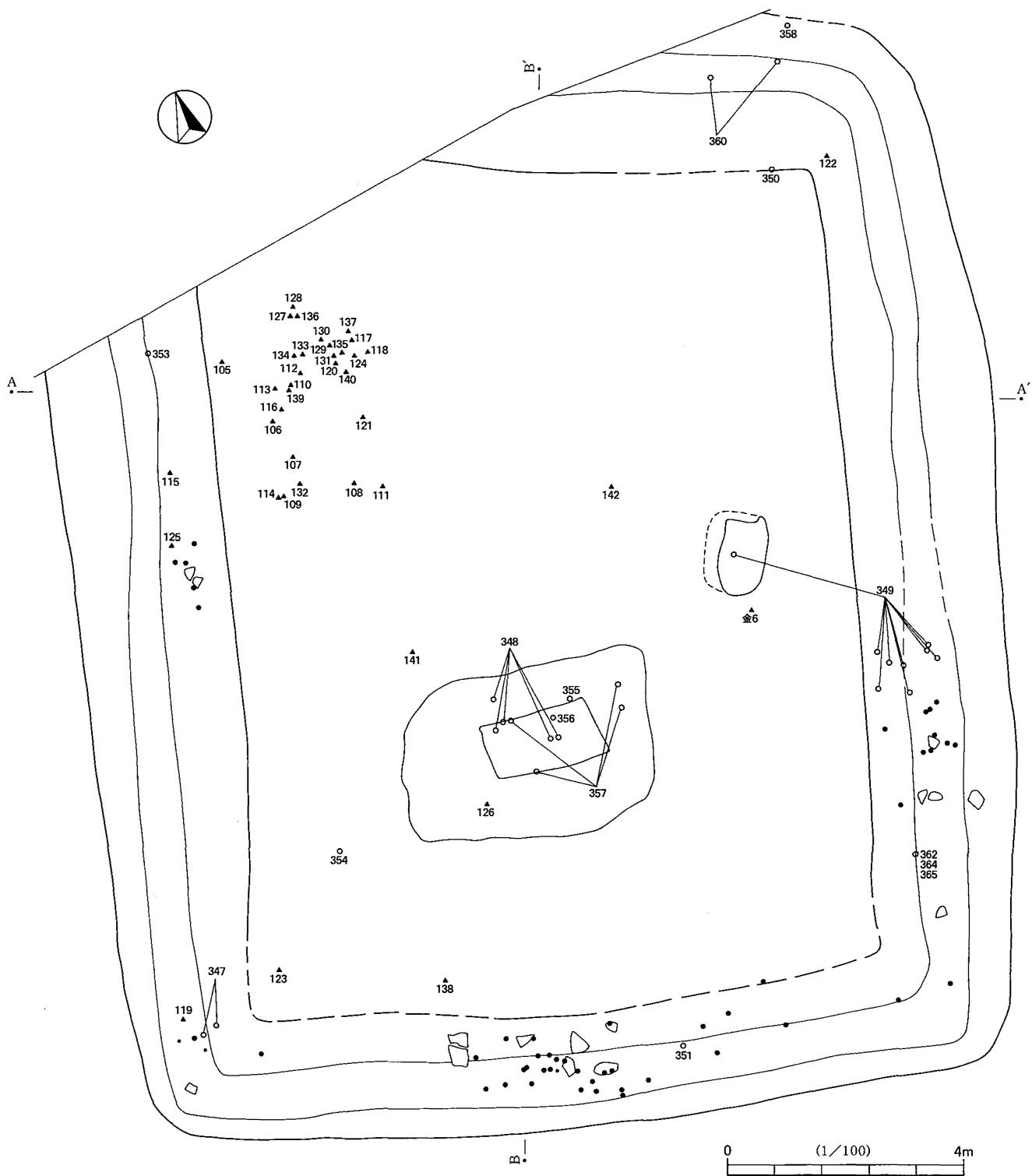


第53図 SM-001第2主体部

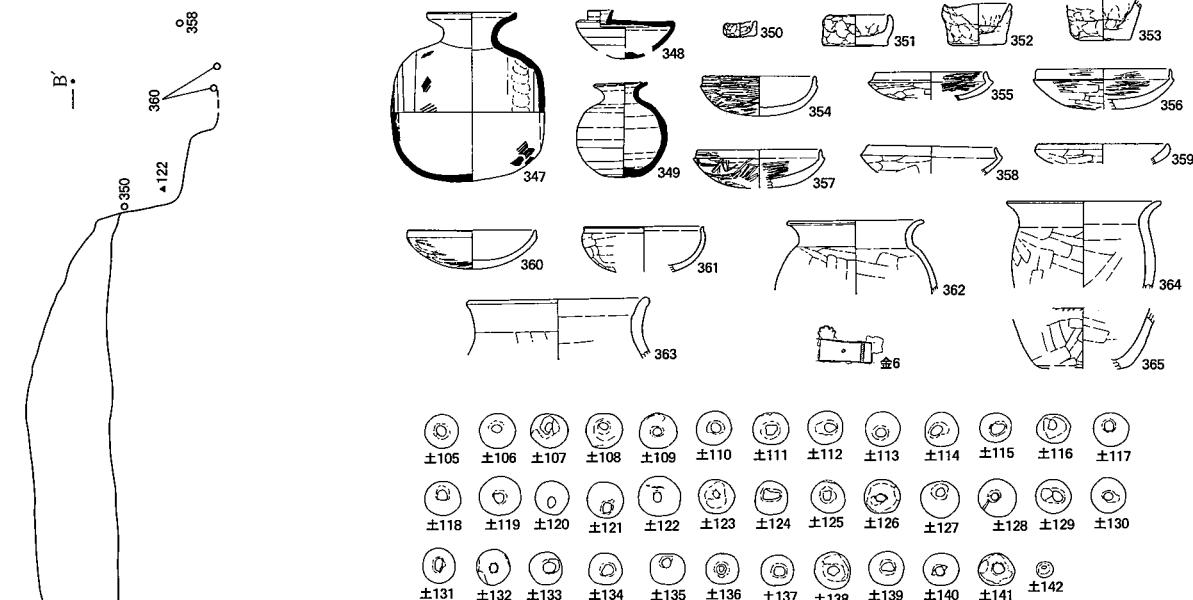
## 3 出土遺物(第54・55・74・76・78図、第8・9・11表、図版20・26・28・36)

石棺材まで完全に抜き取られている状況からも分かるように、副葬品はほとんど出土しなかつた。石棺の平面プランが確定してからは覆土についてすべてフリイ掛けを行つたが、副葬品は皆無であった。石棺石材を抜き取る際に完全に持ち去つたか、もともと多く副葬されていなかつたと考えられる。

第1主体部からは須恵器の水滴様の小型平瓶と土師器壺類が破片で浮いた状態で出土した。平瓶(348)は



第54図 SM-001遺物出土状況(1)



第55図 SM-001遺物出土状況(2)

色調が白みを帯び、非常に薄手で、口縁の立ち上がりは直線的で短い。類例は少なく時代を特定できないが、奈良時代以降の可能性が高い。土師器壺類はほとんど須恵器模倣壺であり、黒色処理が施される。第2主体部からは高さは明らかに出来なかつたが、覆土中位～上位で須恵器の小型壺(349)が出土した(破片4点)。周溝中層からも同一個体破片が出土した。第2主体部のすぐ南からは孔のある鉄器破片が出土した。刀の茎部分であろうか。錆で詳細は不明であるが、本体とは別に装飾部品(花状)が錆着している。

周溝からは、南西コーナー部分で須恵器横瓶(347)が正位で立った状態で出土した。胴部に割られた部分があり、意図的な行為と考えられる。他に土師器甕、ミニチュア土器が出土したが覆土中位からである。石棺材は周溝床面に近い部分と、覆土中層からの出土が多い。位置としては南西側の周溝に多く、北側周溝からは出土していない。特に中層から出土した石棺材は大型のものが多く、石棺材の抜き取りは周溝が半分ぐらい埋まった時期に行われた可能性が高い。

墳丘では、特に北西部の旧表土面を中心に土玉が多量に出土した。旧表土面より上の盛土中からも出土していることは、墳丘築造の盛土前に墳丘北西にあたる部分において土玉を使用した行為が行われ、その後、その部分の周溝を掘り上げた際に盛土に混じったと考えられる。



- 石棺材(20cm以上)
- 石棺材(20cm未満)
- 土器類
- ▲ その他(土製品・金属製品)

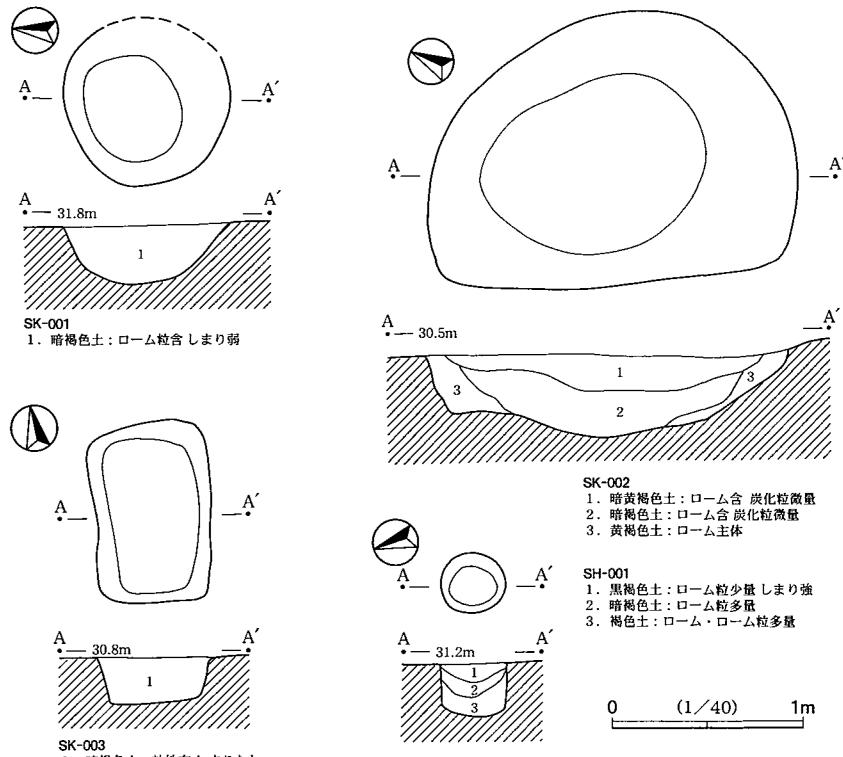
### 第3節 その他

ここでは、時代を決定できなかった遺構と遺構外出土遺物について説明する。

#### 1 遺構

##### SK-001 (第56図)

3D-73グリッド周辺に位置する。SI-016の平面プラン確認時に検出された。平面プランは確実にSI-016を切っており、こちらが新しい。出土遺物は小破片11点であり、時期は確定できない。比較的薄手の土師器片が中心であり、内面黒色処理された壊破片もみられる事から、奈良時代以降に属する可能性も考えられる。平面形はいびつな円形で、径0.9m、深さ0.28mである。覆土はしまりの弱い暗褐色土である。底面は平らで、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。



第56図 SK-001～003・SH-001

##### SK-002 (第56図, 図版16)

2C-87グリッド周辺に位置する。SI-018を掘り終えた際、床面にプランが確認できたため、検出された。SI-018より古いが、出土遺物は小破片3点のみで、時期は確定できない。縄文時代中期小破片も含まれ、縄文時代の可能性もある。平面形は不整橢円形で、長軸1.94m、短軸1.44m、深さ0.44mである。平面形はいびつで、底面も平らではなく、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。

##### SK-003 (第56図)

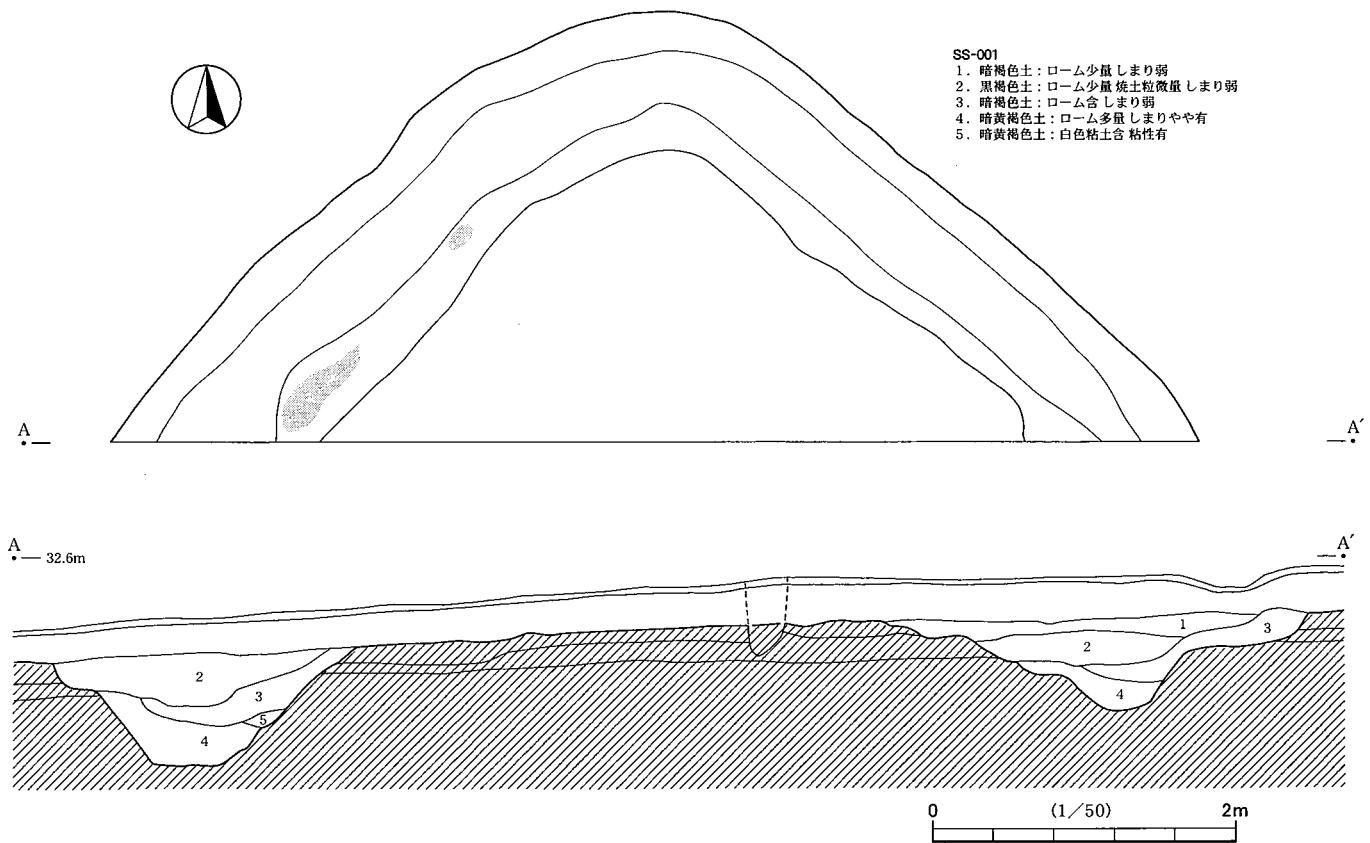
2B-57グリッド周辺に位置する。平面形は長方形で、長辺0.95m、短辺0.6m、深さ0.2mである。掘り込みは比較的しっかりしている。底面は平らで、壁面は急激に立ち上がる。遺物は土師器小破片1点のみで、時期は確定できない。台地が西側に傾斜しはじめる位置であり、形状・規模から住居に伴う貯蔵穴の可能性が考えられるが、周辺にピット類は検出されなかった。

##### SH-001 (第56図)

2C-54グリッドに位置する。周辺に土師器片が出土したことから、精査を行い検出された。周囲も広範囲に再精査を行ったが、確実に組めるピットは検出されず、単独である。平面形は円形で、径0.34m、深さ0.28mである。出土遺物の時期は古墳時代後期と考えられるが、小破片であり実測はできなかった。

### SS-001 (第57図, 図版16)

3D-82グリッド周辺に位置する。平面形は方形と考えられるが、半分以上が調査範囲外となり、規模は判然としない。周溝幅0.9m、深さは0.72mである。周溝の掘り込みはしっかりとしている。現表土からの断面を観察する限り、盛土は行われておらず、周溝の内側に白色粘土の分布がみられることからも、方形区画墓と考えられる。形状からは古墳時代以降の所産と考えられるが、出土遺物は古墳時代後期土師器の小破片が主体だが、明確な時期・遺構の性格は不明である。周溝底面は平らで、壁面は45°で立ち上がる。

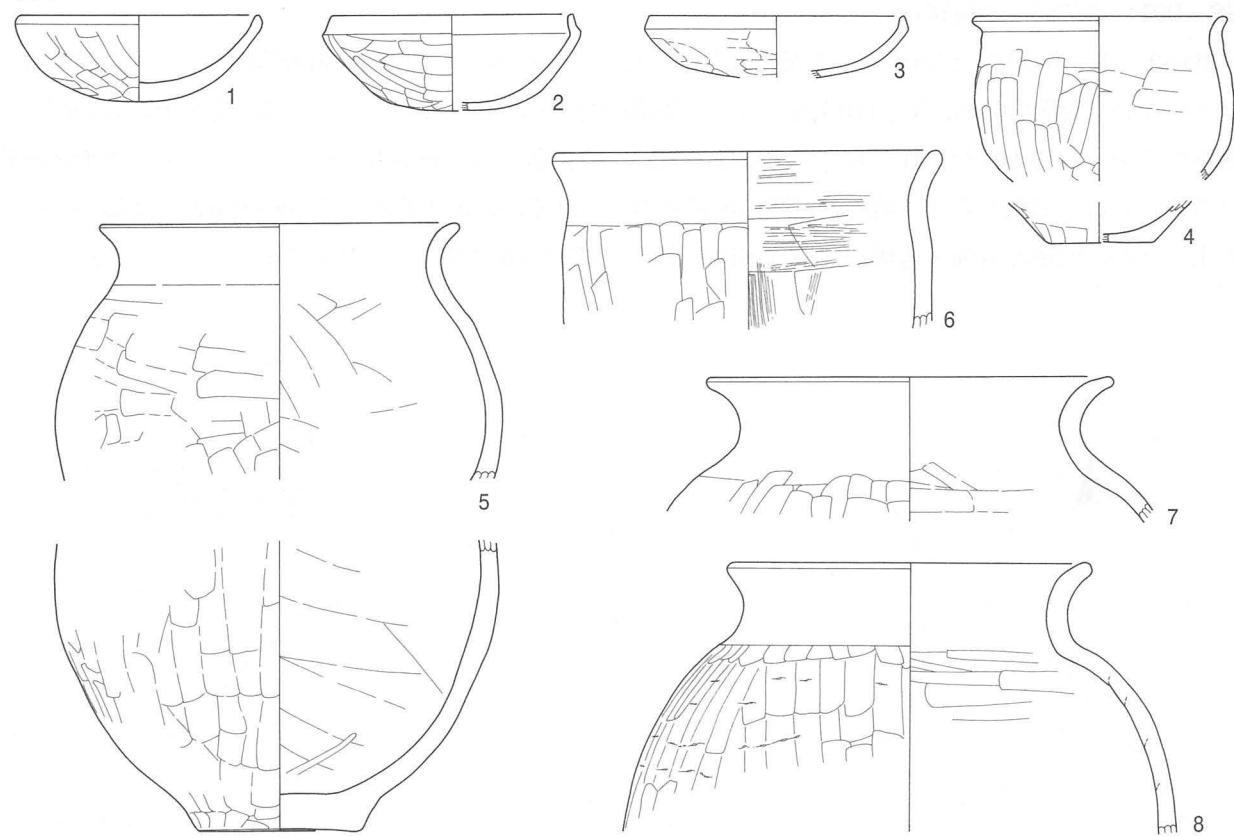


第57図 SS-001

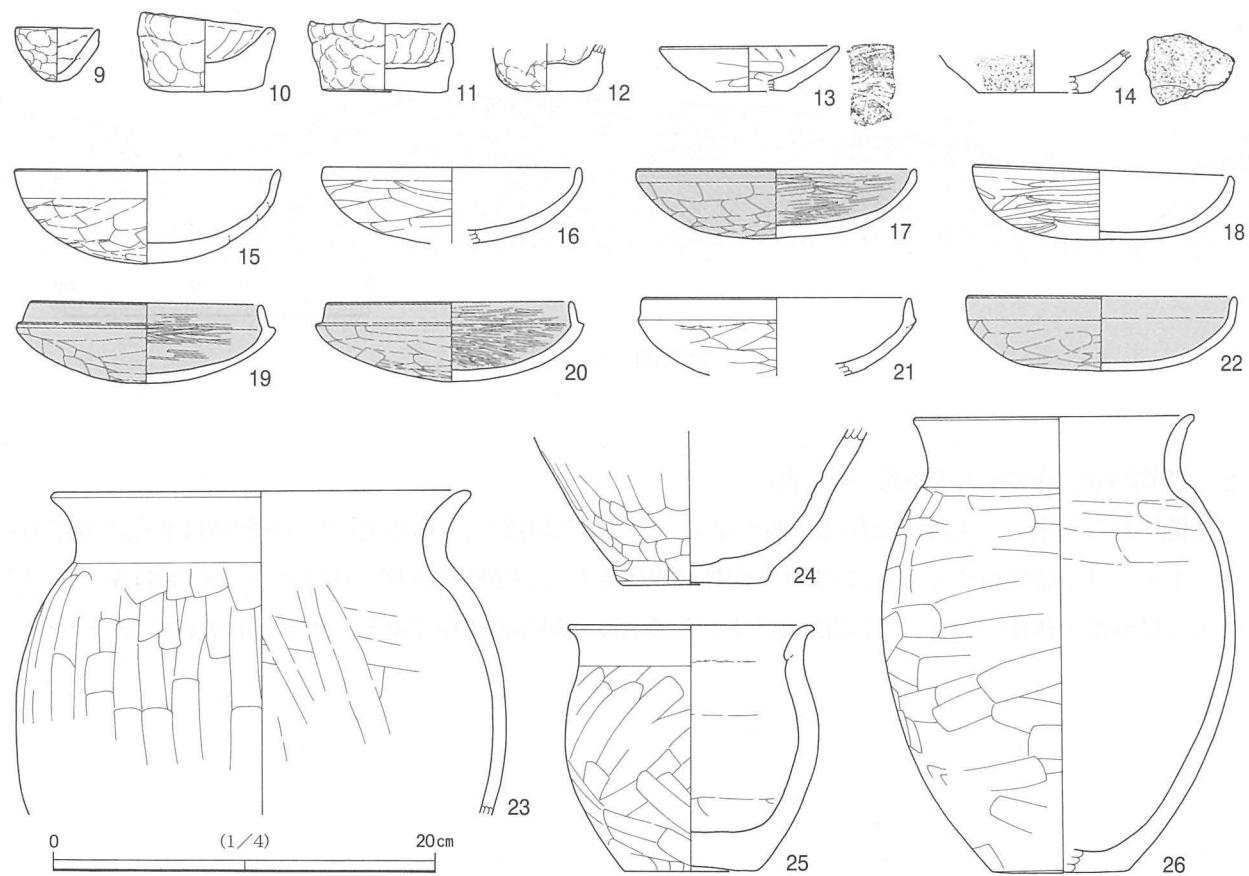
### 2 遺構外出土遺物 (第74図, 第8表)

遺構外から出土した土器はそれほど多くなく、古墳時代以降で、実測可能である個体は2点のみであった。1・2は土師器の壊である。いずれも内外面赤彩された古墳時代後期の壊である。1は3D-64グリッド出土で口縁部～体部の70%，2は2E-52グリッドで全体の30%の遺存である。整形は比較的丁寧である。

SI-001

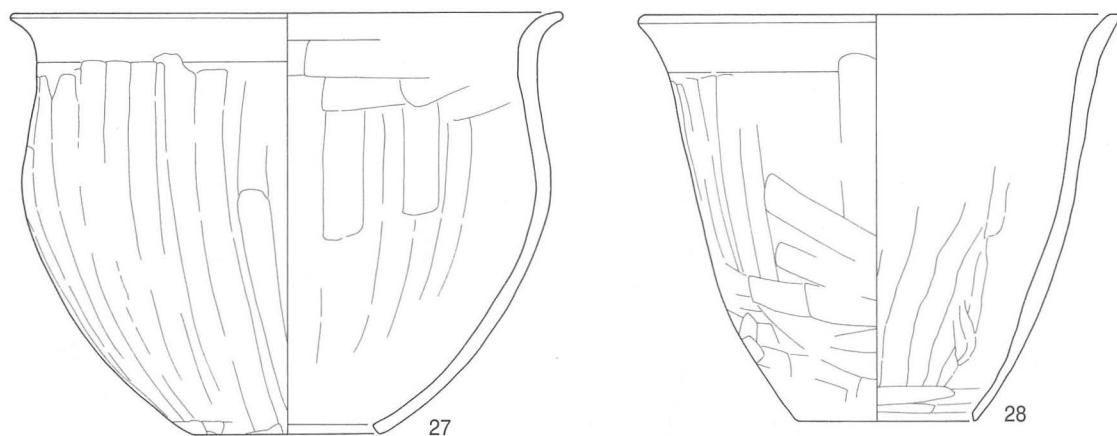


SI-002

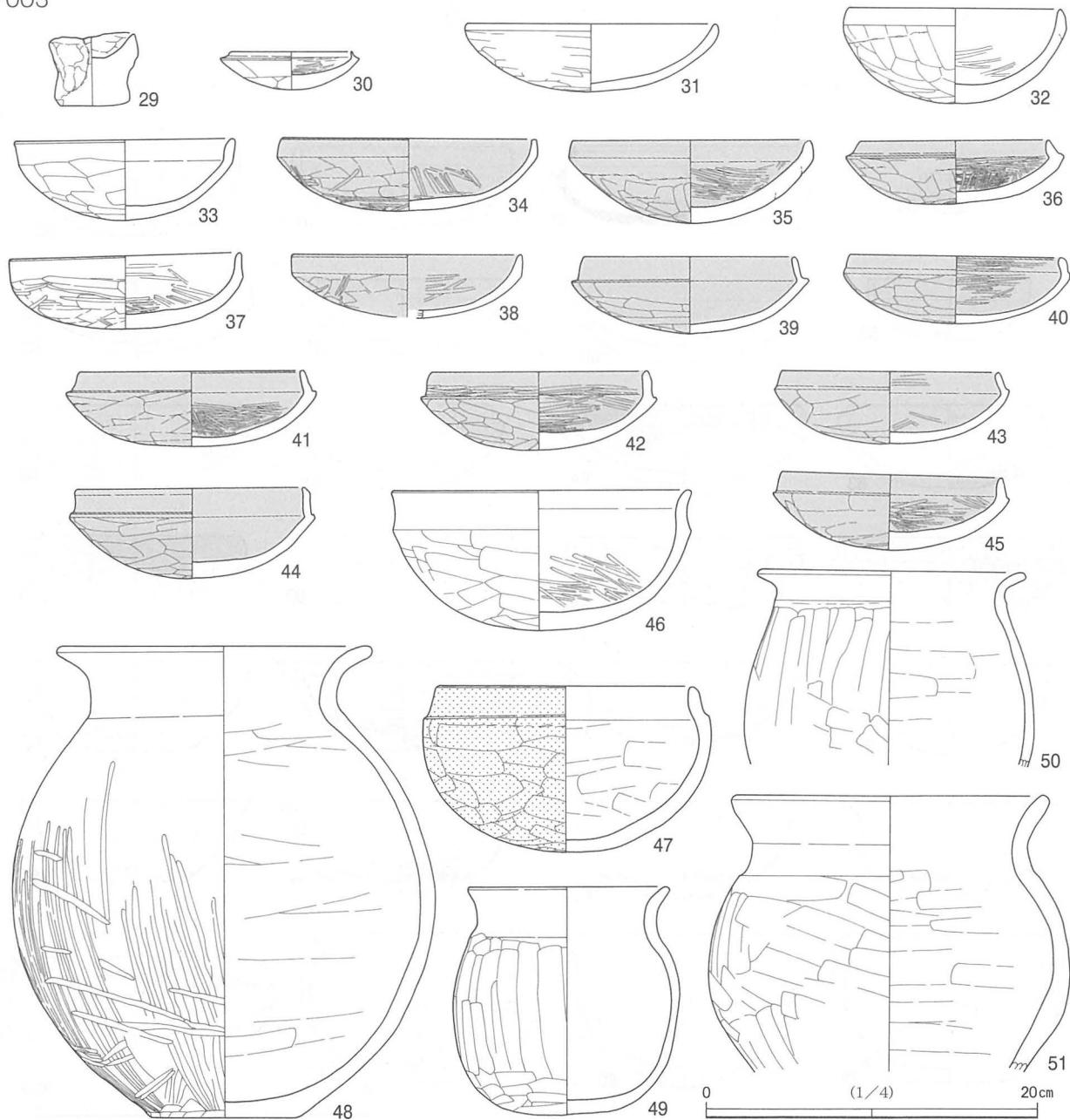


第58図 土器類(1) <SI-001・SI-002(1)>

SI-002

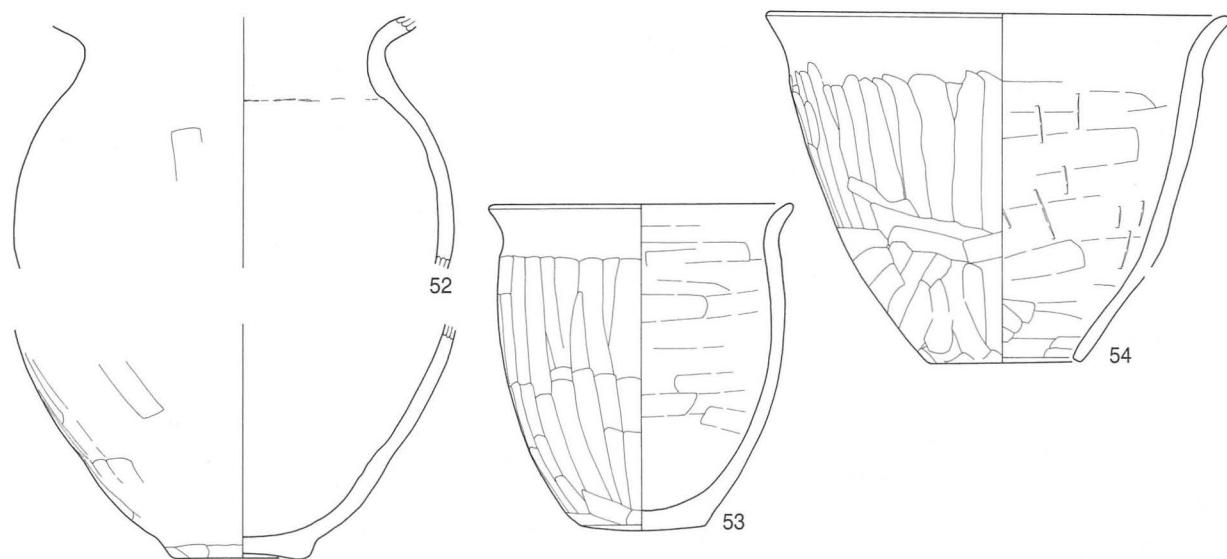


SI-003

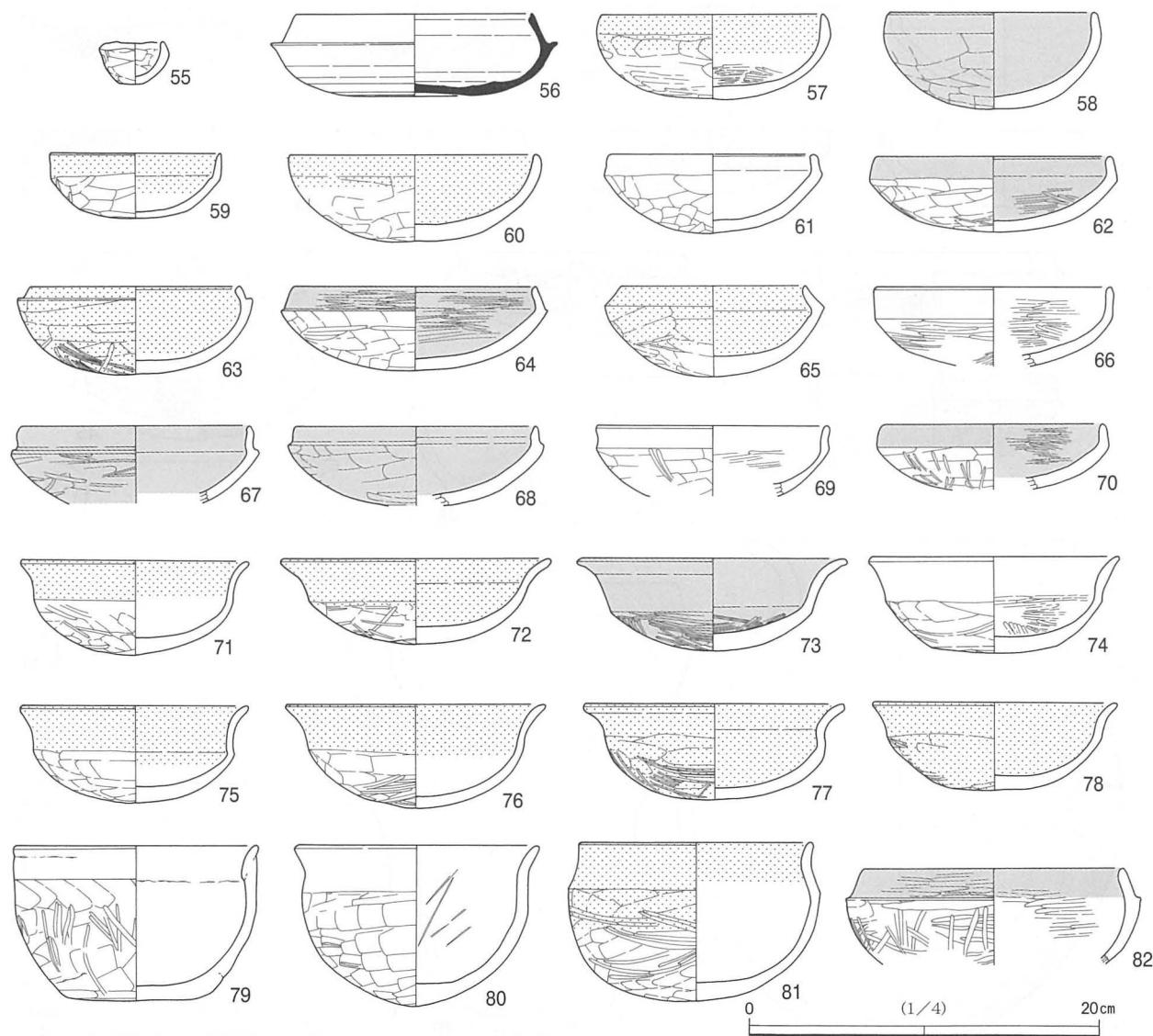


第59図 土器類(2) <SI-002(2)・SI-003(1)>

SI-003



SI-004



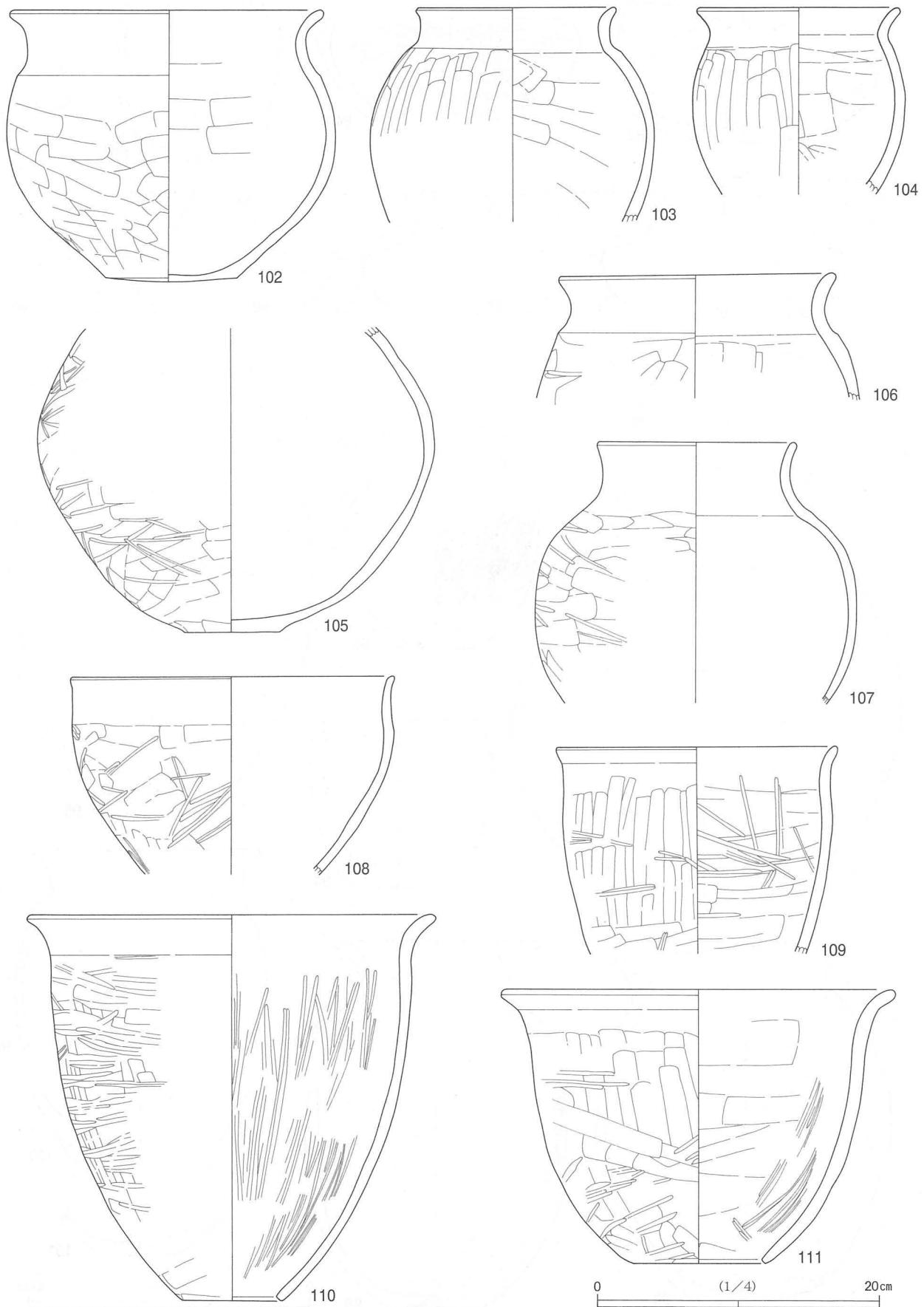
第60図 土器類(3) <SI-003(2)・SI-004(1)>

SI-004



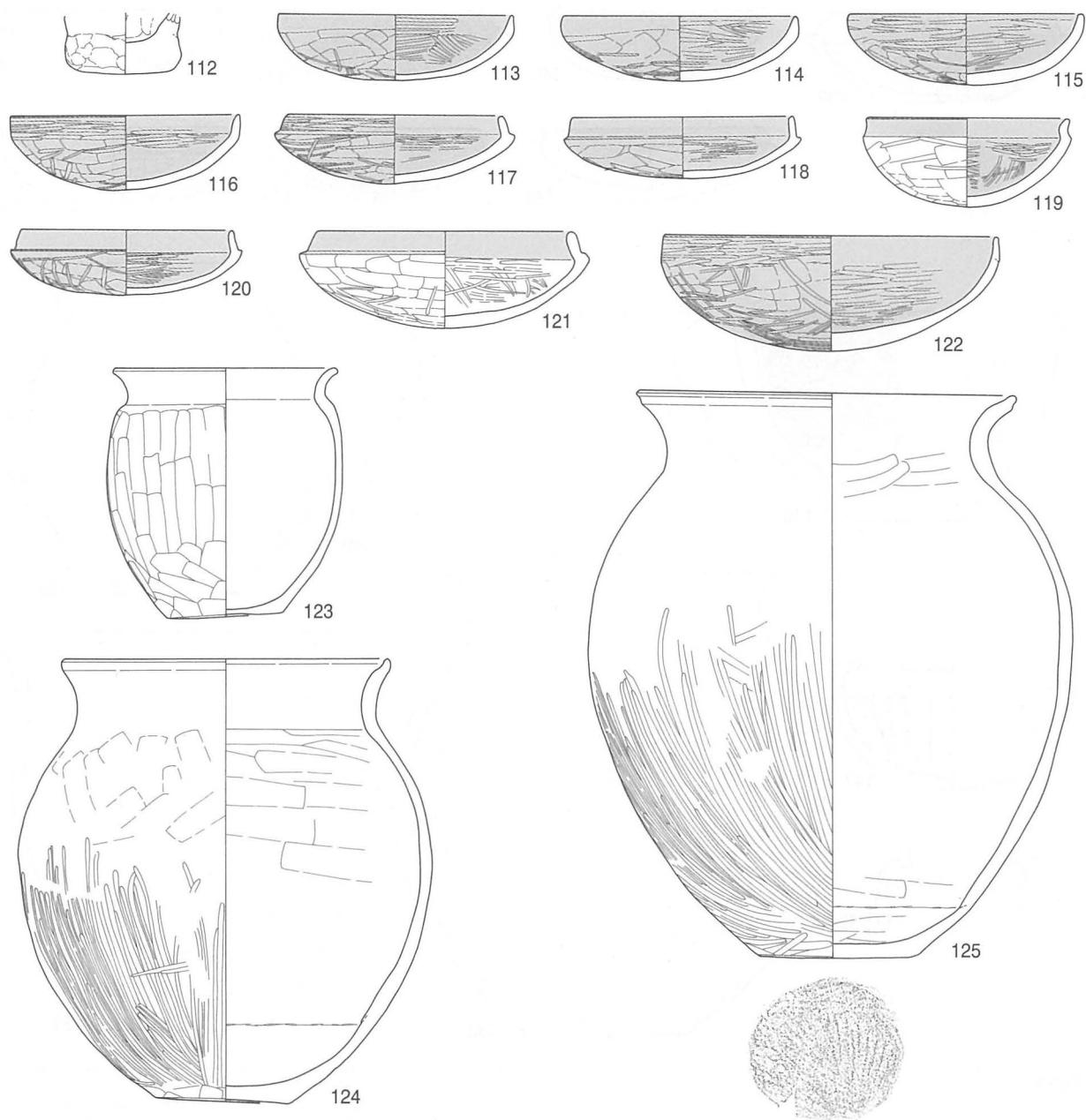
第61図 土器類(4) <SI-004(2)>

SI-004

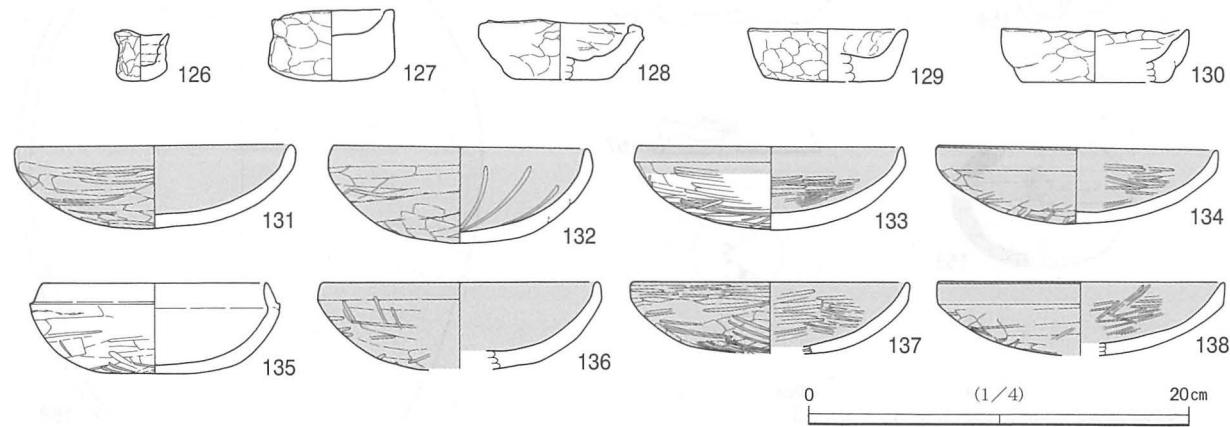


第62図 土器類(5) <SI-004(3)>

SI-005

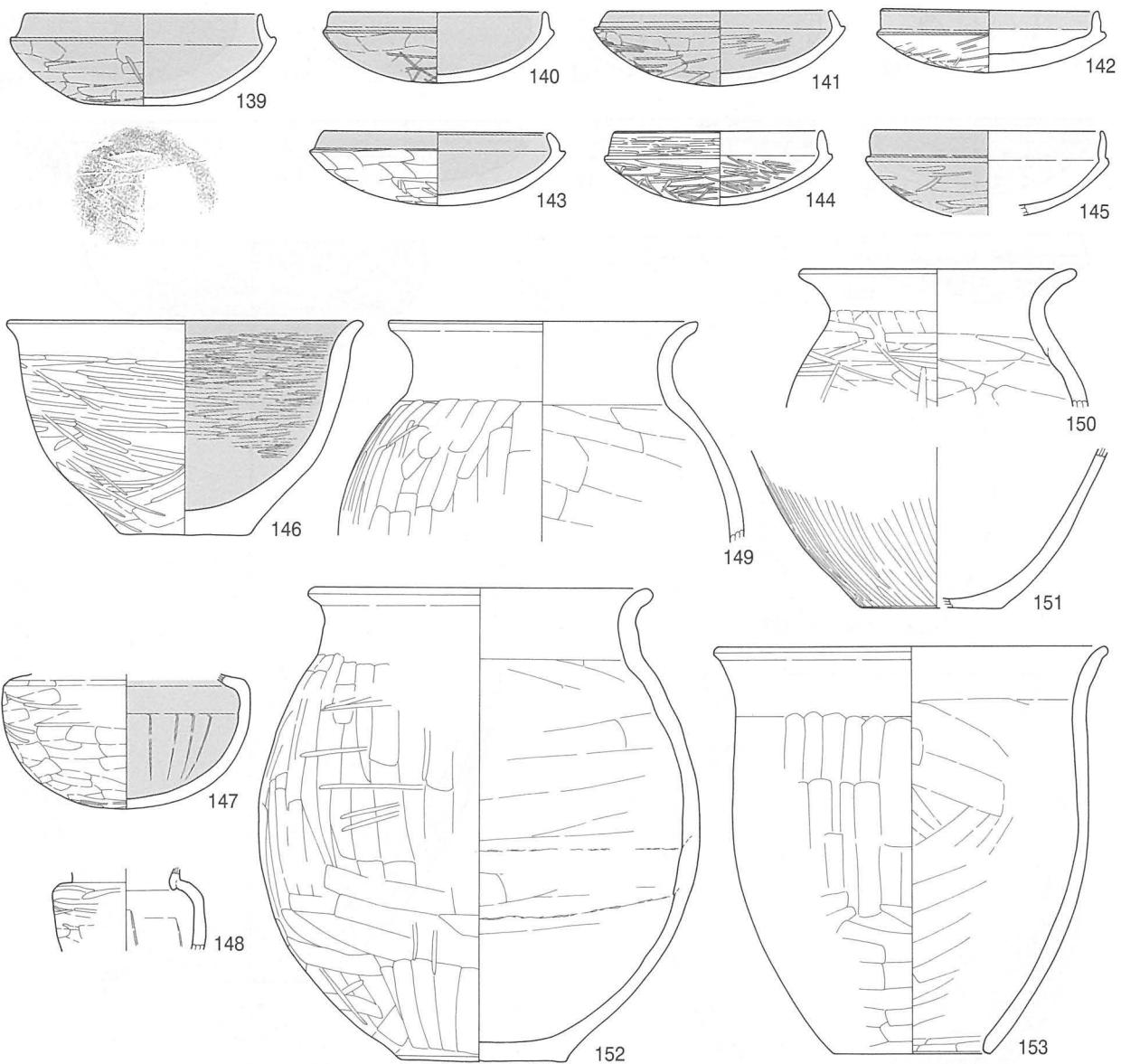


SI-006

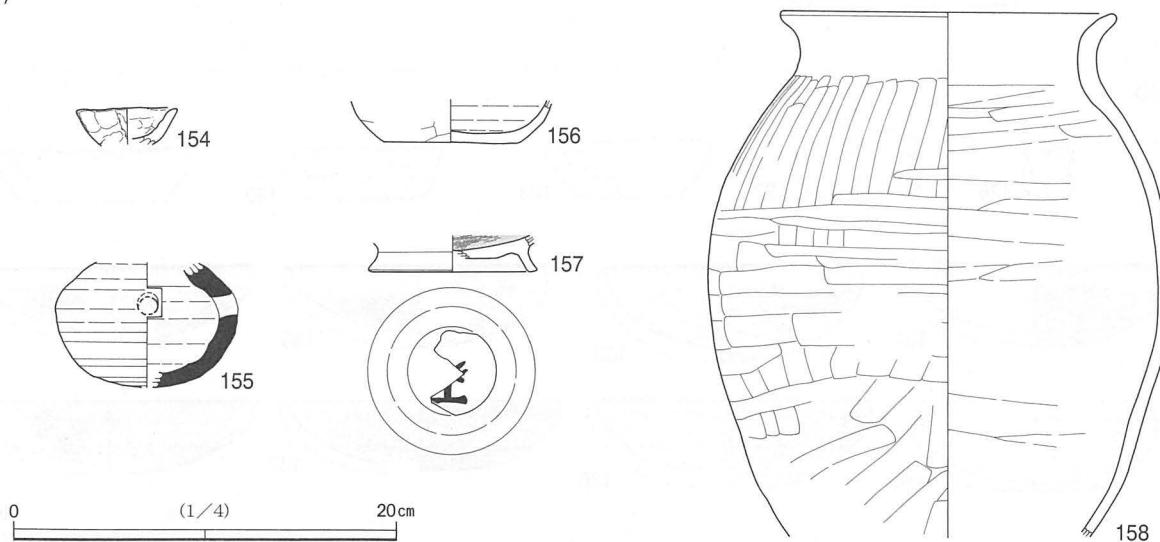


第63図 土器類(6)〈SI-005・SI-006(1)〉

SI-006

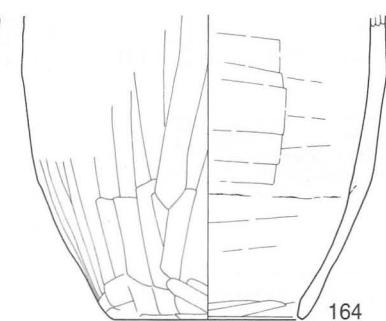
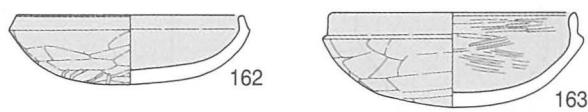


SI-007

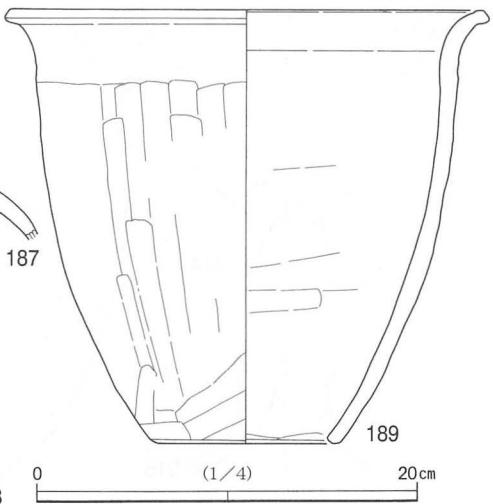
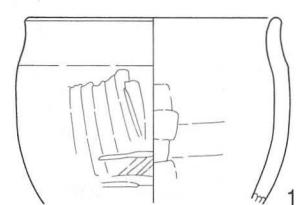
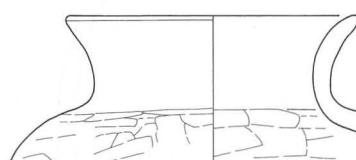
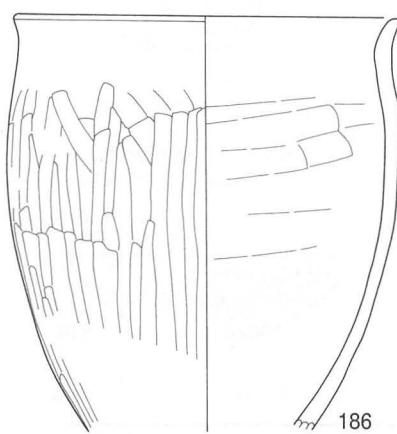
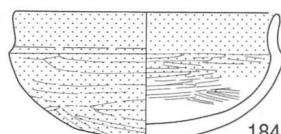
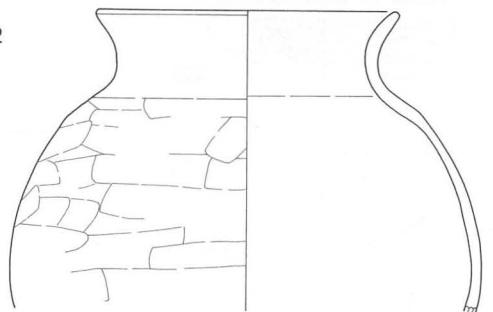
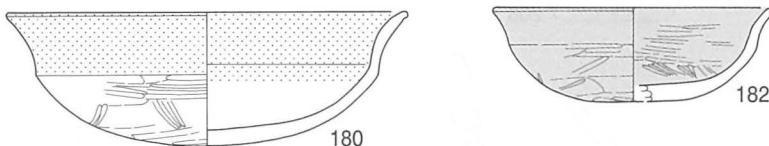
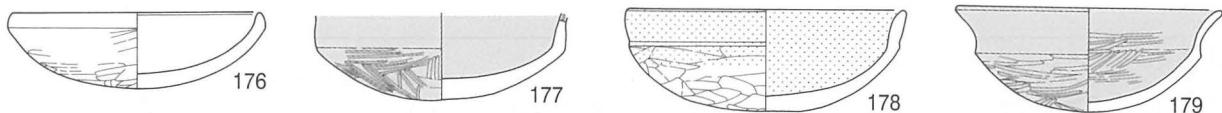
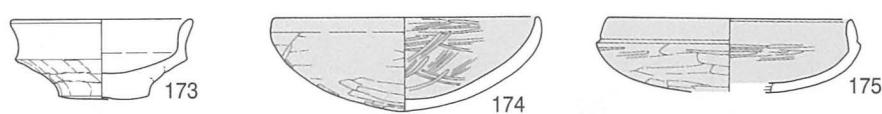
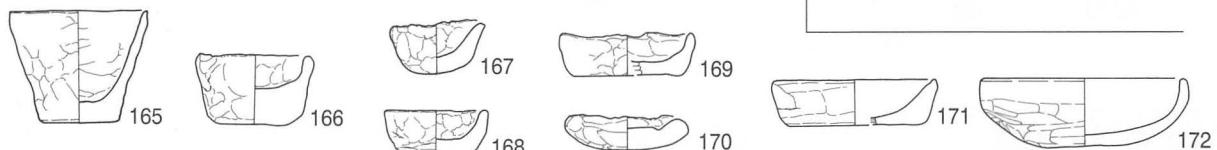


第64図 土器類(7) <SI-006(2)・SI-007>

SI-008

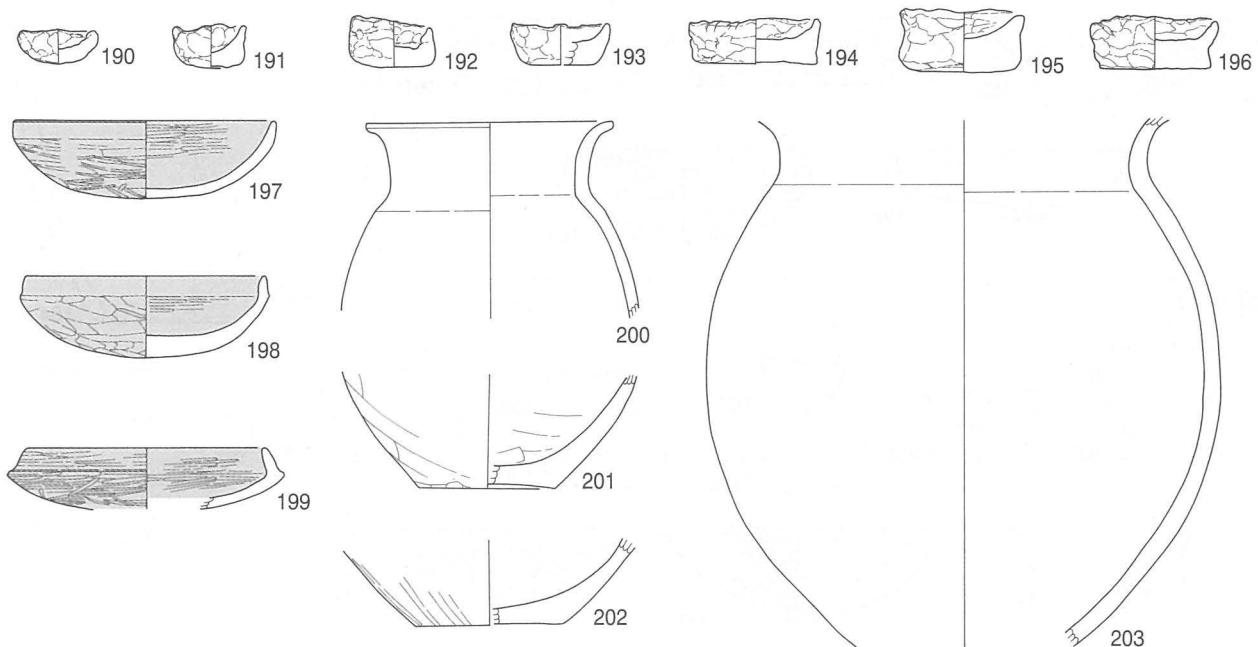


SI-009

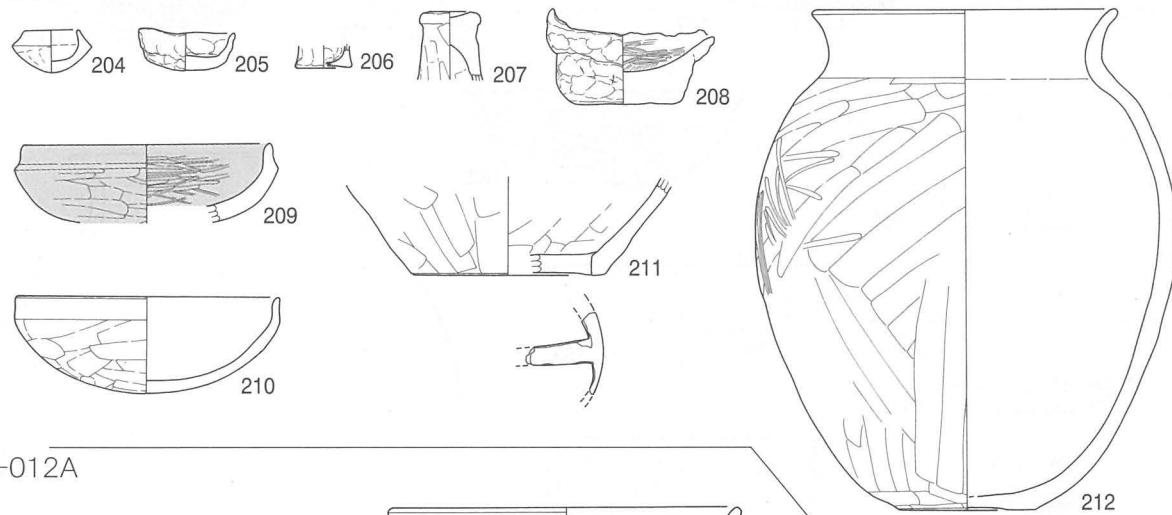


第65図 土器類(8) <SI-008・SI-009>

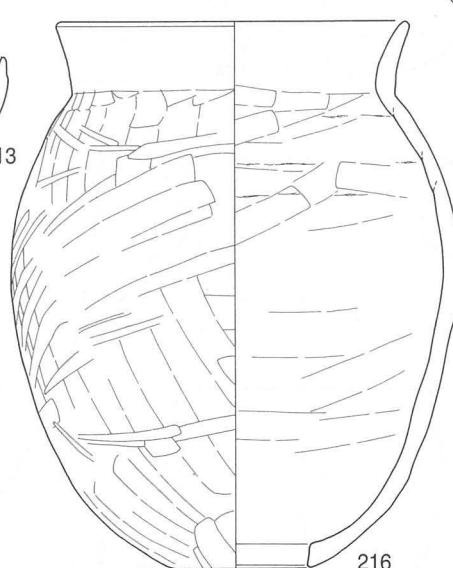
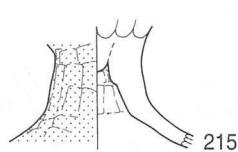
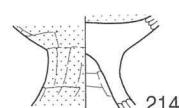
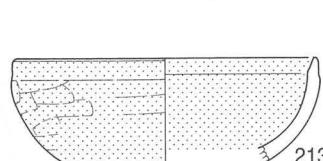
## SI-010



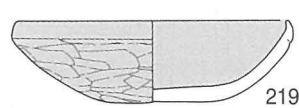
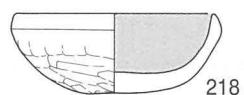
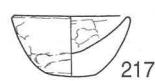
## SI-011



## SI-012A



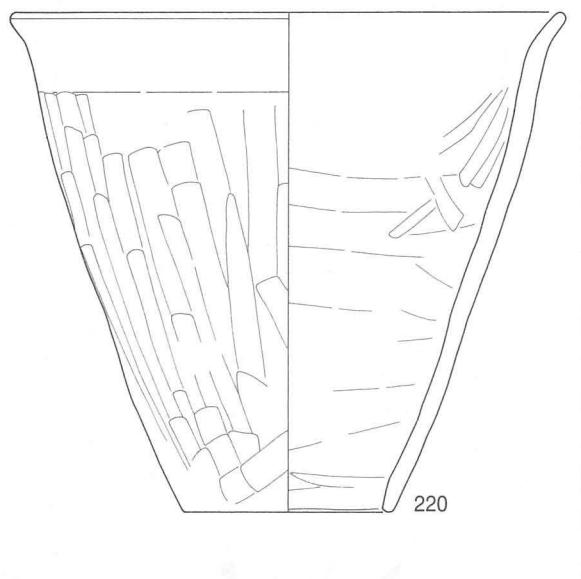
SI-012B



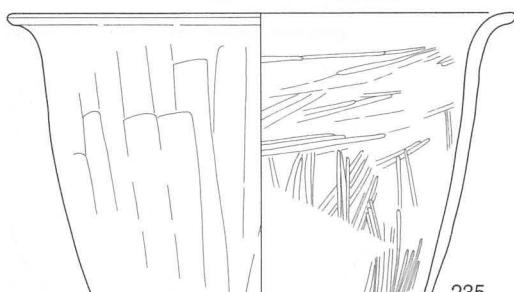
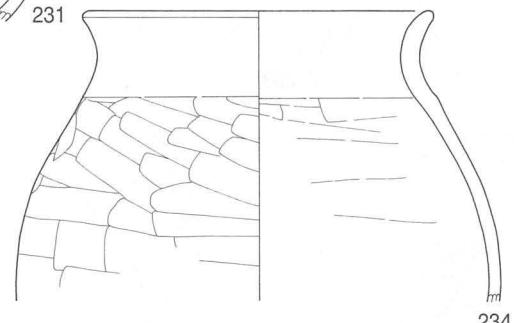
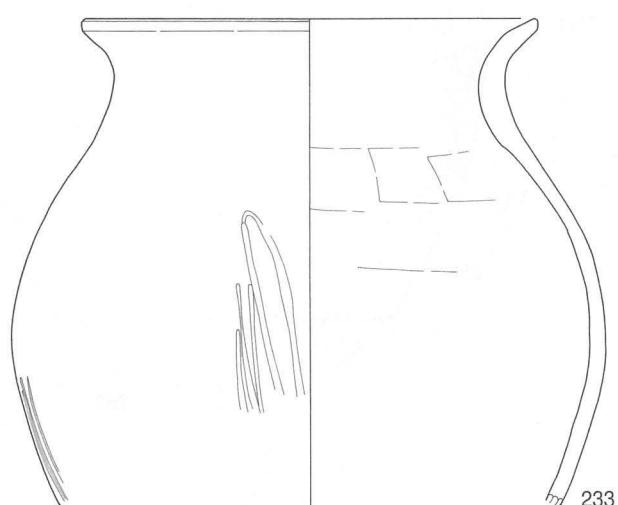
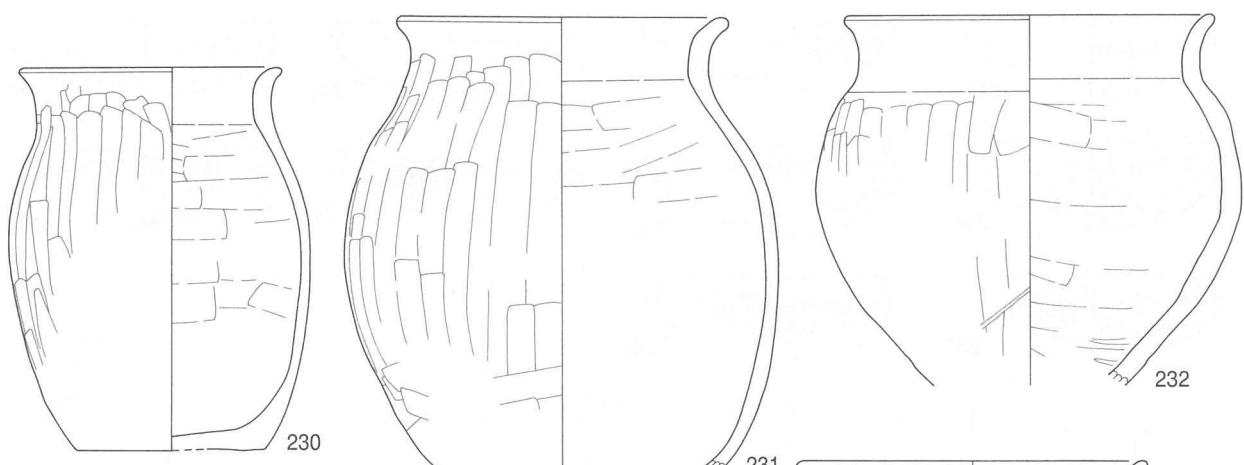
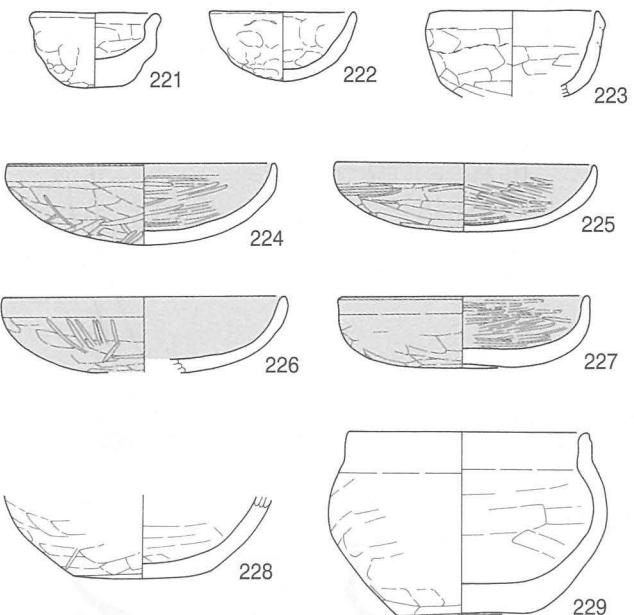
0 (1/4) 20cm

第66図 土器類(9) &lt;SI-010・SI-011・SI-012(1)&gt;

SI-012B



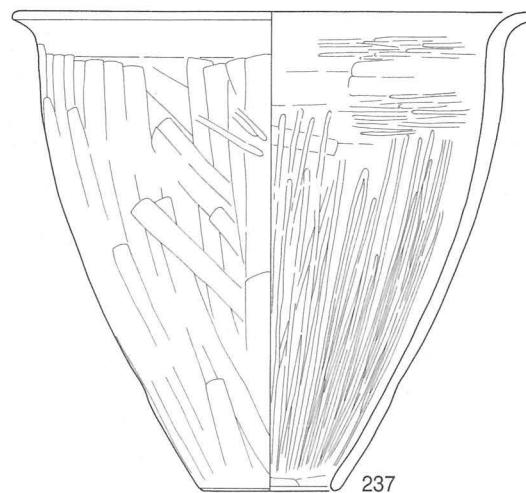
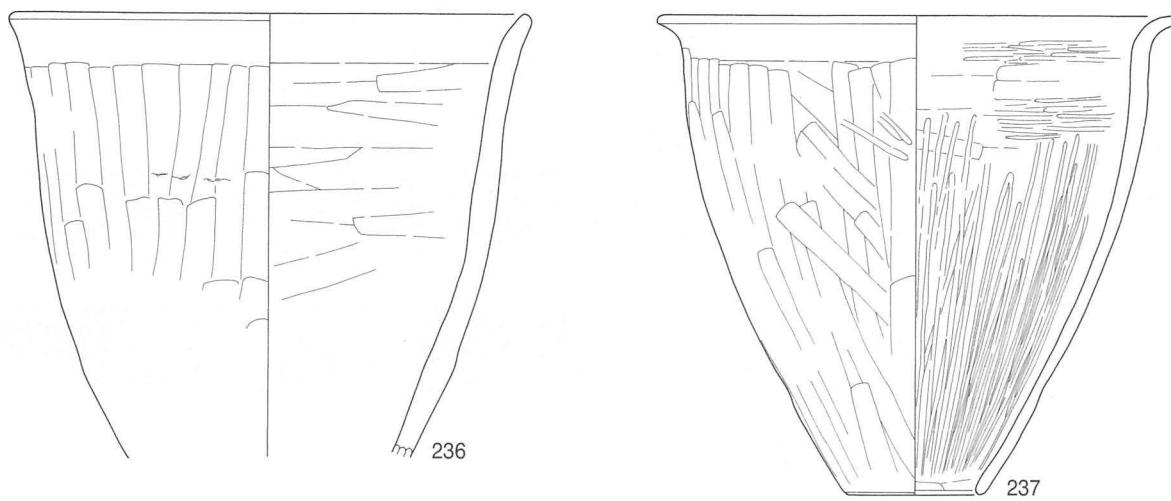
SI-012C



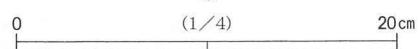
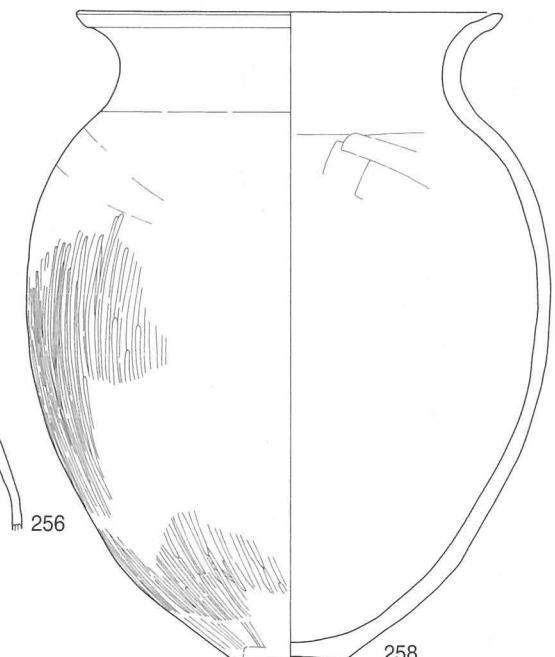
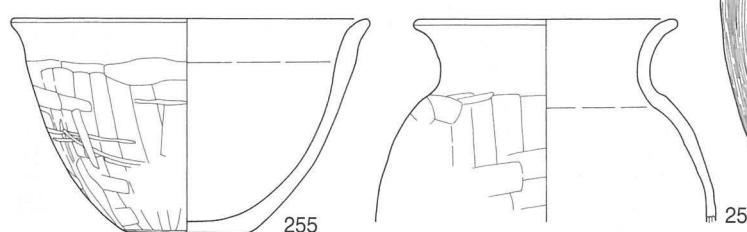
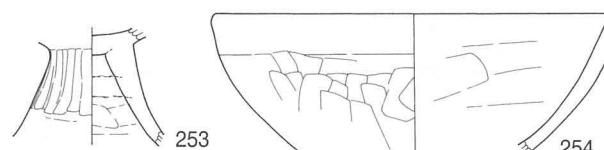
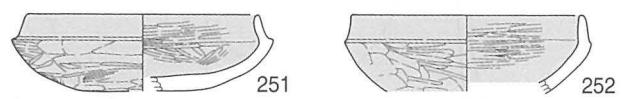
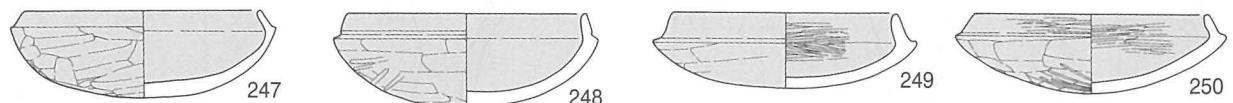
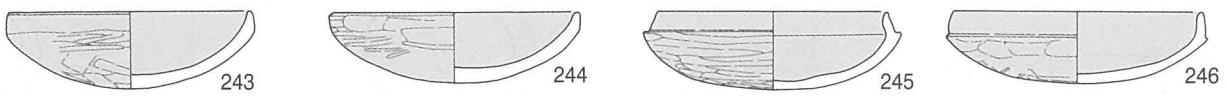
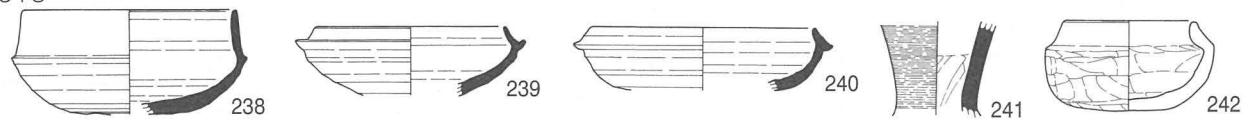
0 (1/4) 20cm

第67図 土器類(10) <SI-012(2)>

SI-012C



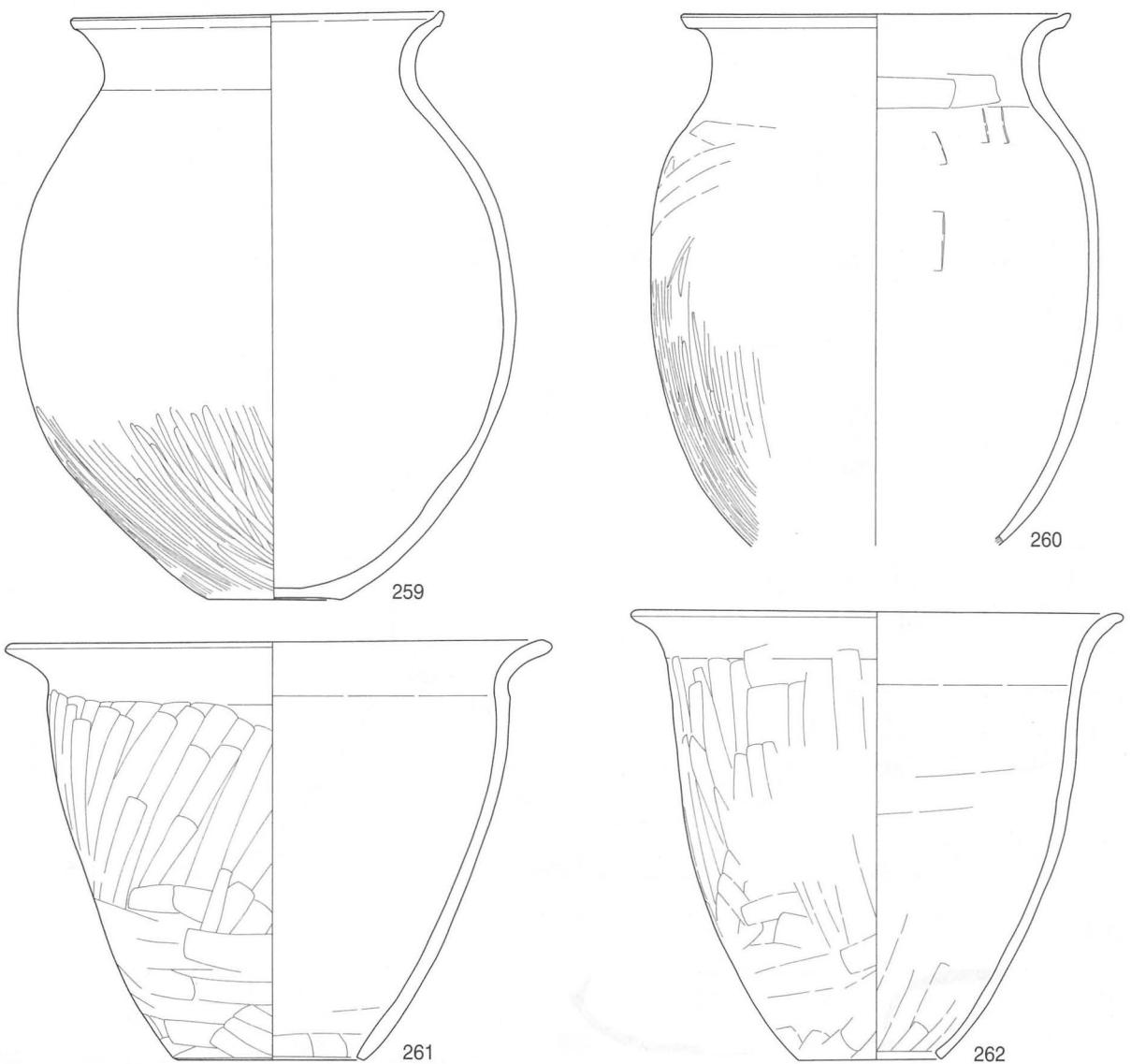
SI-013



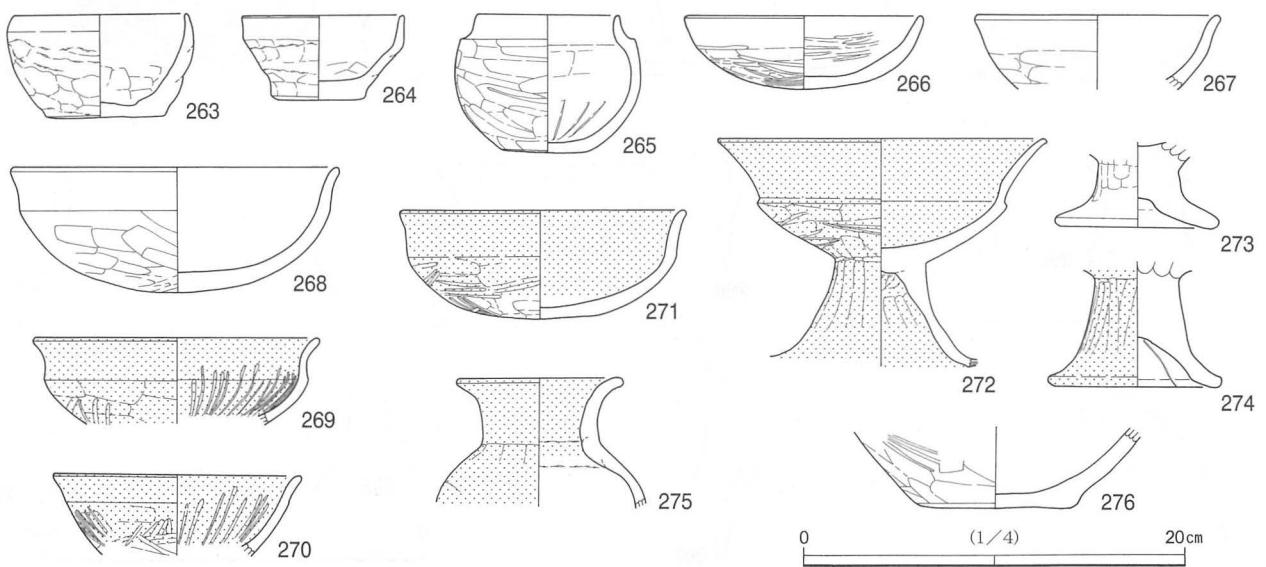
0 (1/4)

第68図 土器類(11) <SI-012(3)・SI-013(1)>

SI-013



SI-014

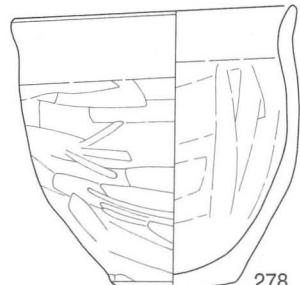


第69図 土器類(12) <SI-013(2)・SI-014(1)>

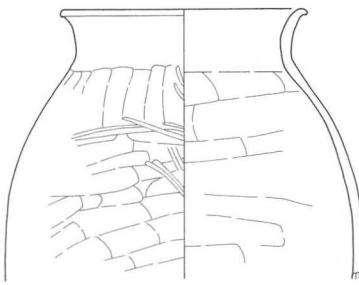
SI-014



277

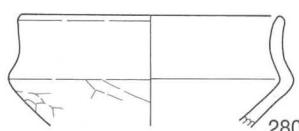


278

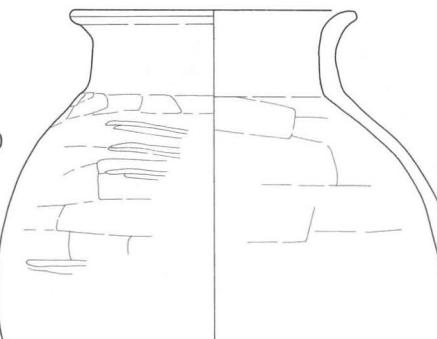


279

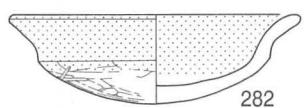
SI-015



280



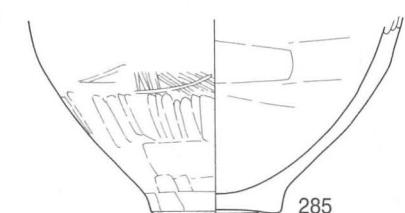
281



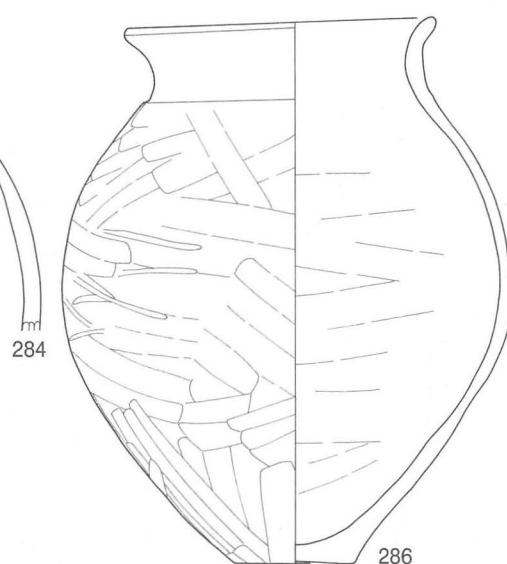
282



283



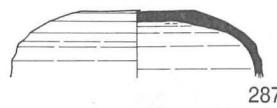
285



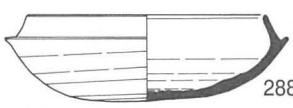
286

284

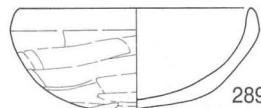
SI-016



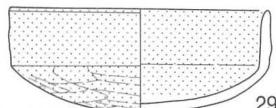
287



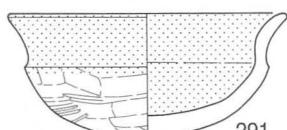
288



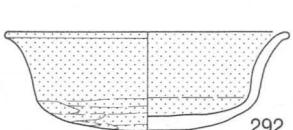
289



290



291



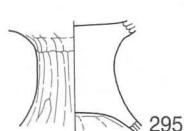
292



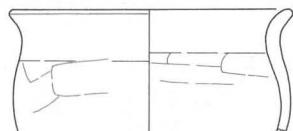
293



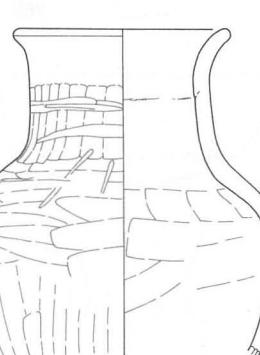
294



295



296

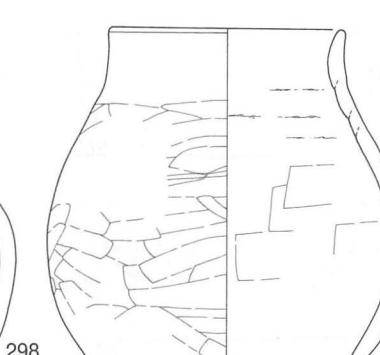


297

0

(1/4)

20cm

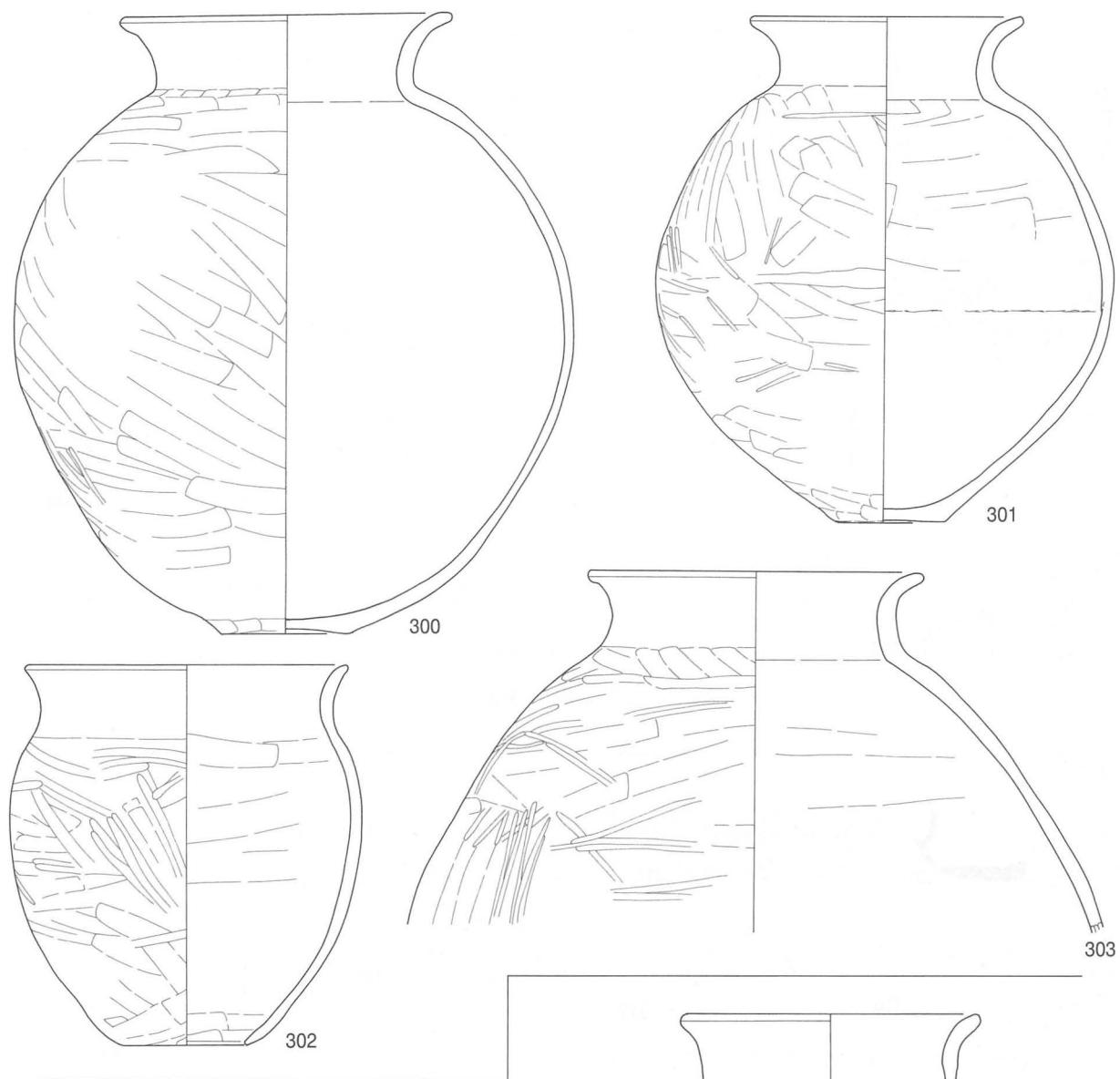


298

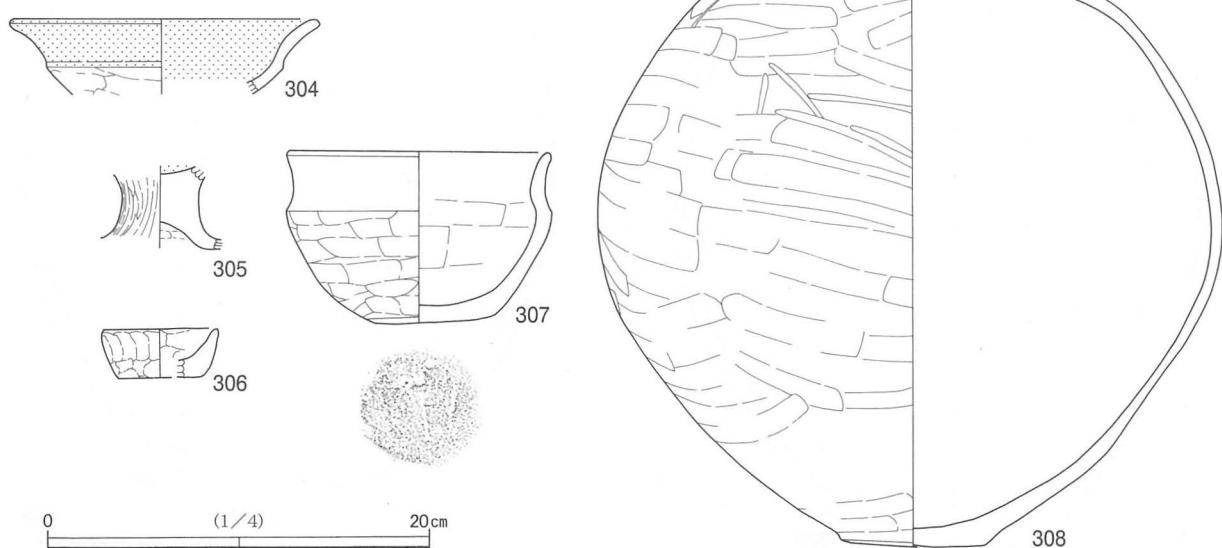
299

第70図 土器類(13) <SI-014(2)・SI-015・SI-016(1)>

SI-016

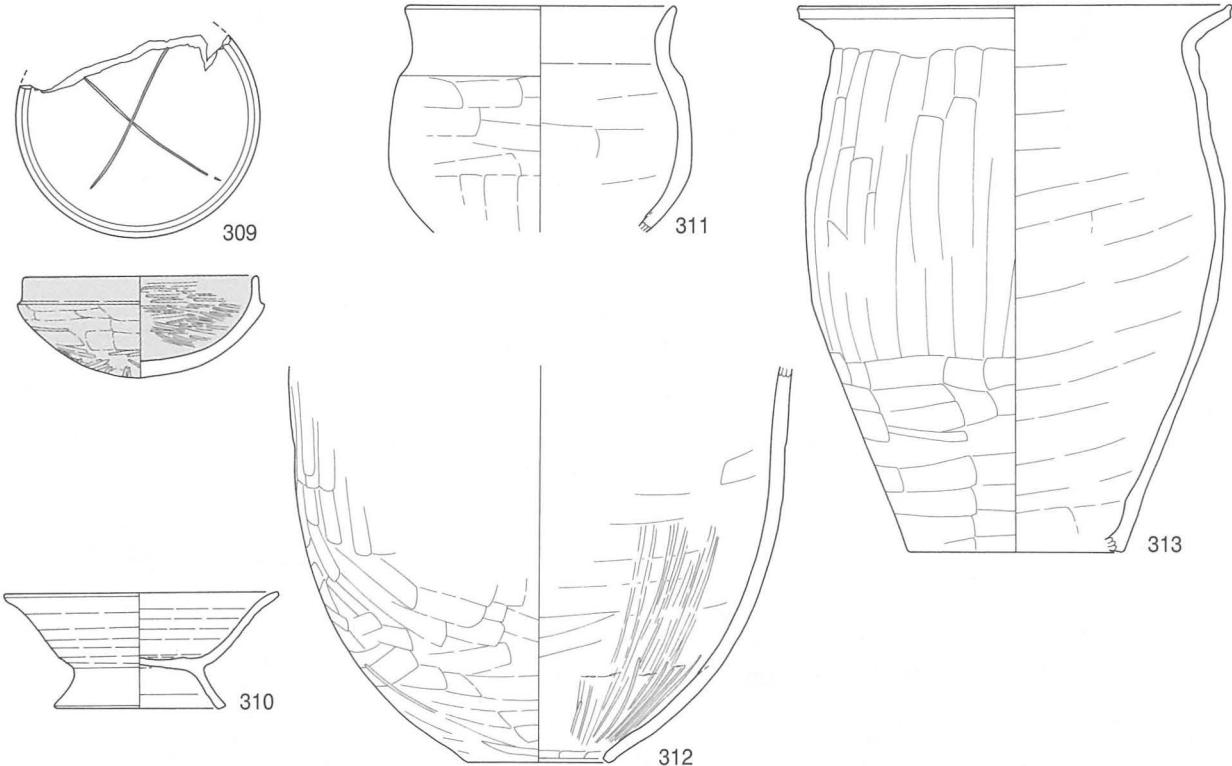


SI-017

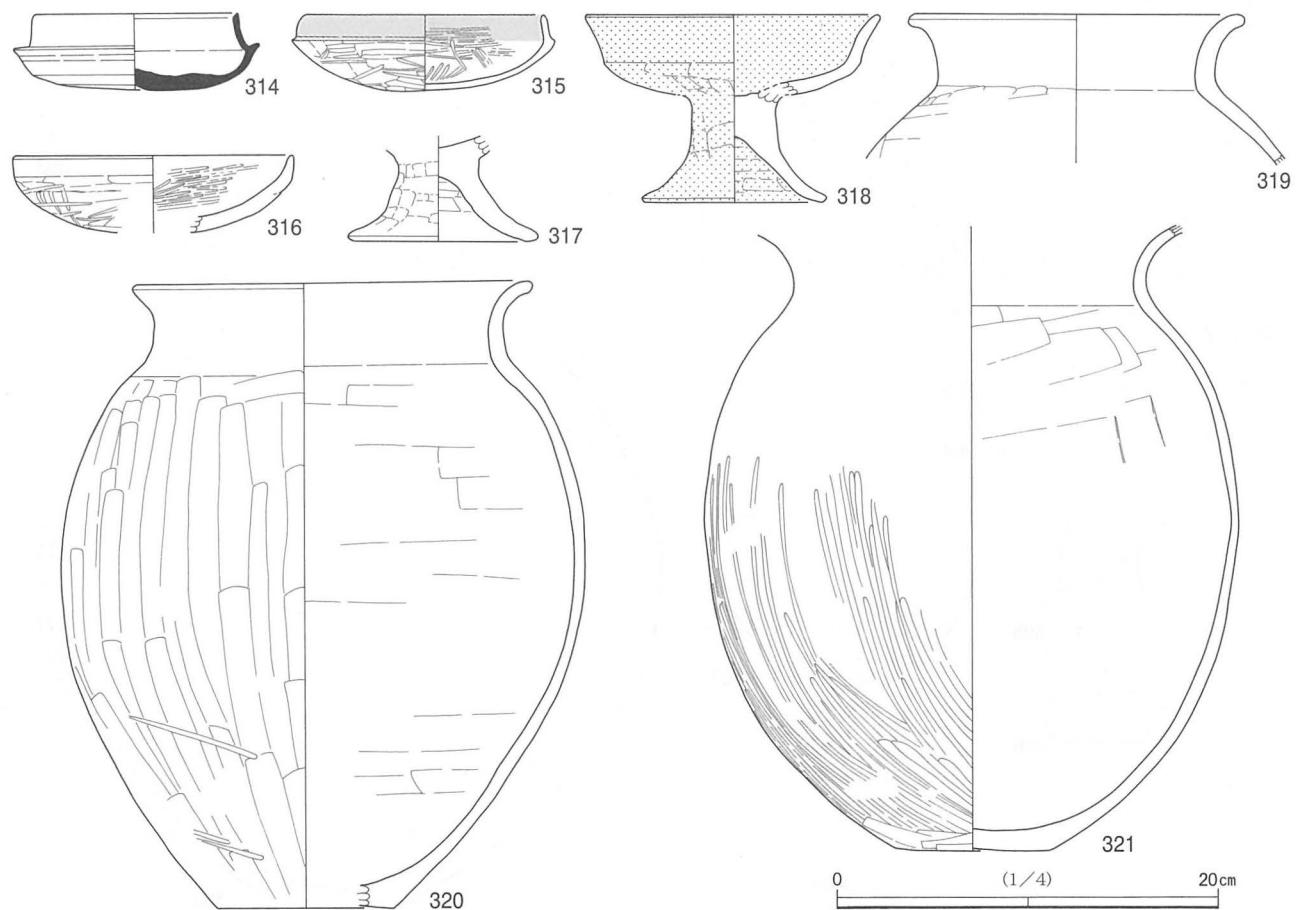


第71図 土器類(14) <SI-016(2)・SI-017>

SI-018

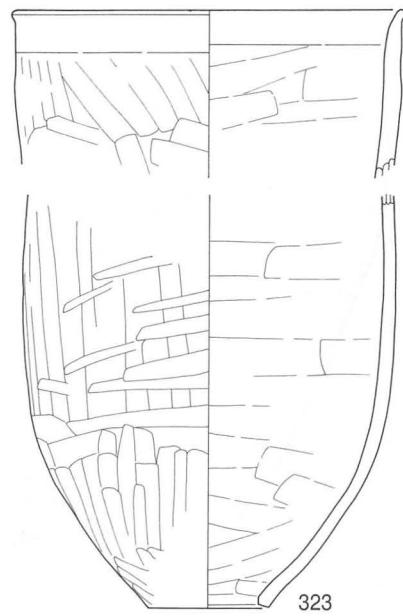
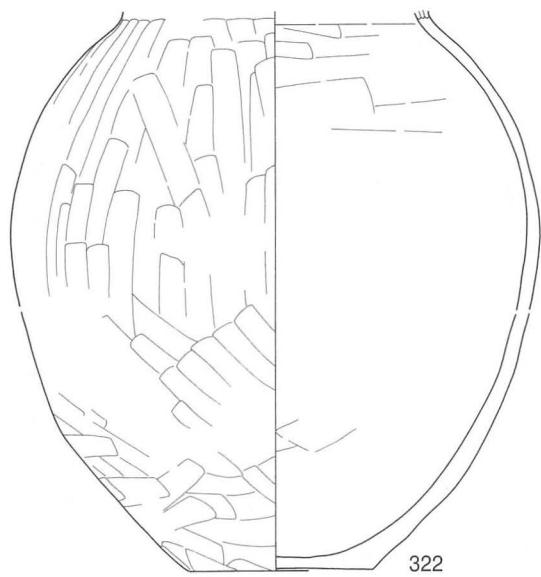


SI-021

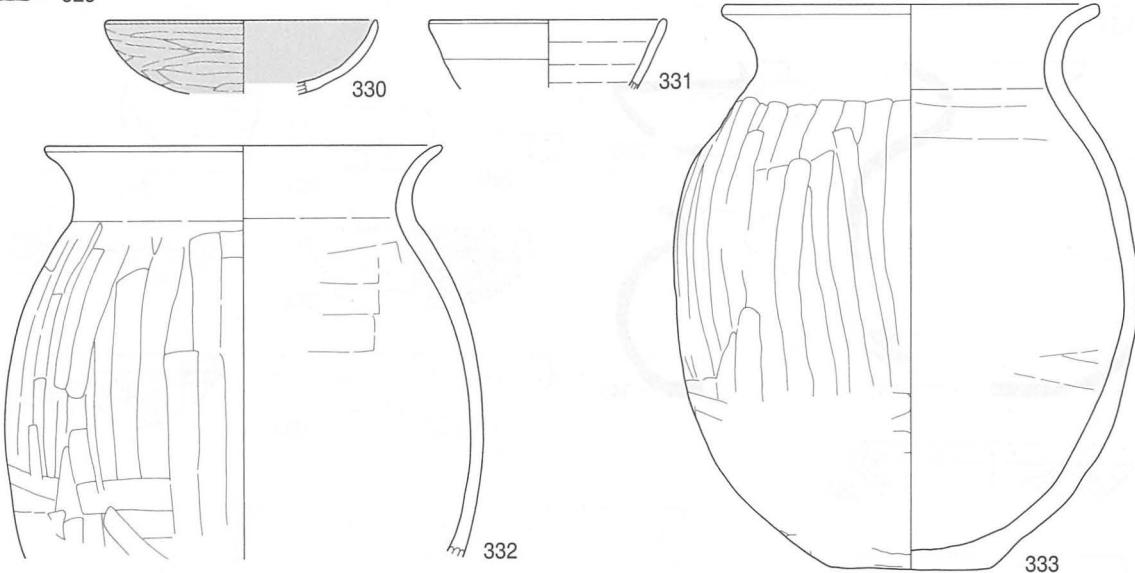
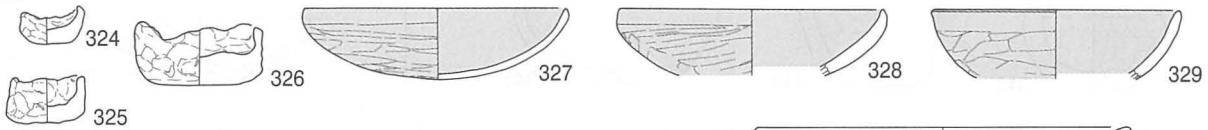


第72図 土器類(15) <SI-018・SI-021(1)>

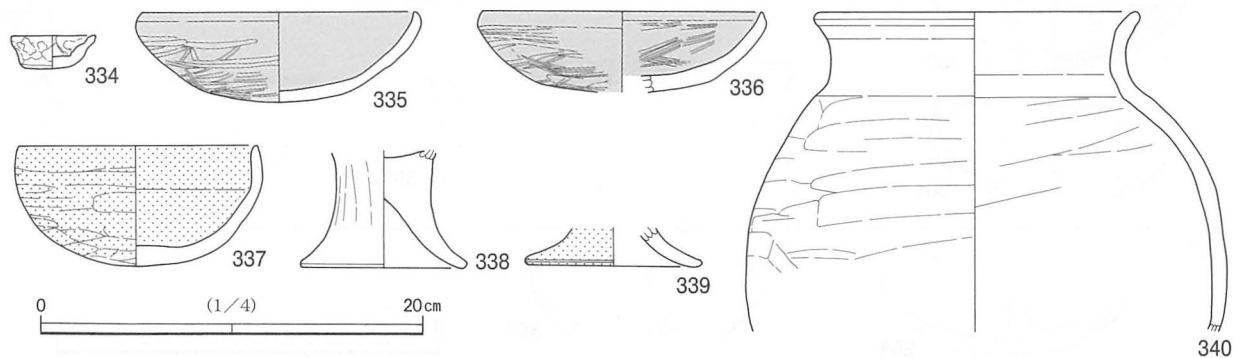
SI-021



SI-022

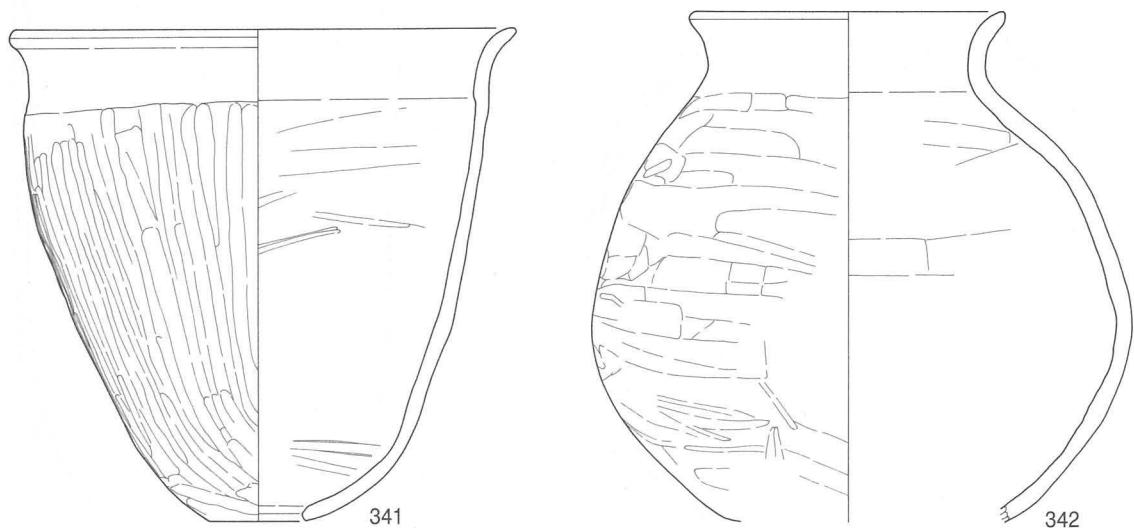


SI-023



第73図 土器類(16) <SI-021(2)・SI-022・SI-023(1)>

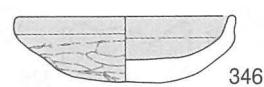
SI-023



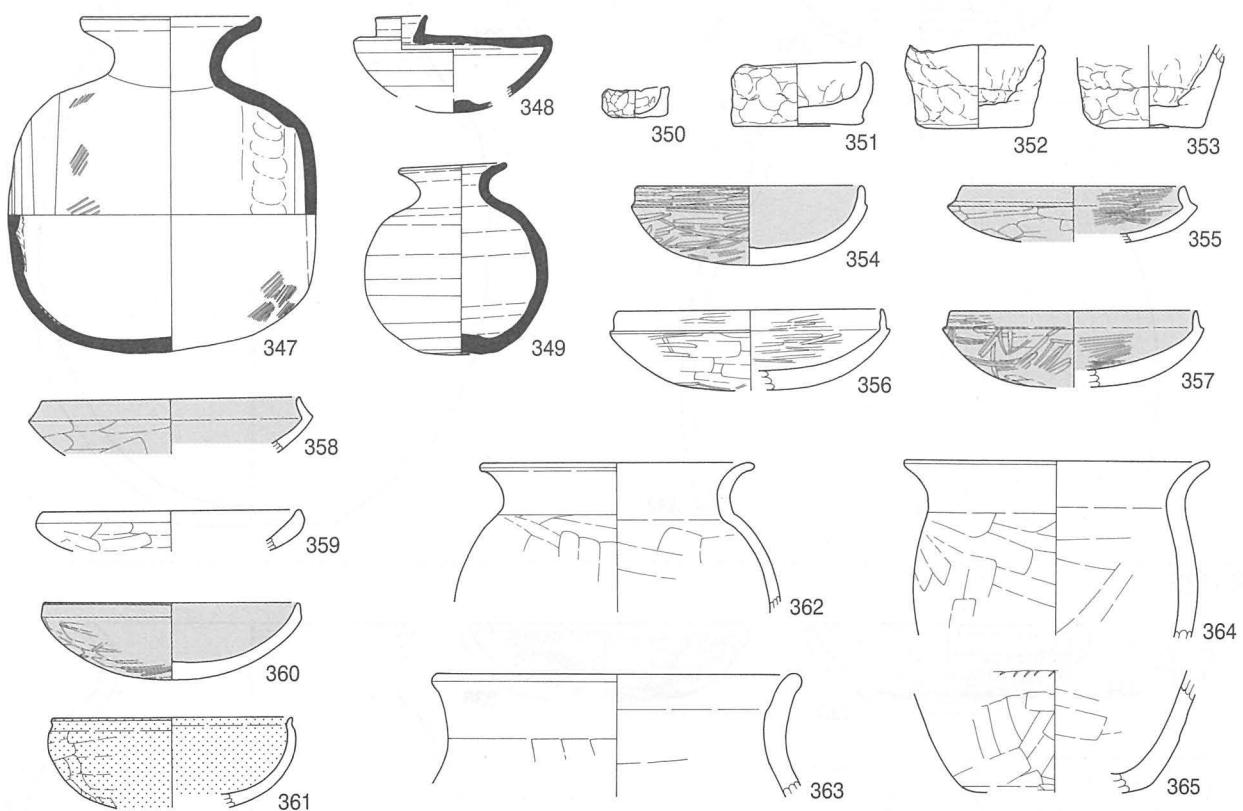
SI-024



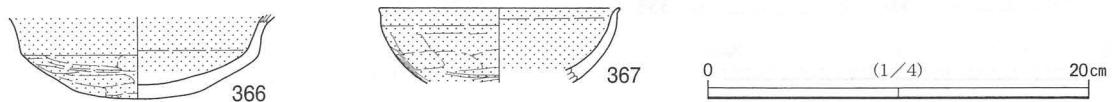
SI-025



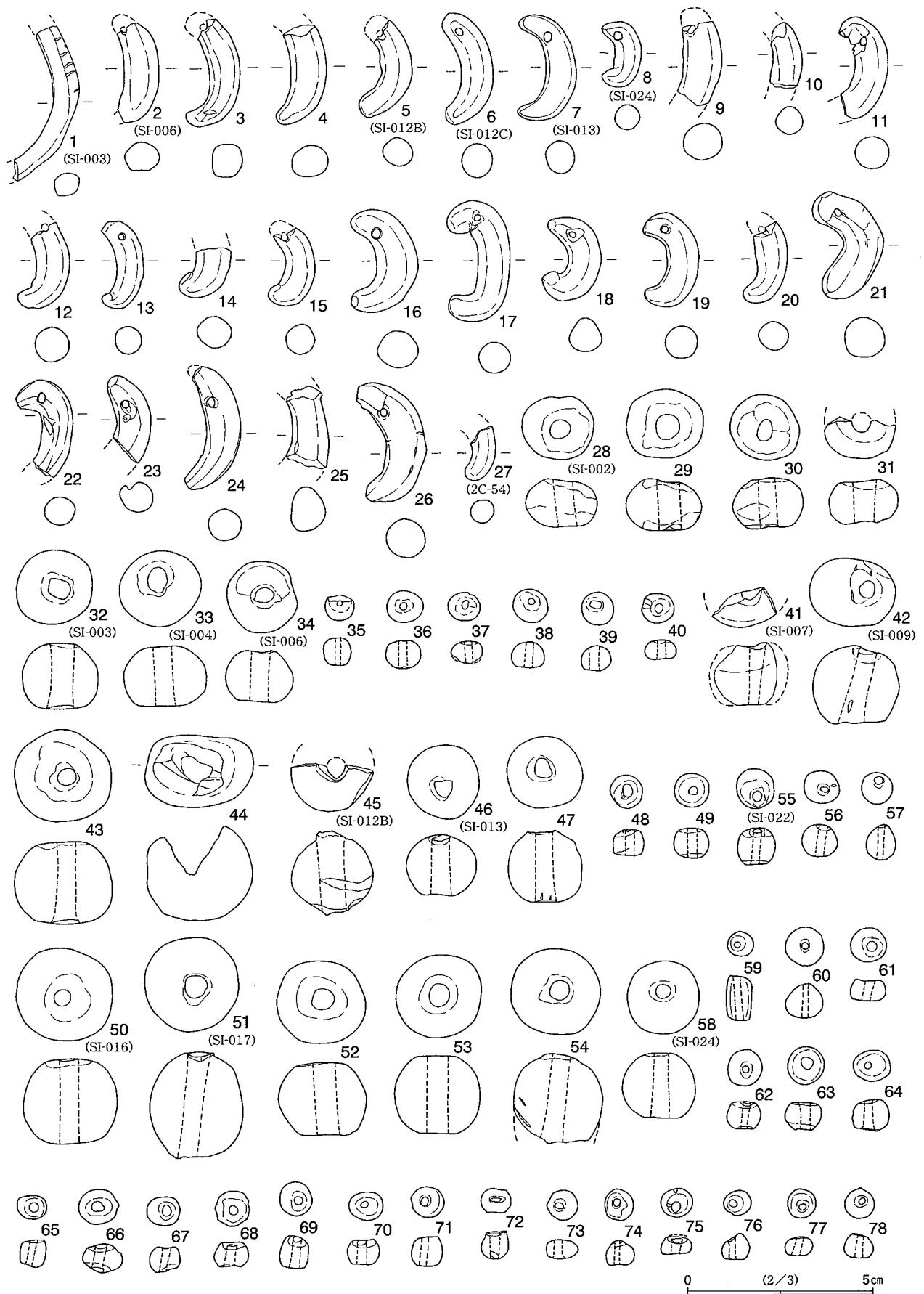
SM-001



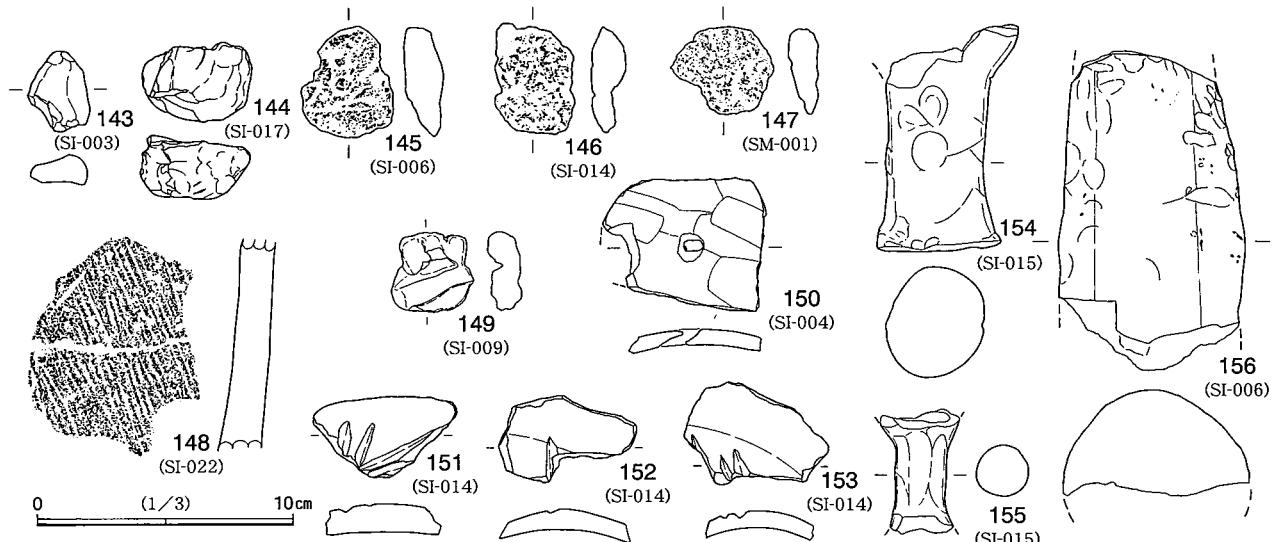
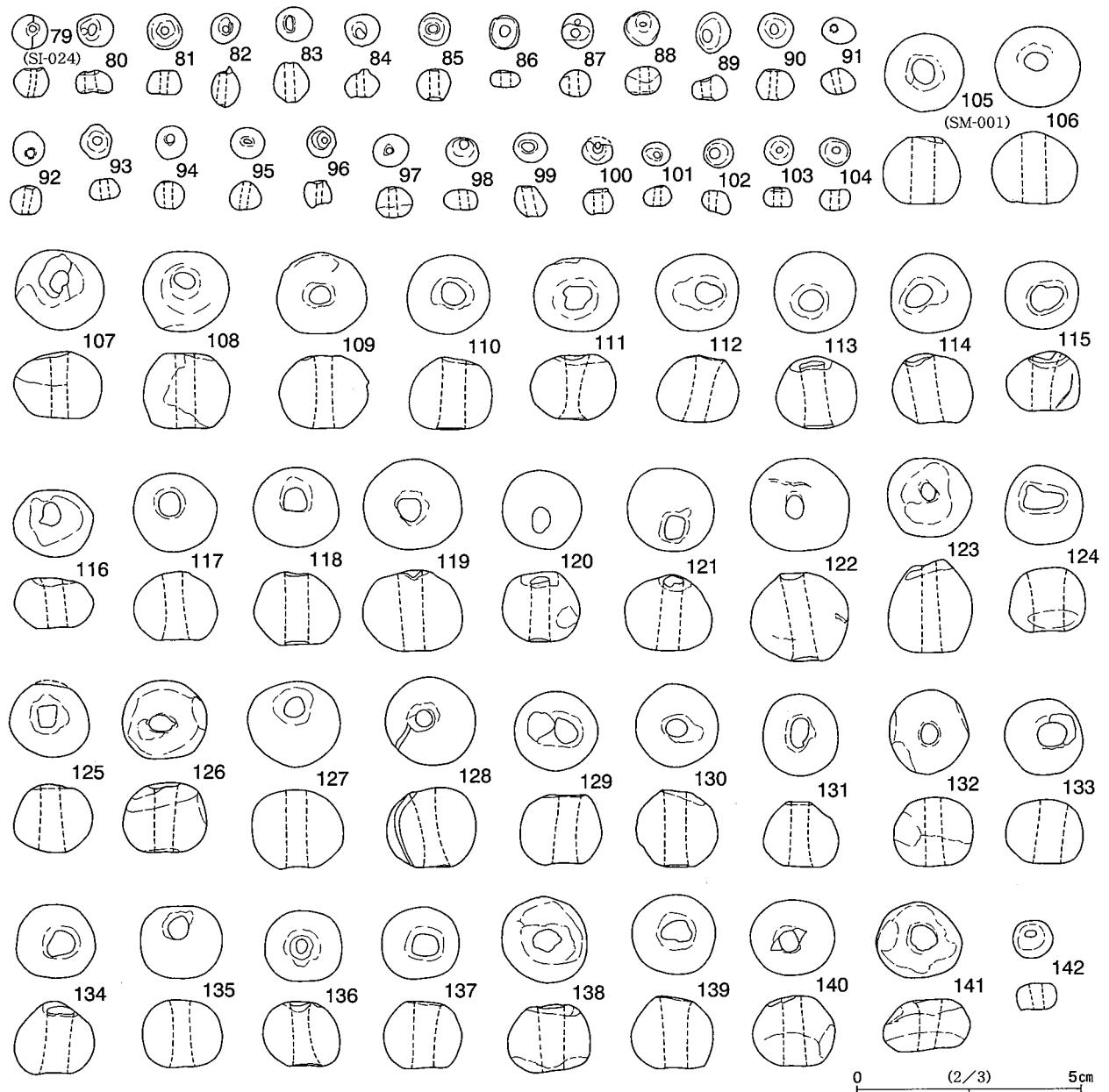
遺構外



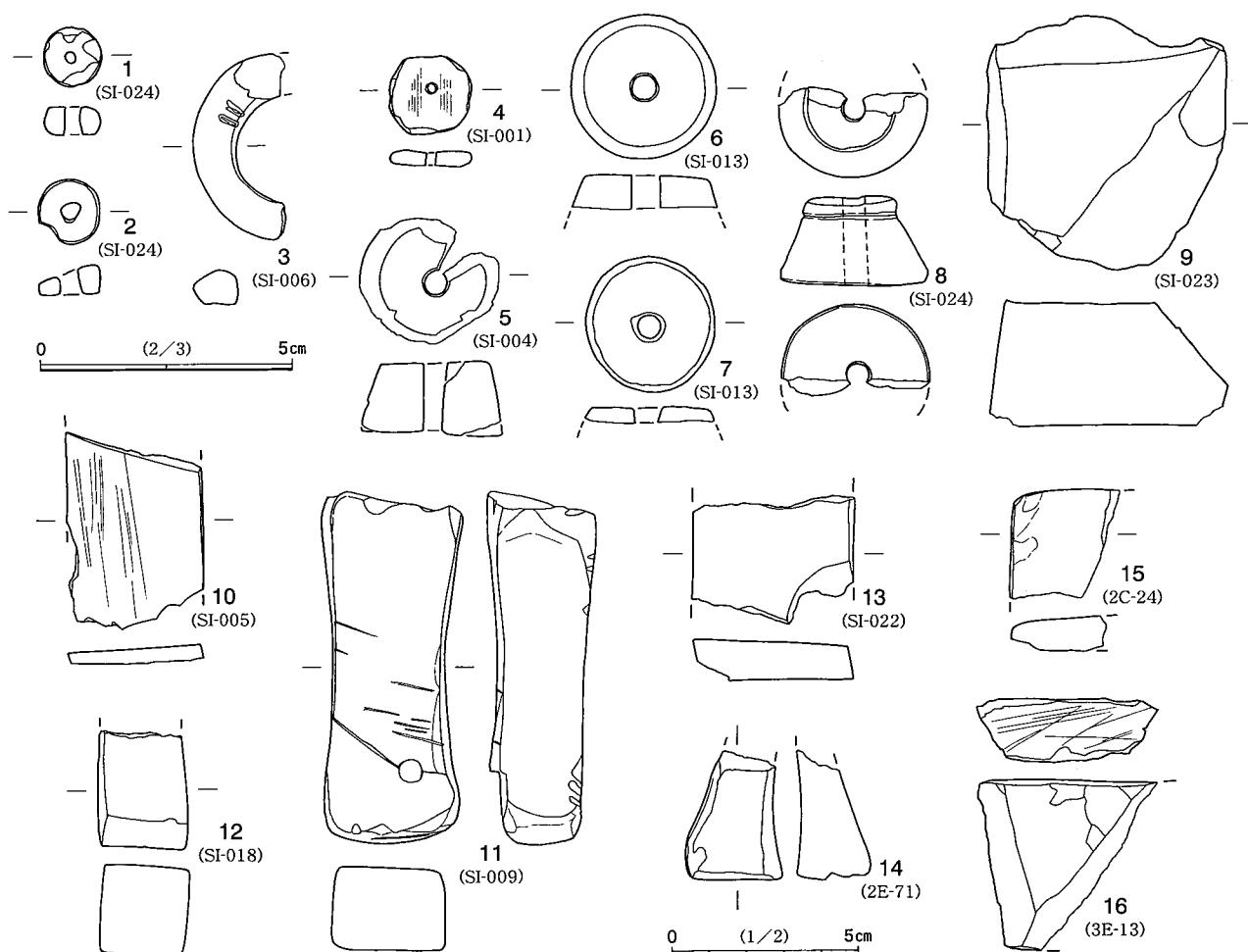
第74図 土器類(17) <SI-023(2)・SI-024・SI-025・SM-001・遺構外>



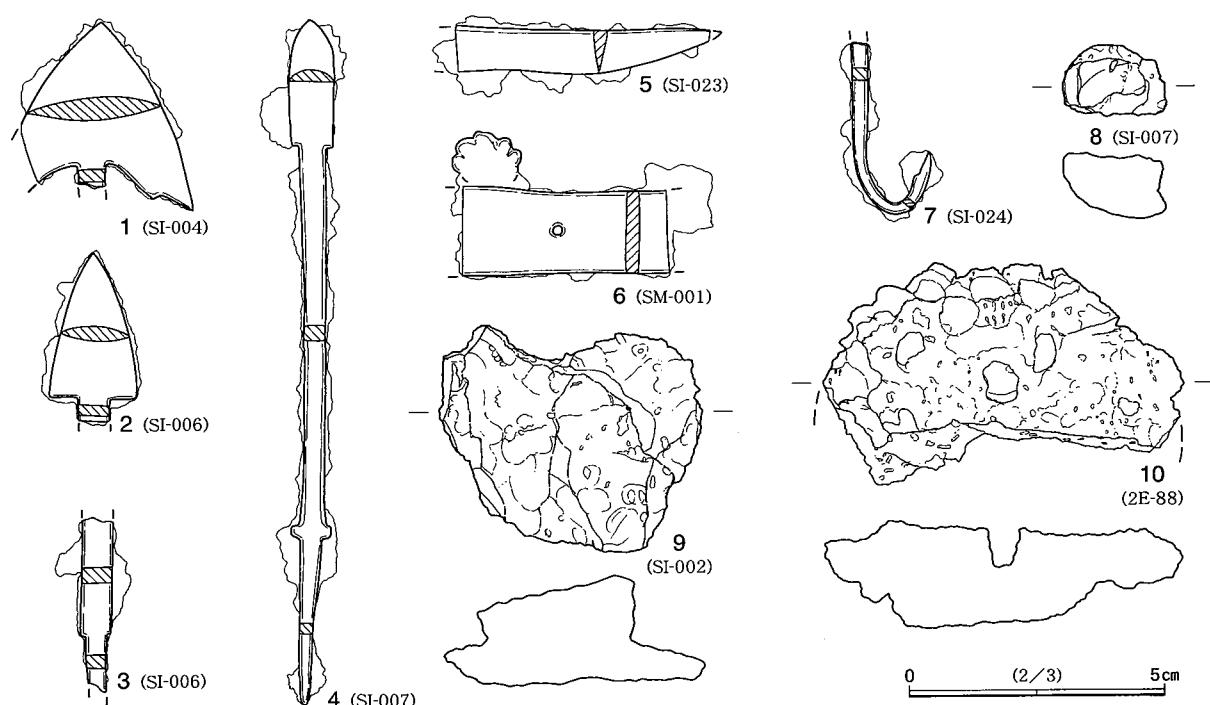
第75図 土製品(1)



第76図 土製品(2)



第77図 石製品



第78図 金属製品

第7表 古墳時代 積穴住居 計測表

- 計測不能 ( ) 推定

遺構No.	位置 (主グリッド)	平面形	カマドの 有無・位置	主軸方向	規模 (m)	床面積 (m <sup>2</sup> )	床面 標高(m)	主柱穴	補助柱穴 (入口等)	貯蔵穴 有無・位置	壁周溝
SI-001	1E-95	方形	(北西壁)	N-30° -W	-×8.7	-	31.648	(4)2	入口1	-	なし
SI-002	2E-17	方形	北西壁中央	N-51° -W	5.08×5.35	27.57	31.965	4	1	北隅	全周
SI-003	2E-48	方形	北西壁中央	N-60° -W	5.26×5.45	28.68	31.818	4	1	北西壁北寄	全周
SI-004	2E-67	方形	北東壁中央	N-38° -E	5.78×5.82	34.61	31.7	4	1	南隅	全周
SI-005	2E-65	方形	北西壁中央	N-54° -W	5.48×5.5	29.05	31.812	4	1	なし	全周
SI-006	3D-48	方形	北西壁中央	N-58° -W	7.64×8.01	59.64	31.665	4	入口1 他3	北西壁北寄	全周
SI-007	3D-66	方形	北西壁中央	N-27° -W	6.28×6.18	38.47	31.113	4	1	北西壁中央寄	全周
SI-008	2E-84	方形	削平(北西壁)	N-42° -W	4.94×4.58	21.74	30.705	4	なし	なし	部分
SI-009	3E-11	方形	北東壁中央	N-37° -E	6.63×6.7	44.09	31.672	4	なし	南隅	全周
SI-010	2E-53	縦長方形	北西壁中央	N-33° -W	(7.8)×6.96	51.89	31.405	4	なし	なし	なし
SI-011	3C-25	方形	北西壁やや北寄	N-34° -W	4.64×(4.32)	19.82	29.51	4	なし	なし	なし
SI-012A	3D-61	縦長方形	削平?	N-42° -W	(5.04)×4.24	20.94	30.678	-	-	南隅	なし
SI-012B	3D-61	方形	削平?	N-42° -W	5.7×5.22	30.87	30.58	(4)2	1	(なし)	なし
SI-012C	3D-61	方形	北西壁中央	N-42° -W	4.44×4.43	19.22	30.137	4	なし	なし	なし
SI-013	3D-25	方形	北西壁中央	N-26° -W	8.5×8.16	71.42	31.223	4	入口1 他4	2(北西壁中央寄, 北東寄)	一部欠
SI-014	3D-87	方形	北壁中央	N-9° -E	-×5.15	-	31.825	(4)2	-	-	なし
SI-015	3D-23	方形	北壁中央	N-15° -E	5.2×5.28	21.54	30.852	4	入口1	南西壁寄	全周
SI-016	3D-74	方形	なし	N-23° -E	5.09×4.84	24.85	31.535	4	なし	2(西壁寄,南壁寄)	なし
SI-017	3C-58	方形	西壁中央	N-76° -W	5.25×5.4	28.46	30.017	4	入口凹み	北東隅	なし
SI-018	2C-77	方形	北壁中央	N-19° -W	6.38×6.32	39.24	30.41	4	なし	北壁北東寄	なし
SI-021	2C-30	方形	なし	N-22° -E	4.82×4.86	23.77	31.058	4	入口1 他3	南東隅	全周
SI-022A	2C-24	方形	北西壁中央	N-50° -W	2.63×2.57	5.81	30.758	4	他3	なし	全周
SI-022B	2C-24	方形	北西壁中央	N-50° -W	5.96×5.98	35.34	30.985	4	他2 不明2	北東隅	一部欠
SI-023	2C-05	方形	(北東壁)	N-42° -E	-	-	30.885	(4)2	入口1 他2	南隅	(全周)
SI-024	2C-12	方形	(北壁)	N-28° -W	-×5.44	-	30.988	(4)2	入口2	-	(全周)
SI-025	2B-17	方形	(北西壁)	N-36° -W	(4.08)×-	-	30.982	-	-	東隅	(全周)

第8表 古墳時代以降 土器類観察表

— 計測不能 &lt; &gt;現存長 ( ) 推定

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	器面調整技法など	備考
1	SI-001	土師器	壺	口径 (12.6) 底径 丸底 器高 4.6	30%	砂粒多量	内面 にぶい黄(2.5Y6/3) 外面 浅黄(2.5Y7/3) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
2	SI-001			口径 12.6 底径 丸底 高 5.0			内面 にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
3	SI-001			口径 (13.4) 底径 丸底 器高 (3.3)			内面 黒色処理?・地:にぶい黄(2.5Y6/4) 外面 黒色処理?・地:にぶい黄(2.5Y6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	底部厚薄い
4	SI-001	土師器	甌	口径 11.0 底径 5.6 器高 (11.0)	80%	砂粒多量、スコリア粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	口縁端部屈曲 しっかり(部分)
5	SI-001			口径 18.7 底径 8.5 器高 (23.5)			内面 にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 ケズリ	
6	SI-001			口径 (20.0) 底径 - 器高 <9.4>			内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ後ミガキ 外面 ケズリ 底外面 -	
7	SI-001	土師器	甌	口径 (21.0) 底径 - 器高 <7.6>	口縁部～胴部上半20% 60%	砂粒	内面 浅黄(2.5Y7/4) 外面 浅黄(2.5Y7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
8	SI-001			口径 18.6 底径 - 器高 <14.1>			内面 浅黄(2.5Y7/4) 外面 橙(7.5YR7/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
9	SI-002	ミニチュア土器		口径 (4.4) 底径 1.2 器高 2.8			内面 にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 良好	内面 輪積後ナデ 外面 指頭圧痕 底外面 指頭圧痕	粘土紐積上成形・椀形
10	SI-002			口径 6.9 底径 6.0 器高 3.8	100%	砂粒	内面 にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 指頭圧痕、輪積痕 底外面 木葉痕	
11	SI-002			口径 (7.3) 底径 6.6 器高 3.6			内面 にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 やや不良	内面 指頭圧痕、明瞭な輪積痕 外面 指頭圧痕 底外面 ナデ	粘土紐積上成形・椀形
12	SI-002	ミニチュア土器		口径 - 底径 4.8 器高 <2.5>	底部～体部 70%	白色砂粒多量	内面 にぶい黄橙(10YR7/4) 外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 焼成 やや不良	内面 ヘラナデ 外面 指頭圧痕 底外面 指頭圧痕	底面いびつ・椀形
13	SI-002			口径 (9.2) 底径 - 器高 <2.4>			内面 にぶい黄橙(10YR7/4) 外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 焼成 良好	内面 粗いヘラナデ 外面 ケズリ、ナデ 底外面 -	
14	SI-002			口径 - 底径 (6.0) 器高 <2.2>			内面 にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 被熱発泡 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ? 底外面 -	
15	SI-002	土師器	壺	口径 13.8 底径 丸底 器高 4.9	95%	砂粒多量	内面 赤彩?・橙(5YR6/6) 外面 赤彩?・橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ケズリ後ナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ、輪積痕 底外面 -	円周状に器面剥れ
16	SI-002			口径 (13.4) 底径 丸底 器高 (4.0)			内面 明褐(7.5YR5/6) 外面 明褐(7.5YR5/6) 焼成 やや不良	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
17	SI-002			口径 14.6 底径 丸底 器高 3.6			内面 黒色処理・地:にぶい黄褐(10YR5/4) 外面 黒色処理・地:にぶい黄褐(10YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ、部分的にミガキ 底外面 -	
18	SI-002	土師器	壺	口径 13.5 底径 丸底 器高 3.7	70%	赤褐色スコリア少量	内面 にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ミガキ 底外面 -	
19	SI-002			口径 12.1 底径 丸底 器高 4.2			内面 黒色処理・地:黄褐(2.5Y5/3) 外面 黒色処理・地:黄褐(2.5Y5/3) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ、部分的にミガキ 底外面 -	
20	SI-002			口径 12.8 底径 丸底 器高 4.1			内面 黒色処理・地:にぶい黄褐(10YR5/3) 外面 黒色処理・地:にぶい黄褐(10YR5/3) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後部分的にミガキ 底外面 -	
21	SI-002	土師器	壺	口径 14.0 底径 丸底 器高 (4.0)	口縁部～体部50%	砂粒	内面 明褐(7.5YR5/6) 外面 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 やや不良	内面 ナデ 外面 ケズリ、輪積痕 底外面 -	
22	SI-002			口径 (14.0) 底径 丸底 器高 4.0			内面 黒色処理・地:にぶい黄褐(10YR5/4) 外面 黒色処理・地:にぶい黄褐(10YR5/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ・ミガキ 外面 ケズリ後部分的にミガキ 底外面 -	
23	SI-002			口径 (21.6) 底径 - 器高 <16.0>			内面 にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
24	SI-002	土師器	甌	口径 - 底径 7.8 器高 <8.1>	底部～胴部 下半100%	砂粒	内面 にぶい黄褐(10YR5/4) 外面 にぶい黄褐(10YR5/4) 焼成 良好	内面 器面剥落 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	器面著しく剥落
25	SI-002			口径 12.7 底径 7.0 器高 12.9			内面 にぶい黄褐(10YR5/3)一部赤みあり 外面 にぶい黄褐(10YR5/3)一部赤みあり 焼成 良好	内面 ヘラナデ、輪積痕(口縁部) 外面 ケズリ 底外面 ケズリ	
26	SI-002			口径 14.6 底径 (7.1) 器高 24.0			内面 明赤褐(5YR5/6) 外面 明赤褐(5YR5/6) 焼成 やや不良	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	胎土自体赤く 発色
27	SI-002	土師器	甌	口径 (28.6) 底径 (9.8) 器高 22.2	30%	砂粒多量	内面 にぶい黄褐(10YR5/4) 外面 にぶい黄褐(10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ、弱いケズリ 外面 ケズリ 底外面 -	形いびつ
28	SI-002			口径 24.8 底径 9.4 器高 21.4			内面 にぶい赤褐(5YR5/4) 外面 にぶい赤褐(5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ ケズリ 外面 ケズリ 底外面 -	

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	器面調整技法など	備考
29	SI-003	ミニチュア土器		口径 4.4 底径 3.9 器高 4.2	80%	砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 指頭圧痕, ヘラナデ・ナデ 底外面 -	手捏・器台形
30	SI-003			口径 7.3 底径 丸底 9.2 器高 2.2			内面 赤彩?・地・橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ 底外面 -	
31	SI-003			口径 (14.9) 底径 丸底 4.1			内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
32	SI-003	土師器	壺	口径 12.8 底径 丸底 5.75 器高 5.75	95%	砂粒多量	内面 明褐色(7.5YR5/6) 外面 明褐色(7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ, 輪積痕 底外面 -	部分的に器面剥離
33	SI-003			口径 13.1 底径 丸底 4.8			内面 黒色処理?・地・橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理?・地・橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ 底外面 -	
34	SI-003			口径 15.2 底径 丸底 4.4			内面 黒色処理・地・橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地・橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
35	SI-003	土師器	壺	口径 (14.3) 底径 丸底 (5.0)	90%	砂粒多量	内面 黒色処理・地・橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地・橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ, 輪積痕 底外面 -	口縁全体摩滅
36	SI-003			口径 11.4 底径 丸底 3.8			内面 黒色処理・地・明赤褐(5YR5/6) 外面 黒色処理・地・明赤褐(5YR5/6) 焼成 やや不良	内面 ナデ・ミガキ 外面 粗いケズリ 底外面 -	
37	SI-003			口径 13.9 底径 丸底 4.4			内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
38	SI-003	土師器	壺	口径 13.8 底径 丸底 (3.8)	85%	微砂粒	内面 黒色処理・地・にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地・にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	口縁所々摩滅・重量感あり
39	SI-003			口径 12.75 底径 丸底 4.6			内面 黒色処理・地・にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 黒色処理・地・にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	
40	SI-003			口径 (12.8) 底径 丸底 4.05			内面 黒色処理・地・にぶい褐(10YR6/3) 外面 黒色処理・地・にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ 底外面 -	
41	SI-003	土師器	壺	口径 13.5 底径 丸底 4.5	90%	赤褐色スコリア粒	内面 黒色処理・地・明赤褐(5YR5/6) 外面 黒色処理・地・明赤褐(5YR5/6) 焼成 やや不良	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	黒色処理の残存良好
42	SI-003			口径 13.05 底径 丸底 4.7			内面 黒色処理・地・明赤褐(5YR5/6) 外面 黒色処理・地・にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ミガキ, ケズリ 底外面 -	
43	SI-003			口径 13.15 底径 丸底 4.35			内面 黒色処理・地・にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 黒色処理・地・にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ・ミガキ 外面 ケズリ 底外面 -	
44	SI-003	土師器	壺	口径 13.8 底径 丸底 5.4	70%	精緻	内面 黒色処理・地・にぶい橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地・にぶい橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	常縞型甕
45	SI-003			口径 13.35 底径 丸底 4.5			内面 黒色処理・地・にぶい橙(5YR6/4) 外面 黒色処理・地・にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
46	SI-003			口径 17.8 底径 丸底 8.4			内面 橙(7.5YR6/6) 外面 にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ナデ後所々ミガキ 外面 ケズリ 底外面 -	
47	SI-003	土師器	大型椀	口径 15.5 底径 丸底 10.0	100%	砂粒多量赤褐色スコリア粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 赤彩・地・橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ハラナデ まだらに器面剥落 外面 輪積痕, ケズリ 底外面 -	内面織維状物質付着
48	SI-003			口径 18.3 底径 丸底 9.0			内面 にぶい赤褐(5YR5/4) 外面 にぶい赤褐(5YR5/4) 焼成 良好	内面 丁寧なヘラナデ 外面 ナデ後ミガキ, ケズリ 底外面 -	
49	SI-003			口径 11.9 底径 丸底 13.8			内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ, 器面剥落 外面 ケズリ 底外面 -	
50	SI-003	土師器	甕	口径 (15.7) 底径 - 器高 <11.7>	100%	砂粒多量赤褐色スコリア粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	胴部以下ゆがみ大きい
51	SI-003			口径 (18.6) 底径 - 器高 <16.6>			内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
52	SI-003			口径 - 底径 7.4 器高 <24.0>			内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 器面著しく剥落 外面 ケズリ後ナデ 底外面 手持ケズリ	
53	SI-003	土師器	甕	口径 15.8 底径 6.7 器高 17.1	100%	白色砂礫多量	内面 明褐色(7.5YR5/6) 外面 明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ まだらに器面剥落 外面 ケズリ 底外面 -	常縞型甕
54	SI-003			口径 24.0 底径 7.9 器高 18.5			内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ, ケズリ 外面 ケズリ 底外面 -	
55	SI-004	ミニチュア土器		口径 3.2 底径 丸底 2.4	100%	砂粒	内面 明褐(7.5YR5/6) 外面 明褐(7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 -	手捏・椀形
56	SI-004			口径 (15.4) 底径 丸底 4.7			内面 灰(10Y6/1) 外面 灰(10Y6/1) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ, 回転ケズリ 底外面 -	
57	SI-004			口径 12.6 底径 丸底 4.8			内面 赤彩・地・明赤褐(5YR5/6) 外面 赤彩・地・明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ後部分的ミガキ 底外面 -	

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理) 焼成	器面調整技法など	備考
58	SI-004	土師器	壺	口径 11.7 底径 丸底 器高 5.5	70%	砂粒微量	内面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なミガキ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
59	SI-004	土師器	壺	口径 9.6 底径 丸底 器高 3.7	95%	砂粒	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ(底部意識)	
60	SI-004	土師器	壺	口径 14.1 底径 丸底 器高 5.0	80%	砂粒	内面 赤彩・地:明赤褐(5YR5/6) 外面 赤彩・地:明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
61	SI-004	土師器	壺	口径 11.6 底径 丸底 器高 4.5	90%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ 底外面 -	
62	SI-004	土師器	壺	口径 13.4 底径 丸底 器高 4.3	50%	白色微砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
63	SI-004	土師器	壺	口径 12.0 底径 丸底 器高 5.0	55%	精緻	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
64	SI-004	土師器	壺	口径 13.8 底径 丸底 器高 4.4	80%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ミガキ,ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
65	SI-004	土師器	壺	口径 10.4 底径 丸底 器高 5.2	100%	砂粒多量	内面 赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後所々ナデ 底外面 -	
66	SI-004	土師器	壺	口径 (13.4) 底径 丸底 器高 <4.5>	口縁部～体部40%	微砂粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ミガキ 底外面 -	
67	SI-004	土師器	壺	口径 (13.1) 底径 丸底 器高 <4.4>	口縁部～体部35%	精緻	内面 黒色処理・地:にぶい黄橙(10YR7/2) 外面 黒色処理・地:にぶい黄橙(10YR7/2) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
68	SI-004	土師器	高壺	口径 13.6 底径 丸底 器高 (4.6)	30%	精緻	内面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ,器面摩滅気味 底外面 -	黒色処理不明瞭
69	SI-004	土師器	壺	口径 13.1 底径 丸底 器高 <4.0>	口縁部～体部50%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ・ナデ 外面 ケズリ一部ミガキ 底外面 -	
70	SI-004	土師器	壺	口径 (12.6) 底径 丸底 器高 <3.7>	口縁部～体部30%	砂粒	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
71	SI-004	土師器	壺	口径 12.8 底径 丸底 器高 5.35	80%	砂粒多量	内面 赤彩・地:明赤褐(5YR5/6) 外面 赤彩・地:明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
72	SI-004	土師器	壺	口径 15.2 底径 丸底 器高 4.9	95%	砂粒	内面 赤彩・にぶい褐(7.5YR5/4) 外面 赤彩・にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
73	SI-004	土師器	壺	口径 15.0 底径 丸底 器高 5.3	85%	白色微砂粒多量	内面 黒色処理・地:明黄褐(10YR6/6) 外面 黒色処理・地:明黄褐(10YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ミガキ 底外面 -	黒色処理まだらに残存
74	SI-004	土師器	壺	口径 14.2 底径 7.25 器高 5.5	95%	砂粒多量	内面 明褐(7.5YR5/6) 外面 明褐(7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 ケズリ後ミガキ	
75	SI-004	土師器	壺	口径 12.9 底径 丸底 器高 5.55	95%	砂粒多量	内面 赤彩・地:にぶい橙(5YR6/4) 外面 赤彩・地:にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	(内面)一部剥落 気味
76	SI-004	土師器	壺	口径 14.7 底径 丸底 器高 5.95	95%	砂粒	内面 赤彩・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 赤彩・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ後底部ミガキ 底外面 -	
77	SI-004	土師器	壺	口径 14.8 底径 丸底 器高 5.5	95%	砂粒	内面 赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
78	SI-004	土師器	壺	口径 13.8 底径 丸底 器高 4.9	50%	砂粒少量	内面 赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 器面剥落 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 ケズリ(底部意識)	外面の赤彩はほとんど遺存せず不明
79	SI-004	土師器	椀	口径 (13.8) 底径 8.3 器高 8.9	70%	砂粒	内面 明赤褐(5YR5/8) 外面 明赤褐(2.5YR5/6) 焼成 良好	内面 器面剥落,輪積痕 外面 ケズリ所々ミガキ,輪積痕 底外面 手持ケズリ	被熱による剥落
80	SI-004	土師器	椀	口径 13.7 底径 丸底 器高 9.2	90%	微砂粒	内面 明赤褐(2.5YR5/6) 外面 明赤褐(2.5YR5/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ 底外面 -	被熱による器面荒れ
81	SI-004	土師器	椀	口径 13.2 底径 丸底 器高 9.0	90%	砂粒多量	内面 赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
82	SI-004	土師器	壺	口径 15.0 底径 丸底 器高 <5.5>	口縁部～体部50%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ヨコナデ後ミガキ,ミガキ 底外面 -	
83	SI-004	土師器	椀	口径 (18.0) 底径 丸底 器高 9.8	30%	微砂粒	内面 黒色処理・黒 外面 黒色処理・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ケズリ後ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
84	SI-004	土師器	椀	口径 (17.0) 底径 丸底 器高 <7.6>	口縁部～体部25%	砂粒少量	内面 黒色処理・地:にぶい褐(7.5YR5/4) 外面 黒色処理・地:にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
85	SI-004	土師器	甕?	口径 10.9 底径 7.6 器高 11.1	80%	砂粒	内面 にぶい褐(7.5YR5/4) 外面 にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 やや不良	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ	内面底部こげ 被熱著しい
86	SI-004	ミニチュア土器		口径 - 底径 (5.0) 器高 <3.0>	体部～底部 65%	砂粒	内面 にぶい褐(7.5YR5/4) 外面 にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ナデ,ケズリ 外面 ケズリ 底外面 ナデ	高壺形

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	器面調整技法など	備考
87	SI-004	土師器	高壺	口径 13.2 底径 (8.3) 器高 9.9	90%	砂粒多量	内面 赤彩・地:明赤褐(5YR5/6) 外面 赤彩・地:明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ,ヘラナデ 外面 ケズリ後ミガキ,ケズリ 底外面 -	
88	SI-004	土師器	高壺	口径 13.2 底径 8.0 器高 8.4	90%	微砂粒多量	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 器面剥落,ケズリ,ナデ 外面, ケズリ後ナデ ナデ 底外面 -	
89	SI-004	土師器	高壺	口径 14.0 底径 7.6 器高 8.4	90%	砂粒	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ,ケズリ 外面 ケズリ後ナデ,ナデ 底外面 -	
90	SI-004	土師器	高壺	口径 13.5 底径 7.9 器高 8.6	96%	微砂粒多量	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
91	SI-004	土師器	高壺	口径 13.5 底径 - 器高 <4.7>	坏部50%	砂粒	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 被熱して不明	内面 器面剥落 外面 ケズリ 底外面 -	
92	SI-004	土師器	甕	口径 14.4 底径 7.1 器高 30.7	95%	砂粒(白色目立つ)	内面 にぶい赤褐(5YR5/4) 外面 にぶい赤褐(5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ,輪積痕 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 手持ケズリ	
93	SI-004	土師器	甕	口径 12.0 底径 6.3 器高 15.7	95%	砂粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なヘラナデ 外面 ケズリ,ケズリ後所々ミガキ 底外面 ナデ,ケズリ	斑痕(外面の半分) 被熱による変色 胎土赤く発色
94	SI-004	土師器	甕	口径 12.2 底径 (7.1) 器高 11.7	80%	白色砂粒	内面 にぶい赤褐(2.5YR5/4) 外面 にぶい赤褐(2.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	
95	SI-004	土師器	甕	口径 17.0 底径 7.8 器高 31.4	60%	砂粒多量(白色目立つ)	内面 にぶい赤褐(5YR5/4) 外面 にぶい赤褐(5YR5/4) 焼成 良好	内面 器面著しく剥落 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 手持ケズリ	
96	SI-004	土師器	甕	口径 (15.7) 底径 7.5 器高 25.3	70%	砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 器面著しく剥落 外面 ケズリ部分的にナデ・ミガキ 底外面 手持ケズリ	
97	SI-004	土師器	甕	口径 (14.6) 底径 - 器高 <6.5>	口縁部～頸部70%	砂粒多量	内面 にぶい赤褐(2.5YR5/4) 外面 にぶい赤褐(2.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
98	SI-004	土師器	甕	口径 - 底径 7.1 器高 <15.7>	60%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 手持ケズリ	No103と同一個体の可能性あり
99	SI-004	土師器	甕	口径 16.5 底径 - 器高 <14.4>	口縁部～胴部上半70%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
100	SI-004	土師器	甕	口径 - 底径 9.6 器高 <5.2>	口縁部	白色砂粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ,器面剥落 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	No106と同一個体の可能性高い
101	SI-004	土師器	甕	口径 - 底径 5.8 器高 <3.2>	底部60%	精緻微砂粒少量	内面 地:にぶい褐(7.5YR5/4) 外面 地:にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ミガキ状ナデ(丁寧) 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 手持ケズリ,ミガキ	
102	SI-004	土師器	甕	口径 21.8 底径 9.3 器高 19.3	50%	砂粒多量	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	胎土自体が赤く発色
103	SI-004	土師器	甕	口径 14.0 底径 - 器高 <15.3>	60%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 手持ケズリ	No98と同一個体の可能性あり
104	SI-004	土師器	甕	口径 14.2 底径 - 器高 <13.3>	口縁部～胴部上半60%	砂粒	内面 明赤褐(5YR5/6) 外面 明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
105	SI-004	土師器	甕	口径 - 底径 <21.6> 器高 6.8	胴部下半～底部60%	砂粒多量(白色目立つ)	内面 にぶい赤褐(5YR5/4) 外面 にぶい赤褐(5YR5/4) 焼成 良好	内面 器面剥落 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 手持ケズリ	
106	SI-004	土師器	甕	口径 19.4 底径 - 器高 <8.8>	口縁部	白色砂粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ,器面剥落 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	No100と同一個体の可能性高い
107	SI-004	土師器	甕	口径 13.8 底径 - 器高 <18.6>	口縁部～胴部上半30%	微砂粒微量	内面 にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 器面まだらに剥落 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
108	SI-004	土師器	鉢	口径 22.9 底径 - 器高 <14.0>	口縁部～胴部75%	微砂粒多量	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
109	SI-004	土師器	甕	口径 (19.8) 底径 - 器高 <14.7>	口縁部～胴部上半20%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ後ミガキ 外面 ケズリ所々ミガキ 底外面 -	
110	SI-004	土師器	甕	口径 (28.4) 底径 (7.1) 器高 27.4	30%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
111	SI-004	土師器	甕	口径 (27.3) 底径 (9.5) 器高 19.5	25%	白色砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ所々ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
112	SI-005	ミニチュア土器		口径 - 底径 (6.1) 器高 <3.7>	胴部～底部35%	微砂粒	内面 指ナデ 外面 指頭圧痕,輪積痕 焼成 良好	内面 指ナデ 外面 指頭圧痕,輪積痕 底外面 ナデ	粘土紐積上成形・椀形
113	SI-005	土師器	壺	口径 13.9 底径 丸底 器高 4.0	90%	微砂粒少量	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
114	SI-005	土師器	壺	口径 13.8 底径 丸底 器高 3.9	95%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
115	SI-005	土師器	壺	口径 13.8 底径 丸底 器高 4.3	95%	砂粒	内面 黒色処理・地:明赤褐(5YR5/6) 外面 黒色処理・地:明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理) 焼成	器面調整技法など	備考
116	SI-005	土師器	壺	口径 13.4 底径 丸底 4.5 器高 4.5	90%	微砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい褐色(7.5YR5/3) 外面 黒色処理・地:にぶい褐色(7.5YR5/3) 焼成 やや不良	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
117	SI-005	土師器	壺	口径 12.8 底径 丸底 4.1 器高 4.1	98%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい褐色(7.5YR5/3) 外面 黒色処理・地:にぶい褐色(7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 ミガキ 丁寧なヘラナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
118	SI-005	土師器	壺	口径 13.1 底径 丸底 3.7 器高 3.7	90%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ部分的ナデ 底外面 -	
119	SI-005	土師器	壺	口径 12.0 底径 丸底 5.3 器高 5.3	80%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい褐色(7.5YR5/4) 外面 黒色処理・地:にぶい褐色(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ部分的ミガキ 底外面 -	
120	SI-005	土師器	壺	口径 12.5 底径 丸底 3.9 器高 3.9	95%	微砂粒多量	内面 黒色処理・地:にぶい褐色(7.5YR5/4) 外面 黒色処理・地:にぶい褐色(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	(外面赤みを帯びる部分あり)
121	SI-005	土師器	壺	口径 15.1 底径 丸底 5.7 器高 5.7	100%	砂粒	内面 黒色処理・地:明赤褐色(5YR5/6) 外面 黒色処理・地:明赤褐色(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	黒色処理不明瞭
122	SI-005	土師器	鉢	口径 19.6 底径 丸底 6.9 器高 6.9	98%	砂粒少量	内面 黒色処理・地:にぶい褐色(7.5YR5/4) 外面 黒色処理・地:にぶい褐色(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後細かなミガキ 底外面 -	(外面)口縁付近赤み帯びる
123	SI-005	土師器	甕	口径 13.1 底径 7.0 器高 14.8	80%	砂粒多量	内面 地:明赤褐色(5YR5/6) 外面 地:明赤褐色(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	
124	SI-005	土師器	甕	口径 19.2 底径 7.9 器高 26.3	90%	白色砂粒多量	内面 明赤褐色(2.5YR5/6) 外面 明赤褐色(2.5YR5/6) 焼成 良好	内面 明瞭なヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ、ミガキ 底外面 手持ケズリ	
125	SI-005	土師器	甕	口径 22.2 底径 9.0 器高 33.6	95%	白色砂礫多量	内面 にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 にぶい褐色(7.5YR5/3) 焼成 やや不良	内面 丁寧なヘラナデ、輪積痕 外面 ミガキ 底外面 ミガキ	
126	SI-006	ミニチュア土器		口径 2.7 底径 2.5 器高 2.4	100%	微砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 輪積痕 外面 ナデ 底外面 -	粘土紐積上成形・塊形
127	SI-006	ミニチュア土器		口径 6.3 底径 4.9 器高 3.7	90%	砂粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 器面剥落 外面 指頭圧痕 底外面 -	手捏成形・塊形
128	SI-006	ミニチュア土器		口径 (8.3) 底径 (5.4) 器高 3.0	25%	精緻微砂粒微量	内面 赤彩?・地:にぶい赤褐色(5YR5/4) 外面 赤彩?・地:にぶい赤褐色(5YR5/4) 焼成 良好	内面 粗いナデ、輪積痕 外面 指頭圧痕 底外面 -	粘土紐積上成形・塊形
129	SI-006	ミニチュア土器		口径 8.2 底径 (6.6) 器高 2.8	40%	砂粒少量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 -	手捏成形?・坏形
130	SI-006	ミニチュア土器		口径 (9.8) 底径 (7.6) 器高 2.7	17%	精緻	内面 赤彩?・地:にぶい赤褐色(5YR5/4) 外面 赤彩?・地:にぶい赤褐色(5YR5/4) 焼成 良好	内面 粗いナデ 外面 指頭圧痕 底外面 -	粘土紐積上成形・坏形、No.128と同質
131	SI-006	土師器	壺	口径 14.4 底径 丸底 4.4 器高 4.4	95%	砂粒多量	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:明褐色(7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ、器面剥落 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	被熱で器面まだら剥離、黒色処理不明瞭
132	SI-006	土師器	壺	口径 13.4 底径 丸底 5.5 器高 5.5	60%	砂粒微量	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ後放射状にミガキ 外面 ケズリ、輪積痕 底外面 -	
133	SI-006	土師器	壺	口径 (13.8) 底径 丸底 4.4 器高 <4.4	30%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 やや不良	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
134	SI-006	土師器	壺	口径 (14.6) 底径 丸底 3.9 器高 3.9	30%	砂粒少量	内面 黒色処理・地:明赤褐色(5YR5/6) 外面 黒色処理・地:明赤褐色(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
135	SI-006	土師器	壺	口径 (11.7) 底径 丸底 4.7 器高 4.7	30%	砂粒少量	内面 黒色処理?・地:赤褐色(5YR4/6) 外面 黒色処理?・地:赤褐色(5YR4/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	胎土自体が赤く発色
136	SI-006	土師器	壺	口径 (14.4) 底径 丸底 <4.6 器高 <4.6	25%	精緻微砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 やや不良	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
137	SI-006	土師器	壺	口径 (14.4) 底径 丸底 <3.8 器高 <3.8	40%	精緻赤褐色スコリア粒微量	内面 黒色処理・地:橙(5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	(外面)赤みを帯びる箇所あり
138	SI-006	土師器	壺	口径 (14.9) 底径 丸底 (3.8) 器高 (3.8)	25%	砂粒、雲母、針状物質	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
139	SI-006	土師器	壺	口径 13.7 底径 丸底 5.4 器高 5.4	70%	精緻微砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 焼成 やや不良	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 木葉痕	
140	SI-006	土師器	壺	口径 (12.4) 底径 丸底 4.2 器高 4.2	30%	精緻砂粒微量	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 やや不良	内面 ナデ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
141	SI-006	土師器	壺	口径 13.0 底径 丸底 4.4 器高 4.4	55%	砂粒微量	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
142	SI-006	土師器	壺	口径 12.6 底径 丸底 3.6 器高 3.6	80%	砂粒少量	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 やや不良	内面 ナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	黒色処理は口縁以外不明瞭
143	SI-006	土師器	壺	口径 13.2 底径 丸底 4.3 器高 4.3	70%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後部分的にミガキ 底外面 -	
144	SI-006	土師器	壺	口径 12.0 底径 丸底 4.3 器高 4.3	50%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 やや不良	内面 ミガキ 外面 ミガキ 底外面 -	

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成		器面調整技法など	備考
145	SI-006	土師器	壺	口径 (13.4) 底径 丸底 器高 <5.0>	40%	精緻、黒色粒子	内面 にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -		
146	SI-006	土師器	鉢	口径 20.4 底径 7.3 器高 12.4	85%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 ナデ		
147	SI-006	土師器	鉢	口径 - 底径 丸底 器高 <7.8>	体部～底部 80%	微砂粒	内面 黒色処理・地:黒 外面 赤彩? 地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なヘラナデ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -		
148	SI-006	土師器	小型壺	口径 - 底径 - 器高 <4.8>	頸部～胴部 50%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 赤彩? 地:橙(10YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ・ヘラナデ 外面 ミガキ 底外面 -		
149	SI-006	土師器	甕	口径 (17.9) 底径 - 器高 <12.9>	口縁部～胴部上半20%	砂粒多量、砂礫少量	内面 にぶい褐(7.5YR6/3) 外面 にぶい褐(7.5YR6/3) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -		
150	SI-006	土師器	甕	口径 (15.7) 底径 - 器高 <8.1>	口縁部～胴部上半30%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 粗いヘラナデ(一部ハケメ状) 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -		
151	SI-006	土師器	甕	口径 - 底径 8.3 器高 <9.4>	胴部下半～底部75%	白色砂礫多量	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ミガキ 底外面 -		
152	SI-006	土師器	甕	口径 (19.2) 底径 9.6 器高 27.5	65%	砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ、輪積痕 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ		
153	SI-006	土師器	甕	口径 (22.6) 底径 (9.0) 器高 23.6	25%	砂粒少量	内面 にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ、ケズリ 外面 ケズリ 底外面 -		
154	SI-007	ミニチュア土器		口径 5.2 底径 - 器高 <2.0>	口縁部～胴部35%	微砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 雜なナデ 外面 ナデ 底外面 -	手捏成形・椀形	
155	SI-007	須恵器	はそう	口径 - 底径 丸底 器高 <6.6>	胴部～底部 30%	精緻、白色砂礫微量	内面 灰(10Y5/1) 外面 灰(10Y6/1) 焼成 やや不良	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ、回転ケズリ 底外面 -	(外面)自然釉	
156	SI-007	土師器	壺	口径 - 底径 (7.2) 器高 <2.3>	体部～底部 40%	砂粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ、手持ケズリ 底外面 回転系切後手持ケズリ	住居にともなうか?	
157	SI-007	土師器	高台付壺	口径 - 底径 8.8 器高 <1.9>	体部下半～底部17%	微砂粒	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ、ナデ 外面 ロクロナデ 底外面 回転ヘラ切り	住居にともなうか?	
158	SI-007	土師器	甕	口径 17.4 底径 - 器高 <27.7>	口縁部～胴部下半70%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -		
159	SI-008	土師器	壺	口径 13.0 底径 丸底 器高 4.2	65%	精緻	内面 黒色処理・地:明褐(7.5YR5/6) 外面 黒色処理・地:明褐(7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -		
160	SI-008	土師器	壺	口径 13.6 底径 丸底 器高 3.6	60%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい褐(7.5YR5/4) 外面 黒色処理・地:にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後所々ミガキ、輪積痕 底外面 -	黒色処理口縁以外不明瞭、外面赤みあり	
161	SI-008	土師器	壺	口径 14.0 底径 丸底 器高 4.0	95%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい褐(7.5YR5/4) 外面 黒色処理・地:にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ? 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	黒色処理不明瞭、外面赤みあり	
162	SI-008	土師器	壺	口径 11.9 底径 丸底 器高 3.7	95%	精緻	内面 黒色処理・地:にぶい褐(7.5YR5/4) 外面 黒色処理・地:にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -		
163	SI-008	土師器	壺	口径 12.8 底径 丸底 器高 5.0	80%	砂粒多量	内面 黒色処理・地:明赤褐(5YR5/6) 外面 黑色処理・地:明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ 底外面 -		
164	SI-008	土師器	甕	口径 - 底径 10.0 器高 <16.1>	胸部下半～底部50%	砂粒多量	内面 にぶい赤褐(5YR5/4) 外面 にぶい赤褐(5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 輪積痕 ケズリ 外面 ケズリ 底外面 -		
165	SI-009	ミニチュア土器		口径 (7.1) 底径 (3.8) 器高 5.9	40%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 指頭圧痕 ヘラナデつけ 底外面 -	粘土紐積上成形・コップ形	
166	SI-009	ミニチュア土器		口径 5.8 底径 3.5 器高 3.7	65%	砂粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 木葉痕	手捏成形・椀形	
167	SI-009	ミニチュア土器		口径 4.7 底径 丸底 器高 2.6	100%	精緻、微砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 指頭圧痕 ナデ 外面 指頭圧痕 底外面 -	手捏成形・椀形	
168	SI-009	ミニチュア土器		口径 (3.3) 底径 (4.3) 器高 2.3	40%	白色微砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 無調整	手捏成形・椀形	
169	SI-009	ミニチュア土器		口径 (6.8) 底径 (5.6) 器高 2.1	25%	精緻、微砂粒微量	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 指頭圧痕 底外面 無調整	手捏成形・椀形	
170	SI-009	ミニチュア土器		口径 5.8 底径 丸底 器高 1.8	85%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 ナデ 底外面 -	手捏成形・皿形	
171	SI-009	ミニチュア土器		口径 (8.5) 底径 2.4 器高 (6.8)	30%	砂粒多量	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 ナデ	手捏成形・椀形、器面調整丁寧	
172	SI-009	土師器	壺	口径 10.6 底径 4.2 器高 3.6	85%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 木葉痕無調整による平底		
173	SI-009	土師器	壺	口径 9.4 底径 4.7 器高 4.2	75%	砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ、輪積痕 底外面 ミガキ		

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	器面調整技法など	備考
174	SI-009	土師器	壺	口径 13.9 底径 丸底 器高 4.9	50%	精緻	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
175	SI-009	土師器	壺	口径 12.8 底径 丸底 器高 <3.8>	25%	精緻・微砂粒 微量	内面 黒色処理・地:橙(5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 器面剥落 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
176	SI-009	土師器	壺	口径 13.0 底径 丸底 器高 4.0	50%	精緻	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なミガキ 外面 ケズリ後巾広なミガキ 底外面 -	
177	SI-009	土師器	壺	口径 - 底径 丸底 器高 <4.6>	口縁端部のみ欠損	砂粒多量	内面 黒色処理・地:明赤褐(5YR5/8) 外面 黒色処理・地:明赤褐(5YR5/8) 焼成 良好	内面 器面著しく凸凹剥落 外面 ケズリ後ミガキ,一部剥落 底外面 -	
178	SI-009	土師器	壺	口径 14.4 底径 丸底 器高 5.3	90%	砂粒多量	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ部分的にナデ 底外面 -	
179	SI-009	土師器	壺	口径 (13.8) 底径 丸底 器高 4.9	30%	砂粒多量	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ミガキ 底外面 -	
180	SI-009	土師器	壺	口径 (21.0) 底径 丸底 器高 7.0	35%	砂粒多量	内面 赤彩・地:明赤褐(5YR5/8) 外面 赤彩・地:明赤褐(5YR5/8) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ・ナデ 底外面 -	
181	SI-009	土師器	壺	口径 13.5 底径 丸底 器高 4.9	70%	砂粒多量	内面 赤彩・地:にぶい橙(5YR6/4) 外面 赤彩・地:にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
182	SI-009	土師器	壺	口径 (14.5) 底径 丸底 器高 4.9	30%	砂粒	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ・ナデ 底外面 -	
183	SI-009	土師器	壺	口径 14.4 底径 丸底 器高 5.1	75%	砂粒(白色目立つ)	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 やや不良	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
184	SI-009	土師器	壺	口径 13.8 底径 丸底 器高 6.7	60%	砂粒多量	内面 赤彩・地:明赤褐(5YR5/6) 外面 赤彩・地:明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ミガキ,器面剥落 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	被熱による器面荒れ
185	SI-009	土師器	甕	口径 (15.6) 底径 - 器高 <15.8>	口縁部～胴部上半25%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 器面著しく凸凹に剥落 外面 ケズリ後ナデ,一部剥落 底外面 -	
186	SI-009	土師器	甕	口径 19.8 底径 - 器高 <21.9>	口縁部～胴部下半80%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なヘラナデ 外面 ケズリ部分的にミガキ 底外面 -	
187	SI-009	土師器	甕	口径 (15.1) 底径 - 器高 <8.1>	口縁部～胴部上半25%	砂粒多量	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
188	SI-009	土師器	甕	口径 (13.2) 底径 - 器高 <9.7>	口縁部～胴部上半35%	微砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	胎土自体が赤く発色
189	SI-009	土師器	甕	口径 (25.0) 底径 (9.2) 器高 22.8	10%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ ケズリ 外面 ケズリ 底外面 -	
190	SI-010	ミニチュア土器		口径 3.8 底径 丸底 器高 1.8	50%	砂粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 -	手捏成形・椀形
191	SI-010	ミニチュア土器		口径 3.5 底径 3.0 器高 2.3	95%	砂粒	内面 にぶい赤褐色(5YR5/4) 外面 にぶい赤褐色(5YR5/4) 焼成 良好	内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕,接合痕明瞭 底外面 -	手捏成形・椀形 胎土自体赤み帯びる
192	SI-010	ミニチュア土器		口径 4.1 底径 4.0 器高 2.5	100%	砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 輪積痕明瞭 外面 指頭圧痕 ナデ 底外面 丁寧なナデ	手捏成形・椀形
193	SI-010	ミニチュア土器		口径 (5.0) 底径 (3.4) 器高 2.2	35%	白色砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 指頭圧痕 底外面 ナデ	手捏成形・椀形 胎土自体赤み帯びる
194	SI-010	ミニチュア土器		口径 (6.8) 底径 (6.4) 器高 2.4	35%	砂粒	内面 明褐(7.5YR5/6) 外面 明褐(7.5YR5/6) 焼成 良好 硬質	内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 無調整	手捏成形・椀形
195	SI-010	ミニチュア土器		口径 6.3 底径 5.7 器高 3.2	95%	砂粒多量	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 指頭圧痕 底外面 ナデ	手捏成形・椀形
196	SI-010	ミニチュア土器		口径 6.6 底径 5.8 器高 2.8	100%	砂粒	内面 明褐(7.5YR5/6) 外面 明褐(7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 無調整	手捏成形・椀形 指紋が明瞭に残る
197	SI-010	土師器	壺	口径 13.6 底径 丸底 器高 4.1	60%	精緻	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
198	SI-010	土師器	壺	口径 12.5 底径 丸底 器高 4.3	85%	精緻・砂粒微量	内面 黒色処理・地:明赤褐(5YR5/6) 外面 黒色処理・地:明赤褐(5YR5/6) 焼成 やや不良	内面 丁寧なミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
199	SI-010	土師器	壺	口径 12.5 底径 - 器高 <3.2>	口縁部～全体50%	精緻・砂粒微量	内面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ミガキ,ケズリ後ミガキ 底外面 -	
200	SI-010	土師器	甕	口径 (13.0) 底径 - 器高 <10.3>	口縁部～胴部上半20%	白色砂粒多量	内面 橙(2.5YR6/6) 外面 橙(2.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ? 底外面 -	
201	SI-010	土師器	甕	口径 - 底径 7.2 器高 <6.0>	底部60%	白色砂粒多量	内面 橙(2.5YR6/6) 外面 橙(2.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ? 底外面 手持ケズリ	
202	SI-010	土師器	甕	口径 - 底径 7.9 器高 <4.5>	底部100%	白色砂礫多量	内面 橙(7.5YR7/6) 外面 黒色 焼成 良好	内面 丁寧なヘラナデ 外面 ミガキ 底外面 ミガキ	

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	器面調整技法など	備考
203	SI-010	土師器	甕	口径 - 底径 - 器高 <27.7>	頭部～底部 30%	白色砂礫多量	内面 橙(7.5YR7/6) 外面 橙(7.5YR7/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ? 底外面 -	粘土紐積上成形・壺形
204	SI-011	ミニチュア土器		口径 2.8 底径 丸底 器高 2.2	80%	砂粒	内面 赤彩?・地・橙(5YR6/6) 外面 赤彩?・地・橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 -	
205	SI-011	ミニチュア土器		口径 4.9 底径 4.2 器高 2.0	70%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 -	
206	SI-011	ミニチュア土器		口径 - 底径 (2.8) 器高 <1.2>	底部40%	微砂粒	内面 赤彩?・地・橙(7.55YR6/6) 外面 赤彩?・地・橙(7.55YR6/6) 焼成 良好	内面 指頭圧痕、ナデ 外面 指頭圧痕、ナデ 底外面 ナデ	器形?
207	SI-011	ミニチュア土器		口径 - 底径 - 器高 <3.6>	脚部50%	砂粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	粘土紐積上成形・器台形?
208	SI-011	ミニチュア土器		口径 8.5 底径 5.9 器高 3.6	80%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 強いミガキ 外面 指頭圧痕 底外面 ナデ	粘土紐積上成形・椀形
209	SI-011	土師器	壺	口径 (12.8) 底径 丸底 器高 <4.1>	口縁部～体 部25%	白色微砂粒 多量	内面 黒色処理・地・にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地・にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	内面黒色処理の遺存良好
210	SI-011	土師器	壺	口径 (13.7) 底径 丸底 器高 5.1	40%	砂粒多量	内面 浅黄橙(7.5YR8/4) 外面 浅黄橙(7.5YR8/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	赤彩の可能性はあるが器面摩滅し不明
211	SI-011	土師器	甑	口径 - 底径 (10.1) 器高 <5.2>	底部15%	砂粒	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ、ケズリ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ	手捏成形・椀形
212	SI-011	土師器	甕	口径 (15.8) 底径 (7.4) 器高 26.4	40%	砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/8) 外面 橙(7.5YR6/8) 焼成 良好	内面 器面剥落 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 ケズリ	
213	SI-012A	土師器	壺	口径 15.7 底径 丸底 器高 <5.5>	口縁部～体 部60%	白色微砂粒	内面 赤彩・地・にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 赤彩・地・にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ハラナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
214	SI-012A	土師器	高壺	口径 - 底径 - 器高 <4.9>	脚部50%	白色砂粒	内面 赤彩・地・橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地・橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
215	SI-012A	土師器	高壺	口径 - 底径 - 器高 <6.9>	脚部80%	砂粒多量	内面 橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地・橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ケズリ、ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	手捏成形・椀形
216	SI-012A	土師器	甑	口径 18.0 底径 7.2 器高 28.8	60%	砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ、輪積痕 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
217	SI-012B	ミニチュア土器		口径 (6.0) 底径 (2.6) 器高 3.1	40%	微砂粒多量	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 指頭圧痕後ナデ 外面 指頭圧痕 底外面 -	
218	SI-012B	土師器	壺	口径 10.4 底径 丸底 器高 4.2	70%	砂粒多量	内面 黒色処理・地・にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	やや軟質で器 面摩滅気味
219	SI-012B	土師器	壺	口径 14.2 底径 6.1 器高 4.3	95%	微砂粒少量	内面 黒色処理・地・にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 黒色処理・地・にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 ケズリ後ミガキ	
220	SI-012B	土師器	甑	口径 (28.6) 底径 (11.0) 器高 26.4	50%	砂粒	内面 にぶい黄褐(10YR6/4) 外面 にぶい黄褐(10YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ、ケズリ 外面 ケズリ 底外面 -	
221	SI-012C	ミニチュア土器		口径 (6.4) 底径 (3.0) 器高 3.9	40%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 ナデ	粘土紐積上成形?・椀形
222	SI-012C	ミニチュア土器		口径 (7.5) 底径 丸底 器高 3.7	40%	微砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 やや不良	内面 指頭圧痕、ナデ 外面 指頭圧痕、ナデ 底外面 指頭圧痕、ナデ	粘土紐積上成形?・椀形
223	SI-012C	ミニチュア土器		口径 8.8 底径 - 器高 <4.6>	口縁部～体 部下半70%	微砂粒多量	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ、ケズリ 底外面 -	粘土紐積上成形・椀形
224	SI-012C	土師器	壺	口径 14.0 底径 丸底 器高 4.3	95%	砂粒・赤褐色 スコリア	内面 黒色処理・地・にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地・にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	被熱により器 面変色
225	SI-012C	土師器	壺	口径 13.5 底径 丸底 器高 3.6	90%	砂粒	内面 黒色処理・地・にぶい橙(5YR6/4) 外面 黒色処理・地・にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 粗いケズリ 底外面 -	
226	SI-012C	土師器	壺	口径 (14.8) 底径 丸底 器高 (4.0)	口縁部～体 部30%	精緻	内面 黒色処理・地・浅黄橙(7.5YR8/4) 外面 黒色処理・地・浅黄橙(7.5YR8/4) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ所々ミガキ 底外面 -	
227	SI-012C	土師器	壺	口径 13.0 底径 5.0 器高 3.8	85%	砂粒多量	内面 黒色処理・地・にぶい橙(5YR6/4) 外面 黒色処理・地・にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 ケズリ後ミガキ	被熱により器 面変色
228	SI-012C	土師器	甕	口径 - 底径 7.2 器高 <4.4>	胴部下半～ 底部70%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 やや不良	内面 強いヘラナデ 外面 ケズリ部分的ミガキ 底外面 手持ケズリ・ミガキ	
229	SI-012C	土師器	鉢	口径 12.5 底径 6.8 器高 9.6	50%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 やや不良	内面 ヘラナデ・ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 手持ケズリ	
230	SI-012C	土師器	甕	口径 13.5 底径 9.8 器高 20.1	55%	微砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	
231	SI-012C	土師器	甕	口径 17.0 底径 - 器高 <24.0>	口縁部～胴 部下半70%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	器面調整技法など	備考
232	SI-012C	土師器	甕	口径 (19.0) 底径 - 器高 <19.4>	口縁部～胴部下半25%	砂粒多量	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ・ナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
233	SI-012C	土師器	甕	口径 (23.5) 底径 - 器高 <25.6>	口縁部～胴部40%	白色砂礫多量, 雪母	内面 橙(7.5YR6/8) 外面 橙(7.5YR6/8) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ・ミガキ 底外面 -	常縦型甕
234	SI-012C	土師器	甕	口径 18.0 底径 - 器高 <15.3>	口縁部～胴部上半60%	精緻	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
235	SI-012C	土師器	甕	口径 (26.0) 底径 - 器高 <15.1>	口縁部～胴部上半25%	砂粒多量	内面 明赤褐(5YR5/6) 外面 明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ後ミガキ 外面 ケズリ 底外面 -	(内面)スス (外)スス
236	SI-012C	土師器	甕	口径 26.8 底径 - 器高 <23.4>	口縁部～胴部50%	砂粒	内面 橙(7.5YR6/8) 外面 橙(7.5YR6/8) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
237	SI-012C	土師器	甕	口径 (26.8) 底径 (6.8) 器高 25.3	45%	砂粒多量	内面 明赤褐(5YR5/6) 外面 明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ後ミガキ, ケズリ 外面 ケズリ 底外面 -	
238	SI-013	須恵器	壺	口径 (11.2) 底径 丸底 器高 <5.5>	30%	精緻白色微砂粒微量	内面 灰(10Y6/1) 外面 灰(10Y6/1) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ 底外面 回転ケズリ	(外)自然釉にローム固着
239	SI-013	須恵器	壺	口径 (9.9) 底径 丸底 器高 <3.6>	口縁部～体部18%	精緻	内面 にぶい褐(7.5YR5/4) 外面 にぶい黄褐(10YR5/3) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ, 回転ケズリ 底外面 -	
240	SI-013	須恵器	壺	口径 (11.8) 底径 丸底 器高 <3.8>	口縁部～体部25%	精緻	内面 灰(10Y6/1) 外面 灰(10Y6/1) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ, 回転ケズリ 底外面 -	(外)自然釉器面整形やや推
241	SI-013	須恵器	高壺	口径 - 底径 脚部上半 器高 <5.0>	70%	白色砂粒・白色砂礫	内面 灰(10Y5/1) 外面 灰(10Y5/1) 焼成 良好	内面 ロクロナデ後ナデツケ 外面 回転ナデ明瞭 底外面 -	(外)自然釉
242	SI-013	土師器	椀	口径 7.0 底径 丸底 器高 4.7	100%	砂粒多量	内面 にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
243	SI-013	土師器	壺	口径 12.6 底径 丸底 器高 4.1	精緻赤褐色スコリア	60%	内面 黒色処理・地: 橙(7.5YR6/8) 外面 黒色処理・地: 橙(7.5YR6/8) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	No244と同型
244	SI-013	土師器	壺	口径 12.8 底径 丸底 器高 3.7	50%	精緻	内面 黒色処理・地: 橙(7.5YR6/8) 外面 黒色処理・地: 橙(7.5YR6/8) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後所々ミガキ, ナデ 底外面 -	No243と同型
245	SI-013	土師器	壺	口径 12.0 底径 丸底 器高 4.1	80%	精緻	内面 黒色処理・地: 橙(5YR6/6) 外面 黒色処理・地: 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ(ミガキ状) 底外面 -	
246	SI-013	土師器	壺	口径 (13.0) 底径 丸底 器高 3.8	45%	砂粒	内面 黒色処理・地: 橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地: 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	被熱により内外面器面剥落
247	SI-013	土師器	壺	口径 12.4 底径 丸底 器高 4.6	75%	砂粒	内面 黒色処理・地: 橙(5YR6/6) 外面 黒色処理・地: 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	
248	SI-013	土師器	壺	口径 (12.6) 底径 丸底 器高 4.3	30%	微砂粒	内面 黒色処理・地: 橙(5YR6/6) 外面 黒色処理・地: 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	内面の黒色処理はほとんど遺存しない
249	SI-013	土師器	壺	口径 11.8 底径 丸底 器高 4.0	60%	砂粒	内面 黒色処理・地: 橙(5YR6/6) 外面 黒色処理・地: 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	一部器面が赤みを帯びる
250	SI-013	土師器	壺	口径 (12.3) 底径 丸底 器高 4.2	40%	砂粒	内面 黒色処理・地: 橙(7.5YR6/8) 外面 黒色処理・地: 橙(7.5YR6/8) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
251	SI-013	土師器	壺	口径 12.1 底径 - 器高 <4.0>	60%	砂粒微量	内面 黒色処理・地: 橙(5YR6/6) 外面 黒色処理・地: 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
252	SI-013	土師器	壺	口径 12.1 底径 丸底 器高 <4.0>	口縁部～体部60%	砂粒	内面 黒色処理・地: 橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地: 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
253	SI-013	土師器	高壺	口径 - 底径 - 器高 <6.1>	脚部70%	白色砂粒多量	内面 赤彩?・地: 橙(7.5YR6/6) 外面 赤彩?・地: 橙(7.5YR6/6) 焼成 やや不良	内面 ヘラナデ, 輪積痕 外面 ケズリ 底外面 -	
254	SI-013	土師器	鉢	口径 (21.0) 底径 - 器高 <7.5>	口縁部～体部25%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 赤彩?・地: にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ(ミガキ状) 外面 ケズリ 底外面 -	
255	SI-013	土師器	鉢	口径 18.5 底径 6.4 器高 11.2	65%	砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ, ミガキ 外面 ケズリ部分的にミガキ 底外面 手持ケズリ	
256	SI-013	土師器	甕	口径 (13.3) 底径 - 器高 <10.6>	口縁部～胴部40%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 器面剥落 外面 ケズリ 底外面 -	内外面ともに被熱して変色
257	SI-013	土師器	甕	口径 (17.5) 底径 - 器高 <14.5>	口縁部～胴部下半30%	白色砂粒多量	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 やや不良	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
258	SI-013	土師器	甕	口径 22.0 底径 (5.7) 器高 34.1	40%	白色砂粒砂礫多量	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ・ミガキ 底外面 ミガキ	
259	SI-013	土師器	甕	口径 (20.6) 底径 7.4 器高 33.0	65%	白色砂粒砂礫多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 剥落著しい 外面 ナデ・ミガキ 底外面 手持ケズリ	
260	SI-013	土師器	甕	口径 (21.8) 底径 - 器高 <30.0>	口縁部～胴部下半30%	白色砂粒砂礫多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 強いヘラナデ 外面 ナデ・ミガキ 底外面 -	

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	器面調整技法など	備考
261	SI-013	土師器	甌	口径 29.9 底径 10.6 器高 23.5	90%	砂粒多量	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ・ミガキ,ケズリ 外面 ケズリ 底外面 -	内面摩滅してザラツキあり
262	SI-013	土師器	甌	口径 27.0 底径 8.0 器高 25.2	70%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
263	SI-014	土師器	椀	口径 9.1 底径 6.3 器高 5.4	80%	微砂粒多量	内面 橙(7.5YR7/6) 外面 橙(7.5YR7/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ,輪積痕 底外面 ナデ	
264	SI-014	土師器	椀	口径 8.4 底径 4.9 器高 4.5	75%	砂粒	内面 橙(7.5YR7/6) 外面 橙(7.5YR7/6) 焼成 やや不良	内面 ヘラナデ・ナデ 外面 ヘラナデ,輪積痕 底外面 ナデ	
265	SI-014	土師器	椀	口径 7.4 底径 4.6 器高 7.3	100%	砂粒	内面 橙(7.5YR7/6) 外面 橙(7.5YR7/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ,ミガキ 底外面 手持ケズリ	
266	SI-014	土師器	坏	口径 12.3 底径 丸底 器高 3.8	98%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
267	SI-014	土師器	坏	口径 (13.9) 底径 - 器高 <3.9	口縁部～体部40%	砂粒	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
268	SI-014	土師器	坏	口径 17.1 底径 丸底 器高 6.6	75%	白色砂粒	内面 橙(7.5YR7/6) 外面 橙(7.5YR7/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
269	SI-014	土師器	坏	口径 (14.9) 底径 丸底 器高 <4.5	口縁部～体部40%	砂粒多量	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	胎土自体赤く発色
270	SI-014	土師器	坏	口径 (13.0) 底径 - 器高 <4.2	口縁部～体部30%	砂粒	内面 赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
271	SI-014	土師器	坏	口径 14.8 底径 丸底 器高 5.6	60%	砂粒多量	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
272	SI-014	土師器	高坏	口径 17.2 底径 - 器高 <12.0	口縁部～脚部裾85%	白色砂粒	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ケズリ,ナデ 外面 ケズリ,ナデ 底外面 -	
273	SI-014	土師器	高坏	口径 - 底径 8.2 器高 <4.5	脚部80%	白色微砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
274	SI-014	土師器	高坏	口径 - 底径 8.6 器高 <6.6	脚部70%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	脚部内面十字線刻あり
275	SI-014	土師器	壺	口径 8.4 底径 - 器高 <6.7	口縁部～胴部上半60%	砂粒少量	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ,輪積痕 外面 ケズリ 底外面 -	
276	SI-014	土師器	甕	口径 - 底径 8.0 器高 <4.3	底部100%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ部分的ミガキ 底外面 手持ケズリ	
277	SI-014	土師器	壺	口径 8.4 底径 丸底 器高 14.7	90%	砂粒	内面 橙(7.5YR7/6) 外面 橙(7.5YR7/6) 焼成 良好	内面 輪積痕,ヘラナデ(ケズリ状) 外面 ケズリ部分的ミガキ 底外面 -	
278	SI-014	土師器	甕	口径 14.6 底径 6.6 器高 14.6	70%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ,ミガキ 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	
279	SI-014	土師器	甕	口径 (12.6) 底径 - 器高 <14.3	口縁部～胴部上30% スコリア	砂粒赤褐色	内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 やや不良	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ部分的ミガキ 底外面 -	薄く硬質
280	SI-015	土師器	坏	口径 (13.6) 底径 丸底 器高 <5.8	口縁部～体部30%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
281	SI-015	土師器	坏	口径 10.9 底径 丸底 器高 <3.9	口縁部～体部50%	砂粒	内面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面 赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ミガキ 底外面 -	
282	SI-015	土師器	坏	口径 14.6 底径 丸底 器高 4.6	70%	白色砂粒多量	内面 赤彩・地:にぶい橙(5YR6/4) 外面 赤彩・地:にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ・ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
283	SI-015	土師器	高坏	口径 - 底径 8.0 器高 <2.3	脚部75%	砂粒多量	内面 にぶい橙(5YR6/4) 外面 にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヨコナデ 底外面 -	
284	SI-015	土師器	甕	口径 14.6 底径 - 器高 <17.6	口縁部～胴部上半60%	砂粒多量	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 部分的に剥落 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
285	SI-015	土師器	甕	口径 - 底径 6.5 器高 <10.2	胴下半～底部75%	白色砂粒多量	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ所々ミガキ ナデツケ状 底外面 手持ケズリ	
286	SI-015	土師器	甕	口径 16.0 底径 6.4 器高 28.5	90%	砂粒多量	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	
287	SI-016	須恵器	坏蓋	口径 - 底径 丸底 器高 <3.5	体部～底部40%	白色砂礫	内面 灰(10Y6/1) 外面 灰(10Y6/1) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ,回転ケズリ 底外面 -	No288とセット
288	SI-016	須恵器	坏	口径 12.6 底径 丸底 器高 4.5	85%	白色砂礫	内面 灰(10Y6/1) 外面 灰(10Y6/1) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ,回転ケズリ 底外面 -	No287とセット
289	SI-016	土師器	坏	口径 12.2 底径 丸底 器高 5.3	70%	砂粒	内面 黒色処理?・地:黒? 外面 にぶい赤褐(5YR5/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 -	被熱により器面もろい

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	器面調整技法など	備考
290	SI-016	土師器	壺	口径(13.6) 底径丸底 器高5.4	40%	砂粒	内面赤彩・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面赤彩・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成良好	内面ナデ 外面ケズリ後ナデ 底外面-	
291	SI-016	土師器	壺	口径14.4 底径丸底 器高6.5	90%	砂粒多量	内面赤彩・地:橙(5YR6/6) 外面赤彩・地:橙(5YR6/6) 焼成良好	内面ナデ・ミガキ 外面ケズリ所々ミガキ 底外面-	
292	SI-016	土師器	壺	口径14.6 底径丸底 器高5.2	90%	砂粒	内面赤彩・地:橙(5YR6/8) 外面赤彩・地:橙(5YR6/8) 焼成良好	内面ナデ 外面ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面-	
293	SI-016	土師器	壺	口径10.2 底径丸底 器高<5.7>	口縁部～体部60%	砂粒	内面橙(5YR6/6) 外面橙(5YR6/6) 焼成良好	内面ナデ 外面ケズリ後ミガキ 底外面-	
294	SI-016	土師器	壺	口径(16.0) 底径丸底 器高<4.3>	口縁部～体部20%	砂粒少量	内面黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成良好	内面丁寧なミガキ 外面ケズリ後ミガキ 底外面-	
295	SI-016	土師器	高壺	口径- 底径- 器高<5.8>	脚部(底部以外)	砂粒多量	内面橙(5YR6/8) 外面橙(5YR6/8) 焼成良好	内面ナデ・ヘラナデ 外面ケズリ・ナデ 底外面-	被熱により器面白み帯びる
296	SI-016	土師器	甕	口径14.5 底径- 器高<6.6>	口縁部～胴部上70%	砂粒	内面にぶい赤褐(5YR5/4) 外面にぶい赤褐(5YR5/4) 焼成良好	内面ヘラナデ 外面ケズリ 底外面-	2次被熱により器面剥落
297	SI-016	土師器	甕	口径13.1 底径- 器高<12.7>	口縁部～胴部上80%	砂粒・微砂粒 多量	内面橙(7.5YR6/6) 外面橙(7.5YR6/6) 焼成良好	内面ヘラナデ 外面ケズリ後ナデ 底外面-	器面剥落気味
298	SI-016	土師器	壺	口径11.0 底径- 器高<17.3>	口縁部～胴部上90%	砂粒	内面橙(5YR6/6) 外面橙(5YR6/6) 焼成良好	内面ヘラナデ 外面ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面-	胎土自体赤く発色
299	SI-016	土師器	甕	口径12.1 底径- 器高<17.9>	口縁部～胴部下50%	砂粒	内面明赤褐(5YR5/6) 外面明赤褐(5YR5/6) 焼成良好	内面丁寧なヘラナデ 外面ケズリ後ナデ(ミガキ状) 底外面-	
300	SI-016	土師器	甕	口径18.6 底径7.5 器高35.7	75%	白色砂粒多量	内面橙(5YR6/6) 外面橙(5YR6/6) 焼成良好	内面器面剥落 外面ケズリ 底外面手持ケズリ	
301	SI-016	土師器	甕	口径15.5 底径6.4 器高(29.2)	40%	砂粒多量	内面橙(5YR6/8) 外面橙(5YR6/8) 焼成良好	内面ヘラナデ 外面ケズリ部分的にミガキ 底外面ケズリ	
302	SI-016	土師器	甕	口径18.3 底径7.0 器高21.9	55%	砂粒多量	内面にぶい橙(5YR6/4) 外面にぶい橙(5YR6/4) 焼成良好	内面ヘラナデ・ケズリ 外面ケズリ後ミガキ 底外面-	
303	SI-016	土師器	甕	口径18.9 底径- 器高<20.8>	口縁部～胴部上80%	砂粒多量	内面にぶい橙(5YR6/4) 外面にぶい橙(5YR6/4) 焼成良好	内面ヘラナデ・器面剥落 外面ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面-	
304	SI-017	土師器	高壺	口径15.8 底径丸底 器高<3.9>	坏部55%	砂粒多量	内面赤彩・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面赤彩・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成良好	内面ナデ 外面ケズリ後ナデ 底外面-	No305と質感近い
305	SI-017	土師器	高壺	口径- 底径- 器高<4.3>	脚部(底部以外)	砂粒多量	内面赤彩・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成良好	内面ナデ・ヘラナデ 外面ケズリ(ミガキ状) 底外面-	No304と質感近い
306	SI-017	ミニチュア土器	-	口径(6.0) 底径(4.4) 器高2.6	30%	砂粒微量	内面橙(7.5YR6/6) 外面橙(7.5YR6/6) 焼成良好	内面ナデ 外面ナデ 底外面-	手捏成形・橢形
307	SI-017	土師器	壺	口径13.7 底径6.5 器高9.0	90%	白色砂粒多量	内面にぶい赤褐(5YR5/4) 外面にぶい赤褐(5YR5/4) 焼成良好	内面丁寧なヘラナデ 外面ケズリ後ナデ 底外面手持ケズリ	底面にケズリ?
308	SI-017	土師器	甕	口径16.7 底径7.8 器高35.3	80%	砂粒多量	内面明赤褐(5YR5/6) 外面明赤褐(5YR5/6) 焼成良好	内面器面著しく剥落 外面ケズリ,部分的にミガキ 底外面手持ケズリ	
309	SI-018	土師器	壺	口径12.2 底径丸底 器高5.3	75%	砂粒微量	内面黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成良好	内面ミガキ 外面ケズリ後所々ミガキ 底外面-	
310	SI-018	土師器	高台付壺	口径14.3 底径8.4 器高6.1	70%	精緻砂粒微量	内面橙(7.5YR6/6) 外面橙(7.5YR6/6) 焼成良好	内面ロクロナデ 外面ロクロナデ 底外面-	
311	SI-018	土師器	甕	口径(14.0) 底径- 器高<11.9>	口縁部～胴部25%	砂粒	内面明赤褐(5YR5/6) 外面明赤褐(5YR5/6) 焼成良好	内面ヘラナデ 外面ケズリ後ナデ 底外面-	被熱により特に外面剥落気味
312	SI-018	土師器	甕	口径- 底径(7.8) 器高<20.9>	胴部下半～底部35%	砂粒	内面橙(5YR6/6) 外面橙(5YR6/6) 焼成良好	内面ヘラナデ・ミガキ,ケズリ 外面ケズリ 底外面-	
313	SI-018	土師器	甕	口径(22.6) 底径(11.2) 器高28.8	50%	砂粒	内面橙(5YR6/6) 外面橙(5YR6/6) 焼成良好	内面ヘラナデ 外面ケズリ 底外面-	
314	SI-021	須恵器	壺	口径10.7 底径丸底 器高4.0	100%	白色砂礫少量	内面灰(7.5Y5/1) 外面灰(7.5Y5/1) 焼成良好	内面ロクロナデ 外面ロクロナデ・回転ケズリ 底外面-	(外面受け部)自然釉
315	SI-021	土師器	壺	口径(12.5) 底径丸底 器高4.0	40%	砂粒	内面黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成良好	内面ミガキ 外面ケズリ後ミガキ 底外面-	
316	SI-021	土師器	壺	口径(14.6) 底径丸底 器高<4.1>	口縁部～体部30%	砂粒	内面橙(7.5YR6/6) 外面黒色処理?・地:橙(7.5YR6/6) 焼成良好	内面ミガキ 外面ケズリ後ミガキ 底外面-	胎土自体が赤く発色
317	SI-021	土師器	高壺	口径- 底径10.0 器高<5.5>	胴部80%	微砂粒多量	内面橙(5YR6/6) 外面明赤褐(5YR5/8) 焼成良好	内面ケズリ・ナデ 外面ケズリ後ナデ・ナデ 底外面-	
318	SI-021	土師器	高壺	口径(15.4) 底径(9.7) 器高(9.9)	40%	砂粒多量	内面赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 外面赤彩・地:橙(7.5YR6/6) 焼成良好	内面ナデ・ヘラナデ 外面ケズリ後ナデ・ナデ 底外面-	

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	器面調整技法など	備考
319	SI-021	土師器	甕	口径 17.1 底径 - 器高 <7.8>	口縁部～胴 部上半40%	砂粒	内面 明赤褐(5YR5/8) 外面 明赤褐(5YR5/8) 焼成 良好	内面 器面剥落 外面 ケズリ 底外面 -	
320	SI-021	土師器	甕	口径 20.6 底径 9.1 器高 32.9	40%	砂粒多量	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 手持ケズリ	No322と同土・同形状
321	SI-021	土師器	甕	口径 - 底径 8.0 器高 <32.8>	75%	白色砂礫・ 砂粒多量	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ・ナデ 外面 ナデ・ミガキ・ケズリ 底外面 手持ケズリ	常総型甕
322	SI-021	土師器	甕	口径 - 底径 9.5 器高 <29.5>	45%	砂粒多量	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ハラナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ	No320と同土・同形状
323	SI-021	土師器	甕	口径 (20.3) 底径 (6.4) 器高 <22.0>	50%	砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ・ケズリ 外面 ケズリ 底外面 -	
324	SI-022	ミニチュア土器	底	口径 2.9 底径 1.8 器高 2.0	65%	微砂粒微量	内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 ナデ	手捏成形・椀形
325	SI-022	ミニチュア土器	底	口径 3.6 底径 3.0 器高 2.5	100%	微砂粒多量	内面 にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 無調整	手捏成形・椀形
326	SI-022	ミニチュア土器	底	口径 6.0 底径 4.1 器高 3.4	80%	微砂粒多量	内面 赤彩?・地:にぶい黄橙(10YR7/4) 外面 赤彩?・地:にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 良好	内面 指頭圧痕・ナデ 外面 ナデ 底外面 ナデ	手捏成形・椀形
327	SI-022	土師器	壺	口径 13.8 底径 丸底 器高 3.7	75%	精緻砂粒微量	内面 黒色処理・地:橙(5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ハラナデ・ミガキ 外面 ヨコナデ・ミガキ・ケズリ(ミガキ状) 底外面 -	
328	SI-022	土師器	壺	口径 (13.8) 底径 - 器高 <3.5>	口縁部～体 部20%	精緻	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ハラナデ・ミガキ 外面 ミガキ・ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	
329	SI-022	土師器	壺	口径 (13.1) 底径 - 器高 <3.55>	口縁部～体 部25%	砂粒	内面 黒色処理・地:にぶい黄橙(10YR7/3) 外面 にぶい黄橙(10YR7/3) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ	
330	SI-022	土師器	壺	口径 (14.2) 底径 - 器高 <3.85>	口縁部～体 部30%	精緻砂粒微量	内面 黒色処理・地:橙(5YR7/6) 外面 黒色処理・地:橙(5YR7/6) 焼成 良好	内面 ハラナデ・ミガキ 外面 ケズリ(ミガキ状) 底外面 -	
331	SI-022	土師器	壺	口径 (12.3) 底径 - 器高 <3.05>	口縁部～体 部40%	砂粒多量	内面 にぶい黄橙(10YR7/4) 外面 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ 底外面 -	ロクロ整形
332	SI-022	土師器	甕	口径 (20.5) 底径 - 器高 <21.6>	口縁部～胴 部上半40%	白色砂粒多量	内面 明黄褐(10YR7/6) 外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ・ナデ 外面 ケズリ 底外面 -	No333と同土・同形状
333	SI-022	土師器	甕	口径 (19.5) 底径 8.5 器高 29.7	65%	白色砂粒多量	内面 にぶい黄橙(10YR7/4) 外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ	No332と同土・同形状
334	SI-023	ミニチュア土器	底	口径 (4.4) 底径 2.0 器高 1.7	70%	微砂粒	内面 にぶい橙(5YR7/4) 外面 にぶい橙(5YR7/4) 焼成 良好	内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 ナデ	手捏成形・椀形
335	SI-023	土師器	壺	口径 14.4 底径 丸底 器高 4.7	55%	砂粒少量	内面 黒色処理・地:橙(5YR7/8) 外面 黒色処理・地:橙(5YR7/6) 焼成 良好	内面 ハラナデ 外面 ミガキ 底外面 -	
336	SI-023	土師器	壺	口径 (14.7) 底径 丸底 器高 (4.3)	口縁部～体 部25%	微砂粒微量	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 やや不良	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
337	SI-023	土師器	壺	口径 12.5 底径 丸底 器高 6.3	85%	砂粒少量	内面 赤彩・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 赤彩・地:にぶい黄橙(10YR7/4) 焼成 良好	内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
338	SI-023	土師器	高壺	口径 - 底径 (8.7) 器高 <6.1>	脚部40%	微砂粒	内面 にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヨコナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	胎土自体赤く発色
339	SI-023	土師器	高壺	口径 - 底径 9.3 器高 <2.1>	脚部裾 100%	砂粒少量	内面 橙(5YR7/6) 外面 赤彩・地:にぶい橙(5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ 底外面 -	
340	SI-023	土師器	甕	口径 16.6 底径 - 器高 <16.9>	口縁部～胴 部上半 100%	砂粒多量	内面 橙(5YR7/8) 外面 橙(5YR6/8) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
341	SI-023	土師器	甕	口径 26.0 底径 (5.0) 器高 25.9	90%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ハラナデ・ミガキ 外面 ミガキ 底外面 -	
342	SI-023	土師器	甕	口径 16.3 底径 - 器高 <26.9>	口縁部～胴 部75%	砂粒	内面 橙(5YR6/6) 外面 橙(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	
343	SI-024	ミニチュア土器	底	口径 (5.8) 底径 (3.2) 器高 6.1	50%	砂粒少量	内面 にぶい黄橙(10YR6/4) 外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ	粘土紐積上成形・壺形
344	SI-024	ミニチュア土器	底	口径 7.55 底径 5.25 器高 6.25	100%	砂粒少量	内面 灰黄褐(10YR5/2) 外面 にぶい黄橙(10YR6/3) 焼成 良好	内面 ケズリ・ナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ	粘土紐積上成形・コップ形
345	SI-024	ミニチュア土器	底	口径 9.85 底径 4.3 器高 4.85	90%	砂粒少量	内面 赤彩・地:橙(7.5YR7/6) 外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ヨコナデ 外面 ナデ・一部輪積痕 底外面 ケズリ	
346	SI-025	土師器	壺	口径 11.3 底径 丸底 器高 3.45	70%	砂粒多量	内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ・輪積痕 底外面 -	
347	SM-001	須恵器	横瓶	口径 9.4 底径 丸底 器高 17.6	95%	白色砂粒多量	内面 オリーブ黒(10Y3/1) 外面 オリーブ黒(10Y3/1) 焼成 やや不良	内面 当て具後ナデ 外面 平行タタキ・ナデ・回転ケズリ 底外面 -	断面灰色

No.	遺構No.	種類	器種	法量(cm)	遺存度	胎土	色調(色処理)・焼成	器面調整技法など	備考
348	SM-001	須恵器	平瓶(水滴)	口径 2.6 底径 - 器高 (5.1)	50%	微砂粒少量	内面 灰白(7.5Y7/1) 外面 灰白(7.5Y7/1) 焼成 やや不良	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ・回転ケズリ 底外面 -	
349	SM-001			口径 5.4 底径 3.7 器高 9.9			内面 灰(10Y4/1) 外面 灰(10Y4/1) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ・回転ケズリ 底外面 回転ケズリ	
350	SM-001			口径 3.1 底径 2.8 器高 1.4			内面 明褐(7.5YR5/6) 外面 明褐(7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面 手持ケズリ	
351	SM-001	ミニチュア土器	ミニチュア土器	口径 6.3 底径 6.9 器高 3.3	75%	砂粒	内面 明赤褐(5YR5/6) 外面 明赤褐(5YR5/6) 焼成 良好	内面 指ナデ 外面 指頭圧痕・輪積痕 底外面 ナデ	粘土紐積上成形・碗形・胎土自体赤く発色
352	SM-001			口径 6.9 底径 5.9 器高 4.4			内面 明黄褐(10YR6/6) 外面 明黄褐(10YR6/6) 焼成 良好	内面 輪積後指頭圧痕 外面 指頭圧痕・輪積痕 底外面 無調整	
353	SM-001			口径 - 底径 5.9 器高 <4.4>		胴部～底部 80%	内面 明黄褐(10YR6/6) 外面 明黄褐(10YR6/6) 焼成 良好	内面 輪積後指頭圧痕 外面 指頭圧痕・輪積痕 底外面 無調整	粘土紐積上成形・碗形
354	SM-001	土師器	壺	口径 (11.8) 底径 丸底 4.2 器高 4.2	45%		内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 丁寧なミガキ 外面 ミガキ 底外面 -	
355	SM-001	土師器	壺	口径 (11.6) 底径 丸底 部25% 器高 <2.9>	白色砂粒	口縁部～体部25% 砂粒少量	内面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地:橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ 底外面 -	
356	SM-001	土師器	壺	口径 (14.0) 底径 丸底 部20% 器高 (4.2)			内面 にぶい橙(7.5YR6/4) 外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 -	
357	SM-001	土師器	壺	口径 13.0 底径 丸底 (4.0)			内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 ケズリ	
358	SM-001	土師器	壺	口径 (13.6) 底径 丸底 部20% 器高 <2.9>	砂粒少量	口縁部～体部20% 精緻砂粒微量	内面 黒色処理・地:にぶい褐(7.5YR5/3) 外面 黒色処理・地:にぶい褐(7.5YR5/3) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
359	SM-001	土師器	壺	口径 (13.6) 底径 - 器高 <2.1>			内面 明赤褐(2.5YR5/6) 外面 明赤褐(2.5YR5/6) 焼成 やや不良	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
360	SM-001	土師器	壺	口径 (13.4) 底径 丸底 4.1 器高 4.1	80%		内面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 黒色処理・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
361	SM-001	土師器	壺	口径 (12.6) 底径 丸底 部25% 器高 <4.7>	砂粒	口縁部～体部25% 砂粒多量	内面 赤彩・地:にぶい橙(5YR6/4) 外面 赤彩・地:にぶい橙(5YR6/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
362	SM-001	土師器	甕	口径 (14.0) 底径 - 器高 <7.8>			内面 にぶい褐(7.5YR5/3) 外面 にぶい褐(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 -	
363	SM-001	土師器	甕	口径 (19.0) 底径 - 器高 <6.4>			内面 橙(7.5YR6/6) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ、器面剥落 底外面 -	
364	SM-001	土師器	甕	口径 (16.0) 底径 - 器高 <9.2>	砂粒多量	口縁部～胴部上30% 砂粒少量	内面 橙(7.5YR6/8) 外面 橙(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後部分的にナデ 底外面 -	特に外面の剥落が目立つ
365	SM-001	土師器	甕	口径 - 底径 (10.0) 器高 <6.4>			内面 橙(7.5YR6/6) 外面 明褐(7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 -	
366	遺構外	土師器	壺	口径 - 底径 丸底 部70% 器高 <4.3>			内面 赤彩・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 赤彩・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 -	
367	遺構外	土師器	壺	口径 (12.6) 底径 - 器高 <4.05>	白色砂粒少 量	口縁部～体部30% 微砂粒少量	内面 赤彩・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 外面 赤彩・地:にぶい橙(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 丁寧なミガキ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 -	粘土紐接合部 キザミが確認できる

第9表 古墳時代 金属製品 計測表

&lt; &gt;現存長 ( )推定

挿図No.	遺構番号	遺物No.	材質	製品名	横幅(mm)	縦幅(mm)	厚み(mm)	重量(g)
1	SI-004	1	鉄	鉄鎌	<33.0>	<38.0>	5.0	9.75
2	SI-006	28	鉄	鉄鎌	17.0	<33.0>	3.0	3.34
3	SI-006	29	鉄	鉄鎌	6.0	<34.5>	3.0	2.61
4	SI-007	13	鉄	鉄鎌	9.0	135.0	2.0	8.56
5	SI-023	25	鉄	刀子?	10.0	<50.0>	2.5	4.46
6	SM-001	4区-5	鉄	不明	17.0	<40.5>	2.5	9.3
7	SI-024	5	鉄	不明	15.0	<39.0>	2.5	2.13
8	SI-007	1	鉄滓		20.0	14.0	13.0	4.39
9	SI-002	19	鉄滓		52.0	44.0	21.0	64.5
10	2E-88	1	鉄滓		71.0	<44.0>	21.0	34.65

第10表 古墳時代 土製品 計測表

&lt; &gt;現存長 ( )推定

挿図No.	遺構No.	遺物No.	種類	色調(Hue)	横幅(mm)	縦幅(mm)	厚み(mm)	重量(g)	備考
1	SI-003	117	勾玉?	7.5YR 明褐色5/6	<14.00>	<42.00>	6.00	2.09	
2	SI-006	1	勾玉	7.5YR にぶい橙6/4	<11.00>	<27.10>	7.90	2.18	
3	SI-006	1	勾玉	10YR 灰黄褐色4/2	<12.50>	<28.90>	9.00	2.63	
4	SI-006	13	勾玉	10YR にぶい黄橙6/4	<12.10>	<27.10>	8.80	2.58	
5	SI-012B	2	勾玉	10YR にぶい黄橙6/4	<11.90>	<26.10>	7.80	1.86	
6	SI-012C	10	勾玉	10YR 黑褐色3/1	13.00	30.70	9.20	2.73	
7	SI-013	40	勾玉	10YR にぶい黄褐色5/3	15.70	29.10	8.80	2.58	
8	SI-024	21	勾玉	7.5YR 褐灰4/1	10.80	12.40	6.90	1.17	
9	SI-024	2	勾玉	7.5YR にぶい褐色5/4	<11.10>	<22.40>	9.80	2.57	
10	SI-024	2	勾玉	7.5YR 橙6/6	<8.30>	<17.90>	7.20	1.08	
11	SI-024	34	勾玉	7.5YR にぶい褐色5/4	<12.80>	<27.80>	8.20	2.37	
12	SI-024	35	勾玉	7.5YR にぶい褐色5/4	<11.30>	<22.90>	9.00	2.23	
13	SI-024	36	勾玉	7.5YR にぶい褐色5/4	11.00	23.30	7.20	1.54	
14	SI-024	35	勾玉	7.5YR にぶい褐色5/3	<13.60>	<13.20>	8.20	1.37	
15	SI-024	42	勾玉	10YR 黑褐色3/1	<12.00>	<20.70>	7.90	1.82	
16	SI-024	50	勾玉	7.5YR にぶい褐色5/4	17.70	27.40	10.00	3.81	
17	SI-024	38	勾玉	10YR にぶい黄橙6/4	16.40	32.30	8.00	3.62	
18	SI-024	57	勾玉	7.5YR 明褐色5/6	15.00	22.10	8.90	2.45	
19	SI-024	51	勾玉	2.5Y 黄褐色5/3	14.90	25.30	8.30	2.36	
20	SI-024	56	勾玉	7.5YR にぶい黄橙6/4	<9.80>	<21.90>	7.40	1.62	
21	SI-024	73	勾玉	7.5YR 橙6/6	18.10	28.80	10.60	4.11	
22	SI-024	83	勾玉	10YR にぶい黄橙6/4	<13.30>	<26.00>	7.20	1.99	
23	SI-024	92-1	勾玉	7.5YR にぶい橙6/4	<10.70>	<23.60>	8.10	1.74	
24	SI-024	85	勾玉	7.5YR にぶい橙6/4	<14.10>	<33.10>	8.20	3.03	
25	SI-024	92-2	勾玉	7.5YR にぶい橙6/4	<11.00>	<22.10>	12.10	2.82	
26	SI-024	65	勾玉	7.5YR にぶい褐色5/4	17.20	31.90	10.30	4.10	
27	2C-54	1	勾玉	10YR にぶい黄褐色5/3	7.00	14.60	5.80	0.58	
28	SI-002	30	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	19.30	17.00	13.30	4.01	
29	SI-002	31	土玉	10YR にぶい黄橙7/4	20.50	18.80	14.00	4.88	
30	SI-002	47	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	18.90	17.80	13.80	4.16	
31	SI-002	17	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	<19.00>	<11.80>	12.50	1.95	
32	SI-003	94	土玉	7.5YR にぶい橙6/4	20.30	20.00	17.80	6.59	
33	SI-004	25	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	22.10	20.40	16.30	6.55	
34	SI-006	19	土玉	7.5YR にぶい褐色5/4	19.20	19.20	13.90	4.79	
35	SI-006	31	土玉	10YR 黑褐色3/1	7.60	<6.90>	7.30	0.41	
36	SI-006	1	土玉	10YR 明褐色6/6	9.30	8.90	8.20	0.56	
37	SI-006	3	土玉	10YR 黑褐色3/1	<8.80>	7.50	<6.10>	0.32	
38	SI-006	2	土玉	7.5YR 褐灰4/1	9.20	9.10	7.00	0.57	
39	SI-006	4	土玉	10YR 黑褐色3/1	8.30	9.00	6.80	0.50	
40	SI-006	5	土玉	10YR 黑褐色3/1	8.30	8.20	5.10	0.33	
41	SI-007	1	土玉	7.5YR にぶい褐色5/4	<17.10>	<10.80>	16.60	2.18	
42	SI-009	3	土玉	7.5YR 明褐色5/6	23.00	18.00	20.90	7.10	
43	SI-009	35	土玉	7.5YR にぶい褐色5/4	26.10	24.90	22.00	14.88	
44	SI-009	58	不明	10YR にぶい黄褐色5/3	29.10	19.30	25.50	12.87	
-	SI-010	10	勾玉	10YR にぶい黄褐色5/3	-	-	-	0.42	破片・実測せず
45	SI-012B	2	土玉	10YR にぶい黄褐色5/3	(21.90)	<12.90>	22.90	5.24	
46	SI-013	18	土玉	7.5YR 橙6/6	18.90	20.20	16.60	5.61	
47	SI-013	21	土玉	7.5YR 橙6/6	20.20	19.60	19.80	6.77	
48	SI-013	30	土玉	10YR 黑褐色3/1	8.40	8.90	7.00	0.59	
49	SI-013	38	土玉	10YR 褐灰4/1	9.20	9.20	8.10	0.73	
50	SI-016	1	土玉	10YR にぶい黄橙7/4	25.90	25.00	22.30	15.33	
51	SI-017	15	土玉	7.5YR にぶい褐色5/3	25.00	24.90	28.00	17.64	
52	SI-017	5	土玉	7.5YR にぶい褐色5/4	23.60	21.90	19.40	10.74	
53	SI-017	18	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	22.80	22.30	20.70	10.85	
54	SI-017	8	土玉	7.5YR にぶい褐色5/4	(23.90)	(23.10)	<24.20>	10.98	
55	SI-022	17	土玉	10YR 灰黄褐色5/2	10.40	10.10	9.70	1.05	
56	SI-022	19	土玉	7.5YR 褐灰4/1	9.40	8.80	8.40	0.71	
57	SI-022	25	土玉	7.5YR 黑2/1	8.20	8.40	9.20	0.61	
58	SI-024	92-3	土玉	10YR にぶい黄褐色5/3	19.30	19.60	17.50	6.35	
59	SI-024	58	土玉?	7.5YR 黑2/1	6.70	6.50	11.80	0.49	
60	SI-024	41	土玉	10YR 褐灰4/1	10.20	10.20	8.90	0.96	
61	SI-024	88	土玉	10YR 黑褐色3/2	9.20	8.90	5.40	0.45	
62	SI-024	70	土玉	7.5YR 橙6/6	8.90	9.40	7.20	0.65	
63	SI-024	92-4	土玉	7.5YR にぶい褐色5/4	9.60	9.80	7.50	0.62	
64	SI-024	53	土玉	10YR 黑褐色3/1	9.30	8.20	8.30	0.69	

挿図No.	遺構No.	遺物No.	種類	色調(Hue)	横幅(mm)	縦幅(mm)	厚み(mm)	重量(g)	備考
65	SI-024	92-15	土玉	10YR 褐灰4/1	7.30	6.10	7.20	0.34	
66	SI-024	92-9	土玉	10YR 褐灰4/1	10.50	9.00	7.80	0.67	
67	SI-024	92-12	土玉	10YR 褐灰4/1	8.70	7.40	6.50	0.39	
68	SI-024	92-11	土玉	10YR 褐灰4/1	9.10	9.40	6.30	0.50	
69	SI-024	92-6	土玉	10YR 黒褐3/2	8.20	8.90	8.40	0.61	
70	SI-024	92-7	土玉	10YR 灰黄褐4/2	8.60	7.30	6.60	0.42	
71	SI-024	54	土玉	10YR 褐灰4/1	8.40	7.90	7.90	0.58	
72	SI-024	92-8	土玉	10YR 褐灰4/1	7.70	6.30	7.30	0.28	
73	SI-024	62	土玉	10YR 黒褐3/1	8.10	7.90	4.80	0.38	
74	SI-024	22	土玉	7.5YR 黒2/1	7.30	8.30	6.20	0.40	
75	SI-024	92-13	土玉	10YR 褐灰4/1	8.40	7.60	4.60	0.29	
76	SI-024	29	土玉	7.5YR 黒褐3/1	7.10	6.40	6.80	0.32	
77	SI-024	71	土玉	10YR 褐灰4/1	7.20	7.80	4.90	0.28	
78	SI-024	23	土玉	7.5YR 黒2/1	7.80	8.00	6.10	0.36	
79	SI-024	92-10	土玉	10YR 褐灰4/1	7.60	7.40	6.30	0.34	
80	SI-024	92-14	土玉	10YR 褐灰4/1	7.80	7.20	4.90	0.27	
81	SI-024	32	土玉	7.5YR 黒褐3/1	7.70	7.80	5.30	0.39	
82	SI-024	30	土玉	7.5YR 黒褐3/1	6.30	6.80	8.90	0.36	
83	SI-024	63	土玉	10YR 褐灰4/1	7.90	7.50	8.90	0.45	
84	SI-024	59	土玉	7.5YR 褐灰4/1	7.30	7.00	6.20	0.31	
85	SI-024	25	土玉	7.5YR 褐灰4/1	6.80	6.90	6.90	0.33	
86	SI-024	72	土玉	10YR 褐灰4/1	6.50	7.10	3.60	0.18	
87	SI-024	33	土玉	7.5YR 褐灰4/1	6.80	7.30	5.90	0.29	
88	SI-024	92-5	土玉	10YR 褐灰4/1	7.70	7.30	5.90	0.36	
89	SI-024	39	土玉	10YR 黒褐3/1	7.40	8.60	5.10	0.32	
90	SI-024	60	土玉	7.5YR 褐灰4/1	7.70	7.30	6.80	0.39	
91	SI-024	64	土玉	10YR 黒褐3/2	7.20	5.90	5.30	0.21	
92	SI-024	69	土玉	10YR 褐灰4/1	6.40	7.20	6.00	0.29	
93	SI-024	37	土玉	7.5YR 黒褐3/1	6.40	7.20	4.30	0.23	
94	SI-024	84	土玉	10YR 灰黄褐4/2	6.30	7.30	6.00	0.26	
95	SI-024	91	土玉	10YR 褐灰4/1	7.10	6.90	6.10	0.29	
96	SI-024	28	土玉	7.5YR 黒褐3/1	6.10	7.00	6.20	0.25	
97	SI-024	24	土玉	7.5YR 黒2/1	7.60	7.10	6.80	0.35	
98	SI-024	89	土玉	10YR 褐灰4/1	7.20	6.10	4.30	0.20	
99	SI-024	44	土玉	10YR 黑褐3/1	7.20	6.30	6.80	0.34	
100	SI-024	92-17	土玉	10YR 褐灰4/1	6.40	<4.90>	5.70	0.15	
101	SI-024	92-16	土玉	10YR 黑褐3/1	6.10	4.80	4.30	0.14	
102	SI-024	40	土玉	10YR 黑褐3/1	6.10	6.10	5.20	0.24	
103	SI-024	19	土玉	7.5YR 褐灰4/1	6.10	6.30	4.20	0.18	
104	SI-024	27	土玉	7.5YR 黑褐3/1	6.40	6.20	4.60	0.19	
a(出土位置)	SI-024	80	土玉	10YR 黑褐3/1	-	-	-	0.24	破片・実測せず
b(出土位置)	SI-024	86	土玉	10YR 灰黄褐4/2	-	-	-	0.14	破片・実測せず
c(出土位置)	SI-024	87	土玉	10YR 灰黄褐4/2	-	-	-	0.60	破片・実測せず
-	SI-024	92-18	土玉?	10YR 灰黄褐4/2	-	-	-	0.37	破片・実測せず
-	SI-024	61	土玉	10YR 黑褐3/1	-	-	-	0.22	破片・実測せず
-	SI-024	43	土玉	10YR 黑褐3/1	-	-	-	0.14	破片・実測せず
-	SI-024	26	土玉	10YR 黑褐3/1	-	-	-	0.18	破片・実測せず
-	SI-024	20	土玉	10YR 黑褐3/1	-	-	-	0.33	破片・実測せず
105	SM-001	2トレ-2	土玉	7.5YR にぶい褐5/4	17.40	17.80	15.00	3.99	
106	SM-001	2トレ-3	土玉	10YR にぶい黄褐5/4	18.80	18.10	16.30	4.79	
107	SM-001	1区-103	土玉	10YR 褐4/6	19.40	18.00	15.00	4.91	
108	SM-001	1区-105	土玉	7.5YR にぶい褐6/3	18.90	17.90	16.80	6.45	
109	SM-001	1区-107	土玉	7.5YR 橙6/6	19.90	18.80	16.20	5.59	
110	SM-001	2区-4	土玉	7.5YR にぶい褐5/4	18.30	17.90	16.20	4.58	
111	SM-001	1区-106	土玉	10YR にぶい黄褐5/3	19.00	16.60	14.90	4.14	
112	SM-001	2区-5	土玉	7.5YR 橙6/6	18.40	17.20	15.00	4.29	
113	SM-001	2区-3	土玉	10YR にぶい黄褐5/4	18.20	18.20	16.00	4.32	
114	SM-001	1区-108	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	17.80	17.90	15.90	4.37	
115	SM-001	1区周-23	土玉	7.5YR 橙6/6	16.40	15.30	13.50	2.91	
116	SM-001	2トレ-4	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	17.80	15.10	11.50	2.81	
117	SM-001	2区-17	土玉	7.5YR 明褐5/6	18.40	17.80	15.20	4.45	
118	SM-001	2区-19	土玉	10YR 明黄褐6/6	18.90	18.20	16.70	4.81	
119	SM-001	1区周-13	土玉	7.5YR にぶい褐5/4	22.00	20.50	18.10	8.14	
120	SM-001	2区-21	土玉	10YR 明黄褐6/6	17.30	17.70	15.90	4.14	
121	SM-001	2トレ-5	土玉	7.5YR 橙6/6	19.20	18.90	16.90	5.34	
122	SM-001	3区-7	土玉	10YR にぶい黄橙7/3	22.10	21.00	19.80	8.89	
123	SM-001	1区周-14	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	18.70	17.30	20.80	6.71	
124	SM-001	2区-16	土玉	7.5YR 橙6/6	17.30	17.90	14.60	3.82	

挿図No.	遺構No.	遺物No.	種類	色調(Hue)	横幅(mm)	縦幅(mm)	厚み(mm)	重量(g)	備考
125	SM-001	1区周-22	土玉	10YR にぶい黄褐5/4	17.40	(17.20)	<15.40>	3.38	
126	SM-001	1区-91	土玉	7.5YR 橙6/6	18.50	17.70	15.50	4.48	
127	SM-001	2区-8	土玉	10YR 黄褐5/8	20.80	19.30	17.80	5.93	
128	SM-001	2区-9	土玉	7.5YR 橙6/6	20.00	19.90	17.90	6.30	
129	SM-001	2区-12	土玉	10YR 黄褐5/8	18.70	17.90	15.90	4.46	
130	SM-001	2区-11	土玉	7.5YR にぶい黄褐5/4	18.20	18.60	17.20	4.94	
131	SM-001	2区-13	土玉	10YR 黄褐5/8	16.90	18.20	14.60	3.80	
132	SM-001	1区-104	土玉	7.5YR にぶい橙6/4	17.90	18.90	15.30	4.54	
133	SM-001	2区-7	土玉	7.5YR 明褐5/6	17.30	16.90	14.40	3.63	
134	SM-001	2区-6	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	17.60	16.40	16.60	3.76	
135	SM-001	2区-14	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	18.30	16.40	15.40	4.42	
136	SM-001	2区-10	土玉	10YR にぶい黄褐5/4	17.10	15.80	14.70	3.43	
137	SM-001	2区-18	土玉	7.5YR 橙6/6	17.00	16.50	15.40	3.83	
138	SM-001	1区-31	土玉	10YR にぶい黄橙6/4	18.00	19.30	15.20	5.47	
139	SM-001	2区-20	土玉	7.5YR 橙6/6	18.50	17.80	16.40	4.83	
140	SM-001	2区-15	土玉	7.5YR 橙6/6	18.90	16.90	15.90	4.35	
141	SM-001	1区-2	土玉	7.5YR 橙6/6	19.00	16.50	11.20	3.63	
142	SM-001	4区-4	土玉	10YR にぶい黄褐4/3	9.00	8.50	6.00	0.48	
143	SI-003	118	不明	7.5YR 橙6/6	3.10	2.40	1.20	6.20	
144	SI-017	1	不明	7.5YR 橙6/6	42.60	31.20	24.20	22.42	
145	SI-006	1	不明	7.5YR 明褐5/6	36.00	43.60	15.40	18.87	
146	SI-014	1	不明	10YR にぶい黄橙6/4	43.40	31.50	13.30	14.63	
147	(SM-001)	3区周-2	不明	10YR にぶい黄橙6/4	34.30	39.80	11.80	11.45	
148	(SI-022)	1	埴輪	10YR にぶい黄橙6/4	<82.70>	<81.20>	15.50	114.54	
149	SI-009	2	不明	7.5YR 橙6/6	32.00	30.90	12.20	11.14	
150	SI-004	64	穿孔土板	にぶい橙(7.5YR6/4)	5.2	6.4	0.9	25.44	
151	SI-014	1	線刻	にぶい橙(7.5YR6/4)	5.99	3.16	0.9	15.17	
152	SI-014	1	線刻	黒色処理・(地)にぶい橙(7.5YR6/4)	5.28	3.5	0.68	12.75	
153	SI-014	1	線刻	黒色処理・(地)橙(7.5YR6/6)	5.6	3.9	0.6	16.05	
154	SI-015	4	支脚?	7.5YR にぶい褐5/4	55.20	89.20	43.30	193.92	
155	SI-015	3	支脚?	10YR にぶい黄橙6/4	30.80	49.20	20.10	26.20	
156	SI-006	26	支脚	7.5YR 橙6/6	73.40	<125.3>	41.90	360.22	

第11表 古墳時代 石製品 計測表

&lt; &gt;現存長 ( )推定

挿図No.	遺構No.	遺物No.	種類	石材	横幅(mm)	縦幅(mm)	厚み(mm)	重量(g)
1	SI-024	55	小玉	滑石	11.20	11.80	6.10	1.18
2	SI-024	31	小玉	滑石	11.80	12.50	5.90	1.15
3	SI-006	23	勾玉?	滑石	<18.80>	<37.10>	7.10	5.73
4	SI-001	1	有孔円板	滑石	21.90	21.10	4.70	3.78
5	SI-004	18	紡錘車	絹雲母片岩	32.20	33.80	20.10	22.21
6	SI-013	44	紡錘車	粘板岩?	38.80	39.10	9.70	20.05
7	SI-013	39	紡錘車	粘板岩?	34.40	36.70	4.60	7.38
8	SI-024	74	紡錘車	滑石	(39.40)	<24.30>	24.20	26.16
9	SI-023	78	玉原石	緑泥片岩?	68.7	64.6	37.6	237.48
10	SI-005	1	砥石	凝灰岩	53.4	37.1	5.5	13.62
11	SI-009	49	砥石	凝灰岩	56.50	<141.00>	43.50	501.30
12	SI-018	10	砥石	凝灰岩	23.90	<31.80>	23.80	31.12
13	SI-022	1	砥石	凝灰岩	34.9	43.9	13.5	22.32
14	2E-71	1	砥石	凝灰岩	25.60	<34.60>	19.40	20.35
15	2C-24	1	砥石	凝灰岩	30.1	29.9	10.3	10.75
16	3E-13	1	玉原石	凝灰岩	46.3	48.3	17.6	35.68

## 第4章 まとめ

遺跡全体の調査概要については第1章にて記述したため、ここでは本遺跡で主体を占める古墳時代後期～終末期についての成果を中心にまとめることにしたい。

### 第1節 出土遺物の様相と集落の変遷

#### 1 出土遺物の様相（第79図、第12・13表）

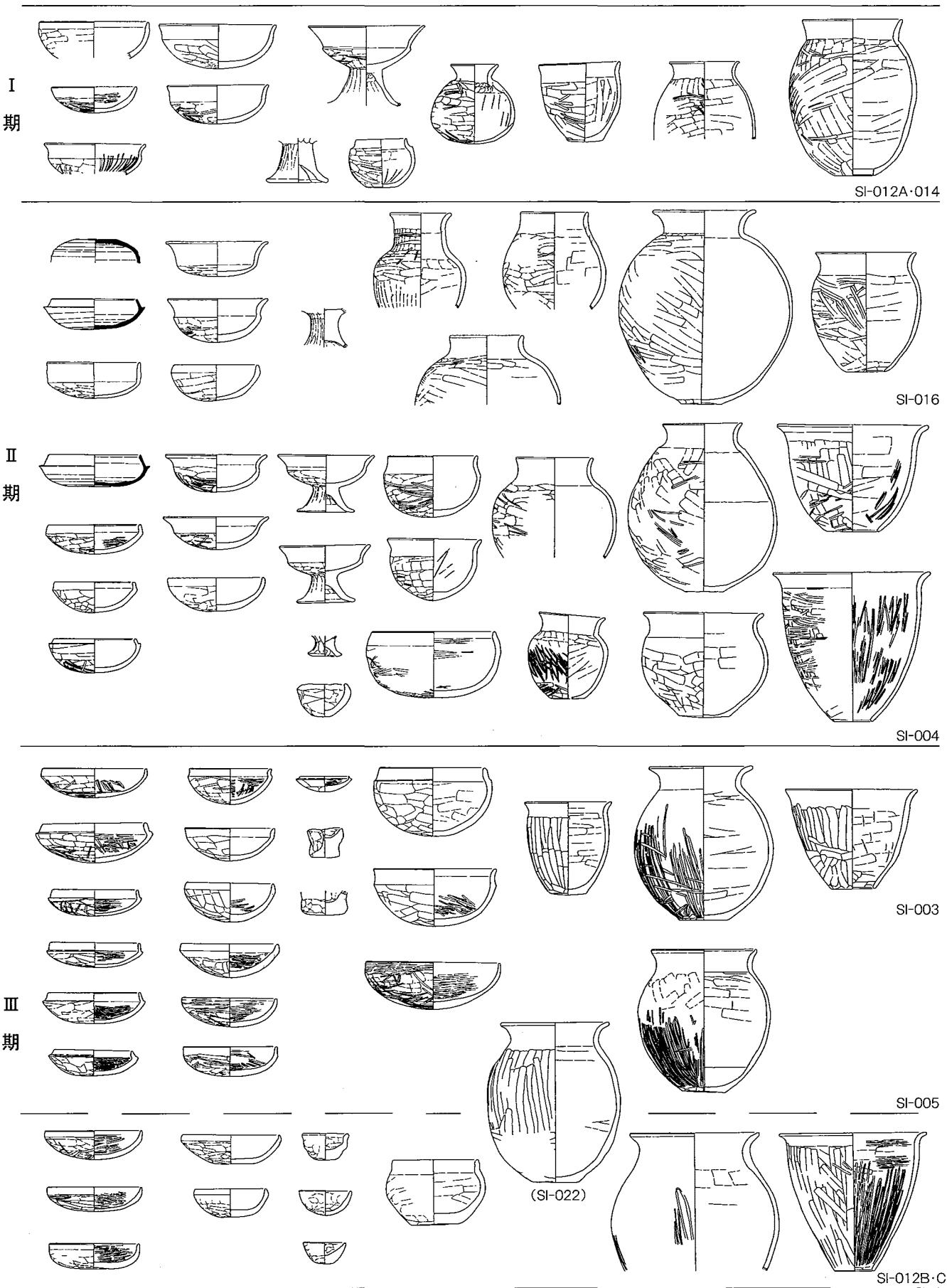
本遺跡の古墳時代後期～終末期の遺構は23軒の竪穴住居と1基の長方墳である。竪穴住居は台地全体に散在し、切り合いはSI-012A・B・CとSI-022A・Bでのみ確認された。SI-012B・CとSI-022A・Bでは出土遺物や覆土堆積の状況から時期が大きく離れるものではなく、軸やカマドの位置の共通性などからも建て替えと考えられる。このように竪穴住居の切り合いが非常に少ないという点は、単一集団の継続性のある集落と捉えることも可能で、古墳が検出された長方墳以外に同台地上では確認されていない点も同様な視点で説明が可能かと思われる。

多くの竪穴住居のカマド周辺や貯蔵穴からは完形に近い土器類がまとめて出土した。ここでは、周辺遺跡の良好な調査成果<sup>1)</sup>を参考にし、本遺跡の土器形態や器種の組み合わせの様相を大きく3段階に分期して変遷を考えることにしたい。各期の土器様相は以下の通りである。

**第Ⅰ期** SI-012A・SI-014が該当する。いずれの住居跡も完掘ができず、遺物量が少なく、全器種の様相は不明瞭である。また、SI-012AとSI-014の土器様相は若干異なるが、集落内で古相を示す土器群としてまとめて捉えた。壺類はすべて赤彩され、椀状の大型壺と口縁が外反する壺が特徴である。高壺の壺部は外反する壺と同形状のものである。甕類は個体数が少なく、特徴は判然としないが、壺や肩部の張りの緩やかな小型の甕がみられる。瓶は甕形を呈し、孔は底部底面を削って穿く。外面調整は横方向のヘラケズリが主体である。この時期の住居からは須恵器は出土していない。

**第Ⅱ期** SI-016・SI-004から出土した土器を指標とする。土師器壺は前段階に引き続き、口縁が外反する個体がみられ、外反も大きい。また、底部から体部に丸みをもつ須恵器壺身模倣の土師器壺が新たに加わる。明らかにMT15型式段階の須恵器壺蓋を模倣した土師器壺がSI-016に含まれる。高壺は口縁部の外反する小型の良好個体がみられるが、SI-004のみで他の遺構にはほとんど含まれない。壺類の表面塗彩は赤彩と黒色処理が混在するが、赤彩がやや目立つ。赤彩から黒色処理に移り変わる過渡期の土器様相と捉えられる。他に中型椀・鉢類や口縁部が短く直立する形状の甕類がみられる。大型甕は胴部が張る個体が多く、胴部が下膨れ状で口径の小さい甕など形状が多種である。瓶は甕形のものと直線的に開く個体がみられる。甕類の外面調整は前段階と同様に横方向のヘラケズリが主体である。この時期の住居から須恵器が伴出するようになるが、希少である。遺存度の高い須恵器型式はMT15～TK10型式段階と考えられる。

**第Ⅲ期** SI-003・SI-005・SI-012B・Cから出土した土器を指標とする。土師器壺は前段階までの口縁が大きく外反する個体ではなく、口縁が短くわずかに開く個体がわずかにみられる程度である。主体は漆による黒色処理の施された須恵器壺身模倣の土師器壺となる。内面は丁寧なヘラミガキ調整が施される。前段階に



第79図 土器の変遷 (坏類:S=1/8, 壺・甌類:S=1/10)

比べ、口縁部高はほとんど変化はないが、口径が広く、器高がやや低くなる(第13表)。底部付近の丸みが取れ扁平化するものが多い。口縁端部が短く直立する壺類も含まれ、それらは新相になると平底を意識した形状に変化すると考えられる(SI-12B・C)。高壺に良好な資料はないが、大型の椀・鉢類は引き続き個体数は多くないが含まれる。大型甕類には胴部下半が縦位にヘラミガキ調整され、胎土には多量の白色砂礫が含まれる常総型甕がみられるようになる。それ以外の甕類は遺存率が低く良好な資料は少ないが、前段階よりも胴部の張りが弱い傾向にある。甕は胴部が直線的に開く形状が主体で、第Ⅱ期より比較的薄手で、外面調整は縦方向のヘラケズリが目立つ。須恵器は前段階と変わらず少量で破片資料だが、口径の小さいものがほとんどである。

それぞれの年代であるが、土師器が主体で須恵器が数点しか出土しておらず積極的に断定できる根拠はほとんどない。とりあえずの可能性として、第Ⅱ期の住居から出土した須恵器をMT15～TK10型式段階(6世紀前半～中葉)と捉え、土師器の連続的な器形変化から考えて第Ⅰ期がそれ以前のTK23～47型式段階、第Ⅲ期がTK43～209型式段階とおおまかに想定するのが、現段階の主流な土師器編年観とも整合すると考えている。

## 2 集落の変遷(第80～82図、第12・13図)

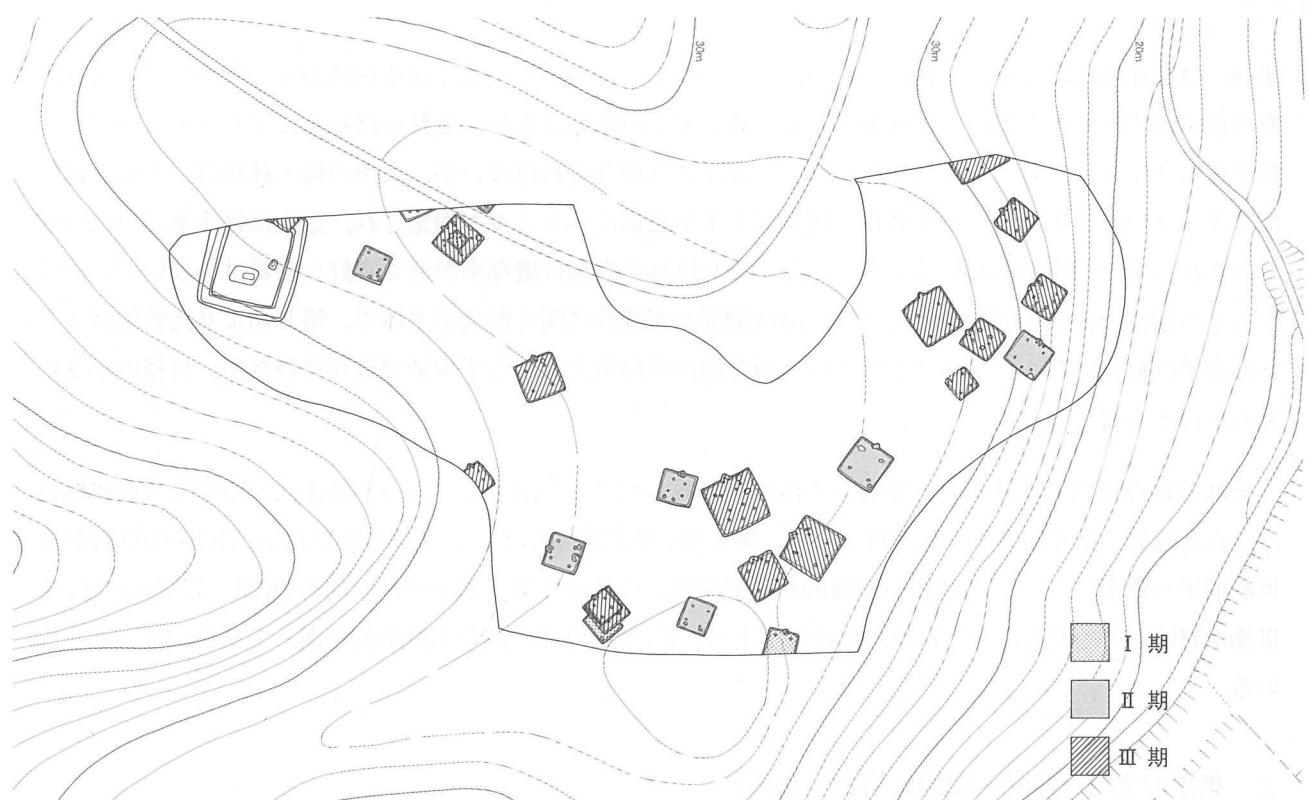
出土土器の検討により、本遺跡では本格的な集落の形成は古墳時代後期から開始され、長方墳の築造をもって、集落自体も終焉を迎える様相が明らかになってきた。第Ⅰ期～Ⅲ期と比較的おおまかに段階を設定したが、土師器の形態変化は連続的に追えるため、継続性のあった集落を想定することが可能であろう。土器の変遷を基準に竪穴住居を時期別にまとめたのが、第12表である。なお、遺構の情報が少なく、一般土器類の出土が少ないSI-024については少なくとも第Ⅰ期ではないと考えられるが、時期を特定できなかった。表の右側に記入した遺構は時期を断定できなかったことを示し、?を付して表示した。第Ⅰ期が2軒、第Ⅱ期が7軒、第Ⅲ期が16軒となり、古墳時代後期の後半ほど竪穴住居数が増加する。

第Ⅰ期の竪穴住居は調査区南側に偏って検出された。台地自体は調査区南側にも延びているためその方向に当概期の遺構が展開する可能性はあるが、等高線でみると現地では調査区南側の台地平坦面は狭く、大きな広がりは想定できない。住居床面積を計測できたのはSI-012Aの1軒で20.94m<sup>2</sup>であるが、SI-014も調査部分から想定して25～30m<sup>2</sup>と推定できる。各期の中では比較的小規模である。平面形もやや長方形を呈する点が特徴としてあげられる。また、主軸に目立った傾向はみられない。

第Ⅱ期の竪穴住居は、分布にまとまりはなく、台地全体に散在する。住居規模のばらつきは少なく、平均床面積は29.55m<sup>2</sup>で、第Ⅰ期よりはやや大きくなる。SI-016・SI-021ではカマドの痕跡を確認できなかった。主軸はSI-017を除きN-30°-E周辺に集中する傾向がみられる。

第Ⅲ期の竪穴住居は、台地全体に5軒程度ずつまとまりをもって分布する。調査区北側に更に展開する可能性があるが、北東側は台地がくびれるように細くなるため集落単位としてはそれほど大きく広がらない。SI-001・SI-006・SI-010・SI-013の様に大型住居と中型住居とに規模が分化しているようにみえる。住居の平均床面積は34.19m<sup>2</sup>で、3期の内で最大規模である。住居の主軸方向はN-40°-W周辺にすべて集中し、第Ⅱ期と同様に同時期内における深い関連が想定できる。

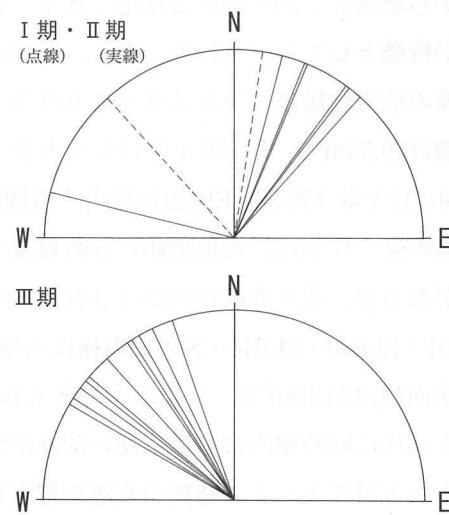
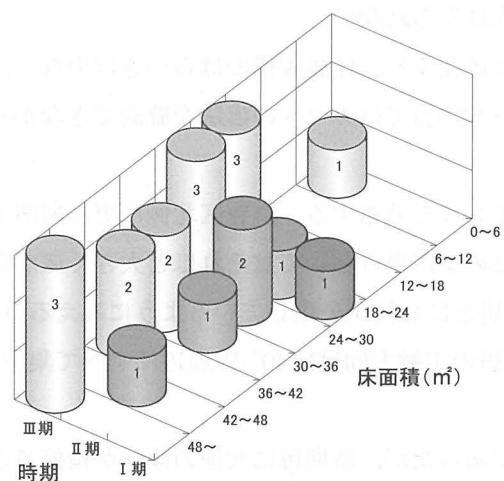
主に出土土器によって3時期の変遷を想定した竪穴住居であったが、時期毎に共通の傾向が指摘できた。



第80図 積穴住居の変遷

第12表 積穴住居 時期別一覧表

I期	SI-012A SI-014	
II期	SI-004 SI-009 SI-015 SI-016 SI-017 SI-021 SI-023	SI-024?
III期	SI-001 SI-002 SI-003 SI-005 SI-006 SI-008 SI-010 SI-011 SI-013 SI-018	SI-007? SI-025?
	SI-012B・C SI-022A・B	



第81図 時期別 積穴住居床面積分布

第13表 積穴住居 時期別内容一覧表

時期	遺構No.	実測坏類平均値 (cm)				赤彩坏		黒色処理坏		常総甕	貯蔵穴の位置	主軸方向	規模 (m)	床面積 (m <sup>2</sup> )
		実測数	口径	器高	口縁高	点数	比率	点数	比率					
I期	SI-012A	3	-	-	-	3	100%	0	0%	0	入口寄り?	N-42°-W	(5.04)×4.24	20.94
	SI-014	12	-	-	-	5	42%	0	0%	0	(入口寄り?)	N-9°-E	-×5.15	-
II期	SI-004	35	12.13	4.71	1.19	17	49%	9	26%	0	入口寄り	N-38°-E	5.78×5.82	34.61
	SI-009	13	12.5	4.16	0.88	5	38%	5	38%	0	入口寄り	N-37°-E	6.63×6.7	44.09
	SI-015	4	-	-	-	2	50%	0	0%	0	入口寄り	N-15°-E	5.2×5.28	21.54
	SI-016	9	12.2	5.3	1.15	3	33%	1	11%	0	入口寄り?	N-23°-E	5.09×4.84	24.85
	SI-017	3	-	-	-	1	33%	0	0%	0	入口寄り	N-76°-W	5.25×5.4	28.46
	SI-021	5	12.5	4	1.35	1	20%	1	20%	1	入口寄り	N-22°-E	4.82×4.86	23.77
	SI-023	5	12.5	6.3	1.3	2	40%	2	40%	0	入口寄り	N-42°-E	-	-
II・III期?	SI-024	1	9.85	4.3	1.5	1	100%	0	0%	0	カマド寄り?	N-28°-W	-×5.44	-
III期	SI-001	3	12.86	4.3	1.05	0	0%	0	0%	0	カマド寄り?	N-30°-W	-×8.7	-
	SI-002	8	13.52	4.06	1.08	0	0%	4	50%	0	カマド寄り	N-51°-W	5.08×5.35	27.57
	SI-003	18	13.45	4.54	1.21	1	6%	10	56%	1	カマド寄り	N-60°-W	5.26×5.45	28.68
	SI-005	10	13.37	4.37	1.21	0	0%	10	100%	2	なし	N-54°-W	5.48×5.5	29.05
	SI-006	15	13.3	4.4	1.21	0	0%	13	87%	0	カマド寄り	N-58°-W	7.64×8.01	59.64
	SI-008	5	13.06	4.1	0.91	0	0%	5	100%	0	なし	N-42°-W	4.94×4.58	21.74
	SI-010	3	13.05	4.2	1.03	0	0%	3	100%	1?	なし	N-33°-W	(7.8)×6.96	51.89
	SI-011	2	13.7	5.1	1.2	0	0%	1	50%	0	なし	N-34°-W	4.64×(4.32)	19.82
	SI-013	16	12.43	4.1	1.18	0	0%	10	63%	3	カマド寄り	N-26°-W	8.5×8.16	71.42
	SI-018	2	12.2	5.3	1.5	0	0%	1	50%	0	カマド寄り	N-19°-W	6.38×6.32	39.24
III期新	SI-012B	2	12.3	4.25	0.9	0	0%	2	100%	0	(なし)	N-42°-W	5.7×5.22	30.87
	SI-0120	4	13.82	3.92	1.01	0	0%	4	100%	1	なし	N-42°-W	4.44×4.43	19.22
	SI-022A	5	-	-	-	0	0%	4	80%	0	なし	N-50°-W	2.63×2.57	5.81
	SI-022B	5	13.8	3.7	0.8	0	0%	4	80%	0	カマド寄り	N-50°-W	5.96×5.98	35.34
III期?	SI-007	2	-	-	-	0	0%	1	50%	0	カマド寄り	N-27°-W	6.28×6.18	38.47
	SI-025	1	11.3	-	0.95	0	0%	1	100%	0	カマド寄り?	N-36°-W	(4.08)×-	-

※床面積は住居下場(壁周溝を含む)をプランメータで計測して算出した。なお、カマドの突出部分は除外している。

竪穴住居における貯蔵穴の位置を確認してみると、第Ⅱ期と第Ⅲ期とで設置される位置が変化することが分かる(第13表)。主軸の共通性も併せて、土器による時期設定がある程度確度のあるものといえよう。

一方、本集落の特徴として多くの遺構から土製玉類が出土することが挙げられる。出土遺構は竪穴住居13軒と古墳1基からで、時期は第Ⅱ期以降の遺構に限られるようである。種類は勾玉、大型丸玉(直径20mm前後)と小型丸玉(直径8mm前後)である。各遺構で数点程度出土するのがほとんどで、多量に出土したのはSI-024とSM-001のみである。一般土器類の出土がなく時期を確定できなかったSI-024については、小型丸玉の出土が第Ⅲ期の遺構に限られる点と貯蔵穴が入口部分にみられない点、主軸がN-28°-Wである点から第Ⅲ期の可能性が高い。他の特徴として、第1章でも記述したように竪穴住居跡上の現地表面が凹み、完全に埋没していない状況が検出された点も貴重な事例として挙げておきたい。周辺で確認された例では富里市稻荷谷津遺跡<sup>2)</sup>があり、古墳時代後期の竪穴住居跡5軒が検出されている。

また、カマドの最終状態を時期別にみてみると、第Ⅱ期ではカマドを人為的に掘り壊す例(SI-009・SI-015)や通常は火にかけない壺類が火焼部で出土する例(SI-004・SI-017)などカマドに対する特別な行為が観察できる。第Ⅲ期のカマドでは袖脇に壺・甕類がまとめられる例(SI-003・SI-005)や甕・甌破片が火焼部付近で出土する例(SI-002・SI-011・SI-018)など通常の使用状態を想定できるような事例が多い傾向がみられる。

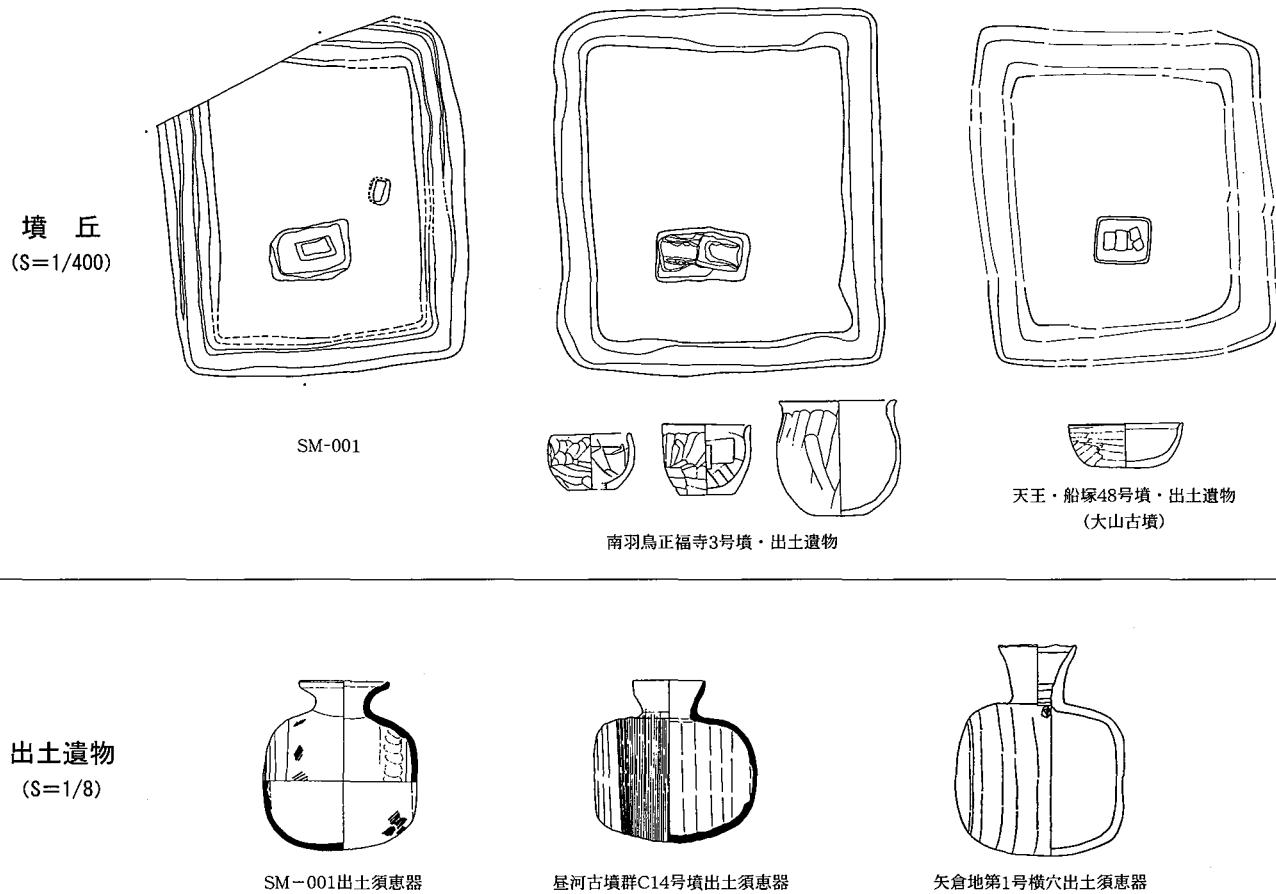
## 第2節 古墳の検討（第83図）

SM-001は長方墳で、18.8(墳丘長14.3)×15.6(10.5)m、盛土高1.1mの小規模な墳墓である。周溝北側で、SI-025(第Ⅲ期?)と切り合うが、SM-001の方が新しい。主体部は墳丘長軸に直交して長軸をもつ絹雲母片岩製板石による箱式石棺(第1主体部)と墳丘東側に側壁抉り込み土壙(第2主体部)が検出された。箱式石棺の規模は推定長軸1.85(内法1.5)×1.13(内法0.8)mである。石棺材まで完全に抜き取られ、副葬品は少量しか出土しなかった。第1主体部からは須恵器小型平瓶と土師器壺が破片で浮いた状態で出土した。土師器壺はほとんど黒色処理の施された須恵器模倣壺である。これらの土師器壺は第Ⅲ期の壺に比べ若干の小型化・口縁部の短さが指摘できるが、古墳に伴うと考えるべきか、切り合うSI-025竪穴住居に伴っていたものの混入とすべきか判断に苦しむ。時期としては第Ⅲ期新相以降と捉えておきたい。第2主体部と周溝からは須恵器小型壺、周溝南西コーナー部分で須恵器横瓶が周溝テラス面に接して出土した。他に土師器甕、ミニチュア土器、土玉が出土した。

ここでは墳丘・出土遺物の類例を検討し、SM-001の造営年代や集落における位置づけを考えてみたい。小型長方墳で、長軸と直交して箱式石棺を墳裾に設置する墳墓は他の地域では見あたらなかつたが、同地域内で成田市南羽鳥正福寺3号墳(墳丘長15.5×13.5m)・成田市天王・船塚48号墳(大山古墳)(墳丘長12.2m×11.0m)の2例<sup>3)</sup>を確認できた。ともに、墳丘等高線を見る限り墳丘中心から南寄りが他の部分よりもだらかに盛土され、その部分に箱式石棺を設置するなどSM-001と共通性が極めて高い。南羽鳥正福寺3号墳の箱式石棺は、内法1.64×0.90m(蓋石7枚、側石10枚)で、床面は地山を平坦に成形したのみで床板は設置されない。天王・船塚48号墳の箱式石棺は内法1.76×0.90m(蓋石4枚、側石8枚)で、床面は床石がなく木炭が敷かれる。SM-001では石棺材が抜き取られていたため、発掘時では判然としなかつたが、この2遺跡と同様に床板石は敷かれていなかつたと考えるべきかもしれない。箱式石棺規模の小型化・床板石材の省略など、型式的には新相を示していることが分かる<sup>4)</sup>。南羽鳥正福寺3号墳では小型の甕型土器が周溝中位から

破碎された状況で出土し、古墳築造から一定の期間を経た後古墳に供えられたと考えられている。それ以外の遺物は出土せず時代の想定は難しいが、SM-001周溝からも頸部屈曲の弱い中型甕破片が出土しており、同様な行為の想定は可能である。天王・船塚48号墳では石棺外から片刃箭式鉄鏃、周溝から土師器坏が出でている。鉄鏃は鏃身長1.5cm前後の棘籠被を有する長頸鏃であり、土師器坏は明確に平底を意識した形状で、金属器を模倣したものである。これらの特徴から時期はTK-217型式段階以降と想定される。

次に、周溝からほぼ完形で出土した須恵器横瓶については、千葉県内では類例はなく、伊勢市昼河C14号墳・横浜市矢倉地第1号横穴<sup>5)</sup>でほぼ同形状の横瓶が確認できた。昼河C14号墳出土品は口縁部はほとんど外反せず、体部は比較的横広となっている。出土状況などの検討から追葬ではなく、伴出した須恵器坏類などがTK217型式・猿投編年東山50号様式に比定されており、横瓶もその時期と考えられる。矢倉地横穴1号墓出土品は肩部にボタン状の把手があり、口縁部は直線的に開き端部は薄くなる。体部の形状・法量はSM-001出土横瓶と近似する。報告者は遺物の年代を7世紀前半としている。横瓶の出土量は比較的少なく編年が確立している状態とは言えないが、型式変化の方向性として体部の横への拡大化を基準<sup>6)</sup>とすると矢倉地1号横穴→SM-001→昼河C14号墳出土横瓶の順と捉えておきたい。



第83図 SM-001の類別

以上、類例の検討を総合的にまとめると、SM-001はTK217型式期、現段階の年代観で7世紀中頃には築造されていたと想定するのが妥当であろう。集落との関係では、調査区内ではTK-217型式段階の竪穴住居は検出されておらず、同時代関連性を積極的に主張することはできない。しかし、調査区北側未調査地部分に古墳と同時期の遺構が展開する可能性や竪穴住居形態以外の住居の想定、古墳出土品と集落出土品による年代設定の問題<sup>⑦</sup>などから、この規模の集落の最終段階に小規模墳墓1基が造営されたと想定できるなら古墳時代終末期における集落と古墳の関係を考える上で貴重な成果といえるであろう。

また、本遺跡周辺には大規模古墳群が存在することは第1章でも述べたが、それらの古墳群との関連や小型方墳と大型方墳との時代・地域性の問題、採用される主体部種類の多様性など7世紀代の方墳のあり方には今後検討すべき課題が多い。

(注)

1) 土器編年については下記文献を参考にした。

1988 村山好文「平賀遺跡群における古墳時代後期土器の再検討」『日本考古学研究所集報X』日本考古学研究所

1994 糸川道行『妙経遺跡・井戸谷9号墳』(財)千葉県文化財センター調査報告第246集

1995 小沢 洋「房総の古墳後期土器-壺の変遷を中心として-」『東国土器研究』4 東国土器研究会

1999 高橋 誠『南羽鳥遺跡群III-中岫第1遺跡F地点-』(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第145集

2) 稲荷谷津遺跡では重機による表土除去を行わず、出土遺物すべての位置を記録するなど極めて綿密な発掘調査が行われている。

1998 『富里第二工業団地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査』(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第138集

3) 墓丘の類例については下記の文献から引用したが、墳丘図については原図を一部編集、再トレースを行った。

1965 茂木雅博「成田市大山古墳調査報告」『古代学研究』41

1975 『公津原』(財)千葉県地域振興公社

1996 『南羽鳥遺跡群 I -南羽鳥高野遺跡、南羽鳥正福寺遺跡-』(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第112集

4) 箱式石棺の編年については下記文献を参考にした。

1993 上野恵司「総における古墳時代後期の埋葬施設の研究-箱式石棺-」『立正考古』32 立正大学考古学研究会

1995 石橋 充「寿行地古墳の年代について」『寿行地古墳発掘調査報告書』土浦・出島合同遺跡調査会

5) 横瓶の類例については下記文献から引用した。なお、横瓶以外の須恵器(小型平瓶・壺)については現段階では残念ながら類例を確認することができなかった。器形から古墳時代の所産ではなくいずれも奈良時代以降の遺物である可能性は高い。出土状況からも第1次埋葬に伴うものではなく、追葬・墳墓再利用に伴うものであろうと捉えている。

1975 池上 悟「横浜市矢倉地横穴墓群の調査」『考古学ジャーナル』103

1993 『昼河古墳群』伊勢市教育委員会

6) 2000 鈴木敏則「古墳時代湖西窯編年の再構築に向けて」『須恵器生産の出現から消滅』第1回東海土器研究会

7) 7世紀における集落と古墳の年代観について、集落は6世紀から続く資料が多く土師器編年の連続性から7世紀の年代を想定する傾向があり、終末期古墳の年代は出土須恵器・武器類の関西・東海の型式を直接あてはめて想定する傾向にあり、前者が7世紀中葉と捉える時期と後者が7世紀後半と位置づける時期が本当にそれほどの差があるものなのか今後更に検討が必要であろう。

# 写 真 図 版

図版1

松崎山ノ台遺跡

航空写真(S=1/10,000)

図版2



図版3



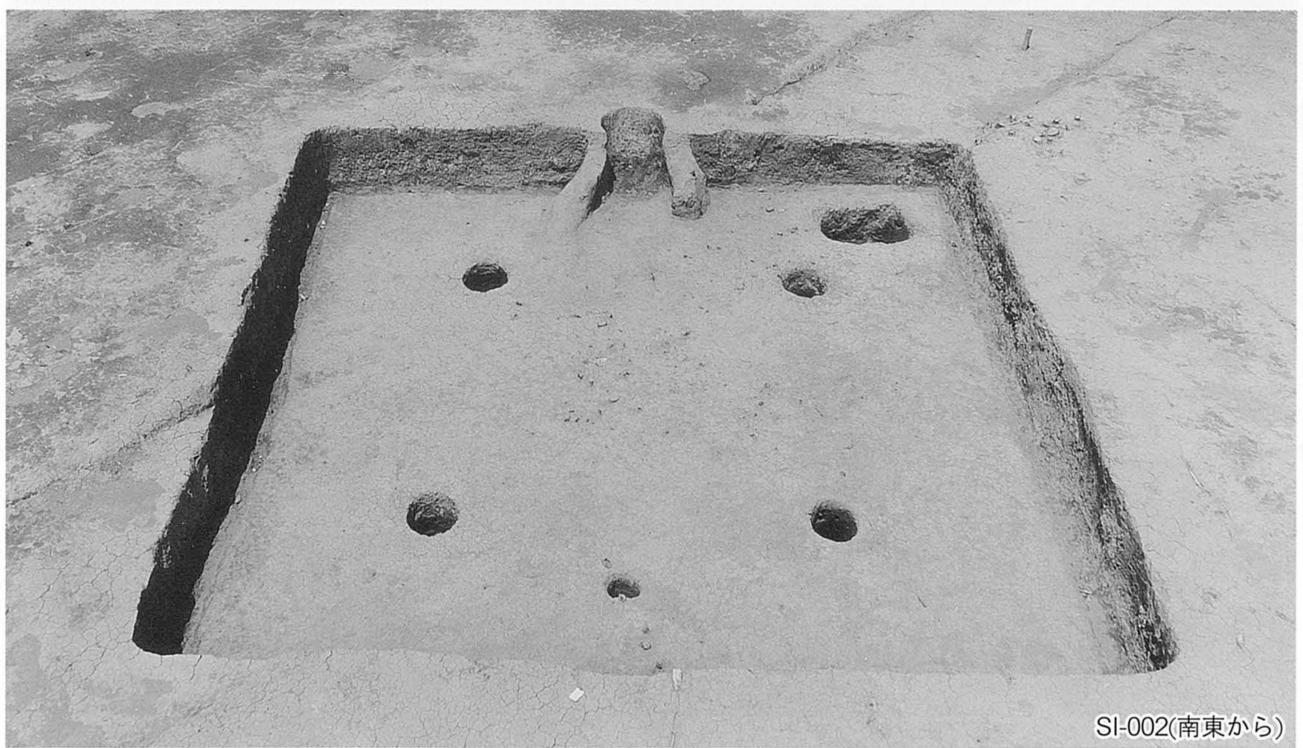
SI-001(南西から)



SI-001断面(南東から)



SI-001遺物出土(西から)



SI-002(南東から)

図版4

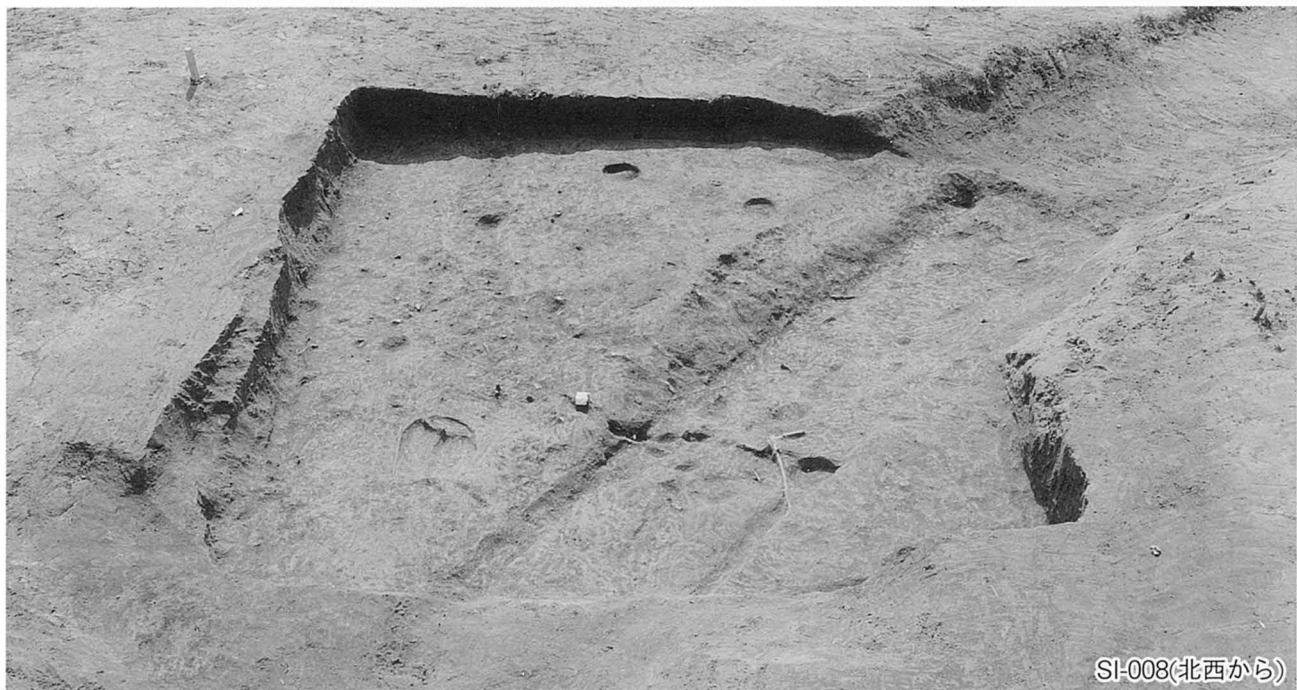


図版5



図版6





SI-008(北西から)



SI-009(南西から)



SI-009カマド(南から)



SI-009遺物出土(北東から)

図版8



SI-010(南東から)



SI-011(南東から)



SI-011カマド(南東から)



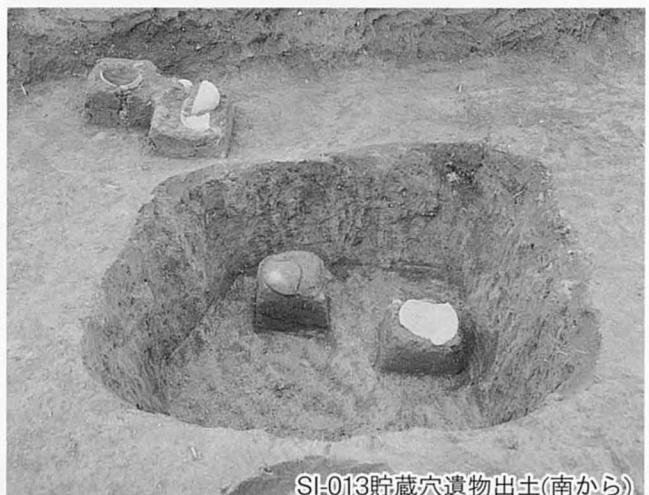
SI-011遺物出土(南から)



SI-012(北東から)



SI-012カマド(南東から)



SI-013貯蔵穴遺物出土(南から)

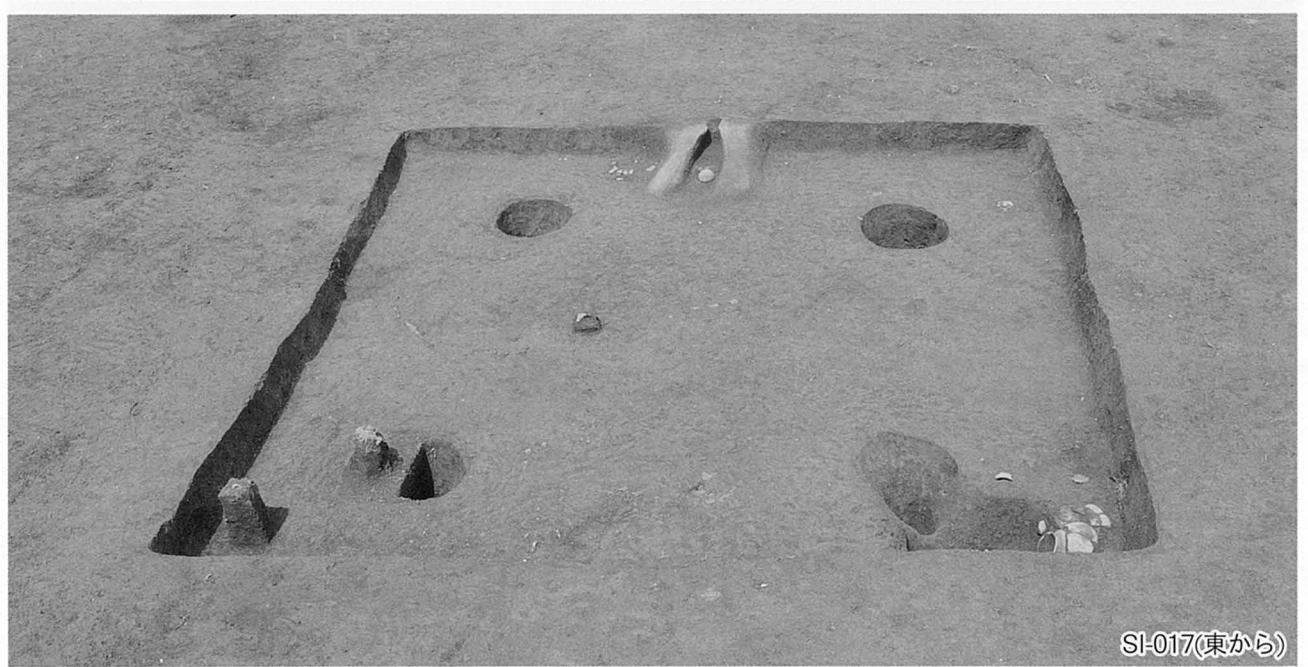
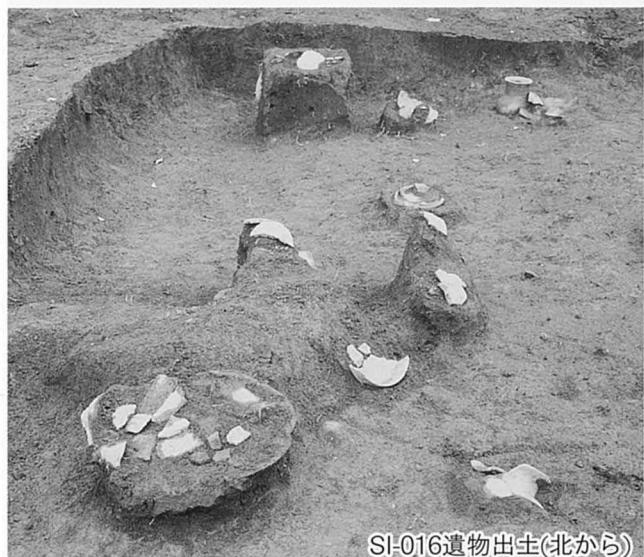
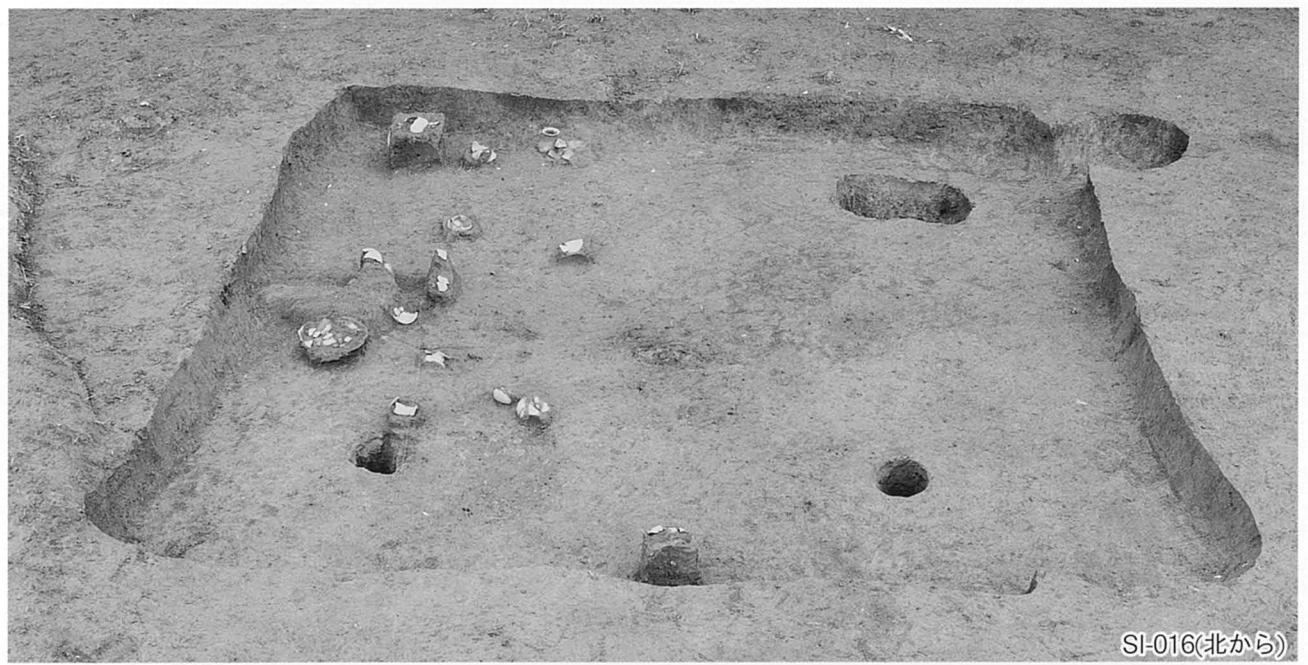


SI-013(南から)

図版10



図版11



図版12



SI-017カマド(東から)



SI-017貯蔵穴遺物出土(南から)



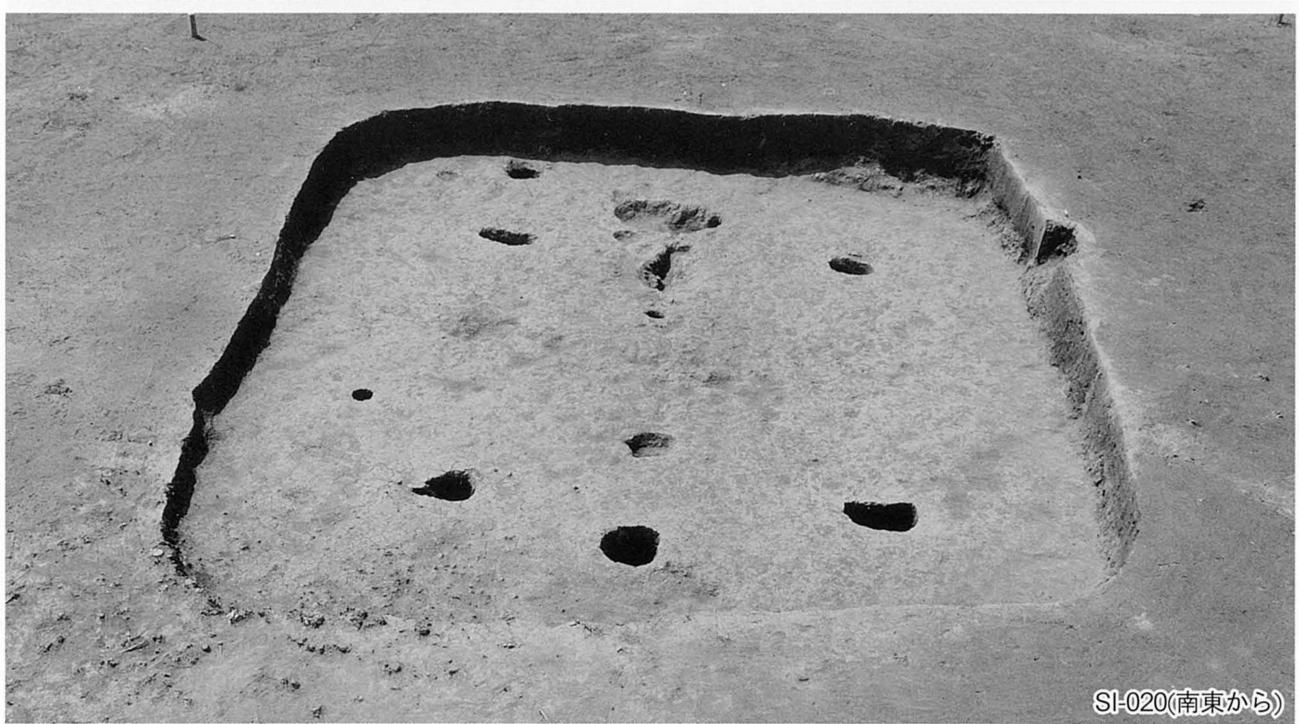
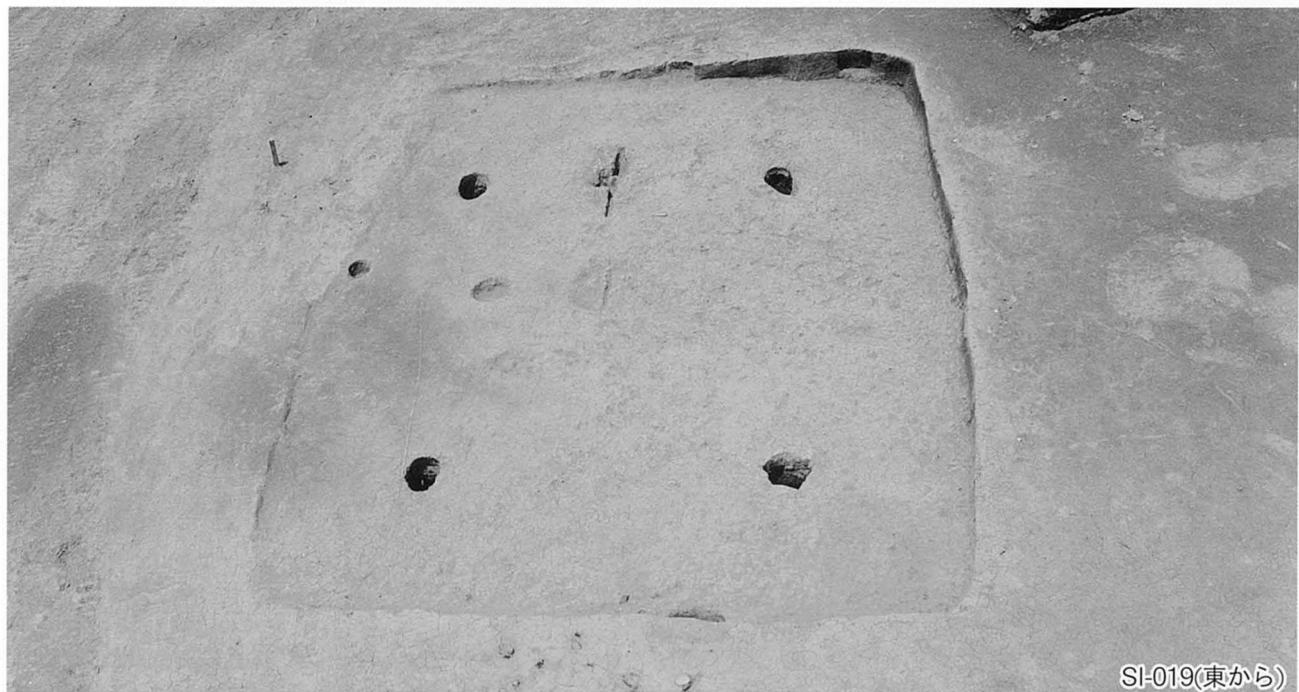
SI-018(南から)



SI-018カマド(南から)



SI-018遺物出土(南から)



図版14



SI-021(南から)



SI-021遺物出土



SI-022カマド(南東から)



SI-022(南東から)



SI-023(南東から)



SI-023貯蔵穴遺物出土(北西から)



SI-024断面(南から)



SI-024(西から)

図版16



SI-025貯蔵穴(南西から)



SK-002(南から)



SS-001(北から)



図版18



SM-001主体部確認段階(手前が南)



SM-001第1主体部(東から)



SM-001第1主体部断面(北東から)



SM-001第1主体部掘方断面(東から)



SM-001第1主体部石棺材出土(西から)



SM-001第1主体部(西から)

図版20



SM-001南周溝石棺材出土(東から)



SM-001南周溝断面(東から)



SM-001東周溝遺物出土(南から)



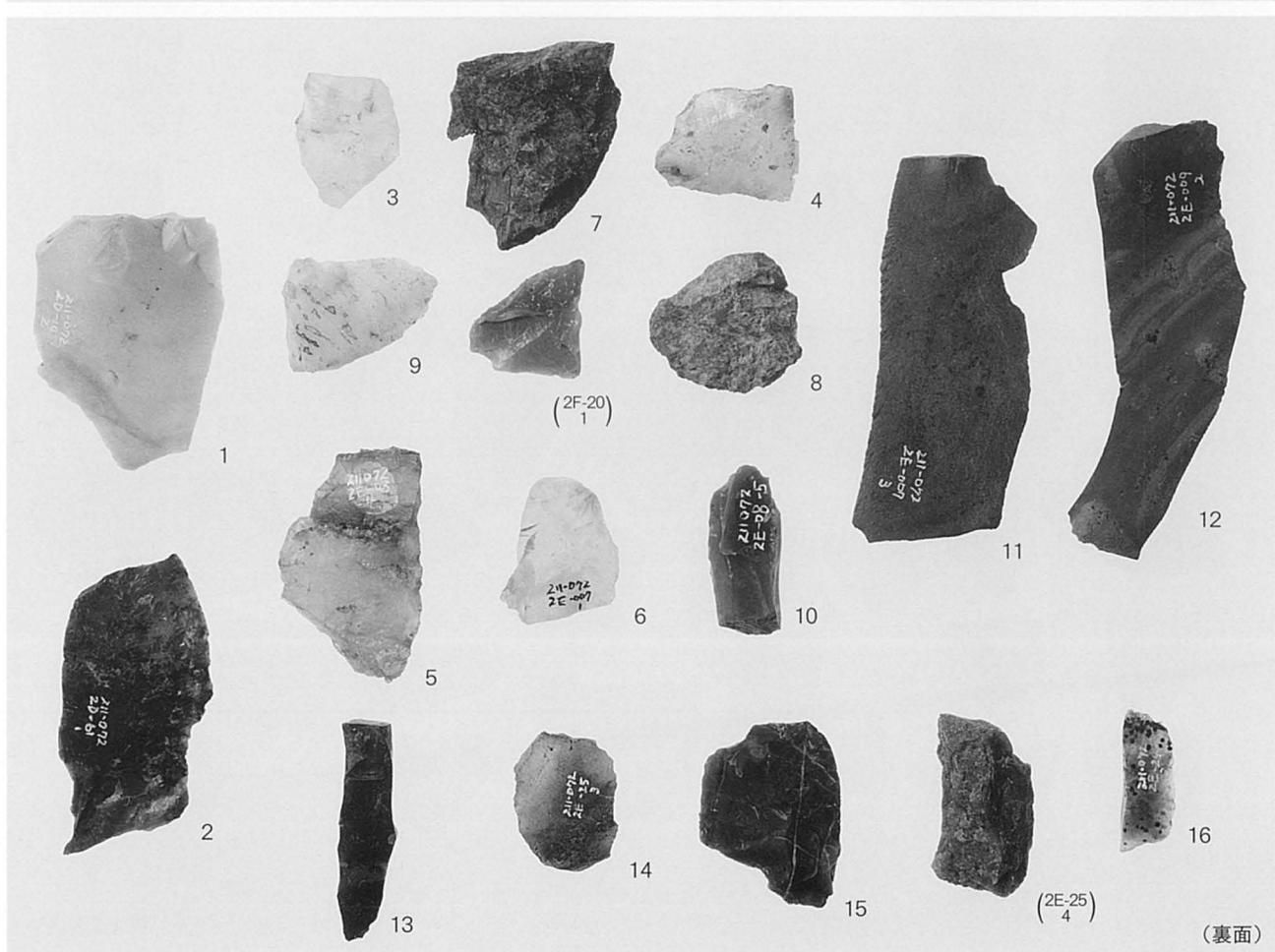
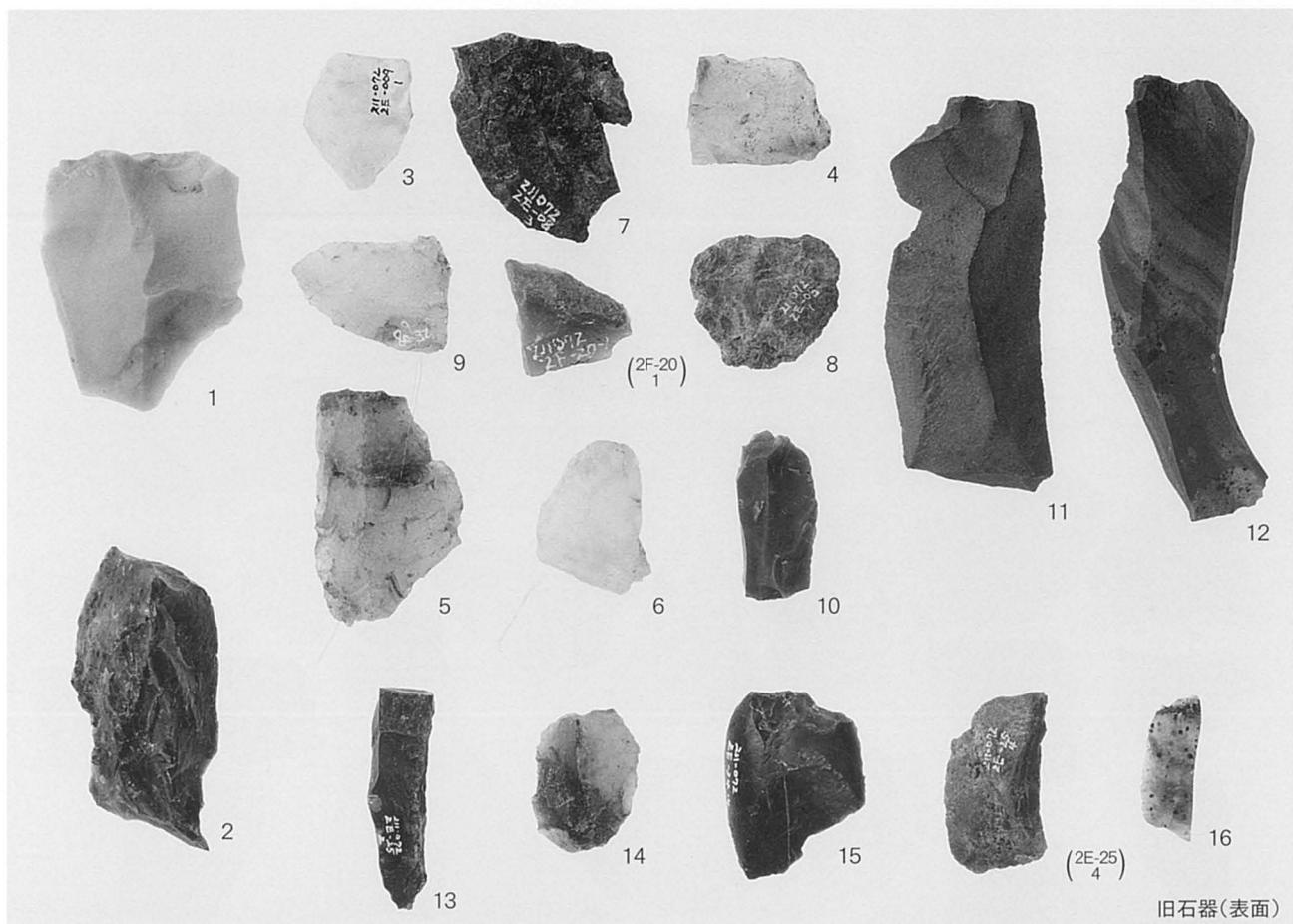
SM-001南西隅周溝遺物出土(北から)



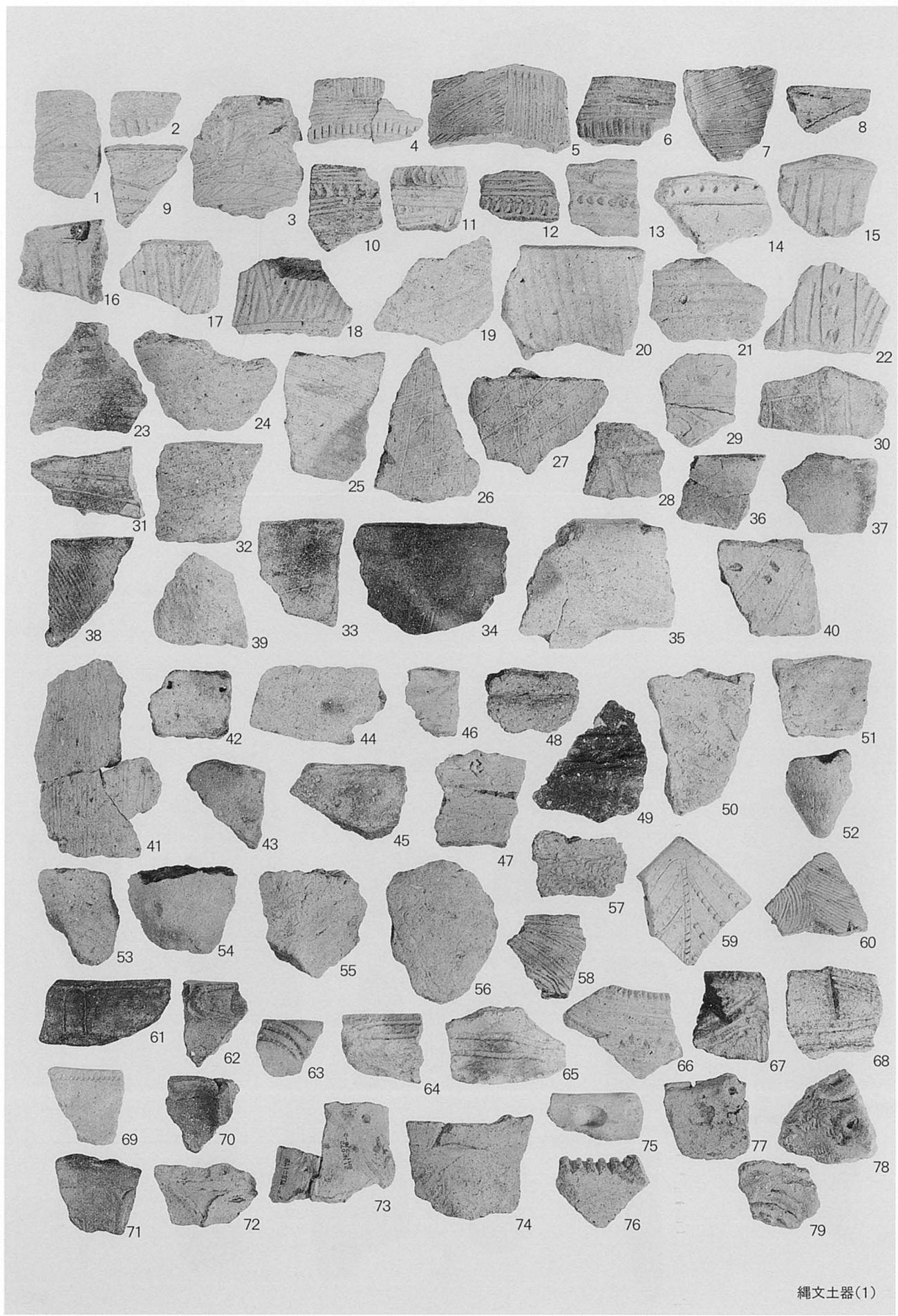
SM-001第2主体部断面(南から)



SM-001第2主体部(南から)

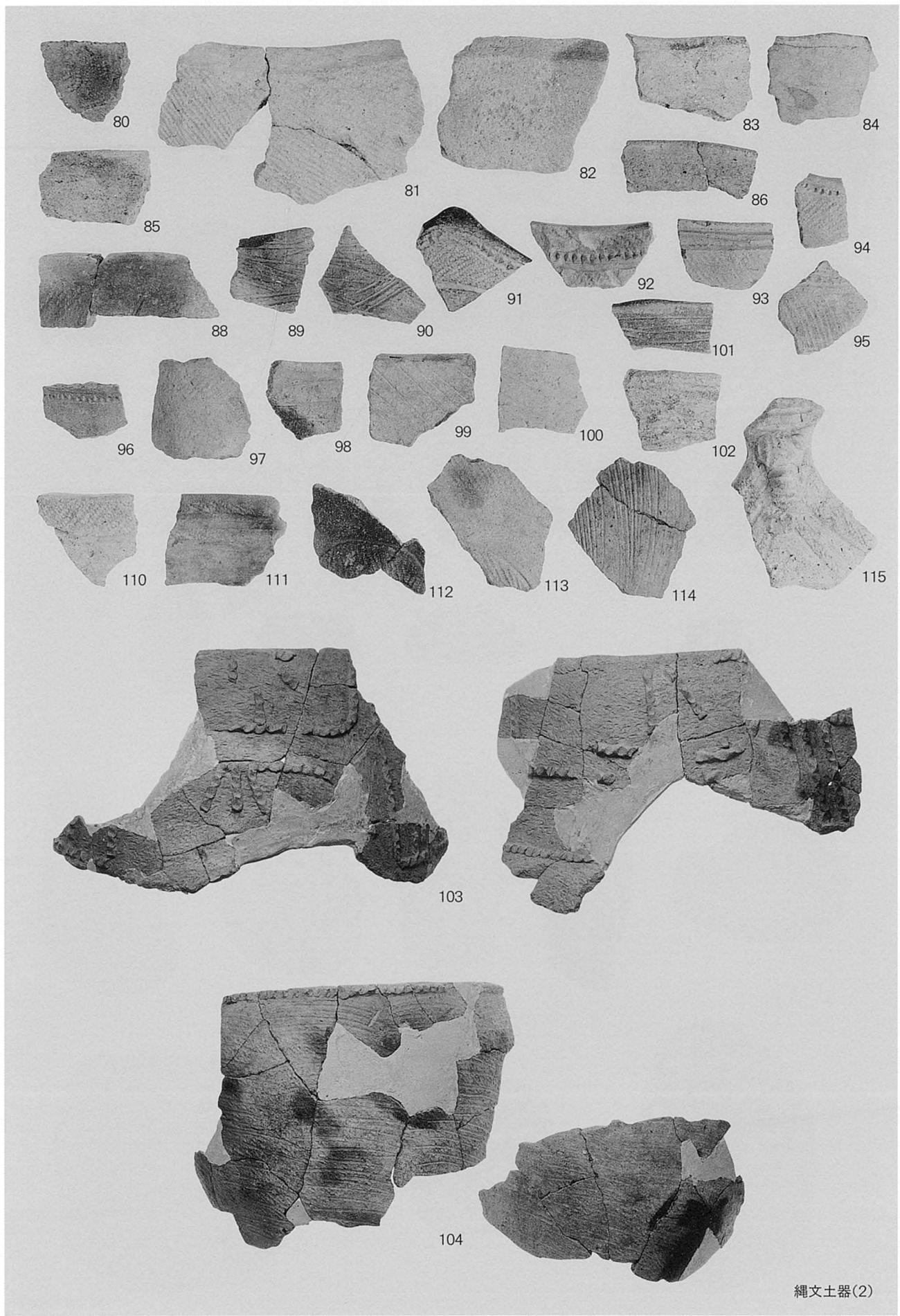


図版22



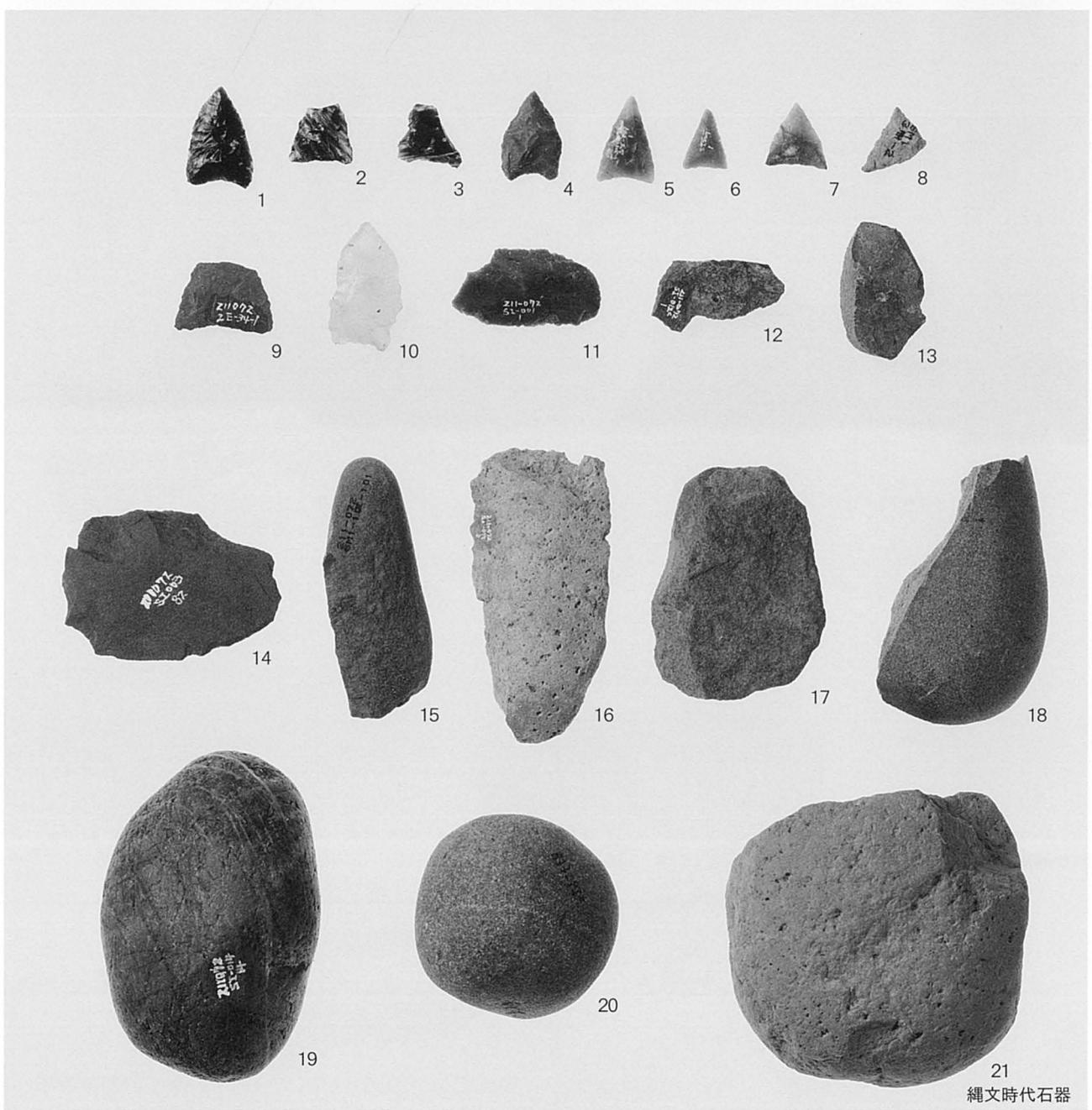
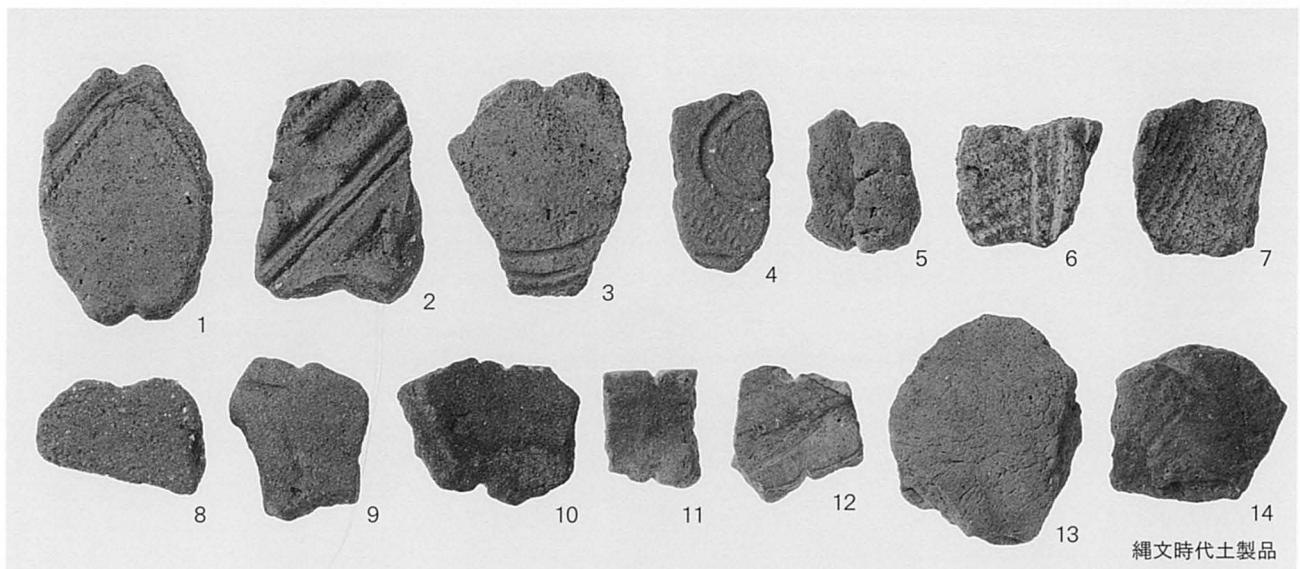
縄文土器(1)

図版23

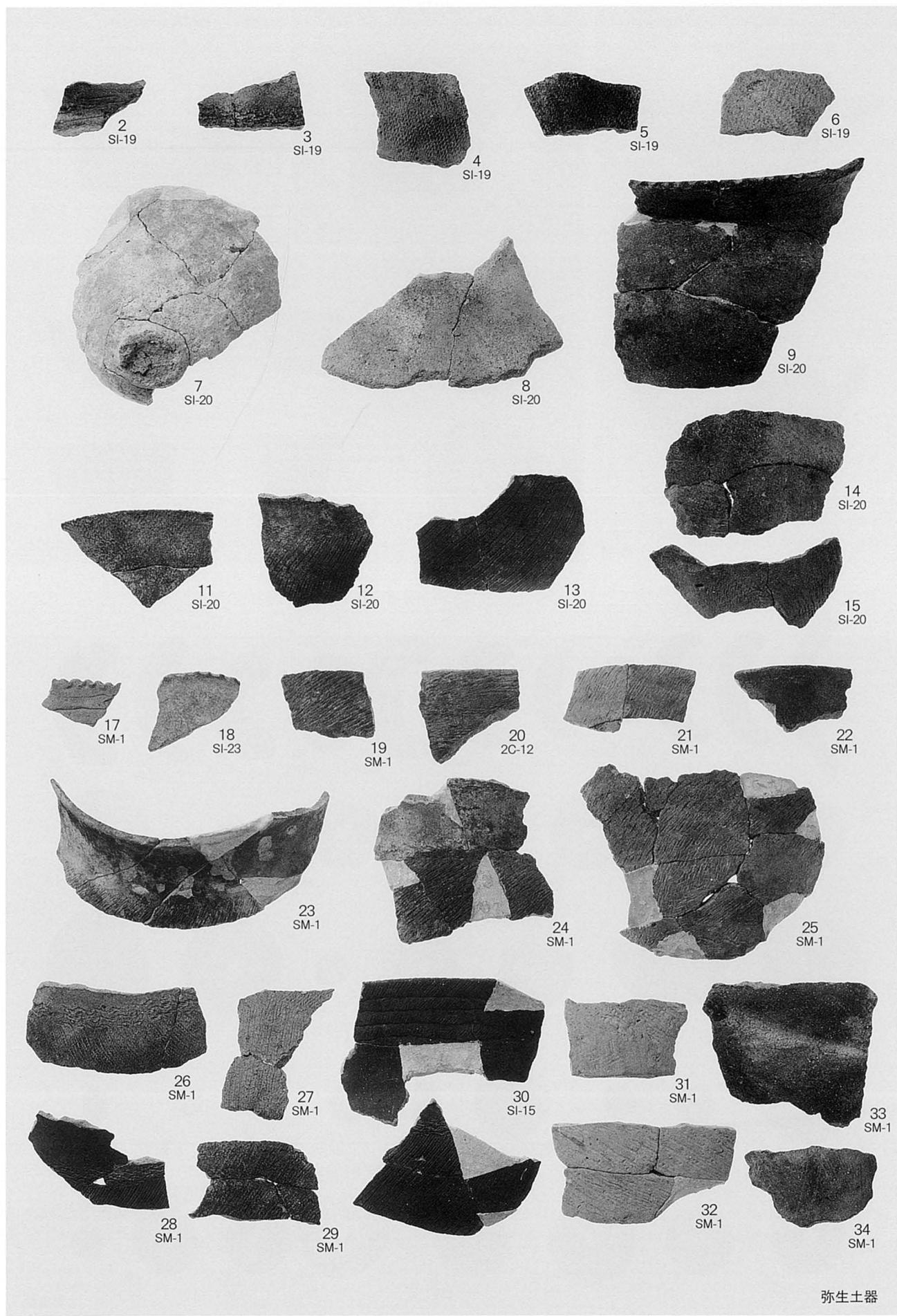


縄文土器(2)

図版24

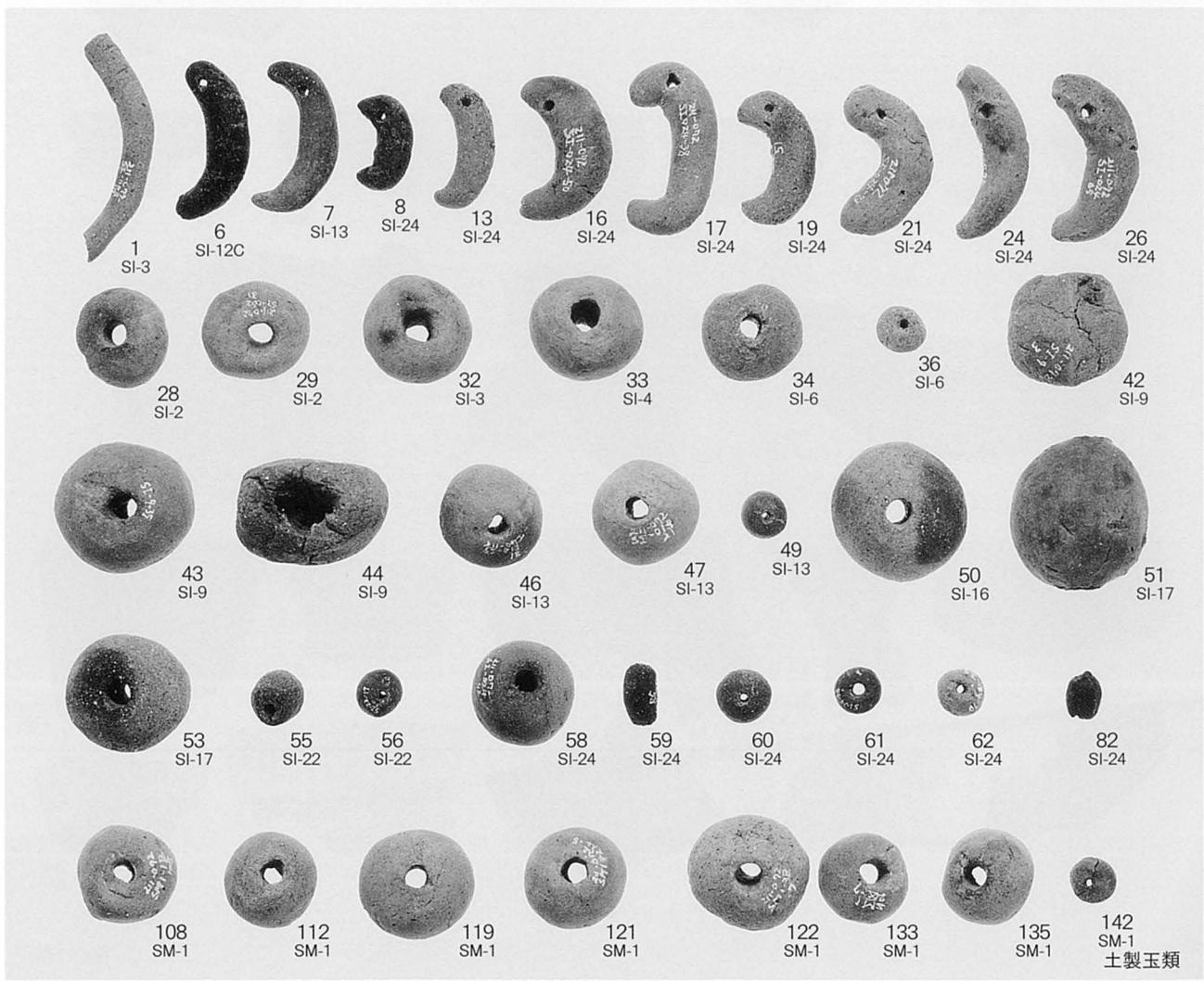
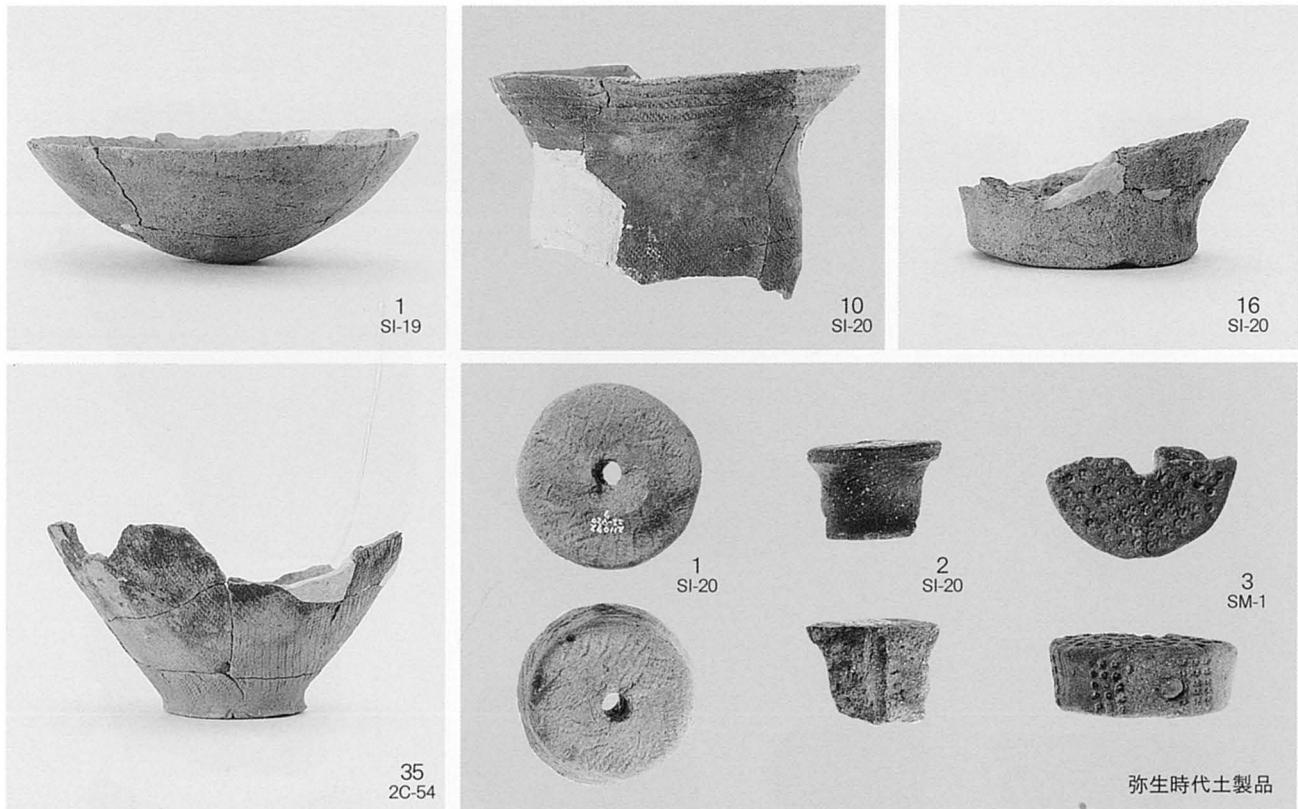


図版25

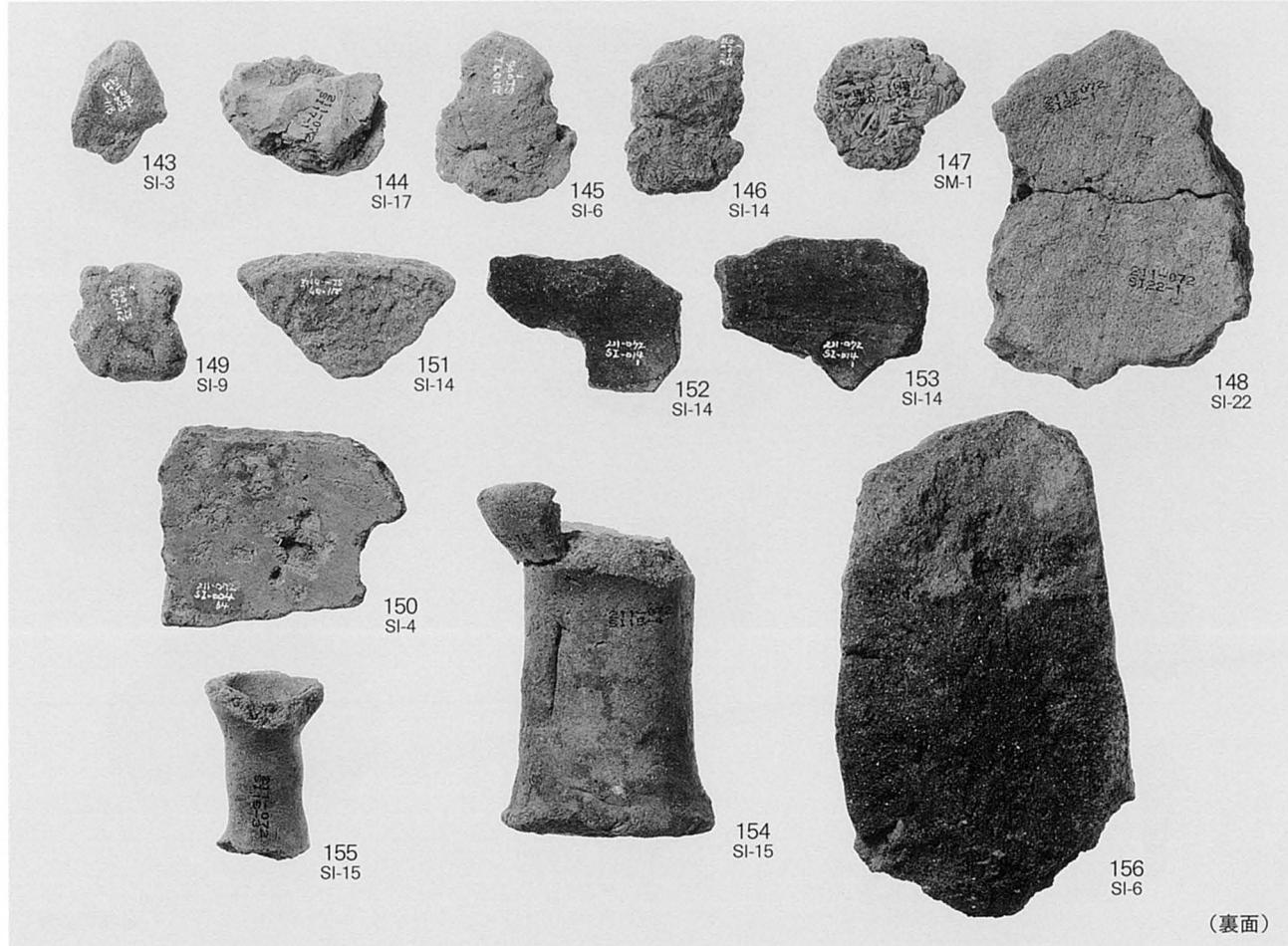
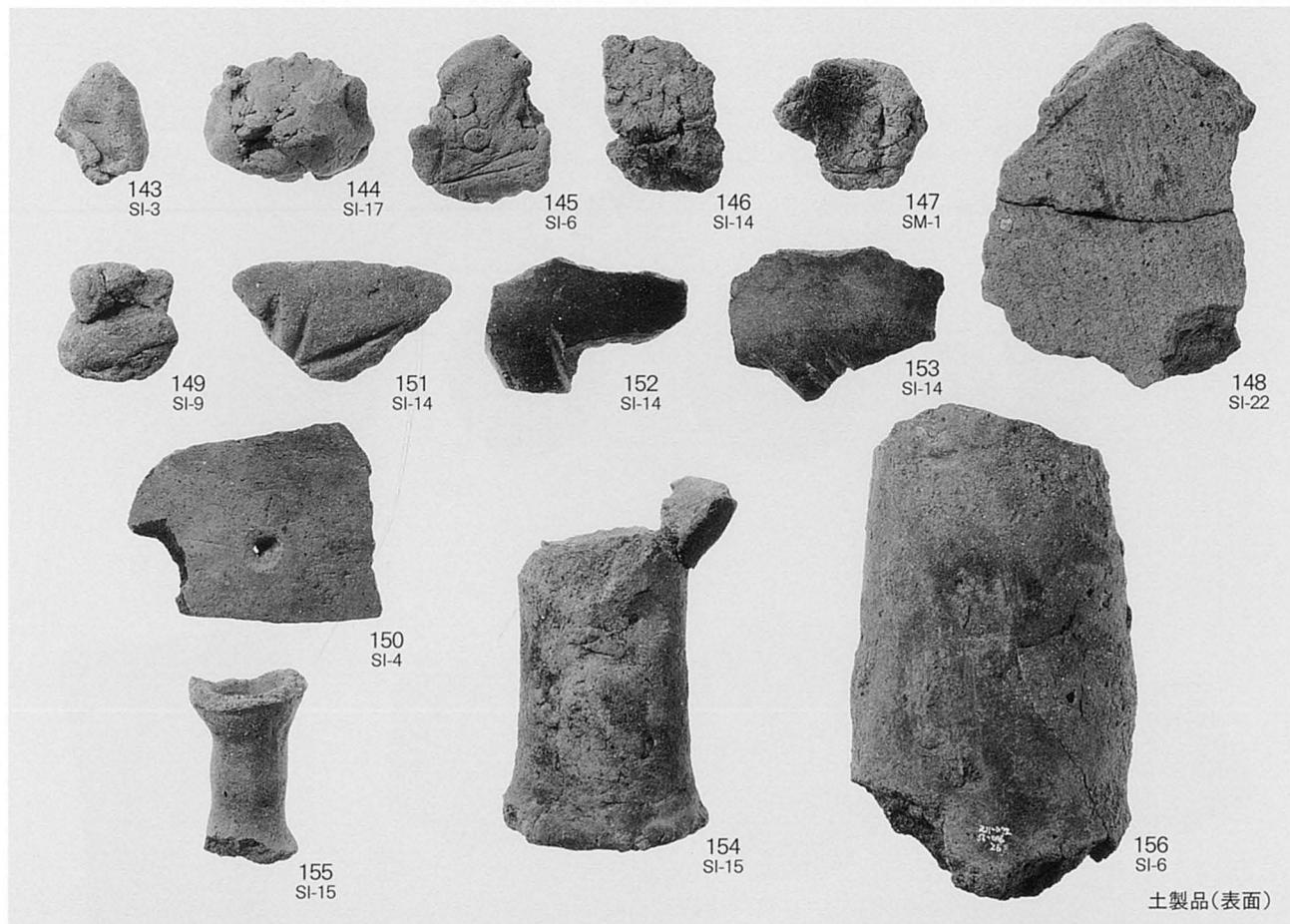


弥生土器

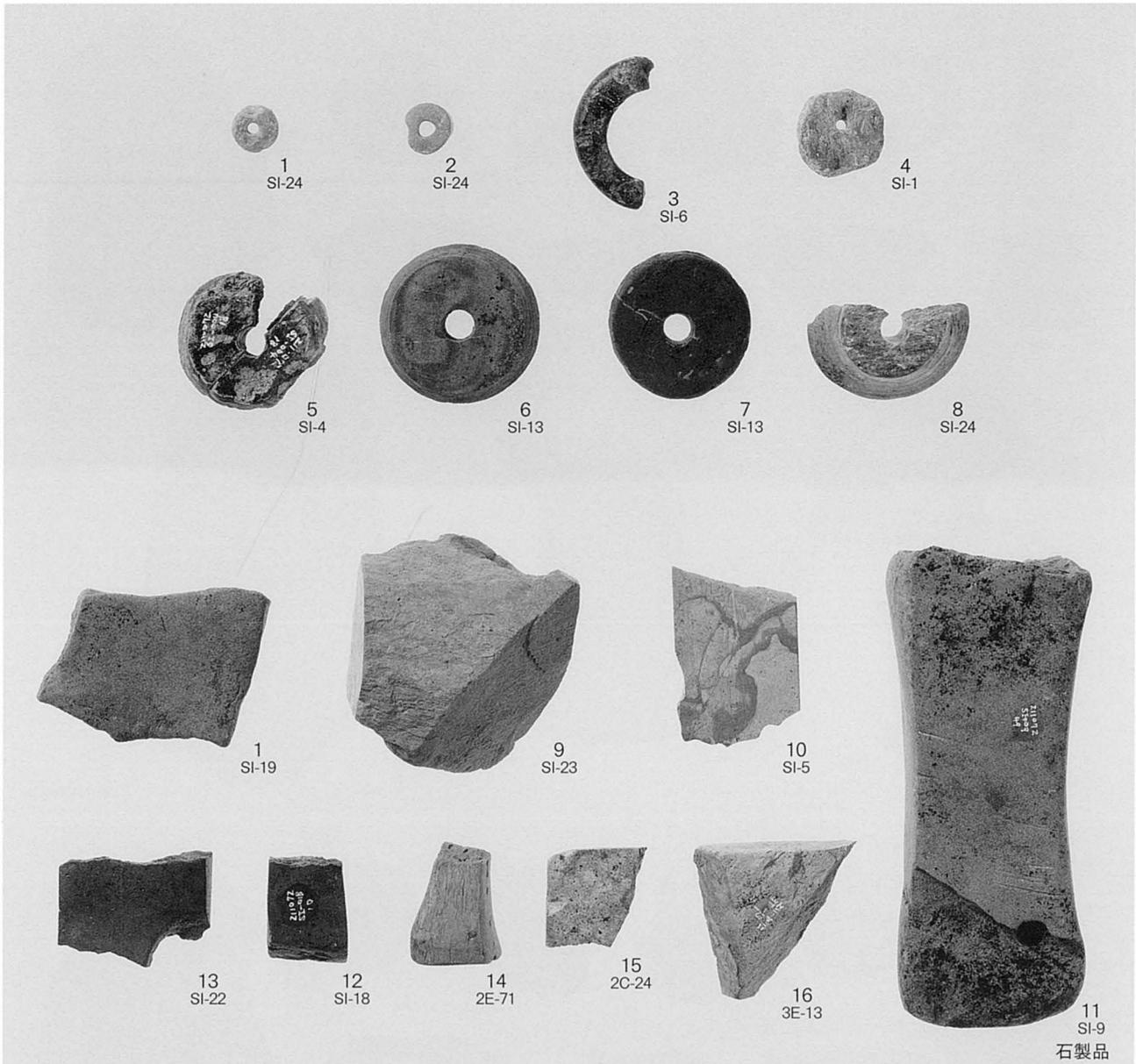
図版26



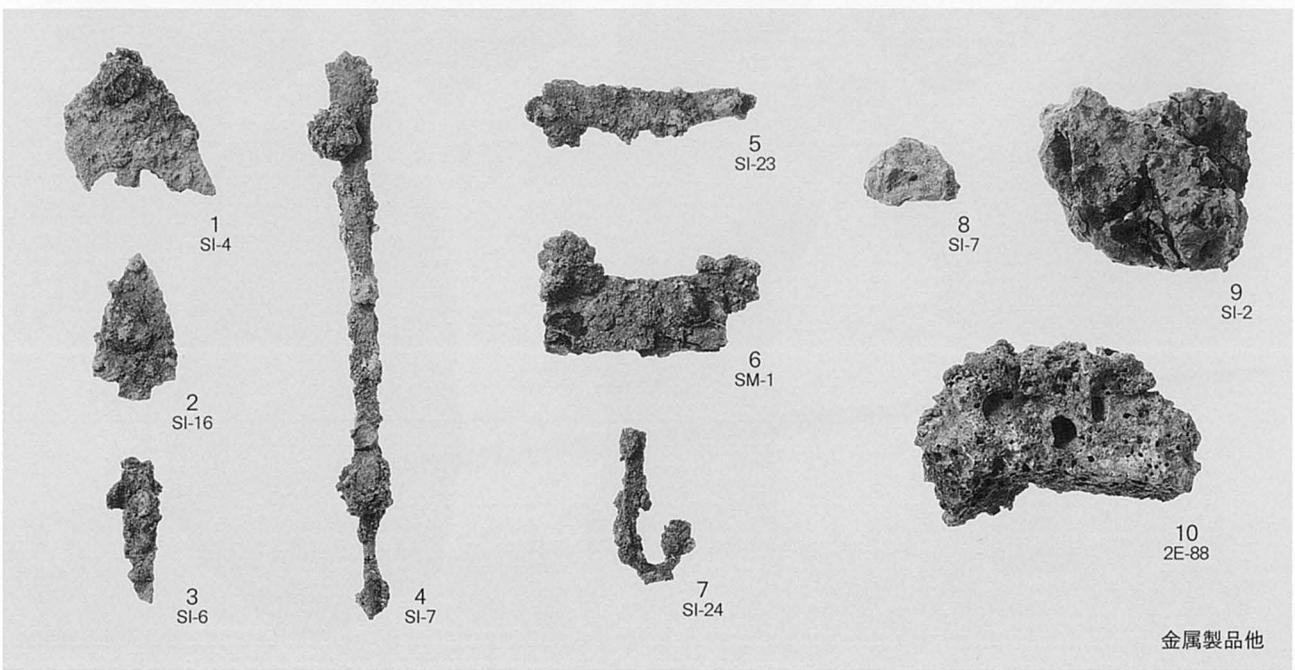
図版27



図版28

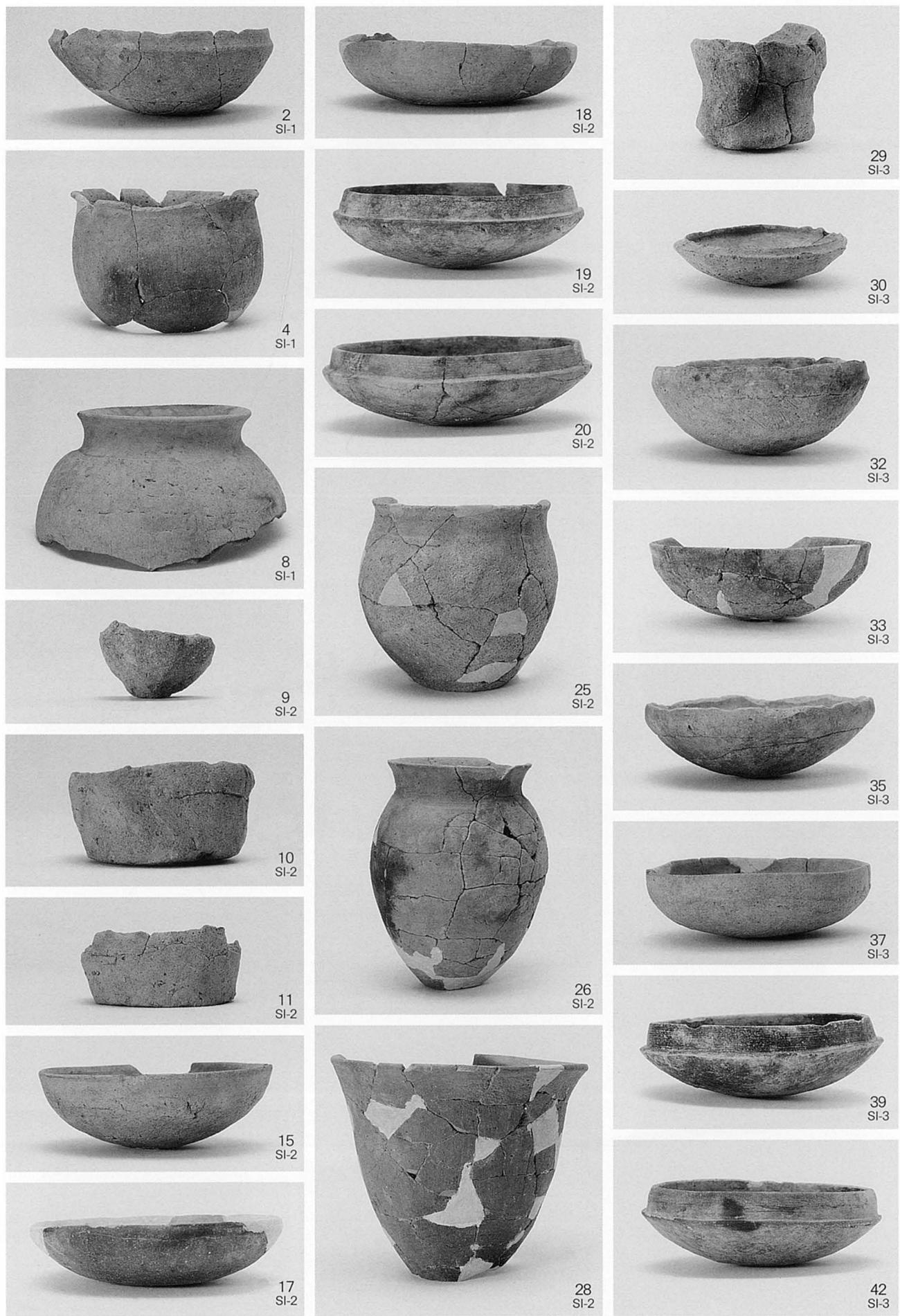


石製品

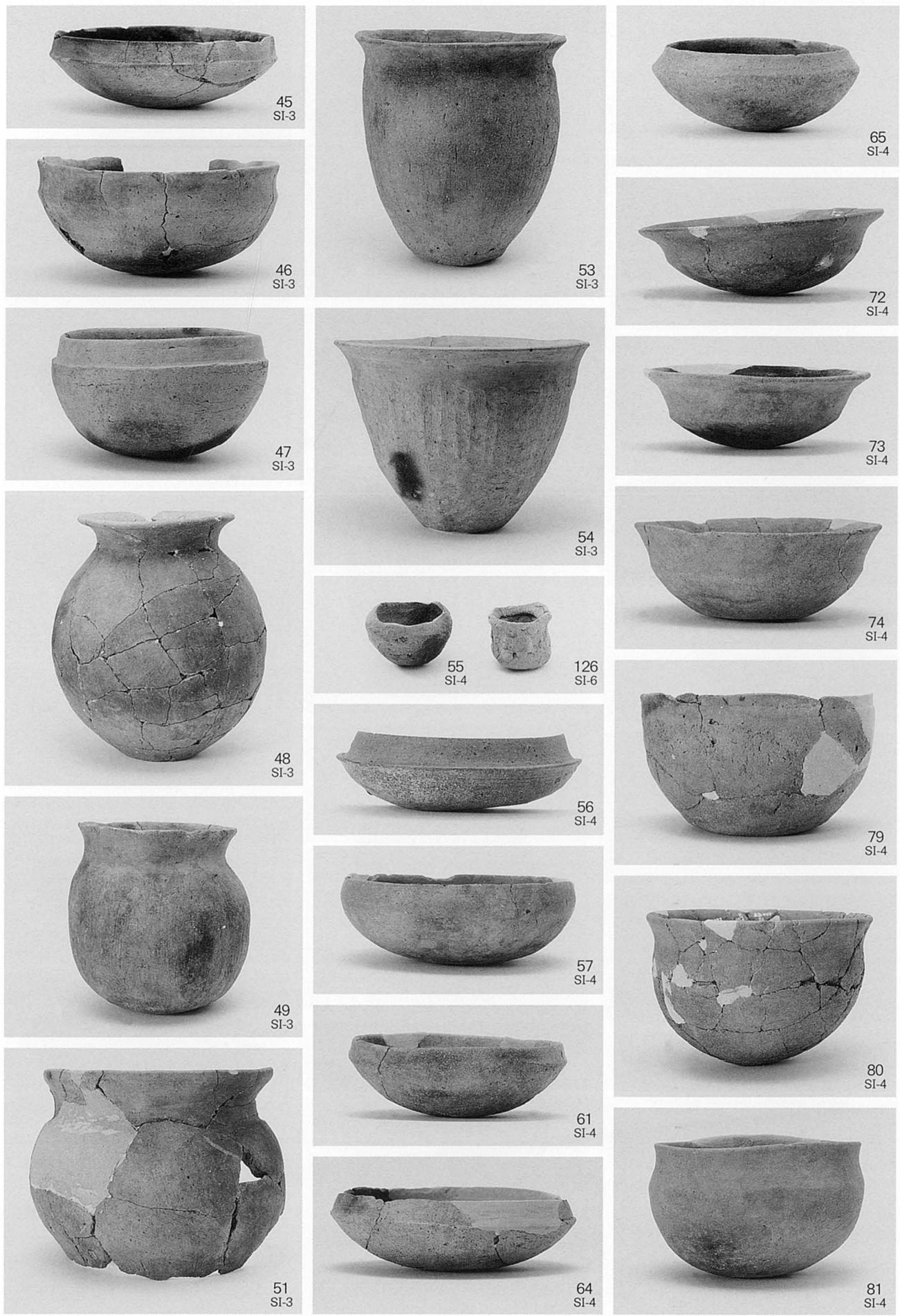


金属製品他

図版29



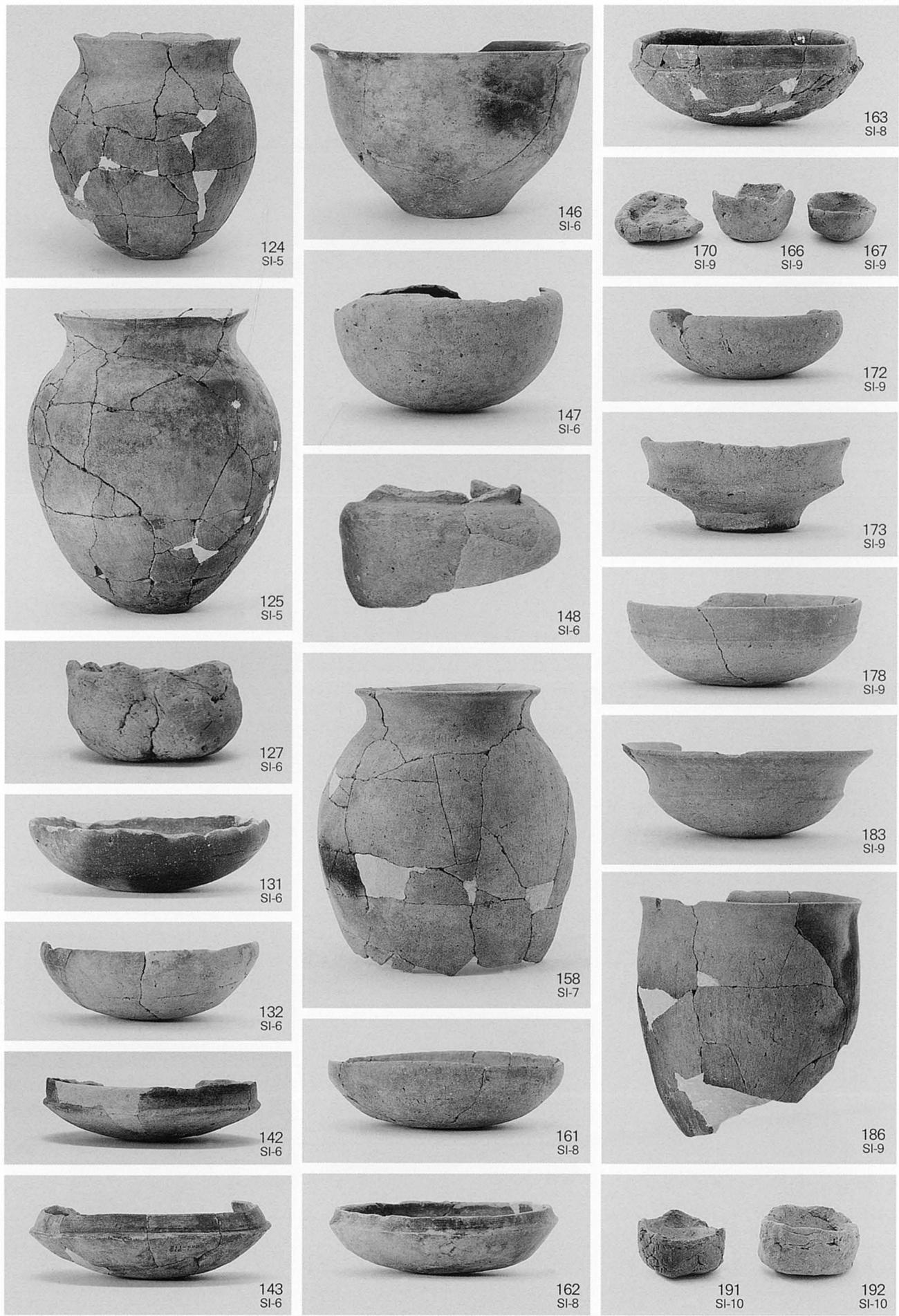
図版30



図版31



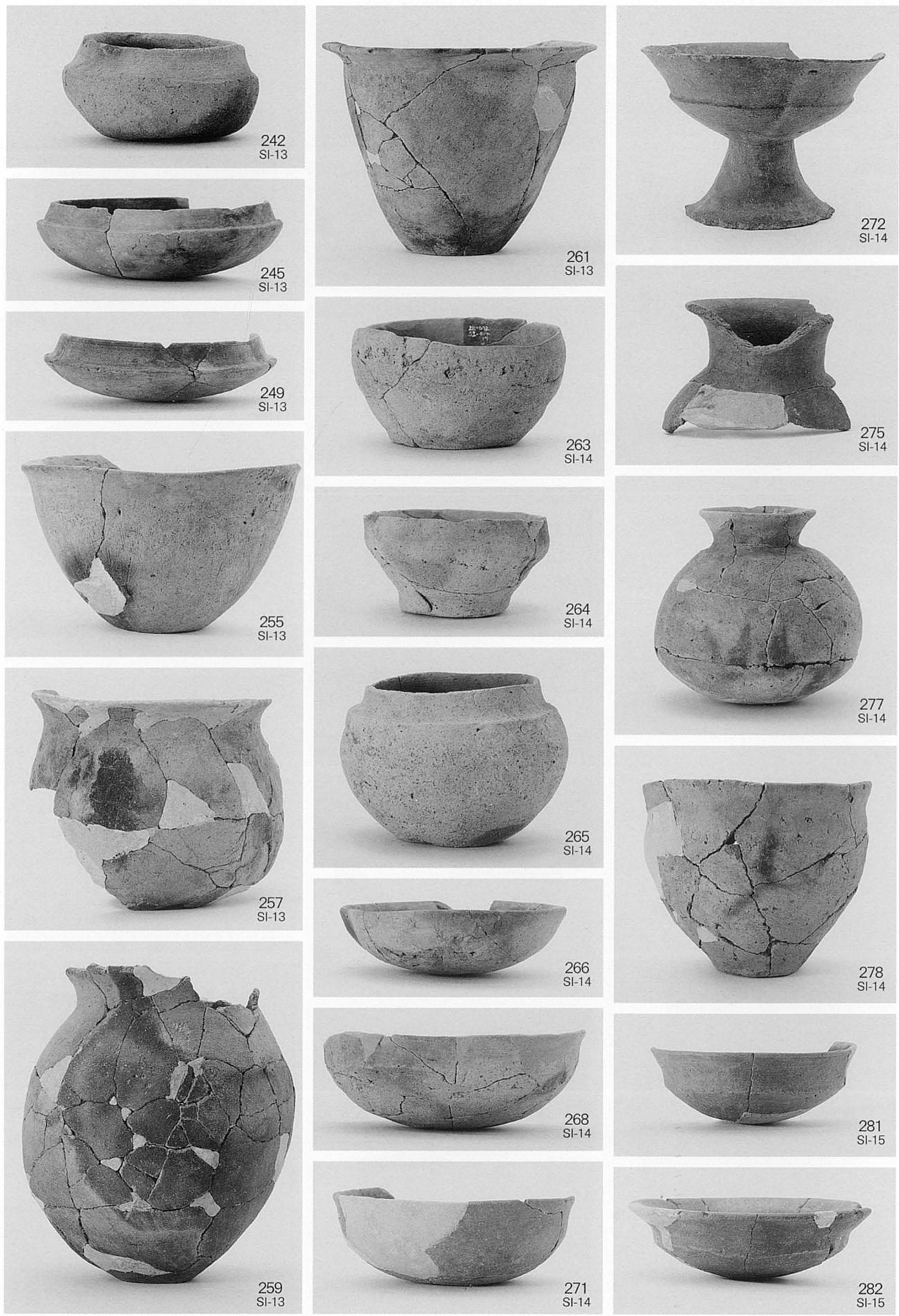
図版32



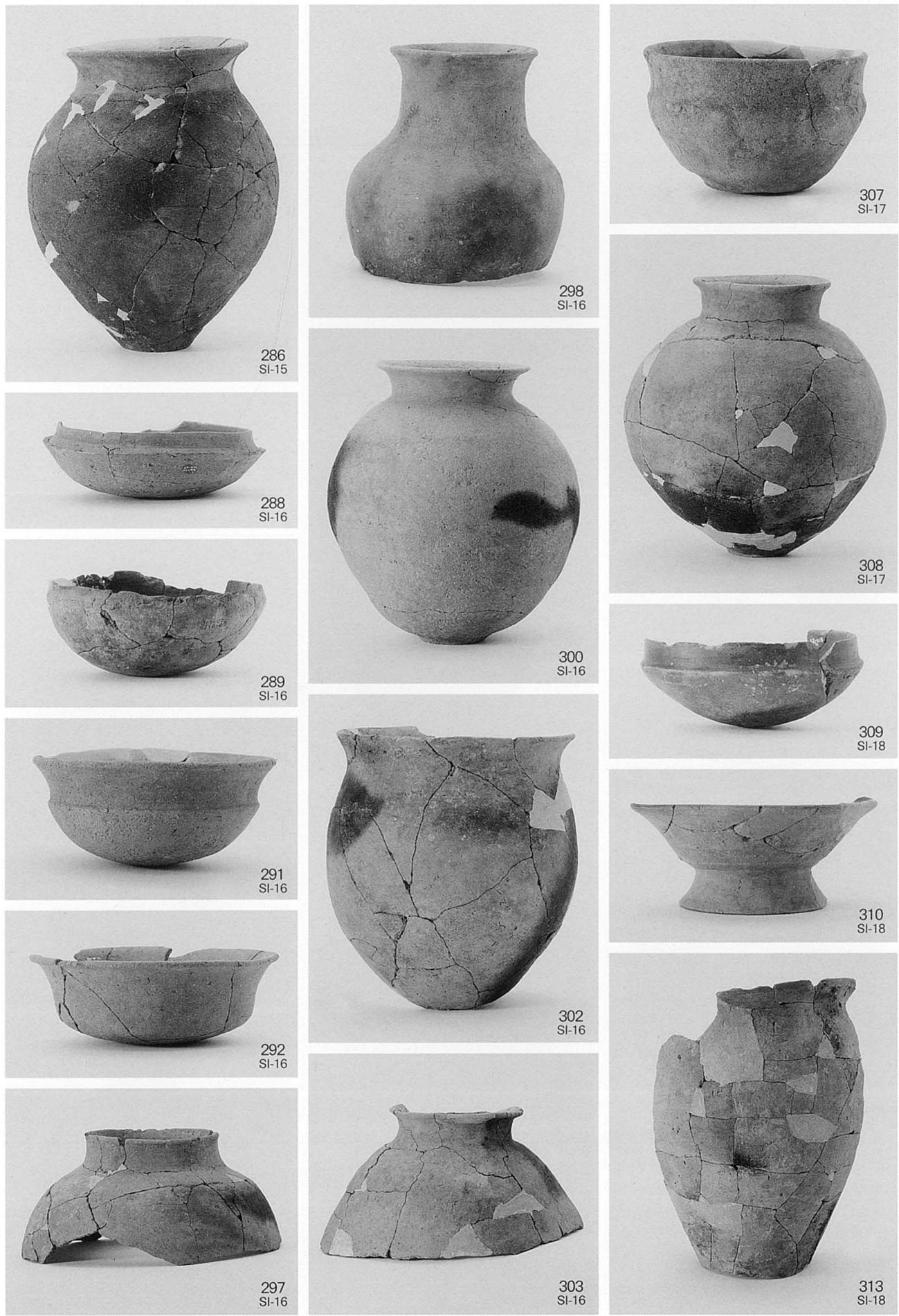
図版33



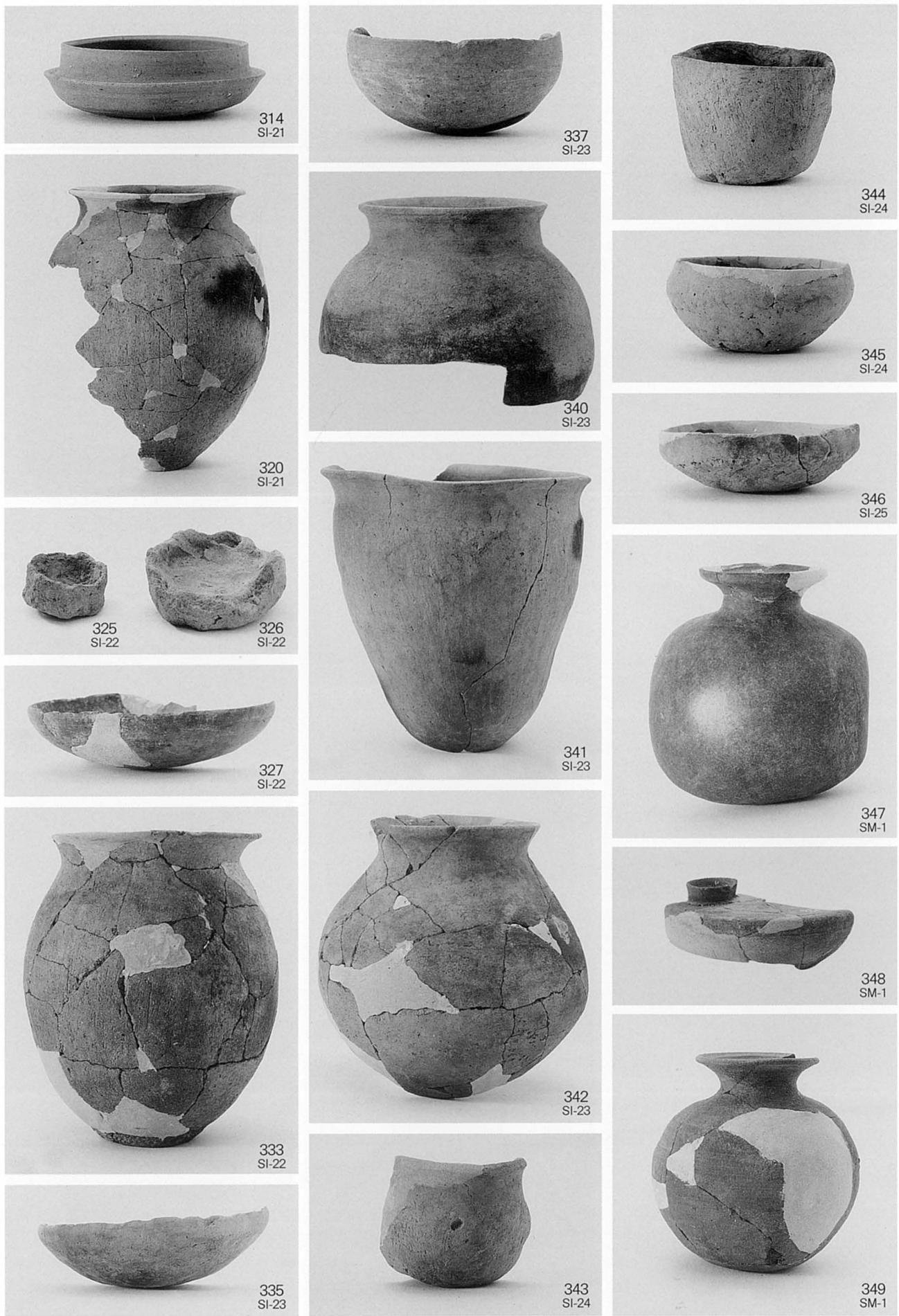
図版34



図版35



図版36



## 報告書抄録

千葉県教育振興財団調査報告第618集

成田新高速鉄道・北千葉道路  
埋蔵文化財発掘調査報告書1  
－成田市松崎山ノ台遺跡－

---

平成21年2月25日発行

編 集 財団法人 千葉県教育振興財団  
文化財センター

発 行 成田高速鉄道アクセス株式会社  
船橋市本町2-10-14

財団法人 千葉県教育振興財団  
四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 三陽工業株式会社  
市原市五井5510-1

---